兵庫県文化財調査報告　第 486 冊

西脇市

大門畑瀬遺跡・大伏北山遺跡

-175 号西脇北バイパス事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 -

平成 29(2017) 年 3 月

兵 庫 県 教 育 委 員 会

西脇市

大門畑瀬遺跡・大伏北山遺跡

-175 号西脇北バイパス事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書 -

平成 29(2017) 年 3 月

兵 庫 県 教 育 委 員 会

調査地遠景（南から）

大門畑瀬遺跡Ｂ地区全景（西から）

大門畑瀬遺跡 B 地区 SH04

大門畑瀬遺跡 D 地区 SH01・03・04

大伏北山遺跡　経塚

大伏北山遺跡　経塚出土土器

大伏北山遺跡　ST01

大伏北山遺跡　ST02

例　言

1　本書は、西脇市黒田庄町大門に所在する大門畑瀬遺跡ならびに、西脇市黒田庄町大伏に所在する大伏北山遺跡の発掘調査報告書である。

2　本調査は、175 号西脇北バイパス事業に伴うもので、国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所の依頼に基づき、兵庫県教育委員会を調査主体として、兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所、兵庫県立考古博物館、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部を調査機関として実施した。

3　調査の推移

（発掘作業）

確認調査　平成 16 年 12 月 13 日～平成 17 年 3 月 11 日
実施機関 : 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所
平成 19 年 3 月 19 日～平成 19 年 3 月 20 日
実施機関 : 兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所

本発掘調査　平成 19 年 10 月 22 日～平成 19 年 12 月 12 日
実施機関 : 兵庫県立考古博物館
工事請負 : 株式会社基泰組　空中写真測量 : 株式会社パスコ
平成 20 年 5 月 30 日～ 7 月 7 日
実施機関 : 兵庫県立考古博物館
工事請負 : 株式会社土功組　空中写真測量 : 伸栄開発株式会社
平成 21 年 6 月 29 日～平成 22 年 1 月 22 日
実施機関 : 兵庫県立考古博物館
工事請負 : 門上建設株式会社　空中写真測量 : 株式会社エイテック
平成 23 年 1 月 13 日～ 3 月 8 日
実施機関 : 兵庫県立考古博物館
工事請負 : 松兼建設株式会社　空中写真測量 : 株式会社ジャパックス

（出土品整理作業）

平成 25 年 6 月 20 日～平成 26 年 2 月 28 日
実施機関 : 公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
平成 27 年 6 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日
実施機関 : 公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
平成 28 年 6 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日
実施機関 : 公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部

4　本書の編集・執筆は、公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部　池田征弘が担当した。

5　本調査において出土した遺物や作成した写真・図面類は、兵庫県教育委員会（兵庫県立考古博物館）で保管している。

6　調査成果の測量は、電子基準点山南・滝野の２点を基に、調査地に３級基準点を設置して行った。座標は世界測地系に基づくもので、調査地は第Ⅴ系に属する。

7　本書に用いた方位は座標北を示す。また、標高は東京湾平均海水準を基準とした。

8　発掘調査及び報告書の作成にあたっては、以下の方々から御指導・御教示をいただいた。記して感謝の意を表するものである。

青木哲哉、岸本一郎、菅澤敏弘

目　　次

第１章　調査の経緯
　第１節　調査に至る経緯 …… 1
　第２節　調査の経過
　　1　分布調査 …… 1
　　2　確認調査 …… 2
　　3　本発掘調査 …… 3
　第３節　整理作業の経過 …… 3

第２章　位置と環境
　第１節　地理的環境 …… 4
　第２節　歴史的環境 …… 4

第３章　大門畑瀬遺跡
　第１節　遺跡の概要 …… 9
　第２節　A・B 地区
　　1　A・B 地区の概要 …… 9
　　2　A・B 地区の遺構と遺物 …… 9
　第３節　C 地区
　　1　C 地区の概要 …… 27
　　2　C 地区の遺構と遺物 …… 27
　第４節　D 地区
　　1　D 地区の概要 …… 28
　　2　D 地区の遺構と遺物 …… 28
第４章　大伏北山遺跡
　第１節　遺跡の概要 …… 32
　第２節　遺構と遺物 …… 32
第５章　まとめ
　第１節　大門畑瀬遺跡 …… 35
　第２節　大伏北山遺跡 …… 39

遺物一覧表（土器）…… 41
遺物一覧表（金属製品）…… 49
遺物一覧表（石器・石製品等）…… 49

巻頭図版目次

巻頭図版 1
1　調査地遠景（南から）
2　大門畑瀬遺跡 B 地区全景（西から）
巻頭図版 2
1　大門畑瀬遺跡 B 地区　SH04
2　大門畑瀬遺跡 D 地区　SH01・03・04
巻頭図版 3
1　大伏北山遺跡　経塚
2　大伏北山遺跡　経塚出土土器
巻頭図版 4
1　大伏北山遺跡　ST01
2　大伏北山遺跡　ST02

挿 図 目 次

第 1 図　遺跡の位置 …… 1
第 2 図　周辺遺跡分布図（1） …… 5
第 3 図　周辺遺跡分布図（2） …… 6
第 4 図　大門畑瀬遺跡の変遷－弥生時代－ … 36
第 5 図　大門畑瀬遺跡の変遷－古墳時代－ … 37
第 6 図　大門畑瀬遺跡の変遷－奈良平安時代－ … 38

表　目　次

第 1 表　調査一覧 …… 2
第 2 表　周辺遺跡地名表 …… 7

図 版 目 次

図版 1　確認トレンチ位置図
図版 2　調査区配置図
図版 3　大門畑瀬遺跡　全体図
図版 4　大門畑瀬遺跡　地形断面図
図版 5　大門畑瀬遺跡　A 地区　平面図・断面図
図版 6　大門畑瀬遺跡　B 地区　平面図
図面 7　大門畑瀬遺跡　B 地区　第 2 面平面図
図版 8　大門畑瀬遺跡　B 地区　断面図
図版 9　大門畑瀬遺跡　B 地区　SH01
図版 10　大門畑瀬遺跡　B 地区　SA02~05、SB01・02
図版 11　大門畑瀬遺跡　B 地区　SB03~05
図版 12　大門畑瀬遺跡　B 地区　SB06~09
図版 13　大門畑瀬遺跡　B 地区　石棺・SK01・02・07・08
図版 14　大門畑瀬遺跡　B 地区　SK13・20~23・30
図版 15　大門畑瀬遺跡　B 地区　SK31・32・37・39・SD29
図版 16　大門畑瀬遺跡　B 地区　SD01~05
図版 17　大門畑瀬遺跡　B 地区　SD06・07・09・10・12・13・15・17・18
図版 18　大門畑瀬遺跡　B 地区　SD11・16・20・26
図版 19　大門畑瀬遺跡　B 地区　SD14・25
図版 20　大門畑瀬遺跡　B 地区　SD19・21~24・27
図版 21　大門畑瀬遺跡　B 地区　SD30~35・38~42
図版 22　大門畑瀬遺跡　B 地区　SR01

図版 23　大門畑瀬遺跡　B 地区第 2 面　SH04
図版 24　大門畑瀬遺跡　B 地区第 2 面　SB01・SK01~06
図版 25　大門畑瀬遺跡　B 地区第 2 面　SK07~12
図版 26　大門畑瀬遺跡　B 地区第 2 面　SD01~05
図版 27　大門畑瀬遺跡　B 地区　土器 1
図版 28　大門畑瀬遺跡　B 地区　土器 2
図版 29　大門畑瀬遺跡　B 地区　土器 3
図版 30　大門畑瀬遺跡　B 地区　土器 4
図版 31　大門畑瀬遺跡　B 地区　土器 5
図版 32　大門畑瀬遺跡　B 地区　土器 6
図版 33　大門畑瀬遺跡　B 地区　土器 7
図版 34　大門畑瀬遺跡　B 地区　土器 8
図版 35　大門畑瀬遺跡　B 地区　土器 9
図版 36　大門畑瀬遺跡　B 地区　土器 10
図版 37　大門畑瀬遺跡　B 地区　土器 11
図版 38　大門畑瀬遺跡　B 地区　土器 12
図版 39　大門畑瀬遺跡　B 地区　土器 13
図版 40　大門畑瀬遺跡　B 地区　土器 14
図版 41　大門畑瀬遺跡　B 地区　土製品・金属器・石器
図版 42　大門畑瀬遺跡　B 地区　石器
図版 43　大門畑瀬遺跡　C 地区　平面図・断面図
図版 44　大門畑瀬遺跡　C 地区　SK01~03 SD01 P13~15　出土遺物
図版 45　大門畑瀬遺跡　D 地区　平面図・断面図
図版 46　大門畑瀬遺跡　D 地区　SH01・03・04
図版 47　大門畑瀬遺跡　D 地区　SH03 カマド・SK09・13・14・10
図版 48　大門畑瀬遺跡　D 地区　SK01~04・06
図版 49　大門畑瀬遺跡　D 地区　SK08・SD01
図版 50　大門畑瀬遺跡　D 地区　土器・石器
図版 51　大伏北山遺跡　調査前地形図
図版 52　大伏北山遺跡　全体図
図版 53　大伏北山遺跡　側面図
図版 54　大伏北山遺跡　経塚
図版 55　大伏北山遺跡　ST01
図版 56　大伏北山遺跡　ST01 埋葬施設
図版 57　大伏北山遺跡　ST02
図版 58　大伏北山遺跡　ST02 埋葬施設
図版 59　大伏北山遺跡　SD01・02
図版 60　大伏北山遺跡　土器
図版 61　大伏北山遺跡　金属器
図版 62　大伏北山遺跡　石器

写 真 目 次

写真図版 1　調査地遠景（南から）
調査地遠景（東から）
写真図版 2　大門畑瀬遺跡
A 地区全景（真上から）
B 地区全景（西から）
写真図版 3　大門畑瀬遺跡
B 地区全景（真上から）
写真図版 4　大門畑瀬遺跡 A 地区
第 1 面全景（南から）
第 1 面全景（北から）
第 2 面全景（北から）
写真図版 5　大門畑瀬遺跡 B 地区
第 1 面全景（南から）
第 1 面全景（北から）
写真図版 6　大門畑瀬遺跡 B 地区
第 2 面全景（南から）
第 2 面全景（北から）
写真図版 7　大門畑瀬遺跡 B 地区
SH01（東から）
SH01 カマド（東から）
SH01 カマド断面（東から）
SH01 カマド南側土器出土状況（南から）
SH01 カマド北側土器出土状況（南から）
写真図版 8　大門畑瀬遺跡 B 地区

SH02（南から）
SH03（北東から）
写真図版 9　大門畑瀬遺跡 B 地区
SB01（西から）
SB01　P126（西から）
SB01　P147（西から）
SB01　P148（西から）
SB01　P149（西から）
写真図版 10　大門畑瀬遺跡 B 地区
SB03（南西から）
SB07（南から）
SB07　P109（西から）
SB07　P148（東から）
写真図版 11　大門畑瀬遺跡 B 地区
石棺検出状況（西から）
石棺（西から）
写真図版 12　大門畑瀬遺跡 B 地区
SK01（東から）
SK01 断面（東から）
SK02（南から）
SK02 断面（北から）
SK20（北から）
SK21（東から）
SK22（南から）
SK23（南から）
写真図版 13　大門畑瀬遺跡 B 地区
SK30（東から）
SK31（西から）
SK32（北から）
SK37（南から）
SD01（東から）
SD02（南から）
写真図版 14　大門畑瀬遺跡 B 地区
SD06（南から）
SD07（南から）
SD11（東から）
SD14（東から）
写真図版 15　大門畑瀬遺跡 B 地区
SD17（北東から）
SD20（東から）
SD23（東から）
写真図版 16　大門畑瀬遺跡 B 地区
SR01（南から）
SR01（北から）
写真図版 17　大門畑瀬遺跡 B 地区
SR01 断面南（南から）
SR01 断面中央（南から）
SR01 断面北（南から）
写真図版 18　大門畑瀬遺跡 B 地区
第 2 面 SH04（西から）
第 2 面 SH04（南から）
第 2 面 SH04 中央土坑断面（南から）
第 2 面 SH04 周壁溝南側（南から）
写真図版 19　大門畑瀬遺跡 B 地区
第 2 面 SB01（北から）
第 2 面 SK01 断面（南から）
第 2 面 SK02 断面（南から）
第 2 面 SK03 断面（北西から）
第 2 面 SK04 断面（北から）
写真図版 20　大門畑瀬遺跡 B 地区
第 2 面 SK05（南から）
第 2 面 SK06（東から）
第 2 面 SK07（南から）
第 2 面 SK09（東から）
第 2 面 SK10（南から）
第 2 面 SK11（南東から）
第 2 面 SD04（東から）
写真図版 21　大門畑瀬遺跡 C 地区
全景（真上から）
写真図版 22　大門畑瀬遺跡 C 地区
全景（南から）
全景（北から）
写真図版 23　大門畑瀬遺跡 C 地区
P13（南東から）
P14（南東から）
P15（南東から）
SK01（東から）
SK02（西から）

SK02 断面（西から）
SK03（南から）
SD01（北東から）
写真図版 24　大門畑瀬遺跡 D 地区
遠景（東から）
全景（真上から）
写真図版 25　大門畑瀬遺跡 D 地区
全景（東から）
全景（北から）
写真図版 26　大門畑瀬遺跡 D 地区
SH01･03･04（東から）
SH03（東から）
写真図版 27　大門畑瀬遺跡 D 地区
SH03 カマド（東から）
SH03 カマド断面（東から）
SH01 SK09（東から）
SH03 SK13（東から）
SH03 SK14（北から）
SH04 SK10（北から）
SH01 土器出土状況（東から）
SH03 土器出土状況（東から）
写真図版 28　大門畑瀬遺跡 D 地区
SK01（東から）
SK02（南から）
SK02 断面（西から）
SK03（東から）
SK04（東から）
SK06（西から）
SD01（南から）
SD01 断面（東から）
写真図版 29　大伏北山遺跡
調査区全景（真上から）
写真図版 30　大伏北山遺跡
調査前全景（南から）
尾根部（北から）
写真図版 31　大伏北山遺跡
経塚（1）（南から）
経塚（2）（南から）
経塚（3）（南から）
写真図版 32　大伏北山遺跡
経塚（4）（南から）
経塚（5）（南から）
経塚（6）（南から）
写真図版 33　大伏北山遺跡
ST01 遠景（北東から）
ST01 全景（北東から）
ST01 全景（北東から）
写真図版 34　大伏北山遺跡
ST01 全景（西から）
ST01 石棺蓋（北西から）
ST01 石棺（北西から）
写真図版 35　大伏北山遺跡
ST01 石棺北壁（南から）
ST01 石棺東壁（南西から）
ST01 石棺掘方（南西から）
写真図版 36　大伏北山遺跡
ST01 周溝断面（南西から）
ST01 北側墳丘断面（南西から）
ST01 南側墳丘断面（西から）
写真図版 37　大伏北山遺跡
ST02 遠景（南から）
ST02 全景（西から）
ST02 全景（西から）
写真図版 38　大伏北山遺跡
ST02 埋葬施設（東から）
ST02 埋葬施設（北から）
ST02 埋葬施設埋土（南から）
写真図版 39　大伏北山遺跡
ST02 埋葬施設掘方（西から）
ST02 列石（南西から）
ST02 南側墳丘断面（西から）
写真図版 40　大伏北山遺跡
SD01（北東から）
SD02（東から）
P06（西から）
写真図版 41　大門畑瀬遺跡 A・B 地区
土器 1
写真図版 42　大門畑瀬遺跡 A・B 地区

土器 2
写真図版 43　大門畑瀬遺跡 A・B 地区
土器 3
写真図版 44　大門畑瀬遺跡 A・B 地区
土器 4
写真図版 45　大門畑瀬遺跡 A・B 地区
土器 5
写真図版 46　大門畑瀬遺跡 A・B 地区
土器 6
写真図版 47　大門畑瀬遺跡 A・B 地区
土器 7
写真図版 48　大門畑瀬遺跡 A・B 地区
土器 8
写真図版 49　大門畑瀬遺跡 A・B 地区
土器 9
写真図版 50　大門畑瀬遺跡 A・B 地区
土器 10
写真図版 51　大門畑瀬遺跡 A・B 地区
土器 11
写真図版 52　大門畑瀬遺跡 A・B 地区
土器 12
写真図版 53　大門畑瀬遺跡 A・B 地区
土器 13
写真図版 54　大門畑瀬遺跡 A・B 地区
土器 14
写真図版 55　大門畑瀬遺跡 A・B 地区
土器 15
写真図版 56　大門畑瀬遺跡 A・B 地区
金属器・石器 1
写真図版 57　大門畑瀬遺跡 A・B 地区
石器 2
大門畑瀬遺跡 C 地区
土器・金属器
写真図版 58　大門畑瀬遺跡 D 地区
土器 1
写真図版 59　大門畑瀬遺跡 D 地区
土器 2・石器
写真図版 60　大伏北山遺跡
土器 1
写真図版 61　大伏北山遺跡
土器 2
写真図版 62　大伏北山遺跡
石器
写真図版 63　大伏北山遺跡
金属器

第１章　調査の経緯

第１節　調査に至る経緯

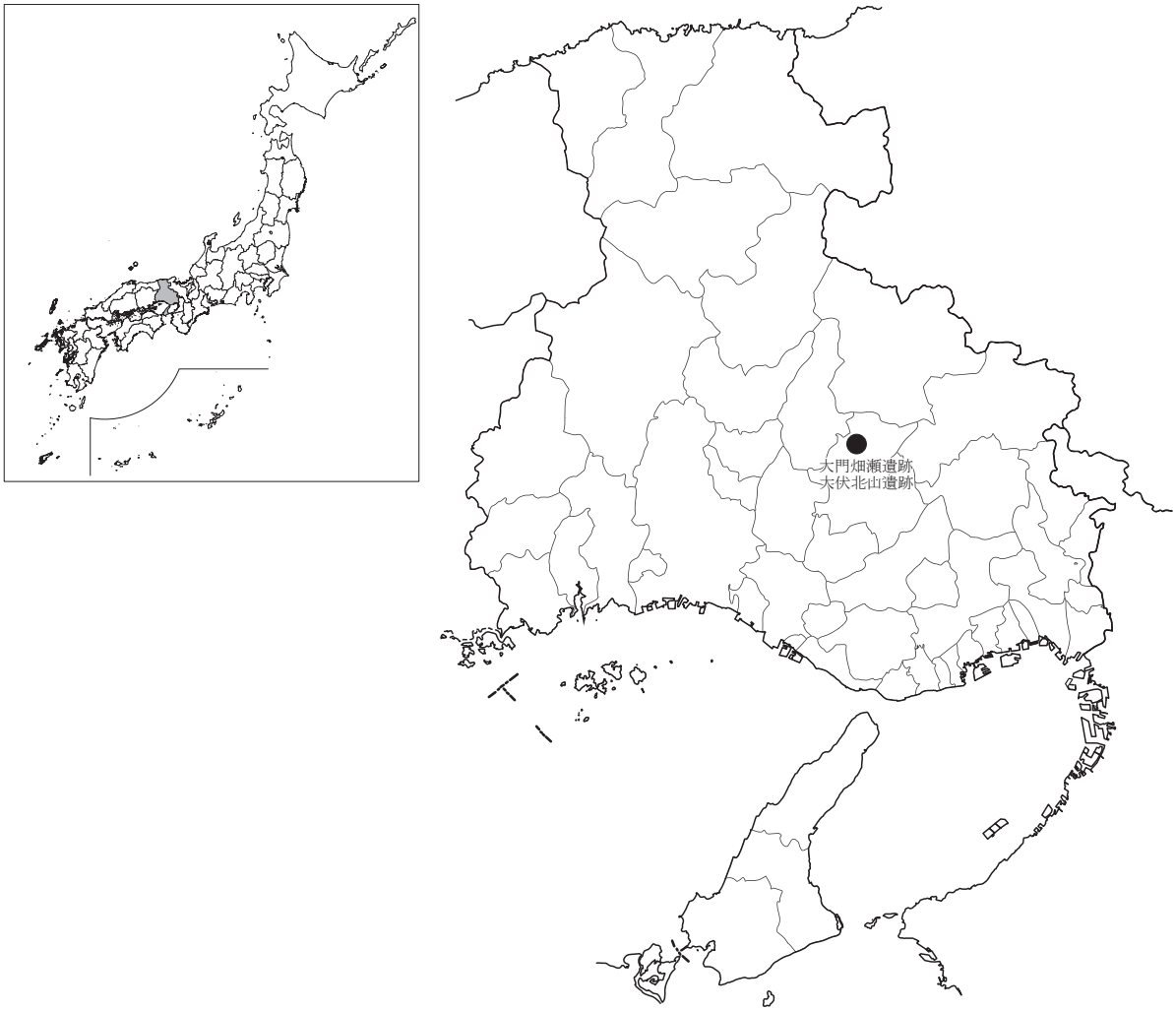
西脇北バイパスは、国道 175 号の東播磨内陸部と丹波地域間及び西脇市などから中国縦貫自動車道滝野社 IC へのアクセス向上、西脇市内の国道 175 号の交通混雑の緩和、交通安全の確保などを目的として計画された道路である。西脇市下戸田から同市黒田庄町大伏に至る延長 5.2km のバイパス事業で、平成 9 年度から事業化されている。

兵庫県教育委員会は、この計画を受けて、平成 12 年度以降に分布調査・確認調査・本発掘調査を実施した。

第２節　調査の経過

1　分布調査

平成 12 年 4 月に兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所が担当して、分布調査（遺跡調査番号 2000102）を実施した。西脇市下戸田から同市黒田庄町大伏の延長 5.2㎞の区間について調査を行った。



第 1 図　遺跡の位置

第１表　調査一覧

調査の種別	遺跡調査番号	調査機関	調査担当者	調査期間	調査面積	遺跡名
分布調査	2000102	兵庫県教育委員会 埋蔵文化財調査事務所	企画調整班　別府洋二、 調査第３班　中川渉・山上雅弘・松岡千寿	平成12年４月25日	260000㎡	大門畑瀬散布地、 大門北山小テラス群
確認調査	2004008	兵庫県教育委員会 埋蔵文化財調査事務所	調査第３班　別府洋二・上田健太郎	平成16年12月13日～ 平成17年３月11日	1591㎡	大門畑瀬散布地
	2004250					大門北山小テラス群
確認調査	2006206	兵庫県教育委員会 埋蔵文化財調査事務所	調査第２班　吉識雅仁・別府洋二	平成19年３月19日～ ３月20日	96㎡	大門畑瀬散布地
本発掘調査	2007053	兵庫県立考古博物館	調査第２班　渡辺昇・長濱誠司・上田健太郎	平成19年10月22日～ 12月12日	1260㎡	大門畑瀬散布地
本発掘調査	2008075	兵庫県立考古博物館	調査第２班　渡辺昇・鐵英記・上田健太郎	平成20年５月30日～ ７月７日	460㎡	大門畑瀬遺跡
本発掘調査	2009186	兵庫県立考古博物館	調査第２班　別府洋二・深江英憲・池田征弘	平成21年６月29日～ 平成22年１月22日	2097㎡	大伏北山遺跡
本発掘調査	2009187	兵庫県立考古博物館	調査第２班　別府洋二・深江英憲・池田征弘	平成21年６月29日～ 平成22年１月22日	427㎡	大門畑瀬遺跡
本発掘調査	2010278	兵庫県立考古博物館	調査第１課　大平茂・長濱誠司、 調査第２課　池田征弘	平成23年１月13日～ ３月８日	795㎡	大門畑瀬遺跡

調査の結果、９地点で埋蔵文化財を確認した。このうち、№１地点の上戸田遺跡、№７地点の津万井近世窯址、№８地点の大門畑瀬散布地、№９地点の大門北山小テラス群は周知の埋蔵文化財包蔵地で、その他№２～６地点の５地点（津万地区・嶋地区・西嶋地区・寺内地区・蒲江地区）で、新たに埋蔵文化財を確認した。

２　確認調査（図版１）

大門畑瀬遺跡及び大伏北山遺跡の確認調査は、兵庫県教育委員会埋蔵文化財調査事務所が担当して、平成16・18年度に実施した。なお確認調査時の包蔵地名は大門畑瀬遺跡が「大門畑瀬散布地」、大伏北山遺跡が「大門北山小テラス群」である。

大門畑瀬遺跡

平成16年度の確認調査では３カ所のトレンチの調査を行った。T145では柱穴、T146では弥生土器を多量に検出した。T147では須恵器を１点検出したにすぎない。なおT145・146が本発掘調査Ｄ区に相当する。

平成18年度の確認調査では４カ所のトレンチの調査を行った。Ｔ２では奈良時代の須恵器・土師器などが出土したが、遺構面を形成する土壌層は確認できなかった。Ｔ３ではベース面となる黄褐色礫混じり層、Ｔ４では溝や柱穴などの遺構や弥生時代から中世後半にかけての包含層が検出された。Ｔ５は谷地形中心部であり、遺構・包含層は検出されなかった。なおＴ３・４が本発掘調査Ｂ地区、Ｔ５が本発掘調査Ａ地区に相当する。

大伏北山遺跡

平成16年度の確認調査では14カ所のトレンチ（T147～160）の調査を行った。尾根部のT153とT159の２カ所で箱式石棺を検出した。尾根最上部のT154では須恵器１点を検出したものの、遺構は検出されなかった。斜面部のT147～149では弥生中期の土器や大型剝片、須恵器甕片が出土した。

平成18年度の確認調査では１カ所のトレンチ（Ｔ１）の調査を行った。遺構・遺物は検出されず、遺構面を形成する土壌層も確認できなかった。

なお、確認調査の結果、墳墓の存在が明らかとなり、斜面部にも弥生時代以降の遺跡が広がっていることが確認されたことを受けて、包蔵地名が「大門北山小テラス群」から「大伏北山遺跡」に変更された。

3　本発掘調査（図版２）

本発掘調査は兵庫県立考古博物館が担当して、大門畑瀬遺跡が平成 19 年度～平成 22 年度に 4 ヶ次に渡って、大伏北山遺跡は平成 21 年度に実施した。

大門畑瀬遺跡

平成 19 年度は本発掘調査対象範囲のうち中央付近の最も広い範囲（B 地区）を調査した。弥生時代、古墳時代、奈良時代の遺構・遺物が検出され、はじめて遺跡の内容が明らかとなった。この成果を受けて、埋蔵文化財包蔵地名が「大門畑瀬散布地」から「大門畑瀬遺跡」に変更された。

平成 20 年度は B 地区の南側に隣接する箇所（A 地区）を調査した。B 地区から延びる濠状の遺構は、奈良時代以降の河道により削られていた。

平成 21 年度は北端の小規模な範囲（D 地区）を調査した。古墳時代から奈良時代の遺構が検出された。

平成 22 年度は B 地区の北側、D 地区の南側の箇所（C 地区）を調査した。調査範囲の大半は削平されており、検出された遺構・遺物はわずかであった。

大伏北山遺跡

平成 21 年度の大門畑瀬遺跡の調査と並行して調査を実施した。調査区の尾根最上部と尾根先端部で墳墓、尾根中部で経塚、斜面下部で弥生時代の溝を検出した。

第３節　整理作業の経過

出土品整理作業は、兵庫県教育委員会より（公財）兵庫県まちづくり技術センターが委託を受け、平成 25・27・28 年度に同センター埋蔵文化財調査部が実施した。整理の対象となった遺物は土器 54 箱、石器 104 点、木器 11 点、金属器 13 点である。渡辺昇・深江英憲・鐵英記・上田健太郎・長濱誠二・別府洋二・池田征弘が担当した。

平成 25 年度に水洗い、ネーミング、接合・補強、 実測・拓本、復元、写真撮影、写真整理、図面補正、金属器の保存処理、平成 27 年度にトレース、木製品の保存処理、平成 28 年度にトレース、レイアウトなどの作業を実施した。上記作業に当たっては下記の嘱託員の協力を得た。

荻野　麻衣	島村　順子	上田　沙耶香	浜脇　多規子	藤池　かづさ
嶺岡　美見	佐々木　愛	遠藤　貴子	柴垣　良樹	前谷　幸次
久留宮　由佳	山口　陽太	河合　たみ	柏原　美音	加古　千恵子
榎　真菜美	八木　和子	高瀬　敬子	宮田　麻子	小野　潤子
藤尾　裕子	菅生　真理子	有田　遥香	今村　直子	桂　昭子
梶原　奈津子	古谷　章子	佐伯　純子	坂東　知奈	

第２章　位置と環境

第１節　地理的環境

大門畑瀬遺跡・大伏北山遺跡の位置する西脇市は、兵庫県のほぼ中央、播磨地域の北東部に位置している。東経 135 度と北緯 35 度が市内で交差していることから「日本列島の中心・日本のへそ」と称されている。遺跡は西脇市のうち北部にあたり、平成 17（2005）年合併前の黒田庄町部分に位置している。大門及び大伏の大字名は江戸時代の村名に由来するものである。調査地は加古川右岸の大伏村の南端部と、大門村の加古川左岸部分（集落本体は右岸）に位置している。

西脇市域は中国山地の東端部の山地部で、標高 200 ～ 600m の丘陵に囲まれている。市域中央部には南北に加古川が流れ、加古川及びその支流の周辺に平野が広がっている。調査地付近では加古川は蛇行して西側の丘陵に接しており、東側に大きく平地部が広がっている。調査地は加古川右岸に位置しているため地形の緩やかな部分は狭い。

第２節　歴史的環境

大門畑瀬遺跡・大伏北山遺跡付近の遺跡は加古川及びその支流の平野部と、その背後の丘陵部、及びその裾部に広がっている。西脇市市街地以北、黒田庄町石原・黒田以南での動向について取り上げる。

旧石器時代　鹿野宮ノ前遺跡（121）で削器、大垣内遺跡（138）で有舌尖頭器がみつかっている。

縄文時代　楠丘遺跡（86）では焼礫集積土坑が検出され、早期の押型文土器が出土している。富吉上遺跡（161）では縄文時代後期の土器が出土している。

弥生時代　前期については黒田庄中学校遺跡（58）、大垣内遺跡（138）で土器が出土している。

中期では後半になって集落の状況のわかる遺跡が増えてくる。鹿野宮ノ前遺跡（121）では竪穴住居跡が検出され、銅剣形石剣が出土している。津万遺跡群（135）では嶋地区で竪穴住居跡・土坑・溝、西嶋地区で土坑・溝が検出されている。大垣内遺跡（138）では溝が検出されている。大門畑瀬遺跡（1）の濠状遺構や大伏北山遺跡（2）の段状遺構などがこの時期に属している。

後期には黒田庄中学校遺跡（58）で竪穴住居跡、岡・古門遺跡（77）で溝・土坑・柱穴が検出されている。津万遺跡群（135）では嶋地区・津万地区で竪穴住居跡が検出され、後期末には寺内地区でも竪穴住居跡が検出され、その数を増やしている。前坂北山遺跡（62）、上戸田遺跡（143）では後期末の竪穴住居跡が検出されている。大門畑瀬遺跡（1）の竪穴住居跡は後期に属すると思われ、大伏北山遺跡（2）では後期末と考えられる墳墓（ST02）が検出されている。津万遺跡群の西嶋地区では時期の特定はできないが、弥生時代と考えられる木棺墓が検出されている。

古墳時代　前期では全長 57.6m の柄鏡式前方後円墳の岡ノ山古墳（111）が代表的である。滝ノ上 20 号墳（108）では竪穴式石室が検出され、内行花文鏡・銅鏃・鉄刀・鉄剣・鉄鏃・玉類・壺形土器・鼓形器台などが出土している。

中期の古墳については、埴輪が出土している福地百合山古墳（96）、岡ノ山西 5 号墳（112）、水塚古墳（107）があり、滝ノ上古墳群（108）では 5 世紀後半の円墳、下戸田古墳群（84）では 5 世紀後半の方墳・円墳が検出されている。横山古墳（118）、大伏南山古墳（11）では箱式石棺が検出され、横山

第２図　周辺遺跡分布図（1）

第３図　周辺遺跡分布図（2）

第２表　周辺遺跡地名表

1　大門・畑瀬遺跡
2　大伏・北山遺跡
3　大門１号窯跡
4　大門・畑瀬古墳群
5　津万井・畑瀬散布地
6　津万井近世窯跡
7　津万井・井ノ上遺跡
8　畑瀬末谷窯跡群
9　大伏窯跡群
10　大伏・ヲセ谷古墳群
11　大伏・南山古墳群
12　大伏・ヌク谷遺跡
13　大伏・マワリ谷散布地
14　上大伏遺跡
15　上大伏古墳
16　石原・下山遺跡
17　石原・尾ノ山Ａ古墳群
18　石原・市山古墳群
19　尾ノ山散布地
20　石原・市山谷窯跡
21　幡上１号墳
22　西ノ塔遺跡
23　石原経塚
24　得笠寺、建仁寺跡
25　西ノ塔古墳
26　石原・西光寺遺跡
27　西畑遺跡
28　石原城跡推定地
29　石原・北山Ａ古墳群
30　野尾谷遺跡
31　石原・北山古墳
32　上山・下山１号墳
33　桜丘古墳群
34　田高・下山遺跡
35　黒田・北ノ山古墳群
36　黒田・柏木谷古墳群
37　黒田・小松原古墳群
38　黒田・城山古墳群
39　伝黒田城跡主郭部
40　伝黒田城跡
41　黒田・中池古墳群
42　黒田・中池窯跡群
43　黒田・寺内大日堂散布地
44　黒田・北ノ山散布地
45　黒田・北山遺跡
46　黒田・寺内北山遺跡
47　瀧尾神社散布地
48　黒田・小松山古墳群
49　黒田・南山古墳群
50　黒田１号窯跡
51　黒田・末谷窯跡
52　黒田・大山谷古墳群
53　黒田・大山谷窯跡群
54　黒田・坂の東古墳群
55　黒田・殿山池１号墳
56　黒田・坂ノ西古墳群
57　黒田・構江遺跡
58　黒田庄中学校遺跡
59　黒田・大年ノ上遺跡
60　黒田・前山山頂古墳
61　前坂・北山山頂１号墳
62　前坂・北山遺跡
62　前坂・北山古墳群
63　前坂・森谷山古墳群
64　前坂・森谷古墳群
65　前坂・大歳神社古墳群
66　前坂・大歳神社窯跡
67　前坂・奥谷古墳
68　喜多・熊野神社１号墳
69　喜多・丸山古墳群
70　喜多・山西遺跡
71　喜多・天神前１号墳
72　喜多・大門散布地
73　喜多・友尾山山頂古墳群
74　喜多・友尾山古墳群
75　喜多・大谷池散布地
76　喜多・城山城跡
77　岡・古門遺跡
78　喜多・猪ノ谷遺跡
79　喜多・猪ノ谷山古墳群
80　喜多・秋谷池古墳群
81　秋谷山遺跡
82　三角点山山頂遺跡
83　三角点山愛宕遺跡
84　岡・福谷遺跡
85　岡・福谷池古墳群
86　楠丘遺跡
87　極楽寺遺跡
88　岡・前田遺跡
89　福地・ドンド１号墳
89　岡・ドンド古墳群
90　岡・福地経塚
91　蟲生城跡
92　福地・大谷遺跡
93　福地域跡
94　福地・御料谷遺跡
95　福地・御霊谷散布地
96　福地・百合山古墳群
97　芦谷嫁ヶ石古墳
98　伊勢山西古墳
99　伊勢山城跡
100　伊勢山古墳群
101　北山古墳群
102　北垣内池窯跡
103　安井棒池古墳群
104　北垣内道ノ上遺跡
105　谷田遺跡
106　西岡山古墳群
107　芦谷水塚古墳
108　滝ノ上古墳群
109　岡之山北古墳
110　岡之山東古墳群
111　岡ノ山古墳
112　岡之山西古墳群
113　岡之山古墳群
114　比延古墳
115　岡之山南古墳群
116　鎌谷下池遺跡
117　比延山城跡
118　横山石棺基
119　鹿野窯跡
120　比延前田遺跡
121　鹿野宮ノ前遺跡
122　蒲江・上山古墳
123　蒲江・大谷窯跡群
124　蒲江・大谷散布地
125　蒲江・宮池遺跡
126　蒲江・大谷古墳
127　蒲江・西山古墳
128　寺内古墳群
129　坂本古墳群
130　坂本城跡
131　西林寺遺跡
132　西林寺南方山頂遺跡
133　大野古墳群
134　大野古墳
135　津万遺跡群
136　寺内・中田遺跡
137　西嶋・門遺跡
138　大垣内遺跡
139　嶋・大堂遺跡
140　伝島村城跡
141　嶋・馬渡り遺跡
142　東八日山古墳群
143　上戸田遺跡
144　応供寺跡
145　八日山古墳群
146　下戸田古墳群
147　西脇城跡
148　キツネ塚古墳
149　上本町大塚古墳群
150　童子山窯跡
151　春日山遺跡
152　高田井遺跡
153　富田山古墳群
154　西仙寺遺跡
155　日野・高芝遺跡
156　下山古墳
157　富吉南遺跡
158　富吉南古墳群
159　富吉・上ノ山遺跡
160　富吉・上ノ山古墳群
161　富吉上遺跡
162　富吉・北山古墳群
163　富吉・愛宕山古墳群
164　富吉・愛宕山遺跡
165　富吉・奥山南古墳群
166　富吉・奥山北１号墳
167　前島・明谷古墳
168　前島遺跡
169　前島古墳
170　大木・東山石棺墓
171　大木遺跡
172　野中・国影遺跡
173　東安田・観音山遺跡
174　東安田・ヒダイ遺跡
175　善光寺遺跡
176　東安田・北山遺跡
177　東安田古墳群
178　東安田・西北山遺跡
179　東安田中池遺跡
180　東安田城遺跡
181　東安田中世墓群
182　滝ヶ谷池遺跡
183　中安田奥池遺跡

古墳では刀子・玉類、大伏南山古墳では鉄刀・鉄剣・鉄鏃・鉄鉾・鹿角刀装具が出土している。大伏北山遺跡（２）では箱式石棺（ST01）が検出されており、鉄製農工具が出土している。前・中期においては岡ノ山周辺に有力な古墳が集中している。

後期には各所の丘陵裾部で横穴式石室墳が認められる。おおむね半径２㎞以内の範囲にはおしなべて存在している。坂本古墳群（129）では６世紀末から７世紀後葉の横穴式石室墳７基と寺内古墳群（128）では７世紀中葉の横穴式石室墳１基の調査が行われている。調査地の西側にも大門・畑瀬古墳群（４）が位置するが、現状でその位置を確認することはできなかった。

集落については大垣内遺跡（138）・津万遺跡群（135）で前期、楠丘遺跡（86）で中期、谷田遺跡（105）で後期の竪穴住居跡が検出されている。津万遺跡群の寺内地区では前・中期の粘土採掘坑、西嶋地区で後期の土坑、津万地区で中・後期の溝が検出されている。大門畑瀬遺跡（１）・大伏北山遺跡（２）ではカマド付きの竪穴住居跡が検出されている。

周辺は古墳時代以降平安時代に至るまで須恵器生産が盛んなに地域でもある。TK10 型式並行期の前坂大歳神社窯跡（66）、TK43 ～ TK209 型式並行期の童子山窯跡（150）・黒田大山谷窯跡（53）、TK217 型式並行期の北垣内池窯跡（102）・黒田・中池窯跡群（42）などがある。

律令期　当地域は託賀郡黒田里・都麻里（播磨国風土記）、その後黒田郷・資母郷（和名抄）と呼ばれたと考えられている。集落については津万遺跡群嶋地区で掘立柱建物跡が検出され、石帯、円面硯が出土している。大門畑瀬遺跡（１）では掘立柱建物跡・溝などが検出されている。

律令期の窯跡は８世紀後半から９世紀前半の大伏窯跡群（９）・畑瀬末谷窯跡群（８）、９世紀代の大門１号窯跡（３）など今回の調査地の周辺に集中している。

中世　当地域には摂関家領黒田荘や皇室領這田荘などが存在したと考えられている。岡遺跡（88）や津万遺跡群（135）の寺内地区・嶋地区・津万地区で 11 世紀以降の掘立柱建物跡が検出され、津万遺跡群では木棺墓から烏帽子、土壙墓から鋏・毛抜き・刀子・銅鏡・青白磁合子が出土している。

丘陵部では石原経塚（23）、福地経塚（90）・大伏北山遺跡（２）で経塚が検出されている。石原経塚では銅製経筒内に承安４年（1174）銘の経巻が残存していた。福地経塚では久安５年（1149）銘の経筒が出土している。

中世後期については喜多・城山城跡（76）で室町・戦国時代の山城跡、比延前田遺跡（120）では戦国期の平地居館跡が調査されている。

近世　西脇地域は豊臣氏の蔵入地から、慶長５年（1600）に姫路藩領、寛永 16 年（1639）年に幕府領と変遷し、その後大小藩の飛び地や旗本領などが入り乱れるようになる。大門村・大伏村は享保６年（1721）に幕府領姫路藩預り地、寛保２年（1742）に幕府領と移り変わり、大門村は明和６年（1769）に尼崎藩領となっている。津万井近世窯跡（６）では土瓶・行平鍋などを焼成した 19 世紀の連房式登窯が検出されている。

参考文献

黒田庄町教育委員会 1997、西脇市教育委員会 2003、2005、2006、2007、西脇市郷土資料館 2007
（第５章の文献一覧参照）

第３章　大門畑瀬遺跡

第１節　遺跡の概要（図版３・4）

大門畑瀬遺跡は加古川右岸の丘陵裾から東側の川岸に向かう緩斜面に位置している。現河岸より約２m高い、標高 68m ～ 70m の範囲の高さにある。D 地区付近に向かって東側に延びる丘陵尾根先端付近から南側に、丘陵と加古川に間の幅の狭い緩斜面部に広がっている。遺跡の範囲は、北側は大伏北山遺跡との間に位置する谷地形で、南側は旧河道（SR02）で区切られ、南北幅は約 120m にわたる。主に弥生時代・古墳時代・奈良時代の遺構・遺物が検出された。

第２節　A・B 地区

1　A・B 地区の概要（図版５～８、写真図版２～６）

調査実施範囲の南半部にあたり、おおむね南端の旧河道（SR02）部分が A 地区、旧河道より北側の緩斜面部が B 地区にあたる。調査地の旧状は耕作地で、削平や盛土を繰り返して、1 枚の耕作地を大きくして利用されてきた。

A 地区では７層（図版５）以下が東西方向に流れる旧河道（SR02）あるいはその埋積後の堆積層である。遺構は奈良時代に埋積した旧河道（SR02）が検出され、埋積後は時期不明の水田畦畔が存在するのみである。

B 地区では、西壁より約５m の範囲は大きく削平され、それより東側は上下２つの遺構面の調査を行った。東側の堆積は厚いところで 1m に及び、第１面の遺構面上では３～５層（図版８）、弥生時代と考えられる第２面の遺構面上では６・７・13・14 層が堆積している。標高は 68.2m ～ 67.1m の範囲にあり、約 3°の緩斜面をなしている。

遺構は竪穴住居跡、掘立柱建物跡、土坑、溝、石棺などが検出された。時期は弥生時代から奈良時代にわたる。

遺物は弥生時代、古墳時代、奈良時代、中世、近世の土器・陶磁器が出土している。弥生時代と奈良時代の土器が多く、SR01 から弥生土器、SR02 から奈良時代の須恵器が出土した以外は、まとまって遺構から土器は出土していない。

2　A・B 地区の遺構と遺物

SH01（図版９・27・41・42、写真図版７・41・56・57）

検出状況　B 地区中央、やや東側に位置する竪穴住居跡である。床面の標高は 67.65m である。東側は耕作地の段によって削られている。

規模・形態　平面形は方形で、規模は南北 4.8m、東西 3.0m 以上である。西壁側で深さ 15㎝を測る。

屋内施設　カマド、柱穴、周壁溝が検出されている。

カマド　西壁中央にカマドが設けられている。幅 38㎝、長 40㎝、高さ 5㎝、袖内面及び底面は貼り付けた粘土が被熱酸化している。

柱穴　柱穴は深さ 20 ～ 30㎝のものが４基検出されているが、P1・2 が主柱穴の可能性がある。

周壁溝　壁際には溝が巡らされ、幅 10 ～ 20㎝、深さ５～ 10㎝を測る。

出土遺物　カマドの両脇付近で、土師器甕（1・2）、把手（3）、須恵器杯（4）・高杯（5）、埋土から刀子（M1）、石英結晶（J1 ～ 3）が出土している。

1・2の表面は摩滅した部分が多く、2は体部外面にススが付着している。4は底部が回転ヘラ切りである。5は表面が摩滅した部分が多く、調整は不明である。焼成は軟質で、外面にはススが吸着している。M1の刀子は無関である。石英結晶（J1 ～ 3）は竪穴住居跡から出土していることから、原材料等の可能性も考慮して、遺物として取り上げている。

SH02（写真図版8）

検出状況　B地区中央、やや東側に位置する竪穴住居跡の可能性のある遺構である。床面の標高は67.77mである。西北側はSR02が存在することから、検出できていない。

規模・形態　平面形は方形で、規模は一片3m以上で、4m以下と考えられる。検出面からの深さは10㎝である。主柱穴と考えられるピットは検出されていない。

出土遺物　埋土から須恵器杯A・壺、土師器片が出土している。

SH03（写真図版8）

検出状況　B地区中央、やや東側に位置する竪穴住居跡の可能性のある遺構である。床面の標高は67.75mである。西北側はSR02が存在することから、検出できていない。

規模・形態　平面形は方形で、規模は一片3m以上で、4m以下と考えられる。検出面からの深さは10㎝である。主柱穴と考えられるピットは検出されていない。

出土遺物　埋土から須恵器甕、土師器片が出土している。

SH04（図版23・27、写真図版18・41）

検出状況　B地区第2面中央、東端に位置する竪穴住居跡である。床面の標高は67.2mである。床面は削平され、東半は耕作地の段差により大きく削平されている。

規模・形態　平面形は円形で、直径は7m程度と推定される。

屋内施設　柱穴、中央土坑、排水溝、周壁溝が検出されている。

柱穴　主柱穴と考えられる柱穴は3基（P1 ～ 3）検出されている。直径20㎝、深さ30 ～ 35㎝である。配置からすると4本柱の可能性が高い。

中央土坑　東側の深い土坑と西側の浅い土坑からなる。東側の土坑は径70㎝×60㎝の楕円形で、深さ55㎝である。西側の土坑は径80㎝×60㎝の楕円形で、深さ17㎝である。いわゆる「一○土坑」に類似するが、浅い土坑に明瞭な炭層の堆積は認められない。

排水溝　中央土坑から西側に延びる溝である。ピットに切られ、周壁溝との関係は不明である。幅15㎝、深さ5㎝である。

周壁溝　東半は耕作地の段差により削平されている。幅30 ～ 20㎝、深さ5 ～ 20㎝である。

出土遺物　排水溝から弥生土器甕（6）、周壁溝から弥生土器高杯（7）、P9から須恵器甕（8）が出土している。

6は表面が摩滅している。7は椀形高杯で、内外面ともヘラミガキが施されている。後期と考えられる。

SA01（図版 11、写真図版 10）

検出状況　B 地区北部に位置する、東西方向の柵列である。SB03 の南面柱列から約 0.5m 南側に位置している。東側調査区外に延びている可能性がある。

規模・形態　柱穴 4 基が検出され、柱間 3 間以上と考えられる。延長 4.0m で、柱間間隔は 1.6 ～ 1.2m である。柱穴の直径は 40 ～ 20㎝、深さは 15㎝前後である。

出土遺物　柱穴から遺物は出土していない。

SA02（図版 10・27、写真図版 42）

検出状況　B 地区北部の中央付近に位置する、南北方向の柵列である。

規模・形態　柱穴 4 基が検出され、柱間 3 間の柵列である。延長 4.1m で、柱間間隔は 2.1 ～ 0.9m である。柱穴の直径 40 ～ 30㎝は、深さは 30 ～ 15㎝程度である。

出土遺物　P04 から須恵器甕片、土師器細片、P45 から土師器杯（9）、須恵器杯 A（10）が出土している。9 の表面は摩滅している。10 は底部が回転ヘラ切り後ナデである。

SA03（図版 10）

検出状況　B 地区南部の西寄りに位置する、東西方向の柵列である。SA05 と位置が重複している。

規模・形態　柱穴 4 基が検出され、柱間は 3 間である。延長 6.3m で、柱間間隔は 2.3 ～ 1.8m である。柱穴の直径は 30 ～ 25㎝、深さは 35 ～ 15㎝程度である。

出土遺物　柱穴から遺物は出土していない。

SA04（図版 10）

検出状況　B 地区中央部の西寄りに位置する、南北方向の柵列である。

規模・形態　柱穴 5 基が検出され、柱間は 4 間である。ただし、南から 2 番目の柱穴（P42）はやや列から離れすぎている。延長 7.6m で、柱間間隔は 2.2 ～ 1.6m である。柱穴の直径は 30 ～ 20㎝、深さは 15 ～ 5㎝程度である。

出土遺物　柱穴から遺物は出土していない。

SA05（図版 10）

検出状況　B 地区南部の西寄りに位置する、南北方向の柵列である。SA03 と位置が重複している。

規模・形態　柱穴 3 基が検出され、柱間は 2 間である。延長 4.1m で、柱間間隔は 2m である。柱穴の直径は 40 ～ 25㎝、深さは 30 ～ 15㎝程度である。

出土遺物　柱穴から遺物は出土していない。

SB01（図版 10・27、写真図版 9・41）

検出状況　B 地区北部の東端に位置する掘立柱建物跡である。調査区外の東側に延びていると考えられる。

規模・形態　南北 2 間（4.0m）、東西 2 間（1.9m）以上の側柱建物である。建物の方位は N10° E である。

柱穴　柱穴の掘方は円形あるいは楕円形である。直径は 50 ～ 35㎝で、深さは 50 ～ 10㎝である。

出土遺物　P47 から須恵器片、弥生土器高杯（11）が出土している。表面は摩滅している。

SB02（図版 10・27）

検出状況　B 地区中央部の東寄りに位置する掘立柱建物跡である。東部は耕作地の段差により削られている。

規模・形態　桁行 2 間（3.8m）以上、梁行 2 間（2.0m）の側柱建物である。形状がやや平行四辺形にゆがんでいる。北辺は立て替えの可能性のある柱穴が 2 基 1 組で検出されている。建物の方位は N90° E である。

柱穴　柱穴の掘方は円形あるいは楕円形である。直径は 55 ～ 20㎝で、深さは 35 ～ 20㎝である。

出土遺物　P46 から須恵器蓋（12）が出土している。短頸壺の蓋である。天井部外面は回転ヘラ切り後軽くナデが施されている。

SB03（図版 11、写真図版 10）

検出状況　B 地区北部の東端に位置する掘立柱建物跡である。東側は調査区に延びていると考えられる。南辺に沿って、南側に SA01 が存在する。SB04 と位置が重複し、P139 が重複している。

規模・形態　桁行 5 間（3.8m）以上、梁行 2 間（2.0m）以上の側柱建物である。建物の方位は N40° E である。

柱穴　柱穴の掘方は円形あるいは楕円形である。直径は 50 ～ 30㎝で、深さは 35 ～ 5㎝である。

出土遺物　P9 から土器細片が出土している。

SB04（図版 11・27、写真図版 41）

検出状況　B 地区北部の東端に位置する掘立柱建物跡である。東側は調査区に延びていると考えられる。SB03 と位置が重複し、P139 が重複している。

規模・形態　桁行 3 間（5.2m）以上、梁行 2 間（3.7m）の側柱建物である。建物の方位は N75° E である。

柱穴　柱穴の掘方は円形あるいは楕円形である。直径は 45 ～ 20㎝で、深さは 25 ～ 5㎝である。

出土遺物　P128 から須恵器杯 B 蓋（13）が出土している。天井部外面は、回転ヘラ切り後回転ナデが施されている。

SB05（図版 11、写真図版 41）

検出状況　B 地区南部に位置する掘立柱建物跡である。東側は SR01 と重複していることから検出できていない。

規模・形態　東西 3 間（4.0m）以上、南北 3 間（4.0m）以上の総柱建物である。東西の東側 2 間と南北の中央 1 間の柱間が狭い。立て替え、間仕切りの可能性も考えられる。建物の方位は N88° W である。

柱穴　柱穴の掘方は円形のものが多く、楕円形のものがある。直径は 50 ～ 20㎝で、深さは 40 ～ 15㎝である。

出土遺物　P78 から土師器甕（14）が出土している。内外面とも摩滅している。

SB06（図版 12・27、写真図版 41）

検出状況　B 地区中央部に位置する掘立柱建物跡である。東側は SR01 と重複していることから検出できていない。

規模・形態　桁行 3 間（11.8m）以上、梁行 1 間（2.6m）の側柱建物である。建物の方位は N84° E である。

柱穴　柱穴の掘方は円形である。直径は 50 ～ 30㎝で、深さは 50 ～ 15㎝である。

出土遺物　P35 から須恵器皿（16）、P40 から土師器杯（15）が出土している。15 は表面の大部分が剥落しているが、丹塗の痕跡が認められる部分がある。底部は回転ヘラケズリである。16 は底部が回転ヘラ切り後ナデである。

SB07（図版 12・27、写真図版 10・41）

検出状況　B 地区南部の東寄りに位置する掘立柱建物跡である。南側は SR02 に側に向かう段落ちにより削れられている。

規模・形態　桁行 3 間（11.8m）以上、梁行 2 間（2.6m）の側柱建物である。建物の方位は N14° E である。

柱穴　柱穴の掘方は円形である。直径は 60 ～ 35㎝で、深さは 30 ～ 20㎝である。

出土遺物　P72 から須恵器杯 B 蓋（17）が出土している。天井部外面は回転ヘラ切り後ナデが施されている。

SB08（図版 12）

検出状況　B 地区南部の東寄りに位置する掘立柱建物跡である。東側に延びる建物と推定されるが、東側は耕作地の段差により削平されている。SB09 と重複するが、柱穴の切れ合いはない。

規模・形態　南北 1 間（3.5m）の建物である。建物の方位は N21° E である。

柱穴　柱穴の掘方は楕円形である。直径は 60 ～ 40㎝で、深さは 40 ～ 30㎝である。

出土遺物　柱穴から遺物は出土していない。

SB09（図版 12・27、写真図版 41）

検出状況　B 地区南部の東寄りに位置する掘立柱建物跡である。東側に延びる建物と推定されるが、東側は耕作地の段差により削平されている。SB08 と重複するが、柱穴の切れ合いはない。

規模・形態　南北 2 間（4.0m）の建物である。建物の方位は N13° E である。

柱穴　柱穴の掘方は円形もしくは楕円形である。直径は 80 ～ 30㎝で、深さは 40 ～ 25㎝である。

出土遺物　P201 から弥生土器底部（18）が出土している。

第 2 面 SB01（図版 24、写真図版 19）

検出状況　B 地区北部の東寄りに位置する掘立柱建物跡である。第 2 面 SK05・06 と重複している。

規模・形態　桁行 2 間（4.0m）の建物である。建物の方位は N23° E である。

柱穴　柱穴の掘方は円形もしくは楕円形である。直径は 40 ～ 30㎝で、深さは 25 ～ 5㎝である。

出土遺物　遺物は出土していない。

ピット（図版 27・28、写真図版 41・42）

検出状況　B 地区のほぼ全面で約 400 基が検出されている。

出土遺物　弥生時代から中世にかけての土器（19 ～ 35）が出土している。

19・20 は弥生土器脚部である。19 は径 3㎜の円孔が穿たれ、10 方と推定される。P34 から出土した。21 は弥生土器甕である。内面は板ナデが施されている。P52 から出土した。22 は弥生土器壺の頸部である。凹線文が施される。P76 から出土した。23 は弥生土器器形不明である。表面は摩滅が進み、外面にハケ目がわずかに残る。P03 から出土した。24 は土師器杯である。表面は剥落した部分が多く、わずかに丹塗りの痕跡が残る。底部は回転ヘラケズリである。P70 から出土した。25 は土師器甕である。表面は摩滅しており、体部外面はわずかにタテハケの痕跡が残る。P230 から出土した。26 は土師器鉢である。口縁部外面はヨコナデ、体部外面はタテハケ、底部外面はヘラケズリが施されている。内面は摩滅している。P42 から出土した。27 は須恵器杯蓋である。天井部外面は回転ヘラ切りである。P53 から出土した。28 は須恵器杯である。底部外面は回転ヘラケズリ後ナデが施されている。P29 から出土した。29 は須恵器杯 B 蓋である。天井部外面は回転ナデである。P157 から出土した。30 は須恵器杯の口縁である。P190 から出土した。31 は須恵器杯 A である。底部外面は回転ヘラ切り後ナデである。P254 から出土した。32 は須恵器短頸壺である。底部は回転ヘラ切りである。P51 から出土した。33 は須恵器甕の口縁部である。P22 から出土した。34 は須恵器横瓶である。体部外面は平行タタキが施され、閉塞側は部分的に板ナデが施されている。P70 から出土した。35 は土師器鍋である。体部外面に平行タタキが施され、焼成は陶質である。P116 から出土した。

石棺（図版 13、写真図版 11）

検出状況　B 地区中部の東寄りの SD17 の東端部で、奈良時代の遺構の SD17 を切り込んで検出された。側壁とみられる石列がほぼ四周に残存し、天井石の可能性のある石材が周囲に散乱していた。

規模・形態　側壁は長さ 20㎝以下の石材で構成され、天井石は長さ 20㎝以下の石材が使用されていたと思われる。棺内の規模は長さ 70㎝、幅 20㎝で、側壁の高さは 8㎝程度である。掘方は明瞭ではないが、長さ約 1.0m、幅 65㎝と考えられる。

出土遺物　遺構に伴う遺物は出土していない。SD17 の時期から奈良時代以降の遺構と考えられる。

SK01（図版 13、写真図版 12）

検出状況　B 地区北部の西端で検出された土坑である。北端部が調査区外に延びている。

規模・形態　長さ 70㎝以上、幅 52㎝の不整形で、深さは 2㎝程度と浅い。埋土には炭が多く含まれ、純炭層をなす部分もある。焚火跡と考えられる。

出土遺物　埋土から土器細片が出土したのみである。

SK02（図版 13・28、写真図版 12・42）

検出状況　B 地区中部の西寄りで検出された土坑である。

規模・形態　長さ 115㎝、幅 100㎝の楕円形である。深さは 3㎝程度と浅い土坑であるが、西端部の 2 箇所のみ深さが 35㎝程深くなっている。この部分の中・上層から礫や土器が出土している。

出土遺物　埋土から弥生土器壺（36・37）が出土している。36 は弥生土器広口壺である。口縁端部と頸部に凹線文が施されている。37 は弥生土器受口壺である。口縁部外面に凹線文が施されている。

SK07（図版 13・28、写真図版 42）

検出状況　B 地区北部で検出された土坑である。

規模・形態　長さ 115㎝、幅 50㎝の楕円形で、深さは 10㎝程度である。

出土遺物　埋土から弥生土器紡錘車（38）が出土している。弥生土器の体部破片を粗く円形に成形し、穿孔している。

SK08（図版 13）

検出状況　B 地区北部で検出された土坑である。

規模・形態　長さ 90㎝、幅 60㎝の楕円形で、深さは 10㎝程度である。

出土遺物　埋土から土器細片が出土しているのみである。

SK13（図版 14・28、写真図版 42）

検出状況　B 地区北部で検出された土坑である。

規模・形態　長さ 225㎝、幅 110㎝の不整形である。部分的に深くなっているところで、深さは 19㎝である。

出土遺物　埋土から弥生土器高杯（39）が出土している。脚部上端に直線文が施されている。

SK20（図版 14、写真図版 12）

検出状況　B 地区中部の東寄りで検出された土坑で、炉跡と考えられる。

規模・形態　長さ 85㎝、幅 75㎝の隅丸方形である。深さは 3㎝程度で、ほとんど掘り込みはない。中央付近が強く焼けて硬化しており、周囲が赤く焼けている。

出土遺物　埋土から土器細片が出土しているのみである。

SK21（図版 14・28、写真図版 12・42）

検出状況　B 地区中部の東寄りで検出された土坑である。

規模・形態　長さ 105㎝、幅 50㎝の楕円形である。深さは 13㎝である。

出土遺物　埋土から弥生土器甕（40）が出土している。内面は調整不明である。

SK22（図版 14・28、写真図版 12・42）

検出状況　B 地区中部の東寄りで検出された土坑である。

規模・形態　長さ 105㎝、幅 70㎝の楕円形である。深さは 10㎝である。

出土遺物　埋土から土師器把手（41）が出土している。平面三角形で板状である。

SK23（図版 14・28、写真図版 12・42）

検出状況　B 地区中部の西寄りで検出された土坑である。

規模・形態　直径 50㎝の円形で、深さは 5㎝程度である。

出土遺物　埋土から弥生土器甕（42）が出土している。表面は剥落している。

SK30（図版 14、写真図版 13）

検出状況　B 地区南部の東寄りで検出された土坑である。

規模・形態　長さ 100㎝、幅 80㎝の楕円形である。深さは 10㎝である。埋土に焼土が多く含まれていることから、炉の可能性が考えられる。

出土遺物　埋土から須恵器片、弥生土器片が出土している。

SK31（図版 15、写真図版 13）

検出状況　B 地区中部の西端付近で検出された土坑である。

規模・形態　長さ 190㎝、幅 140㎝の楕円形で、深さは 20㎝である。底部に長さ 20㎝以下の平たい石を敷きつめている。石敷上には薄く細砂層が堆積しており、水溜状の遺構と考えられる。

出土遺物　埋土から須恵器片、土師器片が出土している。

SK32（図版 15、写真図版 13）

検出状況　B 地区中部の西寄りで検出された土坑である。SD14 と重複する部分に位置するが前後関係は不詳である。

規模・形態　長さ 70㎝以上、幅 90㎝で、形状は不詳である。深さは 15㎝で、南西部に焼土塊が集中的に認められる。

出土遺物　須恵器碗（10・11 世紀）・杯 B・甕、土師器片が出土している。

SK37（図版 15・28・41、写真図版 13・42・56）

検出状況　B 地区南部の東寄りで検出された土坑である。SB08 に切られている。

規模・形態　長さ 170㎝、幅 140㎝の楕円形で、深さは 20㎝である。

出土遺物　埋土から弥生土器壺（43）・甕（44）・多孔鉢（45）、石鏃（S3）が出土している。

43 は弥生土器広口壺で、口縁端部と頸部に凹線文が施されている。45 は弥生土器小型多孔鉢である。穿孔は、口縁部直下の体格の位置に 1 孔ずつ、体部下半側面に多数、底部に 6 孔なされている。S3 はサヌカイト製の凸基式石鏃である。

SK38（図版 15、写真図版 42）

検出状況　B 地区中央の東寄りで検出された土坑である。SD32 に切られ、東側は耕作地の段差により削平されている。

規模・形態　長さ 230㎝以上、幅 80㎝の不整形で、深さは 20㎝である。

出土遺物　埋土から須恵器片、土師器片、弥生土器高杯（46）が出土している。46 は弥生土器椀形高杯で、口縁部外面に凹線が施されている。

SK39（図版 15・28、写真図版 42）

検出状況　B 地区南部の東寄りで検出された土坑である。

規模・形態　長さ 175㎝、幅 90㎝の楕円形で、深さは 18㎝である。底面がピット状に下がる部分がある。

出土遺物　埋土から弥生土器甕（47）が出土している。表面は摩滅している。

第２面 SK01（図版 24、写真図版 19）

検出状況　B 地区第２面の中央東寄りで検出された土坑である。

規模・形態　長さ 150㎝、幅 80㎝の不整楕円形で、深さは 30㎝である。

出土遺物　遺物は出土していない。

第２面 SK02（図版 24、写真図版 19）

検出状況　B 地区第２面の中央東寄りで検出された土坑である。

規模・形態　長さ 70㎝、幅 50㎝の楕円形で、深さは 10㎝である。

出土遺物　遺物は出土していない。

第２面 SK03（図版 24、写真図版 19）

検出状況　B 地区第２面の北部東寄りで検出された土坑である。

規模・形態　長さ 70㎝、幅 50㎝の長方形で、深さは 10㎝である。

出土遺物　遺物は出土していない。

第２面 SK04（図版 24･41、写真図版 19・56）

検出状況　B 地区第２面の北部東寄りで検出された土坑である。第２面 SB01 と重複する。

規模・形態　長さ 65㎝、幅 35㎝の楕円形で、深さは 10㎝である。

出土遺物　チャート製のナイフ形石器（S1）が出土している。

第２面 SK05（図版 24、写真図版 20）

検出状況　B 地区第２面の北部東寄りで検出された土坑である。第２面 SB01 と重複する。

規模・形態　長さ 190㎝、幅 55㎝の不整楕円形で、深さは 10㎝である。

出土遺物　遺物は出土していない。

第２面 SK06（図版 24、写真図版 20）

検出状況　B 地区第２面の北部東寄りで検出された土坑である。第２面 SB01 と重複する。

規模・形態　長さ 155㎝、幅 80㎝の不整楕円形で、深さは 12㎝である。

出土遺物　遺物は出土していない。

第２面 SK07（図版 25、写真図版 20）

検出状況　B 地区第２面の北部東端で検出された土坑である。東側は調査区外に延びている。

規模・形態　南北 200㎝、東西 50㎝で、深さは 35㎝である。

出土遺物　遺物は出土していない。

第２面 SK08（図版 25）

検出状況　B 地区第２面の南部東寄りで検出された土坑である。V 字形に屈曲している。第２面 SK09 に切られ、SR01 と重複している。北部は地割れにより形状が乱れている。

規模・形態　長さ 320㎝以上、幅 170㎝以上の不整形で、深さは 15㎝である。

出土遺物　埋土から須恵器片、弥生土器片が出土している。

第２面 SK09（図版 25、写真図版 20）

検出状況　B 地区第２面の南部東寄りで検出された土坑である。第２面 SK08 を切り、SR01 と重複している。

規模・形態　長さ 200㎝、幅 170㎝の不整楕円形で、深さは 28㎝である。

出土遺物　埋土から弥生土器片が出土している。

第２面 SK10（図版 25、写真図版 20）

検出状況　B 地区第２面の南部東寄りで検出された土坑である。

規模・形態　長さ 280㎝、幅 260㎝の不整形で、V 字形に屈曲している。深さは 10㎝である。

出土遺物　遺物は出土していない。

第２面 SK11（図版 25、写真図版 20）

検出状況　B 地区第２面の南部東寄りで検出された土坑である。

規模・形態　長さ 95㎝、幅 90㎝の長方形で、深さは 15㎝である。

出土遺物　遺物は出土していない。

第２面 SK12（図版 25）

検出状況　B 地区第２面の北部西寄りで検出された土坑である。

規模・形態　長さ 100㎝、幅 65㎝の不整楕円形で、深さは 10㎝である。

出土遺物　遺物は出土していない。

SD01（図版 16、写真図版 13）

検出状況　B 地区北部の西寄りで検出された東西方向の溝である。西端部は調査区外まで延びている。

規模・形態　長さ 7.6m 以上、幅 40㎝で、深さは 10㎝である。

出土遺物　埋土から染付磁器碗が出土している。

SD02（図版 16、写真図版 13）

検出状況　B 地区北部の西寄りで検出された南北方向の溝である。

規模・形態　溝はやや S 字状に曲がっている。長さ 6m、幅 25㎝で、深さは 5㎝である。

出土遺物　遺物は出土していない。

SD03（図版 16）

検出状況　B 地区北部の東端で検出された斜め方向の溝である。東端は調査区外まで延びている。

規模・形態　溝は弧状に曲がり、幅は一定しない。長さ 3.3m 以上、幅 25 ～ 50㎝で、深さは 10㎝である。

出土遺物　埋土から土器細片が出土しているのみである。

SD04（図版 16・29、写真図版 43）

検出状況　B 地区北部の西寄りで検出された南北方向の溝である。SD05 を切り、南端部は SR01 と重複している。

規模・形態　長さ 6.5m 以上、幅 20 ～ 30㎝で、深さは 10㎝である。

出土遺物　埋土から須恵器壺（48）・甕（49）が出土している。49 は須恵器甕である。体部外面にカキ目、体部外面下端及び底部に回転ヘラケズリが施されている。

SD05（図版 16）

検出状況　B 地区北部の西寄りで検出された斜め方向の溝である。SD04 に切られ、南部は SR01 と重複し、わずかに SR01 の東側まで延びている。

規模・形態　長さ 10.2m、幅 20 ～ 30㎝で、深さは 10㎝である。

出土遺物　埋土から土師器甕が出土している。

SD06・07（図版 17・29、写真図版 14・43）

検出状況　B 地区北部の西寄りで検出された南北方向の溝である。北側の SD06 は幅が細く、南側の SD07 は幅が太い。SD07 の南端部は SR01 の北端部と重複している。

規模・形態　SD06 は長さ 1.5m、幅 20㎝で、深さは 5㎝である。SD07 は長さ 2.5m 以上、幅 40 ～ 65㎝で、深さは 7㎝である。

出土遺物　SD06 から染付磁器碗、須恵器稜碗（50）が出土している。50 は須恵器稜碗である。内面は回転ナデが施され、外面は自然釉のため調整不明である。

SD09・10・12・17・18（図版 17・29、写真図版 15・43）

検出状況　B 地区中部で検出された南北方向の溝である。幅の太い溝 SD12・17 とその北側の細い溝 SD18、南側の細い溝 SD09・10 からなる。SD12 の西端は SD14 に切られ、SD17 の東端は石棺に切られている。中央付近は SR01 と重複している。

規模・形態　SD12・17 は長さ 17m、幅 30 ～ 70㎝で、深さは 11㎝である。SD18 は長さ 1.7m 以上、幅 20㎝で、深さは 7㎝である。SD09 は長さ 2.6m 以上、幅 20㎝で、深さは 20㎝である。SD10 は長さ 1.7m、幅 20㎝で、深さは 12㎝である。

出土遺物　SD12・17 から須恵器杯 A・杯 B・杯 G 蓋（51）・杯 B 蓋（52）・壺・甕、土師器片、弥生土器片、SD18 から須恵器片、土師器片、SD09 から須恵器甕、土師器片、SD10 から須恵器杯 B、土師器片が出土している。

SD11（図版 18、写真図版 14）

検出状況　B 地区中央の東寄りで検出された東西方向の溝である。

規模・形態　長さ 1.4m、幅 20㎝で、深さは 3㎝である。

出土遺物　埋土から遺物は出土していない。

SD14（図版 19、写真図版 14）

検出状況　B 地区中央から南部にかけて検出された南北方向の溝である。SH03・SD12 を切り、SB06・

SR01 と重複している。

規模・形態　長さ 26.5m、幅 130 ～ 50㎝で、深さは 20 ～ 5㎝である。北端部が西側に屈曲している。

出土遺物　埋土から須恵器碗（10・11 世紀）・杯 A・杯 B・高杯・甕、土師器片が出土している。

SD16（図版 18）

検出状況　B 地区中央の西寄りで検出された東西方向の溝である。SD26 を切っている。

規模・形態　長さ 2.0m、幅 15 ～ 30㎝で、深さは 3㎝である。

出土遺物　埋土から須恵器片が出土している。

SD19（図版 20）

検出状況　B 地区中央の東寄りで検出された斜め方向の溝である。北端を SD22 に切られる。

規模・形態　長さ 2.3m 程度、幅 18㎝で、深さは 5㎝である。

出土遺物　埋土から土師器片、弥生土器片が出土している。

SD20（図版 18、写真図版 15）

検出状況　B 地区南部の東寄りで検出された東西方向の溝である。

規模・形態　長さ 2.3m、幅 35㎝で、深さは 5㎝である。

出土遺物　埋土から須恵器片、土師器片が出土している。

SD21（図版 20・29、写真図版 43）

検出状況　B 地区中央の東寄りで検出された斜め方向の溝である。南端を SD22 に切られる。

規模・形態　長さ 2.5m 程度、幅 30㎝で、深さは 5㎝である。

出土遺物　埋土から弥生土器高杯（53）が出土している。53 は弥生土器水平口縁高杯である。

SD22（図版 20）

検出状況　B 地区中央の東寄りで検出された東西方向の溝である。SD19・21 を切る。西端は SR01 と重複している。

規模・形態　長さ 2.5m 以上、幅 30㎝で、深さは 8㎝である。

出土遺物　埋土から須恵器甕、土師器片が出土している。

SD23（図版 20、写真図版 15）

検出状況　B 地区南部の西寄りで検出された東西方向の溝である。SD25 を切る。南端は SR01 と重複している。

規模・形態　長さ 2.5m 以上、幅 70 ～ 30㎝で、深さは 20㎝である。

出土遺物　埋土から須恵器片、弥生土器片が出土している。

SD24（図版 20・29、写真図版 43）

検出状況　B 地区南部の西寄りで検出された南北方向の溝である。SD27 に切られている。北端は SR01 と重複している。

規模・形態　長さ 7m 程度、幅 25㎝で、深さは 6㎝である。

出土遺物　埋土から須恵器片、土師器鍋（54）、弥生土器甕（55）が出土している。54 は土師器鍋である。焼成は陶質である。

SD25（図版 19）

検出状況　B 地区中央から南部にかけて検出された南北方向の溝である。SD23 に切られる。

規模・形態　長さ 8m、幅 40㎝で、深さは 5㎝である。

出土遺物　埋土から須恵器杯 B 出土している。

SD26（図版 18）

検出状況　B 地区中央の西寄りで検出された斜め方向の溝である。SD16 に切られている。

規模・形態　長さ 5.0m、幅 30㎝で、深さは 5㎝である。

出土遺物　埋土から遺物は出土していない。

SD27（図版 20）

検出状況　B 地区南部の西寄りで検出された弧状の溝である。SD24 を切っている。

規模・形態　長さ 3.5m、幅 25㎝で、深さは 10㎝である。

出土遺物　埋土から土師器片が出土している。

SD29（図版 15）

検出状況　B 地区南部の東寄りで検出された東西方向の溝である。西端部に SK30 が存在するが、関係は不詳である。

規模・形態　長さ 3.5m 以上、幅 50㎝で、深さは 10㎝である。

出土遺物　埋土から須恵器片、土師器片が出土している。

SD30（図版 21）

検出状況　B 地区中央の東寄りで検出された弧状の溝である。東端は SH02 に切られ、SD01 を切り、西端は SR01 と重複している。

規模・形態　長さ 1.9m 以上、幅 50㎝で、深さは 5㎝である。

出土遺物　埋土から土器細片が出土しているのみである。

SD31（図版 21）

検出状況　B 地区中央の東寄りで検出された南北方向の溝である。北端は SD30 に切られ、南端は土坑に切られている。

規模・形態　長さ 1.9m 以上、幅 20㎝で、深さは 8㎝である。

出土遺物　遺物は出土していない。

SD32（図版 21・29、写真図版 43）

検出状況　B 地区中央の東寄りで検出された斜め方向の溝である。SK38 を切り、北端は SH02 に切られ

ている。

規模・形態　長さ 5m 以上、幅 45㎝で、深さは 10㎝である。

出土遺物　埋土から須恵器片、弥生土器甕（56）が出土している。56 は弥生土器甕である。表面は摩滅している。

SD33（図版 21）

検出状況　B 地区南部の東寄りで検出された南北方向の溝である。南端は SD34 に切られている。

規模・形態　長さ 3m 程度、幅 70㎝以下で、深さは 20㎝である。

出土遺物　埋土から須恵器杯 B 蓋が出土している。

SD34（図版 21）

検出状況　B 地区南部の東寄りで検出された東西方向の溝で、東端が南側に屈曲している。北側の検出面より 25㎝程 1 段下がった面の段際で検出された。SD33・35・38 を切っている。

規模・形態　長さ 4.3m、幅 40㎝で、深さは 10㎝である。

出土遺物　埋土から須恵器甕が出土している。

SD35（図版 21）

検出状況　B 地区南部の東寄りで検出された斜め方向の溝である。SD34 に切られている。

規模・形態　長さ 1.2m 程度、幅 25㎝で、深さは 10㎝である。

出土遺物　埋土から須恵器杯 B・甕、土師器片が出土している。

SD38（図版 21）

検出状況　B 地区南部の東寄りで検出された南北方向の溝である。SD34 に切られている。

規模・形態　長さ 1.0m 以上、幅 30㎝で、深さは 10㎝である。

出土遺物　埋土から製塩土器、土師器片が出土している。

SD39（図版 21・29、写真撮影 43）

検出状況　B 地区南部の東寄りで検出された南北方向の溝である。北端部は SR01 と重複している。

規模・形態　長さ 2.0m 以上、幅 28㎝で、深さは 8㎝である。

出土遺物　埋土から須恵器杯 B 蓋、土師器甕（57）が出土している。57 は土師器甕の底部である。表面は摩滅しており、被熱を受けている。

SD40（図版 21）

検出状況　B 地区南部の東寄りで検出された斜め方向の溝である。北部は SD14 を切っている。

規模・形態　長さ 1.0m、幅 20㎝で、深さは 4㎝である。

出土遺物　埋土から須恵器片が出土している。

SD41（図版 21）

検出状況　B 地区南部の東寄りで検出された斜め方向の溝である。SD40 と同方位である。

規模・形態　長さ 0.8m、幅 20㎝で、深さは 3㎝である。
出土遺物　遺物は出土していない。

SD42（図版 21・29、写真図版 43）
検出状況　B 地区南部の西寄りで検出された南北方向の溝である。
規模・形態　長さ 1.8m、幅 40㎝で、深さは 15㎝である。
出土遺物　埋土から須恵器杯 B 蓋（58）、土師器片が出土している。58 は須恵器杯 B 蓋である。天井部外面は回転ヘラ切り後回転ナデが施されている。

第 2 面 SD01（図版 26）
検出状況　B 地区第 2 面の南部東寄りで検出された東西方向の溝である。
規模・形態　長さ 0.8m、幅 30㎝で、深さは 4㎝である。
出土遺物　遺物は出土していない。

第 2 面 SD02（図版 26）
検出状況　B 地区第 2 面の南部東寄りで検出された東西方向の溝である。
規模・形態　長さ 0.95m、幅 22㎝で、深さは 5㎝である。
出土遺物　遺物は出土していない。

第 2 面 SD03（図版 26）
検出状況　B 地区第 2 面の北部西寄りで検出された斜め方向の溝である。
規模・形態　長さ 3.8m、幅 110 ～ 70㎝で、深さは 10㎝である。
出土遺物　遺物は出土していない。

第 2 面 SD04（図版 26、写真図版 20）
検出状況　B 地区第 2 面の中央西寄りで検出された斜め方向の溝である。
規模・形態　長さ 2.8m、幅 90㎝で、深さは 50㎝である。
出土遺物　遺物は出土していない。

第 2 面 SD05（図版 26）
検出状況　B 地区第 2 面の南部西寄りで検出された斜め方向の溝である。
規模・形態　長さ 4.0m、幅 120 ～ 60㎝で、深さは 10㎝である。
出土遺物　遺物は出土していない。

SR01（図版 22・29 ～ 32・41・42、写真図版 16・17・43 ～ 47・56・57）
検出状況　B 地区中央部から南部にかけて斜め方向に検出された濠状の遺構である。南端は A 地区の SR02 に削られ途切れている。出土遺物からすると掘立柱建物跡や溝が SR01 を切っていると推定されるが、SR01 上では検出できていない。
規模・形態　長さ 43m、幅 3 ～ 4m で、深さは 60 ～ 90㎝である。断面は箱堀状を呈している。規模が

大きいことから調査当初は河道の可能性が考えられたが、直線的であることと、北側が調査区外まで延びていないことから、人工的な濠状の遺構と考えられる。

出土遺物　須恵器・土師器・弥生土器（60 ～ 149）、土製品（422・423）、石器（S8・S9）が出土している。上層（3 層、④層以上）と下層（4 層以下）に分かれるが、下層の遺物はほとんどが弥生土器である。

土器は北断面 3 層以上の上層（60 ～ 92）と北断面 4 層以下の下層（93 ～ 142）に分けて取り上げられている。上層は北断面の 2 層の黒色層（73 ～ 82）と北断面の 3 層の黒褐色層（83 ～ 92）、下層は北断面の 6 層の暗褐色層（122 ～ 142）で取り上げたものがある。上層では弥生時代から平安時代までの土師器・須恵器があり、下層では大部分が弥生土器であるが、古墳時代の土師器と奈良時代の須恵器を含んでいる。

上層からは弥生土器壺（83）・甕（62・63・75）・底部（60・77・78・85 ～ 87）・把手（76・84）・椀形高杯（79）・高杯（61）・脚部（80 ～ 82）、土師器鍋（64）・壺（88）、須恵器杯蓋（65･99）・杯身（66・90・91）・蓋（89）・擂鉢（67）・杯 B 蓋（68 ～ 70）・杯 A（71）・横瓶（72）・壺（73・92）・甕（74）が出土している。

62・63・75 は弥生土器甕である。口縁端部内縁をややつまみ上げた形態である。60 は小型鉢の底部と思われる。底部外面はナデが施されている。60・77・78・85 ～ 87 は弥生土器底部である。78 は体部外面にヘラミガキ、底部外面にナデが施されている。底部内面には指ナデと思われる凹凸が認められる。その他の個体は摩滅により調整は不明である。80 ～ 82 は弥生土器脚部である。80・81 は端部外縁が突出している。82 は 4 条の凹線文の上下に円形の穿孔がなされている。外面下端にも凹線が 1 条ある。64 は土師器鍋である。体部内面はヨコハケである。88 は土師器壺である。体部内面に粘土紐の接合痕が明瞭に認められる。65･99 は須恵器杯蓋である。65 は稜が鋭く、口径が小さい。TK47 型式と考えられる。99 は天井部外面が回転ヘラ切りで、口径が小さい。TK217 型式と考えられる。66・90・91 は須恵器杯蓋である。口縁端部に丸味をもち、口径が小さい。TK47 型式と考えられる。89 は須恵器蓋である。天井部外面は回転ヘラ切り後ナデが施されている。口径が小さく、短頸壺の蓋と考えられる。68 ～ 70 は須恵器杯 B 蓋である。68・70 は天井部外面に回転ヘラ切り後ナデが施されている。71 は須恵器杯 A である。底部外面は回転ヘラケズリ後ナデが施されている。72 は須恵器横瓶である。体部外面は平行タタキで、閉塞側にはカキ目が施されている。73・92 は須恵器壺である。73 はやや肩の張る形態で、肩の直下に突帯をもっている。92 は頸部に波状文をもっている。74 は須恵器甕である。

下層からは弥生土器壺（93･94・95・107 ～ 111・115・125 ～ 129・143 ～ 146）・鉢（130 ～ 133）・甕（117・138 ～ 140）・高杯（119・120・121）・底部（96 ～ 99・102・103・112 ～ 114・118・134 ～ 137・147）・脚部（100・101・104・105・148）・把手（106・141・142）、土師器甕（116）、須恵器杯 B 蓋（122・123）・杯（124）・杯 A（149）が出土している。

93・94・107・108・115・125 ～ 127・143 は弥生土器広口壺である。口縁端面に凹線文をもつもの（93、115、125、126）、櫛描格子文をもつもの（107、127）、円形浮文をもつもの（107、125、126、143）、棒状浮文をもつもの（125）、ヘラ描縦線文（127）をもつもの、口縁端部内面に波状文をもつもの（93、125）、頸部に凹線文をもつもの（94・145）がある。95・109・110・128・129・144・146 は弥生土器直口壺である。凹線文が口縁部と頸部にほどこされるもの（110・128）、口縁部に施されるもの（95・144・146）、頸部の施されるもの（109・129）がある。111 は弥生土器無頸壺で、口縁部に穿孔がなされている。口縁端部外面に 1 条の凹線もつ。119・120 は弥生土器水平口縁高

杯である。130 ～ 133 は弥生土器直口鉢である。口縁部に波状文をもつもの（130・132・133）、凹線文をもつもの（131）がある。117・138 ～ 140 は弥生土器甕である。117 は体部外面下半にタテハケが施されている。底部のみの個体では、78・98 の外面にヘラミガキが施されている。122・123 は須恵器杯 B 蓋で、122 は口縁部にかえりをもっている。124 は須恵器杯で、底部外面は回転ヘラ切り後ナデである。149 は須恵器皿で、底部外面は回転ヘラ切りである。

土製品は羽口（422）と不明土製品（423）が出土している。422 の羽口は上層からした。外面が還元し、やや融解している。423 の不明土製品は、手づくね成形で、棒状の製品である。上下端は折損している。

石器は太型蛤刃石斧（S8）の破片・サヌカイト製の剥片（S6）が出土している。

SR02（図版 5・33・34・41・42、写真図版 4・48・49・56･57）

検出状況　A 地区の北端の遺構が検出されている面以外のほぼ全体が、旧河道の堆積である。規模が大きく、加古川本流の堆積と推定される。

規模・形態　東西方向の旧河道で、上層水田下より約 1m 程度のみしか掘削はおこなわなかったため、規模は不明である。

出土遺物　A 地区断面図の 8 層以下より出土したものである。弥生土器（150）、土師器（151 ～ 153）、須恵器（154 ～ 193）、石器・石製品（S7・S12）などがある。弥生時代から平安時代の土器が含まれているが、奈良時代の須恵器が圧倒的に多い。

150 は弥生土器無頸壺である。口縁部上端に穿孔をもつ。151・152 は土師器甕である。153 は大型の土師器甕もしくは鍋である。口径が 48㎝と大きい。154 は須恵器器台の脚部と思われる。155 ～ 161 は須恵器杯 B 蓋である。天井部が笠型のものから、平坦なものまである。162 ～ 166 は須恵器杯 A である。器高 3.5㎝前後である。168 ～ 173、175 ～ 180 は須恵器杯 B である。口径 11.8㎝～ 19.8㎝のものがある。174 は須恵器稜碗である。181 ～ 186 は須恵器皿である。口径は 15.0㎝～ 19.2㎝のものがある。187 は須恵器碗である。底部は糸切りである。188 ～ 191 は須恵器壺である。192・193 は須恵器甕である。体部外面は平行タタキが施されている。

石器・石製品にはサヌカイト製の剥片（S7）・砥石（S12）がある。S12 の砥石は表面のみ使用されている。

第 2 面地割れ（図版 7・29、写真図版 43）

検出状況　B 地区の中部、南部で SH01 などを切って検出された溝状の遺構である。地震による地割れと考えられる。

出土遺物　埋土から須恵器杯蓋（59）が出土している。口径が大きく、TK10 型式と考えられる。

水田土壌層（図版 34・41、写真図版 49・56・57）

検出状況　A 地区の SR02 上には中世～近世の水田土壌層（A 地区断面図 5・6 層）が存在し、溝なども伴っている。

出土遺物　194 の須恵器高杯は水田に伴う溝（SD54）から出土したものである。その他（195 ～ 223）は SR02 上に堆積する水田土壌層から出土したものである。弥生時代から中世の土器・陶磁器、石器・石製品が出土している。

195 は弥生土器椀形高杯である。196 は弥生土器甕である。197・201・202 は弥生土器脚部である。198・199 は土師器甕である。200 は須恵器稜碗である。203 ～ 207 は須恵器杯 B 蓋である。208 ～ 213 は須恵器杯 B である。214・215 は須恵器壺である。215 の底部はナデである。216 は須恵器皿である。217・218・220 は須恵器底部である。底部は 216 が回転糸切りで、217 がナデである。219 は須恵器甕である。須恵器壺の口縁が窯着している。221 は須恵器碗である。底部は回転糸切りである。222・223 は青磁碗である。222 は龍泉窯系の連弁文碗、223 は粗い櫛目状の沈線文である。

石器・石製品にはサヌカイト製の楔形石器（S4）・サヌカイト製のスクレイパー（S5）・砥石（S11）がある。S11 は表裏両面とも使用されている。

包含層（図版 35 ～ 42、写真図版 49 ～ 57）

出土遺物　弥生時代から中世の土器・陶磁器、不明鉄製品、石器・石製品が出土しているが、B 地区から出土した奈良時代の須恵器が多い。420・421 は確認トレンチの T4 から出土したものである。

224 ～ 226 は弥生土器広口壺である。口縁端面に、224 は波状文、225 は凹線文と円形浮文、226 は凹線文と棒状浮文をもつ。227 は弥生土器無頸壺である。口縁直下に穿孔があり、口縁部外面に凹線文をもつ。228・229 は弥生土器鉢である。口縁部外面に凹線文をもつ。230 ～ 232 は弥生土器甕である。231 は口縁端面に擬凹線をもつ。233 ～ 240 は弥生土器底部である。表面は摩滅したものが多い。241・242 は椀形高杯である。241 は口縁部外面に凹線文をもつ。243 は弥生土器水平口縁高杯である。244 は弥生土器高杯である。脚部上端に凹線文をもつ。245 ～ 249 は弥生土器脚部である。脚裾部外面に、248 は凹線文と鋸歯文、249 は凹線文をもつ。250 は弥生土器台形土器である。天井部は平坦にナデが施されている。251 ～ 255 は土師器甕である。254 は長胴甕で、かなり歪んでいる。256 ～ 258 は須恵器杯蓋である。259 は須恵器無蓋高杯である。260 ～ 279 は須恵器杯 B 蓋である。直径 12.3㎝から 24㎝程度のものまであり、16㎝以下のものが多い。天井部にヘラケズリの施されたものは確認されない。280 ～ 291・293 ～ 298 は須恵器杯 A である。口径は 11.0㎝から 15.2㎝まである。底部にヘラケズリが施されたものは確認されない。292 は須恵器鉢である。底部外面はヘラ切り後ナデである。299 ～ 340 は須恵器杯 B である。底径は 6.3㎝～ 18.0㎝のものがあり、底径 8.5㎝～ 11.0㎝のものが多い。341 ～ 344・346 ～ 349 は須恵器稜碗である。345 は須恵器稜碗蓋である。天井部外面はヘラケズリである。350 ～ 376・420 は須恵器皿である。374・375 は輪高台をもつ。口径は 12.4㎝～ 24.7㎝までのものがあり、13㎝～ 17㎝のものが多い。377 は須恵器碗である。378・379 は須恵器短頸壺蓋である。380 ～ 382・390 ～ 398 は須恵器壺である。383・384・396・400・402・412・421 は須恵器甕である。385 ～ 389 は須恵器底部である。輪高台をもつ。399・401 は須恵器鉢である。403 は須恵器甑である。404・405 須恵器円面硯である。406・407 は須恵器高杯である。408 ～ 411 は須恵器碗である。409 ～ 411 は底部が回転糸切りである。413・414 は須恵器捏鉢である。415 は土師器羽釜である。416 は土師器鍋である。417 は青磁小皿である。418 は白磁碗である。419 は無釉陶器碗である。

金属製品は板状の不明鉄製品（M2）である。

石器・石製品はサヌカイト製の平基式石鏃（S2）・凹み石（S9）、砥石（S10）がある。S9 の凹み石は、花崗岩製でかなり風化が進んでおり、痕跡は不明瞭である。S10 はバチ形の砥石の破片である。

第３節　Ｃ地区

１　Ｃ地区の概要（図版 43、写真図版 21・22）

Ｃ地区は、Ｂ地区と幅 10m の通路を挟んで北側、Ｄ地区の南側に接して位置している。調査地及びその西側は、削平及び盛土により運送会社の駐車場として平坦地化されている。調査区北端部の段差の存在により本来は丘陵の尾根先が伸びていたことが明らかであるが、南側に向かっては斜面がどのような状態であったのかは不詳である。駐車場として利用される以前は水田だったようであり、平坦化が進んでいたと考えられる。

調査の結果、おおむね、調査区の東端から 6m より西側は水田及び駐車場の造成のために削平を受け、表土・採石の直下に風化した岩盤が露出する。北部はさらに現地面下を大きく土取りした撹乱が大きくひろがっている。調査区の東端部は水田造成により段をなして地面が 50㎝下がっている。予想以上に丘陵部がせり出していたと考えられる。

遺構が検出されたのは、耕作地の段差の縁の削平の影響が少なかったわずかな部分に限られる。検出された遺構はピット約 20 基、土坑３基、溝１条である。遺構面の標高は約 70m であり、Ｂ地区より約 2m 高い。Ｂ地区と同様に 3°程度の緩斜面をなしていたと考えられる。

２　Ｃ地区の遺構と遺物

SK01（図版 44、写真図版 23）

検出状況　Ｃ地区中央で検出された土坑である。耕作地の段差部分にあたり、南部の上半を削られている。

規模・形態　平面形は楕円形で、規模は南北 100㎝、東西 80㎝、深さは 65㎝である。

出土遺物　遺物は出土していない。

SK02（図版 44、写真図版 23）

検出状況　Ｃ地区中央で検出された土坑である。北半を撹乱で切られている。

規模・形態　平面形は楕円形で、規模は南北 65㎝以上、東西 65㎝以上、深さは 25㎝である。

出土遺物　須恵器杯（501）、土師器細片が出土している。501 の須恵器杯は底部ヘラ切りである。

SK03（図版 44、写真図版 23）

検出状況　Ｃ地区中央で検出された土坑である。

規模・形態　平面形は円形で、規模は直径 90㎝、深さは 33㎝である。

出土遺物　土師器細片が出土している。

SD01（図版 44、写真図版 23）

検出状況　Ｃ地区中央で検出された斜め方向の溝である。西端は耕作地の段差、東端は撹乱に切られている。

規模・形態　長 11m 以上、幅 80㎝で、深さは 20㎝である。

出土遺物　埋土から須恵器杯Ａ・杯Ｂ（502）・須恵器杯Ｂ蓋・甕、土師器片、弥生土器片、肥前磁器碗（印判手）が出土している。502 の須恵器杯Ｂは底部ヘラ切りである。

ピット（図版 44、写真図版 23）

検出状況　ピットは約 20 基検出されている。

規模・形態　ピットは削平を受けているため深さ 20㎝以下のものが多いが、中には竪穴住居跡の主柱穴のように深さ 40 ～ 50㎝と深いもの（P15・18）も存在する。

出土遺物　P15 から須恵器細片、土師器細片、P18 から土師器細片が出土している。

包含層（図版 44、写真図版 23）

検出状況　包含層も遺構が検出された耕作地の段差の縁部に限られる。

出土遺物　503 は須恵器稜碗である。504 は須恵器底部である。M51 は不明鉄製品である。基部は断面方形であるが、先端に向かって薄くなっている。先端近くまで木質が付着している。

第 4 節　D 地区

1　D 地区の概要（図版 45、写真図版 24・25）

D 地区は C 地区の北側に接し、大門畑瀬遺跡の北端となる。D 地区の北側は削平を受け、大伏北山遺跡との間に谷筋が入り込んでいる。調査区南辺部は西から東に向かって丘陵先端部の隆起が延びており、隆起の北裾付近に竪穴住居跡などの遺構が存在する。隆起部の頂上の標高は約 71m、竪穴住居跡の床面の標高は 69.3m である。

今回の調査の結果、古墳時代後期の竪穴住居跡 3 基及び奈良時代の土坑、溝などを検出した。

2　D 地区の遺構と遺物

SH01（図版 46・47・50、写真図版 26・27・58・59）

検出状況　D 地区北部に位置する竪穴住居跡である。SH04 の北部を切り、SH03 に住居内北西部を切られている。北西端は削平されている。

規模・形態　平面形は方形で、規模は南北 7.2m、東西 7.0m である。南壁側で深さ 15㎝を測る。

屋内施設　土坑、柱穴、周壁溝が検出されている。北壁部で焼土の塊が検出されているが、カマドの痕跡の可能性がある。

土坑　南東隅（SK09）で検出された。SK09 は東西 145㎝、南北 85㎝の楕円形で、深さは 15㎝である。中央のピット状の部分は 3㎝ほど深くなっている。

柱穴　検出されたピットのなかで主柱穴の可能性のあるものを選ぶと、P44（深さ 24㎝）・P37（深さ 25㎝）、P43（深さ 26㎝）が挙げられる。

周壁溝　南東部の壁際には溝が巡らされ、幅 20 ～ 30㎝、深さ 5㎝を測る。

出土遺物　南西隅の床面で土師器甕（601）、床面で石鏃（S62）、SH03・04 も含めて埋土から土師器把手（604）、須恵器杯身（605・607）、土錘（608・609）、SK09 から土師器破片が出土している。

601 は長胴の土師器甕である。両側面に黒斑が認められるが、使用による被熱の痕跡は認められない。604 は土師器把手で、把手上面の中心をはずれた位置にスジが入れられている。605・607 は須恵器杯身である。605 は TK47 型式、607 は底部にヘラケズリが施され、TK209 型式と考えられる。S62 はサヌカイト製の凸基式石鏃である。

SH03（図版 46・47・50、写真図版 26・27・58）

検出状況　D 地区北部に位置する竪穴住居跡である。SH01 の北西部に、SH01 を切って設けられている。

規模・形態　平面形は方形で、規模は南北 5.0m、東西 5.1m である。南壁側で深さ 15㎝を測る。

屋内施設　カマド、土坑、柱穴、周壁溝が検出されている。

カマド　西壁中央にカマドが設けられている。袖はハの字形に開き、煙道が西壁から約 20㎝飛び出している。最大幅 70㎝、長 120㎝、高さ 15㎝で、袖内面及び底面の貼り付けた粘土が被熱酸化している。カマド内中央には石が据えられている。

土坑　南壁際（SK13）と床面中央付近（SK14）で検出された。SK13 は東西 120㎝、南北 70㎝の不整楕円形で、深さは 15㎝である。北部の床面はさらに 10㎝深くなっている。埋土上面には焼土が存在する。SK14 は東西 80㎝、南北 50㎝の台形で、深さは 25㎝である。

柱穴　検出されたピットのなかで主柱穴の可能性のあるものを選ぶと、P08（深さ 29㎝）・P41（深さ 19㎝）・P42（深さ 19㎝）が挙げられる。南東部で比較的深いのは P27（深さ 11㎝）である。

周壁溝　北半部の壁際には溝が巡らされ、幅 20 ～ 30㎝、深さ 5㎝を測る。

出土遺物　南西隅の床面で土師器甕（603）、埋土から須恵器杯蓋（606）、SK13 から須恵器破片、土師器破片、SK14 から須恵器破片、土師器破片が出土している。606 の須恵器杯蓋は TK10 型式と考えられる。

SH04（図版 46・47・50、写真図版 20・27・58）

検出状況　D 地区北部に位置する竪穴住居跡である。SH01 に北側から 2 ／ 3 程度を切られている。周壁溝が 2 重に検出されている。断面から縮小して建て替えがおこなわれていると考えられる。

規模・形態　平面形はやや胴張りの方形と思われる。当初の規模は南北 3.0m 以上、東西 6.0m である。南壁側で深さ 20㎝を測る。建て替え後の規模は東西 5m 程度に縮小している。

屋内施設　土坑、柱穴、周壁溝が検出されている。

土坑　南西隅（SK10）で検出された。SK10 は直径 95㎝の円形で、深さは 40㎝である。

柱穴　大部分が SH01 に切られているため、主柱穴を特定できない。

周壁溝　南辺付近の壁際には溝が巡らされ、幅 20 ～ 30㎝、深さ 35㎝を測る。

出土遺物　SK10 から土師器甕（602）、埋土から土錘（610）が出土している。

SK01（図版 48・50、写真図版 28・58）

検出状況　D 地区南西部で検出された土坑である。

規模・形態　平面形は円形で、規模は直径 120㎝、深さは 40㎝である。

出土遺物　須恵器杯 B（611）・甕（612）が出土している。

SK02（図版 48、写真図版 28）

検出状況　D 地区北部で検出された土坑である。SH01・04 を切っている。

規模・形態　平面形は長方形で、規模は南北 240㎝、東西 115㎝、深さは 20㎝である。埋土の中層（2 層）が炭層である。

出土遺物　須恵器杯 A・稜碗・壺、弥生土器甕が出土している。

SK03（図版 48、写真図版 28）

検出状況　D 地区南西部で検出された土坑である。

規模・形態　平面形は不整円形で、規模は直径 60㎝、深さは 20㎝である。

出土遺物　土師器片が出土している。

SK04（図版 48、写真図版 28）

検出状況　D 地区南東部で検出された土坑である。

規模・形態　平面形は楕円形で、規模は南北 80㎝、東西 65㎝で、深さは 15㎝である。

出土遺物　須恵器甕、土師器片が出土している。

SK06（図版 48・50、写真図版 28・58）

検出状況　D 地区南東部で検出された土坑である。北端は段差で削られている。

規模・形態　平面形は不整形で、規模は南北 90㎝以上、東西 70㎝、深さは 5㎝である。

出土遺物　須恵器稜碗蓋（613）が出土している。平坦な天井部をもち、天井部外面はヘラ切り後回転ナデが施されている。

SK08（図版 49）

検出状況　D 地区北部で検出された土坑である。

規模・形態　平面形は楕円形で、規模は南北 140㎝、東西 90㎝、深さは 30㎝である。

出土遺物　土師器片が出土している。

SD01（図版 49・50、写真図版 28・58）

検出状況　D 地区北部で検出された U 字形の溝である。SH01・03 を切っている。SK02 に切られるか、接している。

規模・形態　延長 44m、幅 30 ～ 100㎝で、深さは 10 ～ 20㎝である。北側へ一度延び、東側に折れ、さらに南側へ延びている。

出土遺物　埋土から須恵器杯 B 蓋（615・616）が出土している。615・616 は天井部外面は回転ヘラケズリが施されている。

ピット（図版 44・50、写真図版 58）

検出状況　ピットは竪穴住居内を含めて約 70 基検出されている。

出土遺物　P17 から弥生土器底部（614）が出土している。

包含層（図版 50、写真図版 58・59）

出土遺物　須恵器杯 A（617）・杯（618）・鉢（619）・壺（620）・杯 B 蓋（621）、土師器焜炉（622）、施釉陶器蓋（623）、石鏃（S61）、石錐（S63）、剝片（S64）が出土している。

617 の須恵器杯 A は底部ヘラ切り後ナデが施されている。618 の須恵器杯は底部ヘラ切り後不調整である。621 の須恵器杯 B 蓋は口縁部内面にかえりをもっている。622 の土師器焜炉はスカシのある内部の部品である。623 の施釉陶器蓋は中央が凹む蓋で、きのこ形のつまみをもっている。つまみの周辺に

のみ白濁釉を垂らしている。蒸気抜きの孔は釉によりふさがれている。口縁部の内面には塗りつけられた有機物がタールあるいはコゲ状に付着している。

打製石器はいずれもサヌカイト製である。石鏃（S61）は平基式である。

第 4 章　大伏北山遺跡

第 1 節　遺跡の概要（図版 51 ～ 53、写真図版 29・30）

大伏北山遺跡は加古川右岸の丘陵から南東に延びた細い尾根上とその南斜面に位置している。現河岸より約 50m 高い標高 110m の位置で石墳 1 基（ST01）、尾根が川に向かって突き出た先端部に近い標高 94m の位置で中世の経塚 3 基、尾根先端からやや下がった標高 86m の位置で墳墓 1 基（ST02）、南端の丘陵裾の緩斜面で弥生時代の段状遺構 2 基が検出された。ST02 の墳丘部やその西側の斜面からも弥生土器は出土している。調査地より高所の部分でも、平坦部らしい箇所は存在するが、表面上で明瞭な地形の改変を確認することは難しい。

第 2 節　遺構と遺物

経塚（図版 54・60、写真図版 31・32・61）

検出状況　尾根が川に向かって突き出た先端部に近い標高 94m の位置で検出された。表土直下の自然の岩盤の縁を凹ませ、部分的に石を周囲に配置して、土器を密接して 3 点据え付けている。土師器経筒（711・712）を据えた部分を経塚 A、南側の須恵器甕（708）を据えた部分を経塚 B、北側の須恵器（709）を据えた部分を経塚 C とする。上面からは手づくね土師器の小皿（710）が出土している。

経塚 A　土師器製経筒（711・712）は経塚 B の北東に接し、東側は自然の岩盤に接している。南北には石材が配されている。当初の位置を保ち、経塚 B より先に据えられたものと考えられる。

土師器製経筒（712）は体部が胴張りで、受け口状の口縁をもち、底部は丸底である。口縁部内面・口縁部外面～体部外面中位はヨコナデ、底部内面・体部外面下位～底部外面はナデが施されている。内面に内容物の痕跡は認められなかった。土師器蓋（711）は笠形である。口縁部内外面はヨコナデ、天井部内外面はナデが施されている。外面の肩部は形を整えるため板ナデが施されている。筒・蓋とも焼成は硬質である。

経塚 B　北東側に経塚 A が接し、北側に経塚 C が接している。岩盤の凹みを利用しているが、南側は土の部分を掘り込んで、上部を石で押さえている。須恵器甕（708）の下半は当初の位置をとどめているが、底部中央は当初から欠いていたようである。上半部の破片は礫とともに下半部の中に残存していたが、かなり欠失しており、盗掘を受けたものと思われる。

須恵器甕（708）は口縁端部の下端がやや垂下している。体部外面は平行タタキ、体部内面はナデが施されている。焼成はやや軟質である。

経塚 C　南側に経塚 B が接している。上部を石で押さえた直径 30㎝の岩盤凹みの中に須恵器甕（709）の破片がバラバラの状態で出土している。須恵器甕は底部の破片はみつからず、残存部の破片も欠失部が多い。盗掘を受けたものと思われる。須恵器上には長さ 30㎝の石材が据えられていたが、大きさからみて、蓋石だった可能性が考えられる。

須恵器甕（709）は口縁部が拡張していない。体部外面に弧状文のタタキ、体部内面にナデが施されている。焼成は硬質である。

ST01（図版 55・56・60・61、写真図版 33 ～ 36・63）

検出状況　調査区の北端、現河岸より約 50m 高い標高 110m に位置する。西側の尾根頂部（標高 226.8m）より約 110m 低く、尾根の中程にあたる。

墳丘　埋葬施設の高所側は溝を設けて区切っている。墳頂及び低所側には明瞭な墳丘盛土や地山の加工は認められなかった。溝はコの字形に設けられ、幅 2m、深さ 25㎝である。東側に屈曲は不明瞭で、低所部の加工が認められないことから、規模は定めがたいが、東西 7m、南北 4m 程度とみられる。

埋葬施設　埋葬施設は組合式石棺である。棺の内法は長さ 170㎝、幅 40㎝である。側壁は長さ 40㎝程度の石材を底に並べ、その上に天井石との隙間を埋めるように薄い石材を並べている。高さは 30㎝である。小口は長さ 50㎝の石材を地山にやや差し込むように立てている。天井石は長さ 50 ～ 70㎝の薄い石材を 5 個用いている。東小口際の床面では長さ 20㎝の石材が壁に沿って 2 個並べられている。枕の可能性が考えられる。西側（足側）にも 2 石が認められ、遺骸の固定のためのものとも考えられる。

墓壙は長さ 270㎝、幅 120㎝の長方形で、深さは 50㎝である。墓壙の南側に寄せて棺が設けられ、側壁部のみ地山を 1 段掘りこみ、小口部をさらに深く掘りこんで、石材を据え付けている。

出土遺物　北壁際の枕付近の床面で、ノミ（M71）、ヤリガンナ（M72）、鎌（M73）などの鉄製品が出土している。M71 は先端が方頭形の刃部を持つと思われ、先端部幅は 0.8㎝である。茎部に木質が付着している。M72 は刃部の腹面が凹んでいる。M73 は刃部の先端が方頭形の直刃で、基部が撥形に開いている。基部と刃部の角度はほぼ直角である。刃部の表面には別個体の針状の製品（長さ 3.9㎝、径 0.25㎝）が付着している。基部の表面には木質は付着せず、背面には木質とサビブクレ上に木葉片が付着している。

ST02（図版 57・58・60、写真図版 37 ～ 39・60）

検出状況　尾根先端からやや下がった標高 86m の斜面に位置している。

墳丘　岩盤を含めて北側（山側）を掘削して平坦に造成している。恐らく東西に長い隅丸長方形状の墳丘を持っていたと考えられるが、南側（谷側）の一部（図版 57 の 1 層）を除いて、流失及び削平により殆ど失われている。墳丘南側では列石が残存し、ほぼ墳丘規模に対応するものと考えられる。墳丘の規模は東西 8.6m、南北 5.0m と考えられる。列石は長さ 4.4m で、長さ 40㎝以下の石材を直線的に並べている。

埋葬施設　墳丘及び岩盤を逆凸形に掘って段を設け、その段上に石材を積んでおり、蓋材等は認められなかった。ただし、検出状況から後世に盗掘及び削平を受けたとみられ、特に西側小口部分から墳丘及び棺材を掘り出した状況が窺える。段上の石材も当初の位置を保っているか判別しがたく、片側面を下にして立った状態のものと、内側に倒れた状態のものがある。石室状にしたものか棺固定のために並べられた石材と考えられる。埋蔵施設の規模は、長さ 3m、幅 55㎝を測るものと考えられる。

墓壙は長さ 3.6m 以上、幅 1.2m で、2 段掘りになっている。1 段目の深さは 35㎝、2 段目の深さは 25㎝程度である。

出土遺物　埋葬施設埋土から弥生土器甕（702・703）、墳丘付近から弥生土器壺（701）・脚部（704）が出土している。弥生土器甕（702・703）は盗掘を受けた可能性のある埋葬施設内から出土しているが、当該時期の遺物は他の地点で出土がみられないことから、墳墓に属するものと考えられる。702 はやや外反する口縁で、端部に丸味をもつ。703 はくの字形の口縁で、端部は丸味をもち、底部は尖り気味である。体部外面は平行タタキ後タテハケが施されているが、底部まで及んでいない。702・703 は弥生時代末期、701・704 は弥生時代中期後葉と考えられる。

SD01（図版 59・60、写真図版 40・60）

検出状況　南端の丘陵裾の緩斜面の標高約 73m の位置で検出された段状遺構である。西側は調査区外に延びている。SD02 の北側に位置している。やや南側に離れて P06 が位置している。

規模・形態　斜面に平行して溝を設け、わずかな平坦面を造りだしている。規模は東西 11m 以上、幅 150 ～ 30㎝で、深さは最大で 5㎝程度である。P06 は直径 30㎝、深さ 20㎝のピットで、弥生土器壺（705）・器台（707）が出土している。

出土遺物　溝埋土から弥生土器脚部（704）、弥生土器水差の把手（706）が出土している。P06 から弥生土器壺（705）・器台（707）が出土している。705 は弥生土器太頸広口壺で、口縁端面に 3 条の凹線と円形浮文をもっている。707 の弥生土器器台の脚部は多状の凹線、脚裾部に櫛描波状文をもっている。

SD02（図版 59、写真図版 40）

検出状況　南端の丘陵裾の緩斜面の標高約 72m の位置で検出された段状遺構である。西側は調査区外に延びている。SD01 の南側に位置している。

規模・形態　斜面に平行して溝を設け、わずかな平坦面を造りだしている。規模は東西 7.5m 以上、幅 100 ～ 30㎝で、深さは最大で 2㎝程度である。溝付近にはピットが 10 基程度存在するが、深さ 20㎝程度のものが多い。

出土遺物　良好な個体の遺物は出土していない。

包含層（図版 60 ～ 62、写真図版 60・62・63）

出土遺物　弥生土器底部（713・714・717）・脚部（715）、須恵器甕（716）、煙管吸口（M74）、大型石包丁（S71）、大型剝片（S72）などがある。717・S72 は確認調査の 148T で出土したものである。716 の須恵器甕は口縁部外面に矢羽根状の列点文、頸部外面に 2 段の列点文をもっている。M74 の煙管吸口は真鍮製と思われ、外面に氷裂文状の文様が斜めの帯状に認められる。吸口内部には木質の管（長さ 3.5㎝、径 0.7㎝）が残存していた。S71 はサヌカイト製の打製大型石包丁である。わずかに内湾する刃部をもち、使用により滑らかになっている。S72 はサヌカイト製の大型剝片である。重量は 425g である。

第５章　まとめ

第１節　大門畑瀬遺跡

大門畑瀬遺跡で検出された遺構の時期は主に弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代に分かれる。

弥生時代　B 地区 SR01、SK02・SK07・SK13・SK21・SK23・SK39・第２面 SK09、SH04 が、弥生時代の遺構と考えられる。B 地区 SR01 から出土した土器は、凹線文が施されたものが多く、波状文が施されたものもある。Ⅳ期後半と考えられる（篠宮 2007）。土坑も出土した土器は同様な特徴でⅣ期後半と考えられる。B 地区 SH04 は、周壁溝から出土した椀形高杯（7）の調整がヘラミガキであることからⅤ期と考えられる。

Ⅳ期の遺構は濠状遺構の SR01 と溝東西に点在する土坑からなる。SR01 は、環濠の可能性が考えられるものの、南側は奈良時代の旧河道により削平を受けており、北側は断続部を挟んでさらに延長部が存在するかは不明である。播磨地域で低地部での環濠の検出例はないものの、現状では集落の西側を画する濠状の遺構と考えておきたい。Ⅴ期については遺物がほとんど出土していないことから、集落としては小規模なものであったと考えられる。

古墳時代　D 地区 SH01・03・04 が古墳時代の竪穴住居跡で、B 地区 SH01 は 7 世紀後半の竪穴住居跡である。B 地区では古墳時代の須恵器が SR01 の埋土や包含層に混入しているのみである。

D 地区 SH01・03・04 については個々にどの住居跡に属するのかを特定することはできないが、TK47 型式、TK10 型式、TK209 型式の須恵器蓋杯が出土している。5 世紀後半から 7 世紀初頭の間で SH04・SH01・SH03 と建て替えられたと考えられる。SH03 はカマドをもち、SH01 も壁際の焼土の存在からカマドの存在した可能性が考えられる。

B 地区 SH01 は出土した須恵器杯（4）・高杯（5）から 7 世紀後半と考えられる。カマドを有している。削平の大きい C 地区の SK02 も同時期と考えられ、やや丘陵側での土地利用も確認できる。

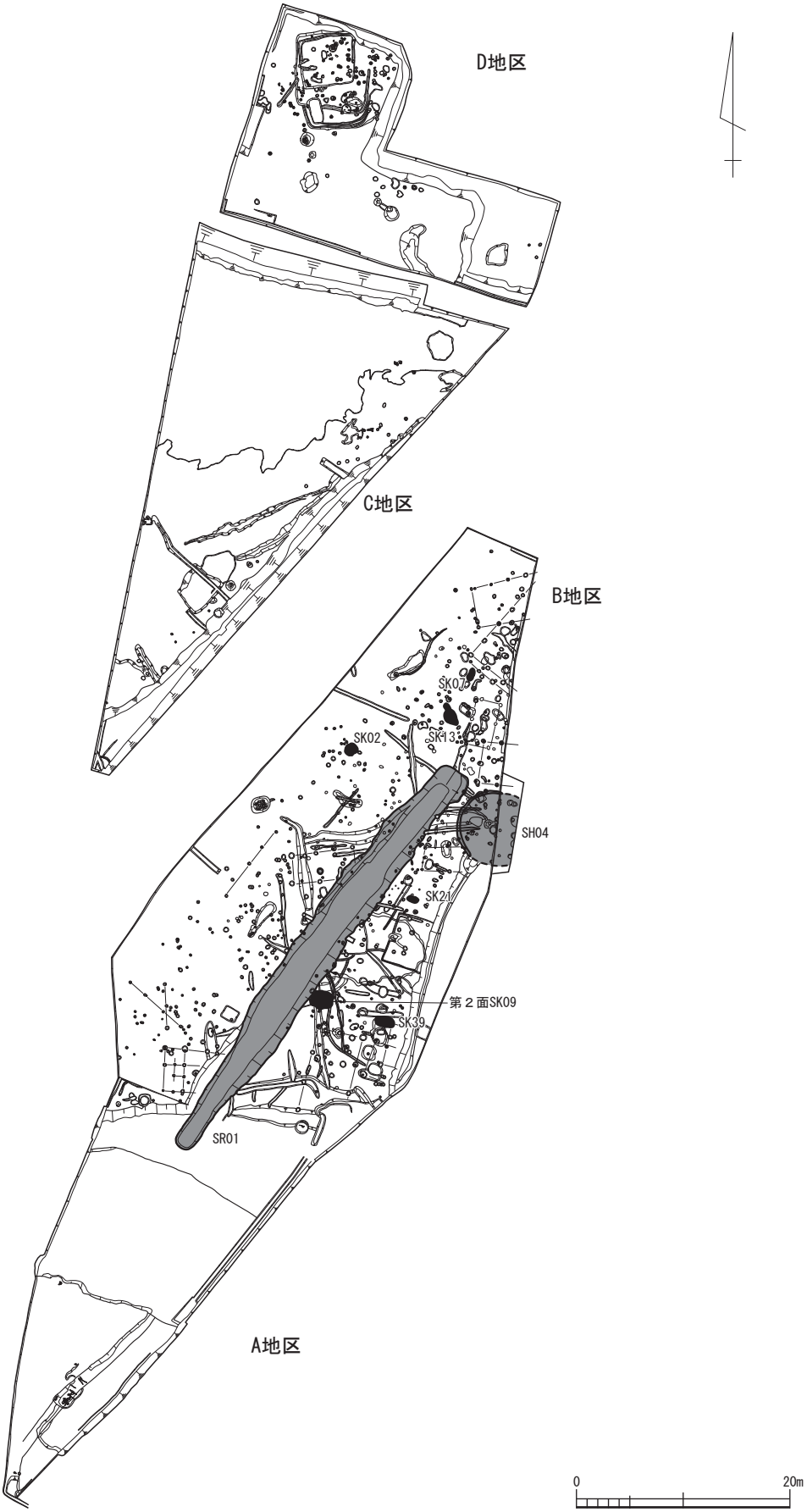
奈良・平安時代　奈良時代から平安時代前期の遺物が出土している遺構は A 地区 SR02、B 地区 SB06・SB07・SD10・SD12・SD17・SD25・SD33・SD35・SD39・SD42、C 地区 SD01、D 地区 SK01・SK02・SK06・SD01 である。

B 地区では SB07 を除けば、遺構の向きはほぼ正方位を向いており、同方位をとる SA05、SB02、SD04、SD10・SD13・SD18、SD19・SD34・SD40 なども同時期の遺構と考えられる。SD14 は 10・11 世紀頃の須恵器碗が出土している。SD20 以東、SD17 以南の空間が主たる利用空間と考えられる。

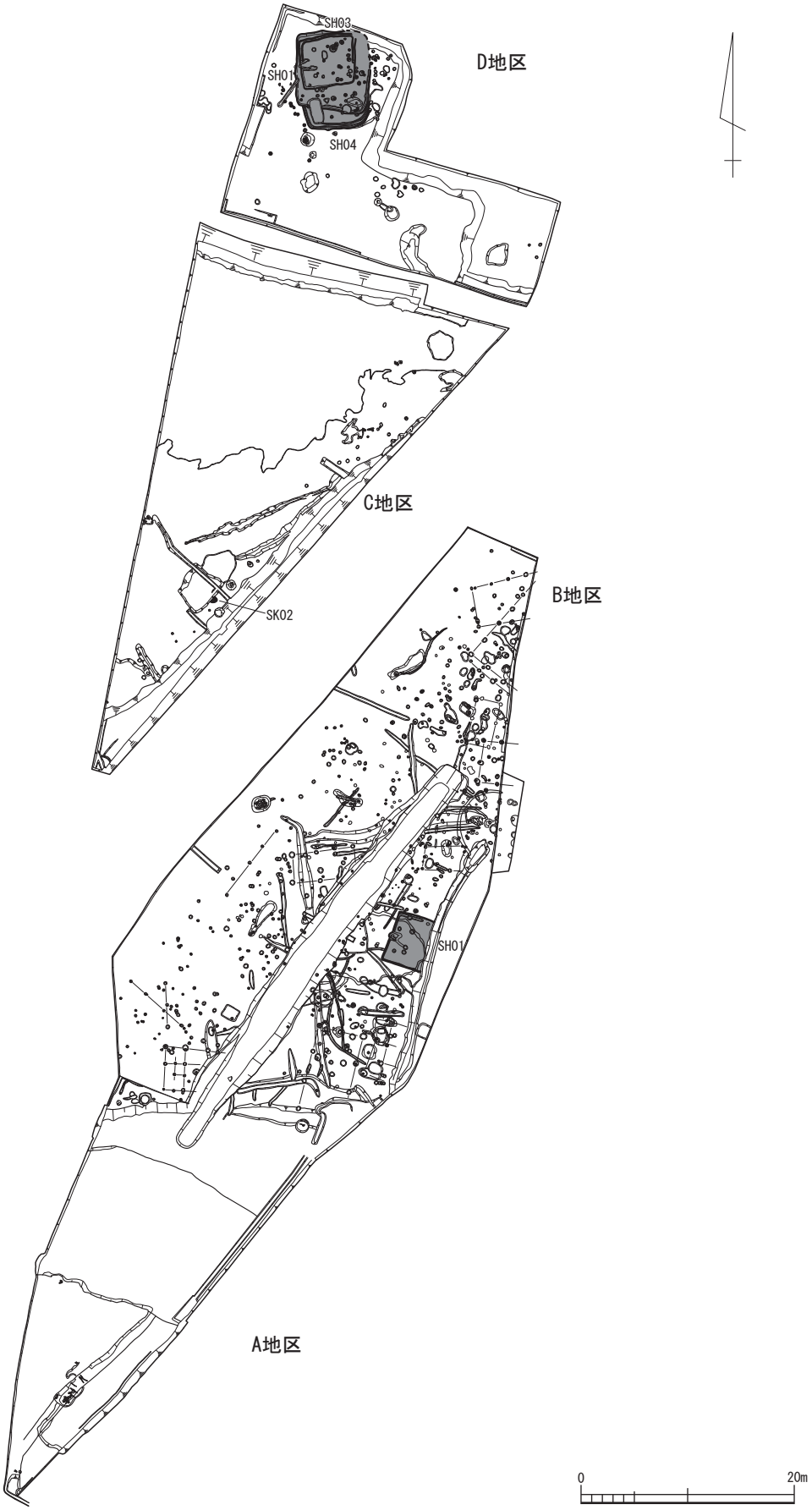
SB07 はやや西へ傾く方位の建物跡で、奈良時代のうちでも正方位の遺構群より以前の遺構と考える。SB01 や SB09 など正方位をとらない建物跡がこの段階に属する可能性もある。

丘陵裾部分の C 地区・D 地区では溝・土坑などが検出され、D 地区は何らかの作業空間と考えられる。

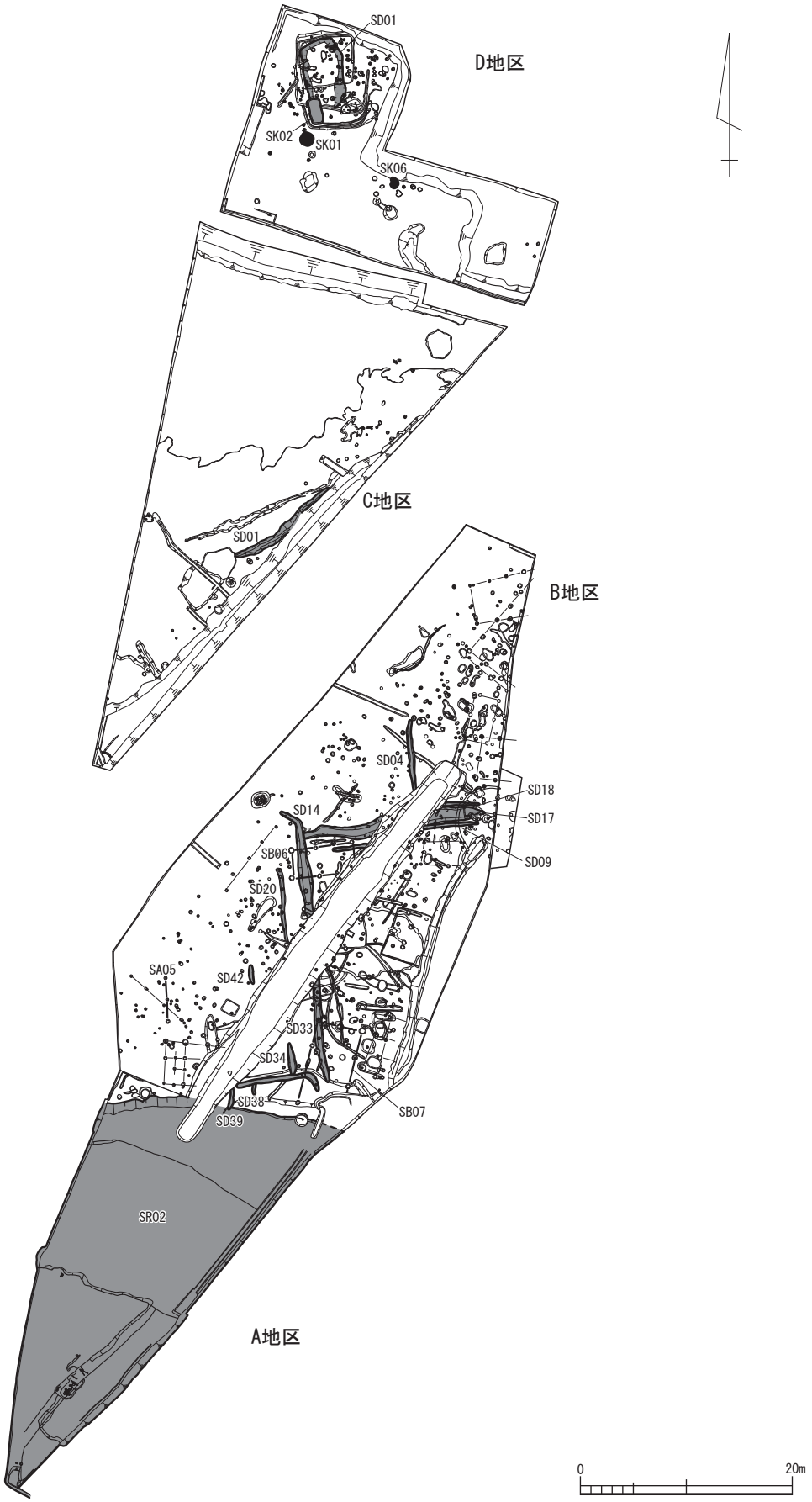
奈良平安時代には 8 世紀後半から 9 世紀前半の大伏窯跡群・畑瀬末谷窯跡群や 9 世紀代の大門 1 号窯跡などの須恵器窯跡が周辺に存在する。ただし、近接する 9 世紀代の大門 1 号窯跡の時期の遺物はあまり出土しておらず、南北に隣接する大伏窯跡群・畑瀬末谷窯跡群の時期の遺物が多く出土している。SR02 など全体的に須恵器の出土量が多く、正方位を向く遺構群は須恵器の生産や積み出しなどの流通に関わる性格が考えられる。



第４図　大門畑瀬遺跡の変遷 －弥生時代－



第５図　大門畑瀬遺跡の変遷 －古墳時代－



第６図　大門畑瀬遺跡の変遷 －奈良平安時代－

中世以降　中世遺物が出土している遺構はB地区SD24、近世の陶磁器が出土している遺構はSD05である。SD16・SD20・SD22・SD23・SD29などのやや南へ振る東西方向の溝群も中世と考えられる。また、正方位をとらない建物跡などがこの時期に属する可能性がある。中世以降は耕地化された部分が多くなり、地形に合わせた現在の地割りに近づくようである。

第2節　大伏北山遺跡

大伏北山遺跡では弥生時代の段状遺構2基、弥生時代末期の墳墓1基、古墳時代中期の古墳1基、中世の経塚が検出された。

弥生時代の段状遺構　丘陵裾部の斜面で等高線に平行して溝状に掘り下げてわずかな平坦面を確保している。時期は大門畑瀬遺跡と同様と考えられるⅣ期後半である。より上方の丘陵斜面でも土器・石器が出土しており、丘陵部での活動が確認される。

西脇市域での弥生時代集落の動向は不詳な部分が多いが、西側に隣接する多可町域では中期後葉に遺跡数が増加し、山頂部や丘陵の谷奥でも遺跡が存在することが確認されている（中町教育委員会2004）。当遺跡はそれほど顕著ではないにしても弥生人の活動領域の拡大を示すものと思われる。

弥生時代末期の墳墓　ST02は尾根先端の斜面に設けられた墳墓である。尖底の弥生土器甕が出土していることから弥生時代末期と考えられる（安平2003）。墳墓は斜面を掘削して平坦面を設けているが、周溝の掘り込みは確認されない。低い側は土留めの列石を据えて墳丘を構築している。盗掘により埋葬施設の使用石材が乱されており、埋葬施設の型式が不明確なのは残念であるが、当地域では墳墓の貴重な検出例である。

古墳時代中期の古墳　ST01は丘陵尾根部に設けられた、箱式石棺を埋葬施設とする古墳である。古墳から土器は出土せず、副葬品は鎌・ノミ・ヤリガンナなどの鉄製農工具のみである。鎌は直刃鎌であることから5世紀前半以前、薄作りのノミは4世紀末以降に出土例の中心があり（古瀬1991）、古墳時代中期に属する可能性が高い。石棺は側壁が2段以上積まれた部分が多く、規模は内法で長170㎝、幅40㎝である。

西脇市内で箱式石棺を埋葬施設とする古墳は他に横山古墳（西脇市教育委員会2003）、大伏南山古墳（喜谷1972・東京国立博物館2013）が挙げられる。横山古墳では刀子・メノウ製勾玉・緑色凝灰岩製勾玉・碧玉製管玉が出土しており、古墳時代中期と考えられている。石棺は板状の石材が用いられ、内法で長さ178㎝、最大幅44㎝を測る。大伏南山古墳は明治37年に発見された石棺墓で、鉄刀・鉄剣・鉄鏃・鉄鉾・鹿角製刀装具が出土している。出土した鹿角製刀装具の年代はTK47型式並行期とされている（山田2013）。石棺の規模は長さ約190㎝、幅約48㎝だったようである。

このように箱式石棺を埋葬施設とする古墳は、石棺規模が類似し、副葬品に土器を含まないことを同じくしている。当地域における中期の小規模古墳の様相を示すものと思われる。

中世の経塚　尾根の先端付近で検出された。自然の岩盤の縁を凹ませ、土師器経筒（711・712）、須恵器甕（708・709）を据えている。須恵器甕を据え付けた部分は盗掘を受けていた。甕には捏鉢などの蓋にできるような土器はともなわず、石によって蓋がなされたと思われる。埋納後、上面が塚状になっていたか蓋石やその周囲の石組が露出していたことにより盗掘を免れなかったと思われる。時期は708の須恵器甕の口縁端部下縁がやや垂下することから13世紀代に下る可能性が高い。709の須恵器甕は弧状条線文のタタキが施され、在地産の可能性が考えられる。口縁部が拡張しないことから12世紀代に遡る

可能性もある。

西脇市内では他に福地経塚、石原経塚（西脇市教育委員会・多可町教育委員会 2016）などの例を挙げることができる。福地経塚は五霊神社背後の丘陵上で江戸末期に発見され、久安 5 年（1149）銘をもつ焼成不良の陶製経筒が出土している。石原経塚は得笠寺跡の背後の山腹で文政 3 年（1820）に発見され、銅製経筒が出土している。銅製経筒内には経巻 10 巻が残存しており、奥書には承安 4 年（1174）の年号が記されている。大伏北山遺跡の経塚はこれらの経塚に続くものと考えられる。

参考文献

喜谷美宣 1972 「原始から古代へ」『黒田庄町史』

黒田庄町教育委員会 1997 『兵庫県多可郡黒田庄町遺跡分布地図』

篠宮正 2007 「東播磨地域における弥生土器編年」『弥生土器集成と編年－播磨編－』

東京国立博物館 2013 『東京国立博物館所蔵骨角器集成 2』鹿角製刀装具篇

中町教育委員会 2004 『中町の遺跡Ⅱ』中町文化財報告 30

古瀬清秀 1991 「農工具」『古墳時代の研究』第 8 巻 古墳Ⅱ副葬品

西脇市教育委員会 2003 『西脇市古墳調査集報』

西脇市教育委員会 2005 『西脇市窯跡調査集報』

西脇市教育委員会 2006 『西脇市集落遺跡調査集報Ⅰ』

西脇市教育委員会 2007 『西脇市集落遺跡調査集報Ⅱ』

西脇市教育委員会・多可町教育委員会 2016 『西脇・多可の中世の祈り』

西脇市郷土資料館 2007 『西脇市の考古学　出土品でさぐる原始・古代・中世』

兵庫県立歴史博物館 1987 『総合調査報告書 (Ⅱ) 西脇・多可』

兵庫県立歴史博物館 1992 『兵庫の経塚』博物館普及資料第 10 集

安平勝利 2003 「北東播磨地域の庄内併行～布留古層併行期の土器編年」『豊部井杉遺跡Ⅱ』加美町文化財報告 2

山田俊輔 2013 「東京国立博物館所蔵の鹿角製刀剣装具」『東京国立博物館所蔵骨角器集成 2 鹿角製刀装具篇』

遺物一覧表（土器）

番号	遺跡名	地区	遺構	種別	器種	法量（cm）				残存	備考
						口径	器高	底径	その他		
001	大門畑瀬遺跡	B地区	SH01埋土	土師器	甕	(13.2)	(5.3)	—		口縁1/6	
002	大門畑瀬遺跡	B地区	SH01床面	土師器	甕	(13.0)	(8.6)	—		口縁1/6	
003	大門畑瀬遺跡	B地区	SH01床面	土師器	把手	—	—	—	長4.4、幅7.1	—	
004	大門畑瀬遺跡	B地区	SH01床面	須恵器	杯	(10.8)	3.75	5.8		口縁1/2、底部1/1	
005	大門畑瀬遺跡	B地区	SH01床面	須恵器	高杯	—	(6.7)	(7.6)		底部1/2	
006	大門畑瀬遺跡	B地区	SH04排水溝	土師器	甕	—	(3.1)	—		頸部1/14	
007	大門畑瀬遺跡	B地区	SH04周壁溝	土師器	高杯	(13.0)	(5.2)	—		口縁1/5	
008	大門畑瀬遺跡	B地区	SH04 P9	須恵器	甕	(24.8)	(8.4)	—		口縁1/20	
009	大門畑瀬遺跡	B地区	SA02 P45	土師器	杯	(13.0)	3.7	(7.0)		口縁1/5	
010	大門畑瀬遺跡	B地区	SA02 P45	須恵器	杯A	(13.0)	(3.6)	(9.7)		口縁1/5	
011	大門畑瀬遺跡	B地区	SB01 P47	弥生土器	高杯	—	(2.3)	(11.2)		脚部端部1/9	
012	大門畑瀬遺跡	B地区	SB02 P46	須恵器	蓋	(15.6)	2.55	—		口縁1/10	
013	大門畑瀬遺跡	B地区	SB04 P128	須恵器	杯B蓋	(16.6)	(1.95)	—		口縁1/5	
014	大門畑瀬遺跡	B地区	SB05 P78	土師器	甕	(16.0)	(8.7)	—		口縁1/10、体部3/4	
015	大門畑瀬遺跡	B地区	SB06 P40	土師器	杯	(15.8)	4.0	10.6		口縁1/6、底部1/2	丹塗
016	大門畑瀬遺跡	B地区	SB06 P35	須恵器	皿	(14.8)	2.45	11.8		全体1/2	
017	大門畑瀬遺跡	B地区	SB07 P72	須恵器	杯B蓋	(18.6)	(2.9)	—		口縁1/10	
018	大門畑瀬遺跡	B地区	SB09 P201	弥生土器	底部	—	(2.7)	(7.0)		底部1/4	
019	大門畑瀬遺跡	B地区	P34	弥生土器	脚部	—	(2.7)	(8.2)		脚部1/6	
020	大門畑瀬遺跡	B地区	P259	弥生土器	脚部	—	(2.0)	(11.2)		底部1/6	
021	大門畑瀬遺跡	B地区	P52	弥生土器	甕	—	(10.3)	5.5		底部1/1	
022	大門畑瀬遺跡	B地区	P76	弥生土器	壺	—	(4.4)	—		頸部1/6	
023	大門畑瀬遺跡	B地区	P03	弥生土器	不明	(33.8)	(6.3)	—		口縁1/10	
024	大門畑瀬遺跡	B地区	P70	土師器	杯	(16.0)	(3.8)	(12.0)		口縁3/4	丹塗
025	大門畑瀬遺跡	B地区	P230	土師器	甕	(16.2)	(4.5)	—		口縁1/10	
026	大門畑瀬遺跡	B地区	P42	土師器	鉢	10.6	6.7	4.9		口縁1/1	
027	大門畑瀬遺跡	B地区	P53	須恵器	杯蓋	(10.6)	3.8	6.0		口縁1/3、底部1/2	
028	大門畑瀬遺跡	B地区	P29	須恵器	杯	(10.4)	4.65	5.0		口縁1/3、底部1/1	
029	大門畑瀬遺跡	B地区	P157	須恵器	杯B蓋	(15.4)	(1.45)	—		口縁1/13	
030	大門畑瀬遺跡	B地区	P190	須恵器	杯	(16.0)	(2.8)	—		口縁1/10	
031	大門畑瀬遺跡	B地区	P254	須恵器	杯A	(12.6)	3.6	(9.4)		口縁2/5	
032	大門畑瀬遺跡	B地区	P51	須恵器	短頸壺	(6.0)	4.3	5.0		口縁1/3、底部4/5	
033	大門畑瀬遺跡	B地区	P22	須恵器	甕	(32.0)	(5.6)	—		口縁1/15	
034	大門畑瀬遺跡	B地区	P70	須恵器	横瓶	—	(23.8)	—		1/6	
035	大門畑瀬遺跡	B地区	P116	土師器	鍋	(22.0)	(4.5)	—		口縁1/10	
036	大門畑瀬遺跡	B地区	SK02	弥生土器	壺	(13.6)	(4.7)	—		口縁1/6	
037	大門畑瀬遺跡	B地区	SK02	弥生土器	壺	(21.2)	(5.4)	—		口縁1/5	
038	大門畑瀬遺跡	B地区	SK07	弥生土器	紡錘車	—	—	—	長5.15、幅4.95	1/1	破片転用
039	大門畑瀬遺跡	B地区	SK13	弥生土器	高杯	—	(6.1)	(12.0)		脚部1/4	
040	大門畑瀬遺跡	B地区	SK21	弥生土器	甕	—	(7.9)	5.8		底部1/2	
041	大門畑瀬遺跡	B地区	SK22	土師器	把手	—	(4.6)	—	長3.3、幅4.0	体部1/12	
042	大門畑瀬遺跡	B地区	SK23	弥生土器	甕	(15.0)	(5.3)	—		口縁1/10	
043	大門畑瀬遺跡	B地区	SK37	弥生土器	壺	(15.2)	(4.6)	—		口縁1/20	
044	大門畑瀬遺跡	B地区	SK37	弥生土器	甕	(21.6)	(4.4)	—		口縁1/6	
045	大門畑瀬遺跡	B地区	SK37	弥生土器	多孔鉢	5.6	7.4	—		口縁2/3	
046	大門畑瀬遺跡	B地区	SK38	弥生土器	高杯	(18.0)	(3.2)	—		口縁1/9	
047	大門畑瀬遺跡	B地区	SK39	弥生土器	甕	—	(3.1)	(7.0)		—	
048	大門畑瀬遺跡	B地区	SD04	須恵器	壺	(9.8)	(1.8)	—		口縁1/6	
049	大門畑瀬遺跡	B地区	SD04	須恵器	甕	(18.0)	(19.4)	(12.0)		口縁1/3	
050	大門畑瀬遺跡	B地区	SD06	須恵器	稜椀	(16.4)	4.95	(10.0)		口縁1/8	
051	大門畑瀬遺跡	B地区	SD12	須恵器	杯G蓋	(8.2)	(1.8)	—		口縁1/4	
052	大門畑瀬遺跡	B地区	SD12	須恵器	杯B蓋	(13.8)	(1.7)	—		口縁1/6	
053	大門畑瀬遺跡	B地区	SD21	弥生土器	高杯	(18.8)	(2.4)	—		口縁1/5	
054	大門畑瀬遺跡	B地区	SD24	土師器	鍋	(20.4)	(3.2)	—		口縁1/3	
055	大門畑瀬遺跡	B地区	SD24	弥生土器	甕	(25.0)	(2.8)	—		口縁1/8	
056	大門畑瀬遺跡	B地区	SD32	弥生土器	甕	(19.4)	(4.7)	—		口縁1/30	
057	大門畑瀬遺跡	B地区	SD39	土師器	甕	—	(4.7)	—		4/5	
058	大門畑瀬遺跡	B地区	SD42	須恵器	杯B蓋	(11.4)	(1.4)	—		口縁1/6	
059	大門畑瀬遺跡	B地区	第2面地割れ	須恵器	杯蓋	(16.4)	(3.2)	—		口縁1/8	

番号	遺跡名	地区	遺構	種別	器種	法量（cm）				残存	備考
						口径	器高	底径	その他		
060	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01上層	弥生土器	底部	—	(5.9)	3.6		底部7/12	
061	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01上層	弥生土器	高杯	—	3.0	—		脚柱部上半のみ	
062	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01上層	弥生土器	甕	(22.4)	(2.1)	—		口縁1/12	
063	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01上層	弥生土器	甕	(25.5)	4.0	—		口縁わずか	
064	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01上層	土師器	鍋	—	(5.5)	—		口縁わずか	
065	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01上層	須恵器	杯蓋	—	(3.5)	—		口縁1/2弱	
066	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01上層	須恵器	杯身	(9.5)	(4.4)	—		口縁4/9	
067	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01上層	須恵器	擂鉢	—	3.5	(9.2)		底部1/12	
068	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01上層	須恵器	杯B蓋	—	2.0	14.0		全体1/4	
069	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01上層	須恵器	杯B蓋	(18.7)	(0.9)	—		口縁1/6	
070	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01上層	須恵器	杯B蓋	(16.0)	(2.95)	—		口縁1/10	
071	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01上層	須恵器	杯A	(14.4)	2.6	(12.4)		全体1/3	
072	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01上層	須恵器	横瓶	—	(18.0)	—		胴部1/10	
073	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01上層(黒色層)	須恵器	壺	—	(7.0)	—		体部1/7	
074	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01上層(黒色層)	須恵器	甕	(23.8)	(3.4)	—		口縁1/7	
075	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01上層(黒色層)	弥生土器	甕	(25.2)	(4.8)	—		口縁1/12	
076	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01上層(黒色層)	弥生土器	把手	—	(6.3)	—		把手部分3/5	
077	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01上層(黒色層)	弥生土器	底部	—	(3.8)	(9.0)		底部1/6	
078	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01上層(黒色層)	弥生土器	底部	—	(5.7)	10.8		底部1/1	
079	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01上層(黒色層)	弥生土器	高杯	(22.8)	(4.0)	—		口縁1/9	
080	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01上層(黒色層)	弥生土器	脚部	—	(2.8)	(14.8)		底部1/9	
081	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01上層(黒色層)	弥生土器	脚部	—	(3.8)	(14.8)		底部1/8	
082	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01上層(黒色層)	弥生土器	脚部	—	(5.6)	(13.4)		底部2/5	
083	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01上層(黒褐色層)	弥生土器	壺	(14.4)	(3.6)	—		口縁1/4	
084	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01上層(黒褐色層)	弥生土器	把手	—	(5.6)	—	長1.85、幅1.15	把手1/1	
085	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01上層(黒褐色層)	弥生土器	底部	—	(2.8)	(6.2)		底部1/2	
086	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01上層(黒褐色層)	弥生土器	底部	—	(3.6)	(6.8)		底部1/2	
087	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01上層(黒褐色層)	弥生土器	底部	—	(5.2)	(8.4)		底部1/3	
088	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01上層(黒褐色層)	土師器	壺	(6.3)	(5.3)	—		肩部3/4	
089	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01上層(黒褐色層)	須恵器	蓋	(10.0)	3.0	—		蓋の上部1/2	
090	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01上層(黒褐色層)	須恵器	杯身	(11.0)	(3.0)	—		口縁1/4	
091	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01上層(黒褐色層)	須恵器	杯身	(11.4)	(4.3)	—		体部1/7	
092	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01上層(黒褐色層)	須恵器	壺	(14.8)	(2.0)	—		口縁1/8	
093	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層	弥生土器	壺	(22.0)	(2.6)	—		口縁1/8	
094	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層	弥生土器	壺	(13.8)	(5.4)	—		口縁1/3	
095	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層	弥生土器	壺	(24.8)	(7.3)	—		口縁1/8	
096	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層	弥生土器	底部	—	(2.0)	7.6		底部2/3	
097	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層	弥生土器	底部	—	(2.8)	(6.4)		底部1/3	
098	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層	弥生土器	底部	—	(4.8)	6.3		底部1/1	
099	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層	弥生土器	底部	—	(2.6)	(5.2)		口縁4/5	
100	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層	弥生土器	脚部	—	(3.5)	(10.8)		脚部1/5	
101	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層	弥生土器	脚部	—	(2.4)	(15.0)		脚部1/6	
102	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層	弥生土器	底部	—	(3.3)	6.2		底部1/1	
103	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層	弥生土器	底部	—	(6.9)	4.6		底部1/1	
104	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層	弥生土器	脚部	—	(2.3)	(14.8)		脚端部1/6	
105	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層	弥生土器	脚部	—	(7.0)	(26.4)		口縁1/10	
106	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層	弥生土器	把手	—	—	—	長6.0、幅3.4	把手1/1	

番号	遺跡名	地区	遺構	種別	器種	法量（cm）				残存	備考
						口径	器高	底径	その他		
107	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層	弥生土器	壺	(41.2)	(11.4)	—		口縁1/6	
108	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層	弥生土器	壺	(20.1)	(6.6)	—		口縁1/7	
109	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層	弥生土器	壺	(13.3)	(6.4)	—		口縁1/6	
110	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層	弥生土器	壺	(13.8)	(8.1)	—		口縁1/4	
111	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層	弥生土器	壺	(18.6)	(5.0)	—		口縁1/18	
112	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層	弥生土器	底部	—	(3.1)	(5.9)		底部1/5	
113	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層	弥生土器	底部	—	(3.3)	(7.4)		底部2/9	
114	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層	弥生土器	底部	—	(3.9)	(8.0)		底部1/9	
115	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層	弥生土器	壺	(16.1)	(5.9)	—		口縁2/3	
116	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層	土師器	甕	(16.9)	(4.8)	—		口縁1/12	
117	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層	弥生土器	甕	28.0	(30.9)	—		口縁6/10	
118	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層	弥生土器	底部	—	(2.3)	(5.7)		底部2/5	
119	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層	弥生土器	高杯	(21.7)	(3.1)	—		底部1/7	
120	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層	弥生土器	高杯	(19.0)	(2.5)	—		口縁1/7	
121	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層	弥生土器	高杯	—	(12.8)	(12.4)		杯部4/9	
122	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層（暗褐色層）	須恵器	杯B蓋	14.1	2.5	—		全体1/2	
123	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層（暗褐色層）	須恵器	杯B蓋	(10.7)	(1.7)	—		全体5/9	
124	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層（暗褐色層）	須恵器	杯	—	(2.4)	(6.6)		底部1/2	
125	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層（暗褐色層）	弥生土器	壺	(22.0)	(4.3)	—		口縁1/5	
126	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層（暗褐色層）	弥生土器	壺	(23.4)	(2.0)	—		口縁1/10	
127	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層（暗褐色層）	弥生土器	壺	(47.8)	(3.5)	—		口縁1/10	
128	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層（暗褐色層）	弥生土器	壺	(15.2)	(8.7)	—		口縁1/8	
129	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層（暗褐色層）	弥生土器	壺	(12.2)	(6.9)	—		口縁1/20	
130	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層（暗褐色層）	弥生土器	鉢	(28.0)?	(5.1)	—		口縁わずか	
131	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層（暗褐色層）	弥生土器	鉢	(12.8)	(3.3)	—		口縁1/8	
132	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層（暗褐色層）	弥生土器	鉢	—	(5.5)	—		口縁わずか	
133	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層（暗褐色層）	弥生土器	鉢	(34.6)	(6.8)	—		口縁1/10	
134	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層（暗褐色層）	弥生土器	底部	—	(2.3)	5.8		底部3/4	
135	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層（暗褐色層）	弥生土器	底部	—	(3.1)	(5.7)		底部2/9	
136	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層（暗褐色層）	弥生土器	底部	—	(4.2)	(8.4)		底部9/10	
137	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層（暗褐色層）	弥生土器	底部	—	(5.6)	(6.6)		底部7/12	
138	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層（暗褐色層）	弥生土器	甕	(31.0)	(7.4)	—		口縁1/10	
139	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層（暗褐色層）	弥生土器	甕	(14.0)	(4.7)	—		肩部1/6	
140	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層（暗褐色層）	土師器	甕	(17.2)	(5.7)	—		口縁1/18	
141	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層（暗褐色層）	弥生土器	把手	—	(8.8)	—		把手周辺のみ	
142	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層（暗褐色層）	土師器	把手	—	(4.8)	—		把手のみわずか	
143	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01	弥生土器	壺	—	(3.7)	—		口縁1/8以下	
144	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01	弥生土器	壺	(10.0)	(4.6)	—		口縁1/6	
145	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01	弥生土器	壺	—	(4.6)	—		頸部1/8以下	
146	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01	弥生土器	壺	(14.1)	(6.45)	—		口縁1/8以下	
147	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01	弥生土器	底部	—	(3.0)	(7.2)		底部1/3	
148	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01	弥生土器	脚部	—	(2.4)	(11.5)		底部1/6	
149	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01	須恵器	杯A	(13.8)	(2.3)	(11.2)		底部1/5	
150	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	弥生土器	壺	(19.6)	(4.2)	—		口縁1/12	
151	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	土師器	甕	(12.0)	(5.0)	—		口縁1/6	
152	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	土師器	甕	(14.7)	(5.2)	—		口縁1/9	
153	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	弥生土器	甕	(48.4)	(5.8)	—		口縁1/11	

番号	遺跡名	地区	遺構	種別	器種	法量（cm）				残存	備考
						口径	器高	底径	その他		
154	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	器台	—	(2.6)	—		脚部1/8以下	
155	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	杯B蓋	—	(2.3)	—		中央部のみ	
156	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	杯B蓋	—	(1.5)	—		天井部1/4弱	
157	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	杯B蓋	(19.3)	(1.5)	—		口縁1/7	
158	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	杯B蓋	(21.8)	(1.35)	—		口縁1/7	
159	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	杯B蓋	(23.0)	(1.6)	—		口縁1/12	
160	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	杯B蓋	(15.0)	(0.65)	—		口縁1/3	
161	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	杯B蓋	(15.9)	(1.9)	—		口縁1/12	
162	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	杯A	(11.6)	(3.4)	(9.0)		口縁1/9	
163	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	杯A	(13.2)	(3.5)	(10.0)		底部1/4	
164	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	杯A	(13.2)	3.8	(10.8)		口縁1/10	
165	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	杯A	(13.2)	(4.0)	(10.6)		底部1/4	
166	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	杯A	—	(3.0)	(9.6)		底部1/4	
167	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	底部	—	(1.5)	(12.5)		底部3/4弱	
168	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	杯B	(11.8)	3.5	(9.0)		口縁1/5	
169	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	杯B	(12.95)	3.65	(10.7)		底部1/2	
170	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	杯B	(15.2)	3.0	(10.9)		口縁1/9	
171	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	杯B	—	(1.9)	(12.8)		底部1/4	
172	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	杯B	—	(2.6)	(12.15)		底部1/4	
173	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	杯B	(17.0)	6.2	12.8		底部2/5	
174	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	稜椀	(17.9)	5.3	(12.0)		体部下半1/4	
175	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	杯B	—	(1.8)	(12.8)		高台1/3	
176	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	杯B	—	(3.0)	(9.4)		底部1/4	
177	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	杯B	—	(4.1)	(11.4)		底部1/3	
178	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	杯B	(18.8)	(5.1)	—		口縁1/8	
179	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	杯B	(19.8)	5.9	(14.4)		底部1/3	
180	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	杯B	—	(7.2)	(13.7)		底部1/3	
181	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	皿	—	(2.2)	(11.5)		底部1/4	
182	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	皿	(15.0)	(2.0)	(13.0)		口縁1/5	
183	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	皿	(15.0)	(1.95)	(13.0)		口縁1/5	
184	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	皿	(20.0)	2.1	(16.5)		口縁1/12	
185	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	皿	(17.0)	2.5	(13.2)		底部1/4弱	
186	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	皿	(19.2)	2.8	(16.3)		底部1/2	
187	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	碗	—	(2.2)	6.6		ほぼ完存	
188	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	壺	(11.0)	(3.8)	—		口縁1/6	
189	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	壺	(10.2)	(3.5)	—		口縁1/4	
190	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	壺	—	(5.7)	—		頸部3/4	
191	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	壺	—	(9.0)	(9.65)		底部1/2	
192	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	甕	—	(5.7)	—		口縁わずか	
193	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	須恵器	甕	—	(6.4)	—		体部わずか	
194	大門畑瀬遺跡	A地区	SD54	須恵器	高杯	—	(8.15)	—		脚柱上部1/1	
195	大門畑瀬遺跡	A地区	水田土壌	弥生土器	高杯	(20.7)	(3.0)	—		口縁わずか	
196	大門畑瀬遺跡	A地区	水田土壌	弥生土器	甕	(21.3)	(6.25)	—		口縁1/6	
197	大門畑瀬遺跡	A地区	水田土壌	弥生土器	脚部	—	(2.2)	(12.1)		口縁わずか	
198	大門畑瀬遺跡	A地区	水田土壌	弥生土器	甕	(10.6)	(5.75)	—		口縁1/4	
199	大門畑瀬遺跡	A地区	水田土壌	弥生土器	甕	(17.95)	(7.9)	—		口縁わずか	
200	大門畑瀬遺跡	A地区	水田土壌	須恵器	稜碗	(15.2)	(4.6)	—		口縁1/7	
201	大門畑瀬遺跡	A地区	水田土壌	弥生土器	脚部	—	(6.6)	(30.0)		底部1/12	
202	大門畑瀬遺跡	A地区	水田土壌	弥生土器	脚部	—	(5.3)	(20.0)		底部1/15	
203	大門畑瀬遺跡	A地区	水田土壌	須恵器	杯B蓋	(20.4)	(1.9)	—		口縁1/8	
204	大門畑瀬遺跡	A地区	水田土壌	須恵器	杯B蓋	(18.75)	(2.3)	—		口縁1/8	
205	大門畑瀬遺跡	A地区	水田土壌	須恵器	杯B蓋	(17.7)	(2.2)	—		口縁わずか	
206	大門畑瀬遺跡	A地区	水田土壌	須恵器	杯B蓋	(15.2)	(2.3)	—		口縁1/5	
207	大門畑瀬遺跡	A地区	水田土壌	須恵器	杯B蓋	(14.3)	(2.5)	—		口縁1/9	
208	大門畑瀬遺跡	A地区	水田土壌	須恵器	杯B	—	(2.4)	(10.4)		底部2/5	
209	大門畑瀬遺跡	A地区	水田土壌	須恵器	杯B	(13.0)	3.5	(9.35)		口縁1/4	
210	大門畑瀬遺跡	A地区	水田土壌	須恵器	杯B	(12.75)	3.7	(8.6)		口縁1/6	
211	大門畑瀬遺跡	A地区	水田土壌	須恵器	杯B	—	(3.5)	(9.8)		底部1/6	
212	大門畑瀬遺跡	A地区	水田土壌	須恵器	杯B	—	(3.8)	(11.6)		底部1/4	
213	大門畑瀬遺跡	A地区	水田土壌	須恵器	杯B	—	(4.9)	(10.1)		底部1/2	
214	大門畑瀬遺跡	A地区	水田土壌	須恵器	壺	—	(7.9)	(10.6)		底部1/4	
215	大門畑瀬遺跡	A地区	水田土壌	須恵器	壺	—	(5.3)	(10.5)		底部1/3	
216	大門畑瀬遺跡	A地区	水田土壌	須恵器	皿	(14.6)	2.3	(12.0)		口縁1/6	
217	大門畑瀬遺跡	A地区	水田土壌	須恵器	底部	—	(1.95)	(10.2)		底部2/5	
218	大門畑瀬遺跡	A地区	水田土壌	須恵器	底部	—	(2.2)	(13.95)		底部1/6	

番号	遺跡名	地区	遺構	種別	器種	法量（cm）				残存	備考
						口径	器高	底径	その他		
219	大門畑瀬遺跡	A地区	水田土壌	須恵器	甕	—	(3.9)	—		甕底部	壺口縁付着
220	大門畑瀬遺跡	A地区	水田土壌	須恵器	底部	—	(3.65)	(9.0)		底部1/3	
221	大門畑瀬遺跡	A地区	水田土壌	須恵器	碗	—	(1.8)	5.6		底部1/1	
222	大門畑瀬遺跡	A地区	水田土壌	青磁	碗	(15.8)	(4.6)	—		底部1/10	
223	大門畑瀬遺跡	A地区	水田土壌	青磁	碗	(15.5)	(4.7)	—		底部1/12	
224	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	弥生土器	壺	(20.8)	(4.7)	—		口縁1/4弱	
225	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	弥生土器	壺	(13.9)	(3.1)	—		口縁1/6	
226	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	弥生土器	壺	(17.7)	(3.25)	—		口縁1/6	
227	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	弥生土器	壺	(15.8)	(3.2)	—		口縁1/10	
228	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	弥生土器	鉢	(26.6)	(5.55)	—		口縁1/13	
229	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	弥生土器	鉢	(24.1)	(4.9)	—		口縁1/7弱	
230	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	弥生土器	甕	(23.9)	(22.25)	—		口縁1/6	
231	大門畑瀬遺跡	A地区	包含層	弥生土器	甕	—	(2.35)	—		わずか	
232	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	弥生土器	甕	(14.7)	(5.0)	—		口縁1/7	
233	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	弥生土器	底部	—	(2.0)	6.15		底部2/3	
234	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	弥生土器	底部	—	(2.35)	(8.1)		底部1/2	
235	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	弥生土器	底部	—	(3.6)	(10.6)		底部1/4	
236	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	弥生土器	底部	—	(4.7)	(6.4)		底部1/3	
237	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	弥生土器	底部	—	(4.1)	(4.0)		底部1/3	
238	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	弥生土器	底部	—	(2.4)	(6.2)		底部1/3	
239	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	弥生土器	底部	—	(2.4)	(7.0)		底部1/5	
240	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	弥生土器	底部	—	(3.8)	(6.2)		底部1/4	
241	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	弥生土器	高杯	(24.4)	(3.8)	—		小片	
242	大門畑瀬遺跡	A地区	包含層	弥生土器	高杯	(20.6)	(3.85)	—		口縁1/8以下	
243	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	弥生土器	高杯	(16.7)	(3.45)	—		口縁1/12	
244	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	弥生土器	高杯	—	(4.4)	—		頸部全周	
245	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	弥生土器	脚部	—	(11.9)	—		脚柱のみ	
246	大門畑瀬遺跡	A地区	包含層	土師器	脚部	—	(4.5)	(12.0)		底部1/5	
247	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	弥生土器	脚部	—	(3.35)	(14.4)		脚部小片	
248	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	弥生土器	脚部	—	(5.2)	(12.1)		脚1/7	
249	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	土師器	脚部	—	(5.3)	(24.0)		脚1/8以下	
250	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	弥生土器	台形土器	(20.3)	(4.95)	—		口縁1/4強	
251	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	土師器	甕	(21.9)	(10.65)	—		口縁1/2	
252	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	弥生土器	甕	(11.9)	(4.0)	—		口縁1/4	
253	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	弥生土器	甕	(18.8)	(4.6)	—		口縁1/8	
254	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	土師器	甕	22.5	(29.1)	(24.0)		口縁1/2	
255	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	土師器	甕	—	(8.2)	—		底部1/6	
256	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯蓋	(12.0)	(3.2)	—		口縁1/9	
257	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯蓋	(12.7)	(4.55)	—		口縁1/6	
258	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯蓋	(13.7)	(3.8)	—		口縁1/9	
259	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	瓹	(9.7)	(2.35)	—		小片	
260	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	蓋B蓋	(17.4)	3.7	—		口縁1/10	
261	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	蓋B蓋	12.3	(3.0)	—		口縁1/2	
262	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	蓋B蓋	—	(1.85)	—		天井部1/4	
263	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	蓋B蓋	—	(2.05)	—		天井部1/6	
264	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	蓋B蓋	(14.2)	(2.1)	—		口縁1/6	
265	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	蓋B蓋	(13.0)	(1.75)	—		口縁1/5	
266	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	蓋B蓋	(13.1)	(1.05)	—		口縁1/8	
267	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	蓋B蓋	(14.0)	(1.8)	—		口縁1/11	
268	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	蓋B蓋	14.95	2.35	—		口縁3/5	
269	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	蓋B蓋	(15.0)	(1.7)	—		口縁1/5	
270	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	蓋B蓋	(16.0)	1.6	—		天井部1/6	
271	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	蓋B蓋	(15.9)	(2.05)	—		口縁1/9	
272	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	蓋B蓋	(15.4)	(1.9)	—		体部1/6	
273	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	蓋B蓋	(17.75)	1.4	—		口縁1/6	
274	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	蓋B蓋	(17.4)	(2.25)	—		天井部1/4	
275	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	蓋B蓋	(20.2)	(1.75)	—		口縁2/5	
276	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	蓋B蓋	(24.0)	(2.0)	—		口縁1/6	
277	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	蓋B蓋	(18.8)	(1.5)	—		口縁1/8	
278	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	蓋B蓋	(18.8)	(2.4)	—		口縁1/10	
279	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	蓋B蓋	(16.0)	(1.1)	—		口縁1/9	
280	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯A	(13.8)	(3.6)	—		底部1/5	
281	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯A	(14.0)	(3.3)	—		口縁1/9	
282	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯A	(15.2)	(3.6)	(9.5)		底部1/8	
283	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯A	(13.2)	3.4	9.6		底部3/4	

番号	遺跡名	地区	遺構	種別	器種	法量（cm）				残存	備考
						口径	器高	底径	その他		
284	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯A	(12.0)	4.2	(8.8)		口縁1/3	
285	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯A	(11.0)	3.1	7.2		体部3/4	
286	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯A	12.1	2.9	9.5		底部完存	
287	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯A	(11.75)	(3.7)	(8.9)		口縁1/9	
288	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯A	(12.8)	(3.15)	—		小片	
289	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯A	(13.2)	3.0	(10.2)		底部1/3	
290	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯A	(12.85)	3.5	(8.9)		底部1/4	
291	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯A	(15.2)	(3.7)	(11.8)		口縁1/2	
292	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯A	(14.4)	5.1	(10.2)		口縁1/9	
293	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯A	(13.4)	(3.35)	—		口縁1/6	
294	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯A	—	(2.65)	(10.1)		底部1/4	
295	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯A	—	(2.1)	(10.6)		底部1/8	
296	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯A	—	(2.5)	(11.75)		底部2/3	
297	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯A	—	(2.5)	(6.1)		底部1/2	
298	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯A	—	(1.6)	(13.6)		底部1/2	
299	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	—	(2.7)	(8.2)		底部1/2弱	
300	大門畑瀬遺跡	A地区	包含層	須恵器	杯B	—	(3.3)	(8.6)		底部1/4	
301	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	—	(3.7)	(9.5)		底部1/4	
302	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	(11.05)	4.4	(8.2)		底部1/4	
303	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	(13.3)	3.85	10.4		底部1/2	
304	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	(13.2)	4.2	(8.9)		口縁1/5	
305	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	—	(2.9)	(9.6)		底部3/7	
306	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	—	(1.65)	(10.1)		底部1/3	
307	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	—	(2.6)	(9.05)		底部1/4	
308	大門畑瀬遺跡	A地区	包含層	須恵器	杯B	—	(2.75)	(10.6)		底部1/3	
309	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	—	(3.05)	(9.1)		底部1/6	
310	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	—	(4.6)	(9.1)		底部1/4弱	
311	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	(13.45)	4.45	(10.6)		底部1/3	
312	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	—	(3.0)	(11.1)		底部1/6	
313	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	—	(3.8)	(10.95)		底部1/6	
314	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	10.7	4.6	6.3		底部3/4	
315	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	—	(4.1)	(10.8)		底部1/3	
316	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	(12.7)	4.8	(8.95)		口縁1/2	
317	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	—	(2.75)	(13.6)		底部1/7	
318	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	—	(2.5)	(10.2)		底部1/6	
319	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	—	(2.9)	(9.45)		底部3/4	
320	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	—	(2.2)	(13.65)		底部1/4	
321	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	—	(4.1)	(9.9)		底部1/4	
322	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	—	(2.75)	(12.65)		底部1/6	
323	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	(14.1)	3.4	(9.2)		口縁1/4	
324	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	—	(2.3)	(9.9)		底部1/4	
325	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	—	(1.55)	(9.7)		底部1/2弱	
326	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	—	(2.3)	(7.5)		底部1/4弱	
327	大門畑瀬遺跡	A地区	包含層	須恵器	杯B	(13.4)	4.4	(9.2)		底部1/3	
328	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	15.2	3.6	11.0		口縁3/5	
329	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	—	(4.6)	(11.15)		底部1/4	
330	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	(14.4)	4.8	(9.8)		底部1/2	
331	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	(16.6)	6.6	(11.5)		底部1/4	
332	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	—	(2.75)	(10.3)		底部1/6	
333	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	(15.4)	6.2	(10.8)		口縁1/4	
334	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	—	(2.9)	(10.05)		底部1/5	
335	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	—	(2.2)	(10.6)		底部1/3	
336	大門畑瀬遺跡	A地区	包含層	須恵器	杯B	(14.0)	4.15	(10.7)		底部1/5	
337	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	—	(4.55)	(11.2)		底部1/7	
338	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	—	(3.2)	(13.2)		底部1/6	
339	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	(20.5)	4.7	(18.0)		底部1/4	
340	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯B	(18.35)	5.8	(13.15)		底部3/4	
341	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	稜椀	(15.8)	(5.4)	—		体部1/7	
342	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	稜椀	(13.8)	(3.7)	(11.35)		口縁1/7	
343	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	稜椀	(13.95)	(4.05)	—		口縁1/10	
344	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	稜椀	(18.2)	(3.95)	—		若干	
345	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	稜椀蓋	(19.7)	3.0	—		口縁1/4	
346	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	稜椀	(16.4)	5.1	(9.8)		口縁3/8	
347	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	稜椀	(16.1)	5.9	8.3		底部完形	
348	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	稜椀	(15.8)	5.15	(9.0)		口縁1/6	

番号	遺跡名	地区	遺構	種別	器種	法量（cm）				残存	備考
						口径	器高	底径	その他		
349	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	稜椀	—	(4.4)	9.6		底部ほぼ完存	
350	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	皿	(13.4)	2.7	(10.4)		口縁1/8	
351	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	皿	(15.0)	2.4	(12.6)		口縁1/7	
352	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	皿	(13.9)	2.5	(10.8)		口縁1/7	
353	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	皿	(13.7)	2.25	(11.3)		底部1/6	
354	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	皿	(14.8)	(2.65)	(12.1)		底部1/6	
355	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	皿	(15.0)	(2.7)	(13.6)		底部1/5	
356	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	皿	(15.6)	2.7	(13.2)		体部1/4	
357	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	皿	(12.4)	2.75	(9.65)		底部1/4	
358	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	皿	(13.4)	3.1	10.8		口縁1/2	
359	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	皿	(13.1)	2.2	(10.5)		底部1/4	
360	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	皿	(13.9)	(2.4)	(11.5)		口縁1/8	
361	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	皿	(14.8)	(2.6)	(12.0)		口縁1/8	
362	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	皿	(15.9)	2.5	(13.0)		底部1/5	
363	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	皿	(16.8)	(2.5)	(14.4)		底部1/5	
364	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	皿	(14.3)	(2.6)	(12.1)		底部1/4	
365	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	皿	(13.7)	1.75	(9.85)		口縁1/5	
366	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	皿	(14.4)	(2.6)	(11.4)		底部1/6	
367	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	皿	(14.2)	(3.0)	(11.2)		底部1/8	
368	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	皿	(15.0)	2.95	(12.35)		口縁1/12	
369	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	皿	(15.2)	(2.9)	(12.4)		口縁1/5	
370	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	皿	(13.95)	2.95	(11.45)		口縁1/3	
371	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	皿	(14.1)	3.2	(10.4)		底部1/4	
372	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	皿	(16.8)	(2.3)	(14.6)		底部1/4	
373	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	皿	(17.0)	2.1	(13.8)		底部1/4	
374	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	皿	(20.2)	3.2	(16.6)		口縁1/10	
375	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	皿	—	(3.8)	(16.1)		底部1/9	
376	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	皿	(24.7)	(3.5)	—		口縁1/13	
377	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	碗	(18.3)	(4.2)	—		口縁1/15	
378	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	蓋	—	(1.85)	—		天井部1/6	
379	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	蓋	(11.6)	2.05	—		口縁1/4	
380	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	壺	(6.7)	(4.95)	—		口縁1/4強	
381	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	壺	6.6	(4.7)	—		口縁3/4	
382	大門畑瀬遺跡	A地区	包含層	須恵器	壺	(9.0)	(5.95)	—		頸部1/4	
383	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	甕	—	(6.25)	—		小片	
384	大門畑瀬遺跡	A地区	包含層	須恵器	甕	—	(5.5)	—		口縁1/8以下	
385	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	壺	—	(3.6)	(7.7)		高台1/6	
386	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	壺	—	(3.0)	(12.2)		底部1/6	
387	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	杯	—	(3.25)	—		底部1/9	
388	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	椀	—	(3.3)	(9.8)		底部1/3	
389	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	皿	—	(2.1)	(10.0)		高台1/4強	
390	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	壺	—	(11.3)	—		体部上半1/3弱	
391	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	壺	—	(8.5)	—		頸部1/8	
392	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	壺	(19.2)	(23.2)	—		口縁1/6	
392	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	壺	—	(6.2)	(14.0)		底部1/6	
393	大門畑瀬遺跡	A地区	包含層	須恵器	壺	—	(3.2)	—		体部片約1/7	
394	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	壺	—	(5.2)	(14.4)		底部1/3	
395	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	壺	—	(9.7)	(12.5)		体部下半1/6	
396	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	甕	(20.8)	(32.9)	—		口縁1/3	
397	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	壺	—	(8.15)	—		上部1/3	
398	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	壺	—	(6.2)	(18.0)		体部1/12	
399	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	鉢	—	(4.8)	—		口縁1/20以下	
400	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	甕	(15.4)	(4.5)	—		口縁1/8以下	
401	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	鉢	(24.0)	(4.35)	—		口縁1/8以下	
402	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	甕	(21.9)	(3.4)	—		口縁1/13	
403	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	甑	(25.3)	(8.8)	—		口縁1/8以下	
404	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	円面硯	—	(4.1)	(20.6)		底部1/10	
405	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	円面硯	(15.0)	4.7	(20.2)		口縁1/10	
406	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	高杯	—	5.5	13.6		脚部2/3	
407	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	高杯	—	(4.6)	(6.5)		底部1/4	
408	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	碗	(15.65)	(3.1)	—		口縁1/12	
409	大門畑瀬遺跡	A地区	包含層	須恵器	碗	—	(2.4)	(5.6)		底部1/2	
410	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	碗	—	(2.1)	(6.0)		底部1/4	
411	大門畑瀬遺跡	A地区	包含層	須恵器	碗	—	(2.2)	(7.7)		底部1/3	
412	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	甕	(24.0)	(3.2)	—		口縁1/12	

番号	遺跡名	地区	遺構	種別	器種	法量（cm）				残存	備考
						口径	器高	底径	その他		
413	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	捏鉢	(23.6)	(3.2)	—		口縁1/13	
414	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	須恵器	捏鉢	(30.2)	(2.25)	—		口縁1/16	
415	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	土師器	羽釜	(18.8)	(3.1)	—		口縁1/9	
416	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	土師器	鍋	(29.8)	(4.8)	—		口縁1/8以下	
417	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	青磁	小皿	(11.7)	(2.3)	—		口縁1/12	
418	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	白磁	碗	(17.8)	(1.8)	—		口縁若干	
419	大門畑瀬遺跡	A地区	包含層	無釉陶器	碗	(10.1)	(3.5)	—		口縁1/5	
420	大門畑瀬遺跡	B地区	T－4	須恵器	皿	(14.8)	(2.7)	(12.2)		底部1/4弱	
421	大門畑瀬遺跡	B地区	T－4	須恵器	甕	(12.6)	(4.6)	—		口縁2/7	
422	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	土製品	羽口	—	—	—	長5.5、幅3.0	小片	
423	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	土製品	不明	—	—	—	長（5.4）、幅1.75、厚1.4	小片	
501	大門畑瀬遺跡	C地区	SK02	須恵器	杯	—	(4.1)	—		天井部1/3	
502	大門畑瀬遺跡	C地区	SD01	須恵器	杯B	—	(2.0)	(11.6)		高台1/7	
503	大門畑瀬遺跡	C地区	包含層	須恵器	稜椀	(18.9)	5.1	(12.2)		体部1/5	
504	大門畑瀬遺跡	C地区	包含層	須恵器	底部	—	(4.9)	(14.9)		高台1/5	
601	大門畑瀬遺跡	D地区	SH01床面	土師器	甕	(22.9)	(36.1)	—		ほぼ完存	
602	大門畑瀬遺跡	D地区	SH04SK10	土師器	甕	(21.3)	(13.6)	—		体部上半1/4	
603	大門畑瀬遺跡	D地区	SH03床面	土師器	甕	(17.8)	(5.7)	—		体部上半1/6	
604	大門畑瀬遺跡	D地区	SH01・03・04埋土	土師器	把手		(6.3)	—		把手のみ	
605	大門畑瀬遺跡	D地区	SH01・03・05埋土	須恵器	杯身	(5.5)	(4.4)	—		口縁1/4	
606	大門畑瀬遺跡	D地区	SH03埋土	須恵器	杯蓋	—	(3.7)	—		小片	
607	大門畑瀬遺跡	D地区	SH01・03・05埋土	須恵器	杯	(10.4)	(3.2)	—		口縁1/8	
608	大門畑瀬遺跡	D地区	SH01・03・05埋土	土製品	土錘	—	—	—	長5.84、幅1.5、厚1.38	ほぼ完存	
609	大門畑瀬遺跡	D地区	SH01・03・05埋土	土製品	土錘	—	—	—	長3.45、幅1.6、厚1.5	1/2	
610	大門畑瀬遺跡	D地区	SH04埋土	土製品	土錘	—	—	—	長2.6、幅1.34、厚1.3	1/3	
611	大門畑瀬遺跡	D地区	SK01	須恵器	杯B	—	(1.9)	(9.3)		高台2/9	
612	大門畑瀬遺跡	D地区	SK01	須恵器	甕	—	(3.9)	—		小片	
613	大門畑瀬遺跡	D地区	SK06	須恵器	稜椀蓋	18.6	2.6	—		口縁7/8	
614	大門畑瀬遺跡	D地区	P17	弥生土器	底部	—	(4.2)	6.3		底部完存	
615	大門畑瀬遺跡	D地区	SD01	須恵器	杯B蓋	15.2	3.86	—		口縁11/12	
616	大門畑瀬遺跡	D地区	SD01	須恵器	杯B蓋	(17.6)	2.78	—		口縁1/5	
617	大門畑瀬遺跡	D地区	包含層	須恵器	杯A	14.0	4.84	9.8		底部完存	
618	大門畑瀬遺跡	D地区	包含層	須恵器	杯A	(12.0)	4.08	(7.4)		底部4/7	
619	大門畑瀬遺跡	D地区	包含層	須恵器	鉢	(16.1)	(8.3)	—		口縁1/5	
620	大門畑瀬遺跡	D地区	包含層	須恵器	壺	—	(9.3)	(13.6)		高台1/3	
621	大門畑瀬遺跡	D地区	包含層	須恵器	杯B蓋	(15.9)	(1.4)	—		口縁1/9	
622	大門畑瀬遺跡	D地区	包含層	土師器	焜炉	—	(10.1)	10.4		底部5/6	
623	大門畑瀬遺跡	D地区	包含層	施釉陶器	蓋	11.26	3.0	3.6		底部完存	
701	大伏北山遺跡		ST02南斜面	弥生土器	壺	(11.4)	(3.5)	—		口縁5/9	
702	大伏北山遺跡		ST02主体部内	弥生土器	甕	(11.6)	(4.2)	—		口縁1/6	
703	大伏北山遺跡		ST02主体部内	弥生土器	甕	(17.1)	19.1	9.4		底部3/4	
704	大伏北山遺跡		ST02南斜面	弥生土器	脚部	—	(9.3)	—		底部8/9	
705	大伏北山遺跡		P06	弥生土器	壺	(22.8)	(9.4)	—		口頸2/9	
706	大伏北山遺跡		SD01	弥生土器	把手	—	(6.8)	—	把手幅7.8	把手のみ	
707	大伏北山遺跡		P06	弥生土器	器台	—	(10.4)	—		脚部1/3	
708	大伏北山遺跡		経塚B	須恵器	甕	18.1	(29.7)	—		肩部9/10	
709	大伏北山遺跡		経塚C	須恵器	甕	(19.6)	(25.5)	—		体部2/3	
710	大伏北山遺跡		経塚	土師器	小皿	(7.6)	(1.5)	(6.3)		口縁5/8	
711	大伏北山遺跡		経塚A	土師器	経筒蓋	14.0	4.0	—		口縁完存	
712	大伏北山遺跡		経塚A	土師器	経筒	11.1	23.5	10.4		口縁完存	
713	大伏北山遺跡		包含層	弥生土器	底部	—	(2.4)	(6.0)		底部5/12	
714	大伏北山遺跡		包含層	弥生土器	底部	—	(4.9)	(6.2)		底部1/1	
715	大伏北山遺跡		包含層	弥生土器	脚部	—	(7.4)	—		脚部2/5	
716	大伏北山遺跡		包含層	須恵器	甕	—	(7.2)	—		口縁1/12	
717	大伏北山遺跡		148T	弥生土器	底部	—	(3.3)	5.4		底部8/9	

遺物一覧表（金属製品）

番号	遺跡名	地区	遺構	種別	器種	法量（cm）				備考
						長さ	幅	厚み	重量（g）	
M001	大門畑瀬遺跡	B地区	SH01	鉄製品	刀子	(8.1)	1.18	0.3	3.5	
M002	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	鉄製品	不明	3.6	2.7	0.73	11.8	
M051	大門畑瀬遺跡	C地区	包含層	鉄製品	工具	(9.75)	0.45	0.38	8.6	
M071	大伏北山遺跡		ST01	鉄製品	ノミ	11.5	0.9	0.8	29.8	
M072	大伏北山遺跡		ST01	鉄製品	ヤリガンナ	(12.2)	0.98	0.4	8.8	
M073	大伏北山遺跡		ST01	鉄製品	鎌	8.05	2.1	0.25	22.8	針状製品付着
M074	大伏北山遺跡		包含層	銅製品	煙管吸口	8.8	-	-	21.4	外径1.2cm

遺物一覧表（石器・石製品等）

番号	遺跡名	地区	遺構	種別	器種	法量（cm）				備考
						長さ	幅	厚み	重量（g）	
S001	大門畑瀬遺跡	B地区	第２面 SK04	打製石器	ナイフ型石器	29.3	17.3	5.2	3.4	チャート製
S002	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	打製石器	石鏃	44.0	24.0	6.0	5.9	サヌカイト製
S003	大門畑瀬遺跡	B地区	SK37	打製石器	石鏃	25.0	18.5	3.2	1.4	サヌカイト製
S004	大門畑瀬遺跡	A地区	水田土壌層	打製石器	楔形石器	19.3	38.0	9.6	9.2	サヌカイト製
S005	大門畑瀬遺跡	A地区	水田土壌層	打製石器	スクレイパー	50.5	31.7	13.0	19.5	サヌカイト製
S006	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層	打製石器	剥片	49.7	38.0	7.0	17.2	サヌカイト製
S007	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	打製石器	剥片	38.8	28.7	6.0	6.5	サヌカイト製
S008	大門畑瀬遺跡	B地区	SR01下層	磨製石器	石斧	45.5	64.5	43.0	182.5	
S009	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	磨製石器	凹み石	100.8	105.7	30.0	396.2	花崗岩製
S010	大門畑瀬遺跡	B地区	包含層	石製品	砥石	36.5	38.5	12.0	19.8	
S011	大門畑瀬遺跡	A地区	水田土壌層	石製品	砥石	78.5	29.0	20.5	63.7	
S012	大門畑瀬遺跡	A地区	SR02	石製品	砥石	95.5	65.0	25.5	204.6	
S061	大門畑瀬遺跡	D地区	廃土	打製石器	石鏃	26.0	13.8	3.5	1.1	サヌカイト製
S062	大門畑瀬遺跡	D地区	SH01床面	打製石器	石鏃	34.2	17.0	5.5	2.9	サヌカイト製
S063	大門畑瀬遺跡	D地区	包含層	打製石器	石錐	31.6	13.1	4.7	1.3	サヌカイト製
S064	大門畑瀬遺跡	D地区	包含層	打製石器	剝片	26.0	19.0	4.8	1.8	サヌカイト製
S071	大伏北山遺跡		廃土	打製石器	石包丁	168.0	97.5	16.6	261.1	サヌカイト製
S072	大伏北山遺跡		148T	打製石器	剝片	210.0	110.0	16.5	425.0	サヌカイト製
J001	大門畑瀬遺跡		SH01	玉	石英結晶	5.8	5.1	-	0.2	
J002	大門畑瀬遺跡		SH01	玉	石英結晶	5.0	4.5	-	0.1以下	
J003	大門畑瀬遺跡		SH01	玉	石英結晶	8.1	7.6	-	0.4	

図　　版

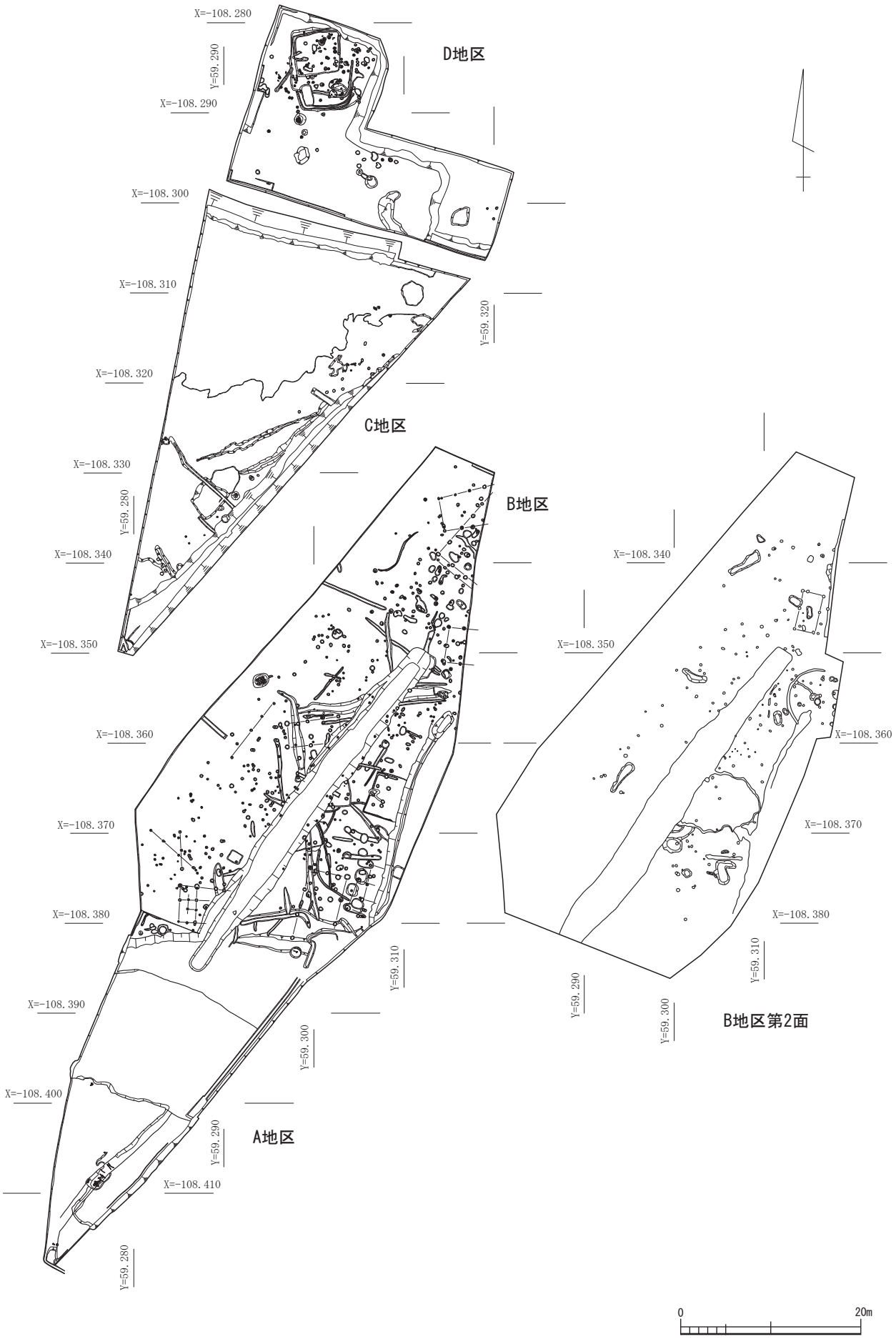
大門北山小テラス群
大門畑瀬散布地
津万井近世窯址
T154
T156
T155
T157
T153
T152
T158
T151
T160
T150
T149
T159
T148
T147
T1
T2
T146
T145
T3
T4
T5
T140
T139
T144
T138
T143
T142
T141
平成16年度調査
平成18年度調査
X=-108200
X=-108300
X=-108400
X=-108500
X=-108600
Y=-59300
Y=-59200
0
100m

確認トレンチ位置図

図版 2

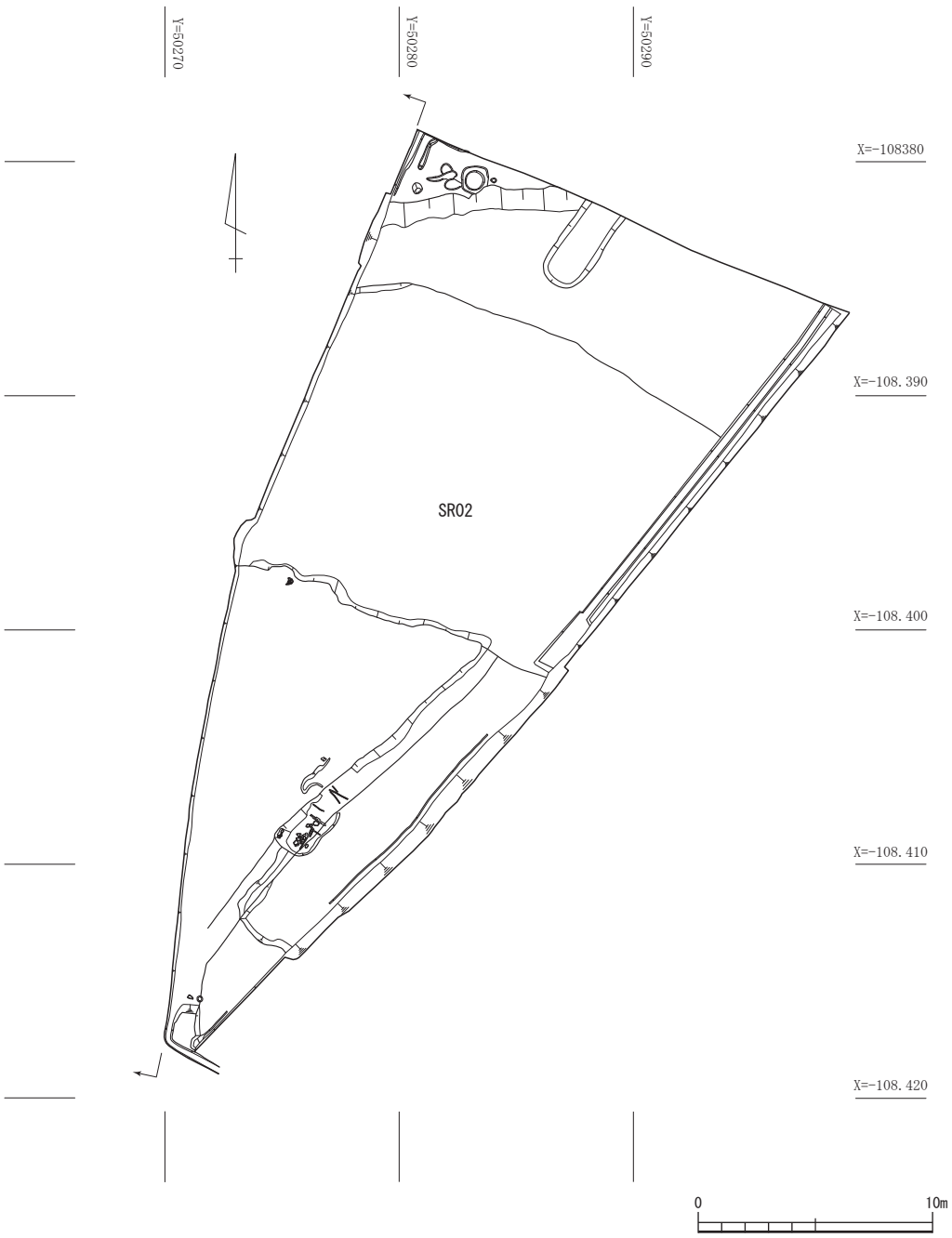
大伏北山遺跡
大門畑瀬遺跡
D地区
C地区
B地区
A地区
X=-108100
X=-108200
X=-108300
X=-108400
X=-108500
X=-108600
X=-108700
Y=59200
Y=59100
Y=59000
0
10m

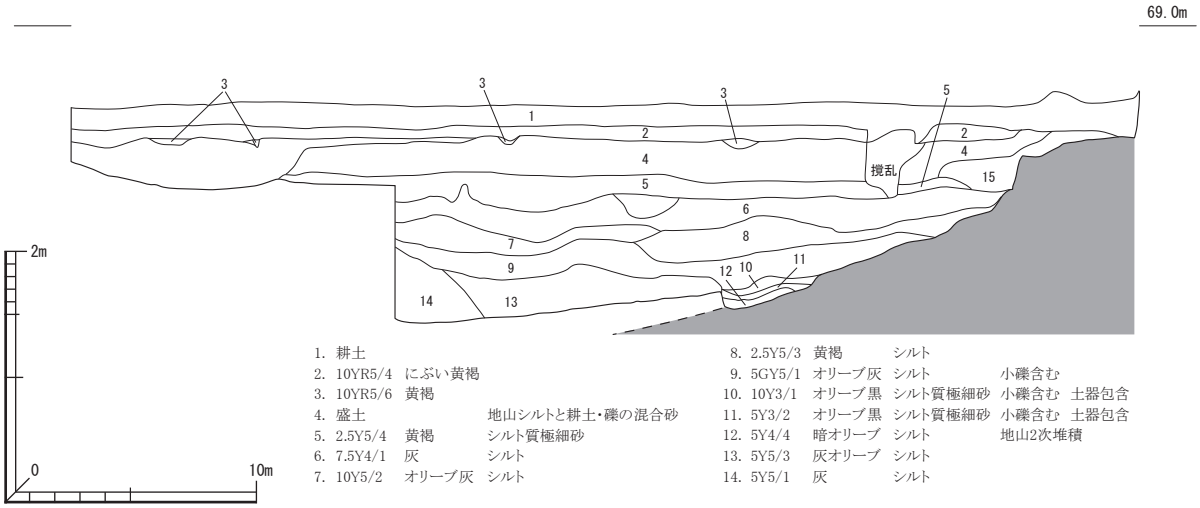
調査区配置図


D地区
C地区
B地区
A地区
B地区第2面
X=-108.280
X=-108.290
X=-108.300
X=-108.310
X=-108.320
X=-108.330
X=-108.340
X=-108.350
X=-108.360
X=-108.370
X=-108.380
X=-108.390
X=-108.400
X=-108.410
Y=59.290
Y=59.320
Y=59.280
Y=59.310
Y=59.300
Y=59.290
Y=59.280
0
20m

大門畑瀬遺跡　全体図

大門畑瀬遺跡　地形断面図





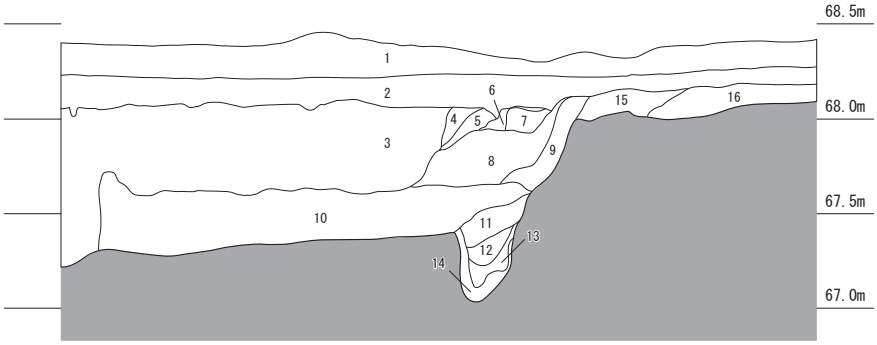
1.	耕土					
2.	10YR5/4	にぶい黄褐				
3.	10YR5/6	黄褐				
4.	盛土		地山シルトと耕土・礫の混合砂			
5.	2.5Y5/4	黄褐	シルト質極細砂			
6.	7.5Y4/1	灰	シルト			
7.	10Y5/2	オリーブ灰	シルト			
8.	2.5Y5/3	黄褐	シルト			
9.	5GY5/1	オリーブ灰	シルト	小礫含む		
10.	10Y3/1	オリーブ黒	シルト質極細砂	小礫含む	土器包含	
11.	5Y3/2	オリーブ黒	シルト質極細砂	小礫含む	土器包含	
12.	5Y4/4	暗オリーブ	シルト	地山2次堆積		
13.	5Y5/3	灰オリーブ	シルト			
14.	5Y5/1	灰	シルト			

大門畑瀬遺跡　A地区　平面図・断面図

大門畑瀬遺跡　B地区　平面図

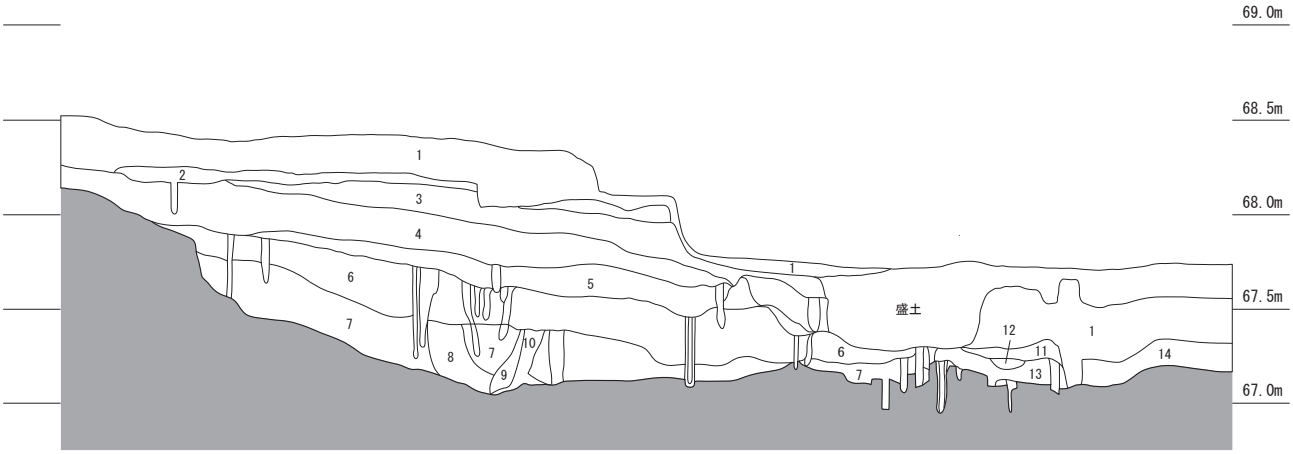
大門畑瀬遺跡　B地区　第2面平面図

南壁断面図

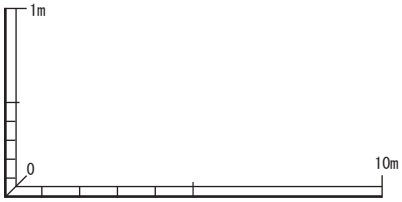


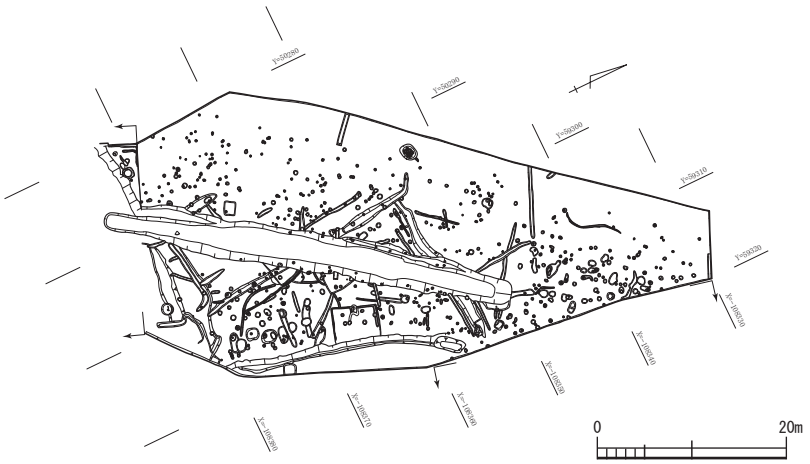
1. 耕土		
2. 10YR4/5	褐	シルト質極細砂
3. 盛土		(地山シルト大半)
4. 10YR4/4	褐	シルト質極細砂(上面にマンガン層)
5. 10YR3/4	暗褐	シルト質極細砂(マンガン・小礫含む)
6. 10YR4/3	にぶい黄褐	シルト質極細砂(地山土含む)
7. 10YR3/4～3/3	暗褐	シルト質極細砂
8. 10YR2/1	黒	シルト質極細砂
9. 10YR4/2	灰黄褐	シルト質極細砂(底は細砂)
10. 10YR4/1	褐灰	シルト質極細砂
11. 10YR3/3	暗褐	シルト質極細砂(SR01)
12. 7.5YR1.7/1	黒	シルト質極細砂(SR01)
13. 10YR4/4	褐	シルト質極細砂(SR01)
14. 10YR4/3	にぶい黄褐	シルト質極細砂(SR01)
15. 10YR3/2	黒褐	シルト質極細砂(マンガン多く含む)
16. 10YR4/2	灰黄褐	シルト質極細砂

東壁断面図

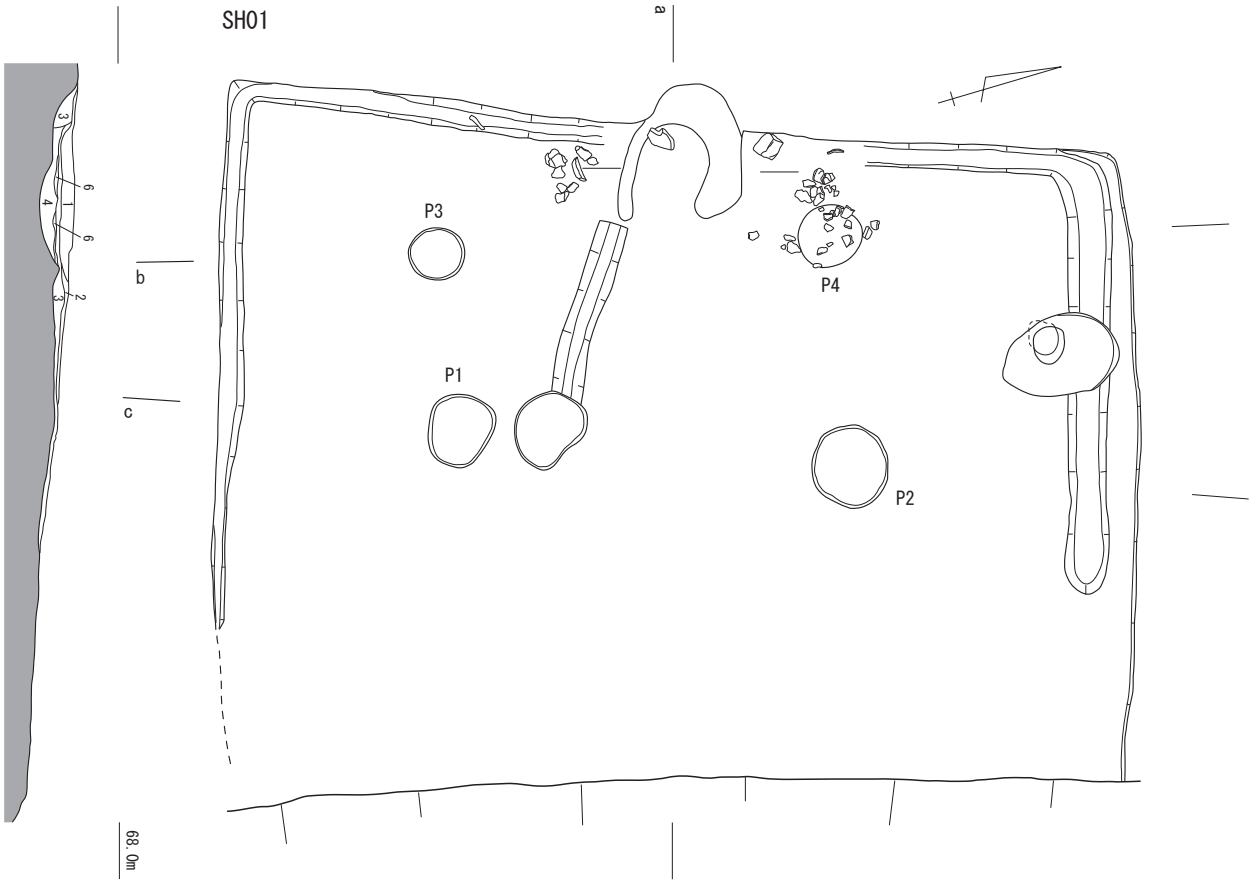


1. 耕土		
2. 10YR5/3	にぶい黄褐	シルト質極細砂
3. 10YR4/4	褐	シルト質極細砂
4. 10YR2/2	黒褐	シルト質極細砂
5. 10YR2/1	黒	シルト質極細砂
6. 10YR4/2	灰黄褐	シルト質極細砂
7. 10YR4/4	褐	シルト質極細砂
8. 10YR3/2	黒褐	シルト質極細砂
9. 10YR2/2	黒褐	シルト質極細砂
10. 10YR4/3	にぶい黄褐	シルト質極細砂(粘性強い)
11. 2.5Y4/3	オリーブ褐	シルト質極細砂
12. 10YR4/2	灰黄褐	粗砂～中砂
13. 10YR3/2	黒褐	シルト質極細砂
14. 5Y4/3	暗オリーブ	シルト

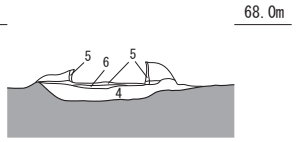


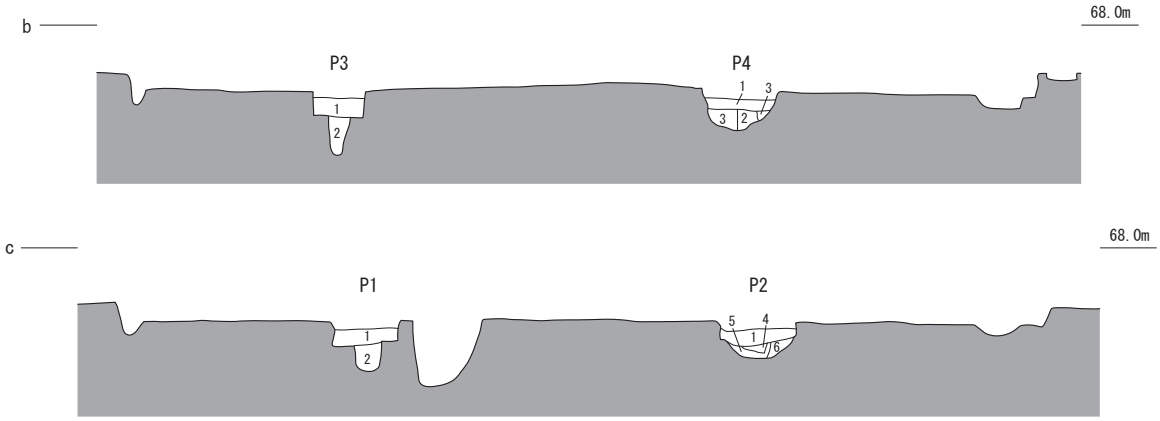


大門畑瀬遺跡　B地区　断面図



1. 5YR2/2　黒褐　シルト質極細砂(焼土・炭含む)　カマド埋土
2. 7.5YR3/2　黒褐　シルト質極細砂
3. 10YR3/3　暗褐　シルト質極細砂 ベース
4. 2.5YR4/4　にぶい赤褐　極細砂　焼土(被熱部分) ベース
5. 2.5YR5/6　明赤褐　極細砂　貼った粘土が焼けて焼土塊(面)になったもの
6. 5YR2/2　黒褐　極細砂(炭・焼土含む)　構築面

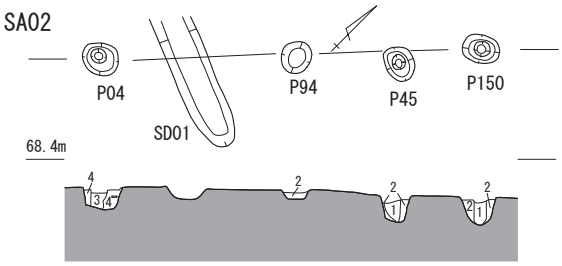




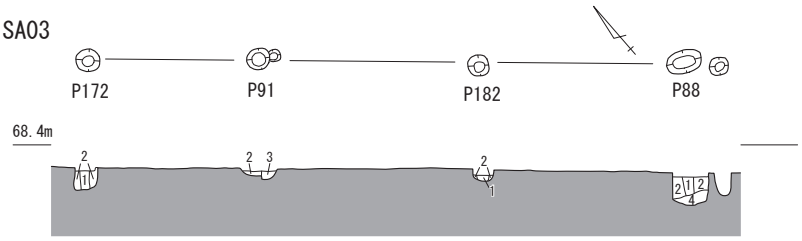
1. 10YR3/3　暗褐　シルト質極細砂(炭・地山土含む)
2. 10YR3/2　黒褐　シルト質極細砂
3. 10YR3/4　暗褐　シルト質極細砂(地山土含む)
4. 10YR3/1　黒褐　細砂(炭多く 含む)
5. 10YR3/2　黒褐　シルト質極細砂(炭含む)
6. 10YR3/4　暗褐　シルト質極細砂

0　2m

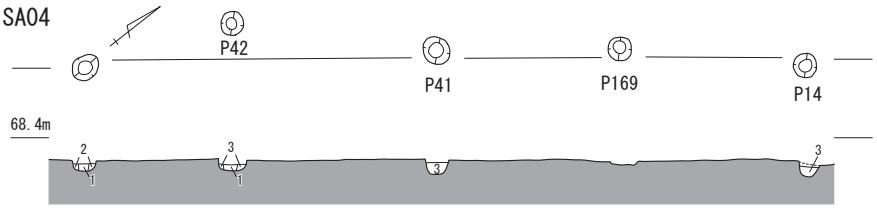
大門畑瀬遺跡　B地区　SH01



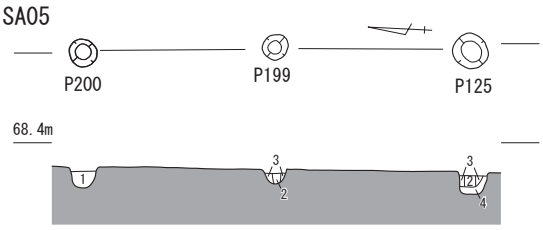
1. 10YR3/2　黒褐　シルト質極細砂
2. 10YR3/4　暗褐　シルト質極細砂(地山土含む)
3. 10YR2/1　黒　シルト質極細砂
4. 10YR2/2　黒褐　シルト質極細砂



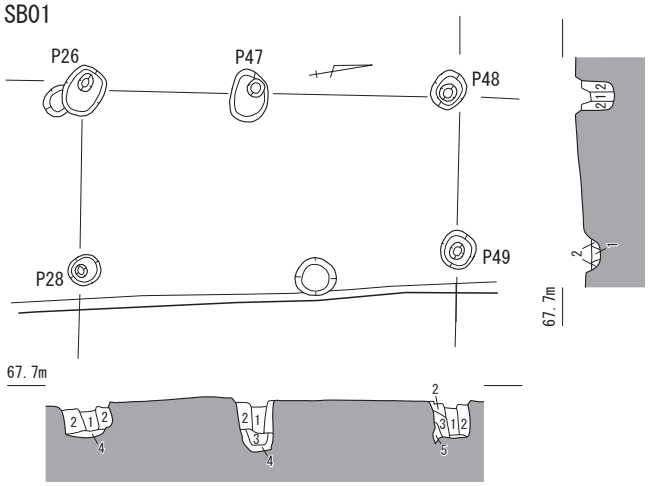
1. 10YR3/2　黒褐　シルト質極細砂
2. 10YR3/3　暗褐　シルト質極細砂(地山土含む)
3. 10YR4/3　にぶい黄褐　シルト質極細砂(地山土多く 含む)
4. 10YR3/3　暗褐　細砂



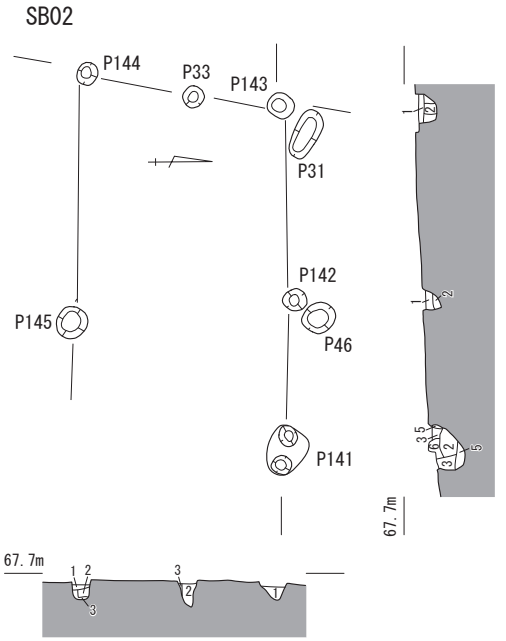
1. 2.5Y4/3　オリーブ褐　シルト質極細砂
2. 2.5Y5/3　黄褐　シルト質極細砂
3. 2.5Y4/4　黄褐　シルト質極細砂



1. 10YR4/2　灰黄褐　シルト質極細砂(地山ブロック含む)
2. 7.5YR2/1　黒　シルト質極細砂
3. 10YR2/3　黒褐　シルト質極細砂(地山土・1層区組む)
4. 10YR4/3　にぶい黄褐　シルト質極細砂



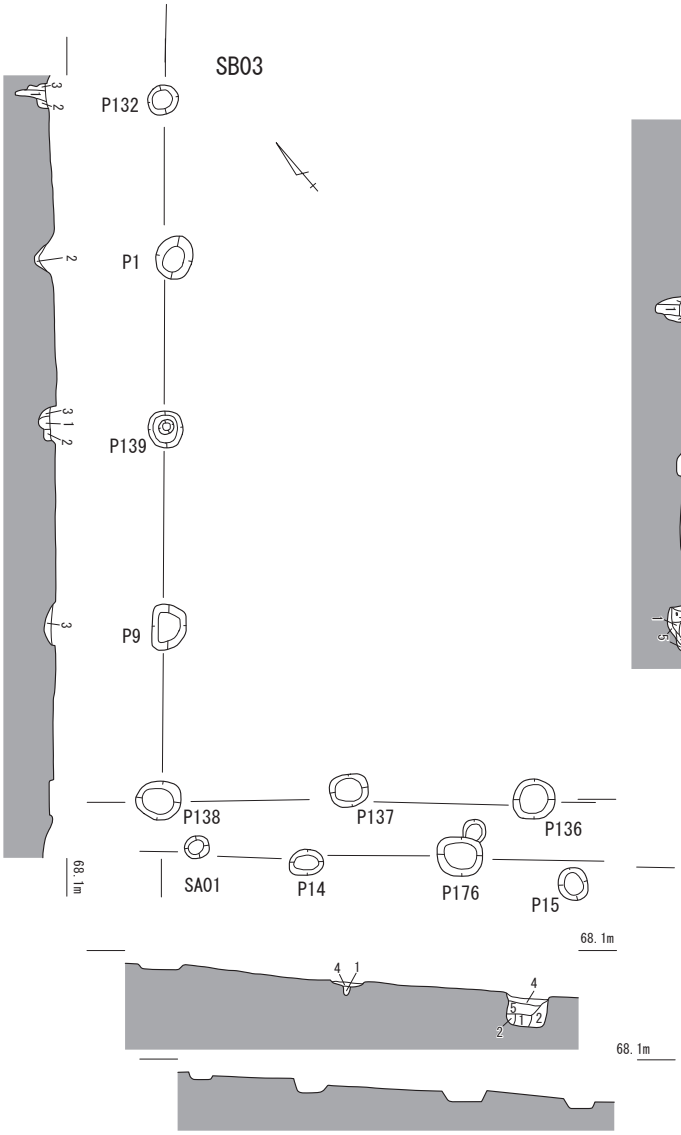
1. 10YR3/3　暗褐　シルト質極細砂(炭・地山ブロック含む)
2. 10YR4/3　にぶい黄褐
3. 10YR5/4　にぶい黄褐　シルト質極細砂(地山土多く 含む)
4. 10YR2/2　黒褐　シルト質極細砂(炭・地山ブロック含む)
5. 10YR4/2　灰黄褐　シルト質極細砂(地山ブロック含む　粘性強い)

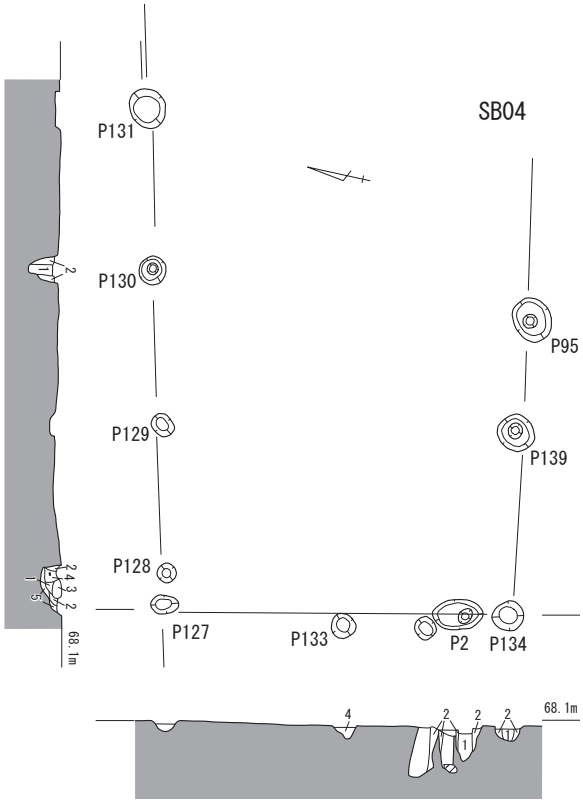


1. 10YR3/3　暗褐　シルト質極細砂
2. 10YR2/2　黒褐　シルト質極細砂(炭含む)
3. 10YR4/4　褐　シルト質極細砂(地山ブロック含む)
4. 10YR3/2　黒褐　シルト質極細砂(マンガン・炭含む)
5. 10YR5/4　にぶい黄褐　シルト質極細砂
6. 10YR5/6　黄褐　シルト(地山客土)

0　2m

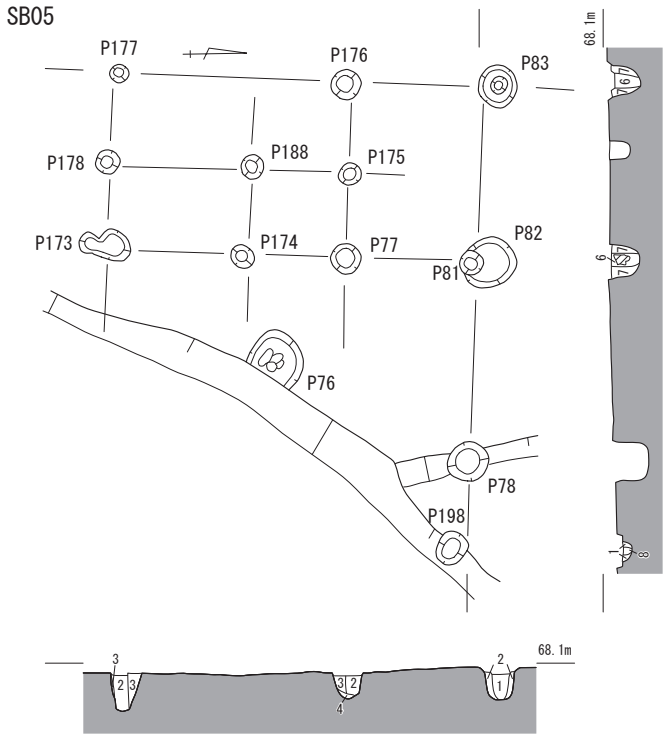
大門畑瀬遺跡　B地区　SA02～05、SB01・02





1. 10YR3/2　黒褐　シルト質極細砂(炭含む・地山ブロック)
2. 7.5YR3/3～10YR3/3　暗褐　シルト質極細砂(地山マンガン含む)
3. 10YR4/4　褐　シルト質極細砂
4. 10YR3/4　暗褐　シルト質極細砂
5. 10YR4/4　褐　シルト質極細砂(地山土多く含む)
1'. 10YR2/2　黒褐　シルト質極細砂(炭含む)

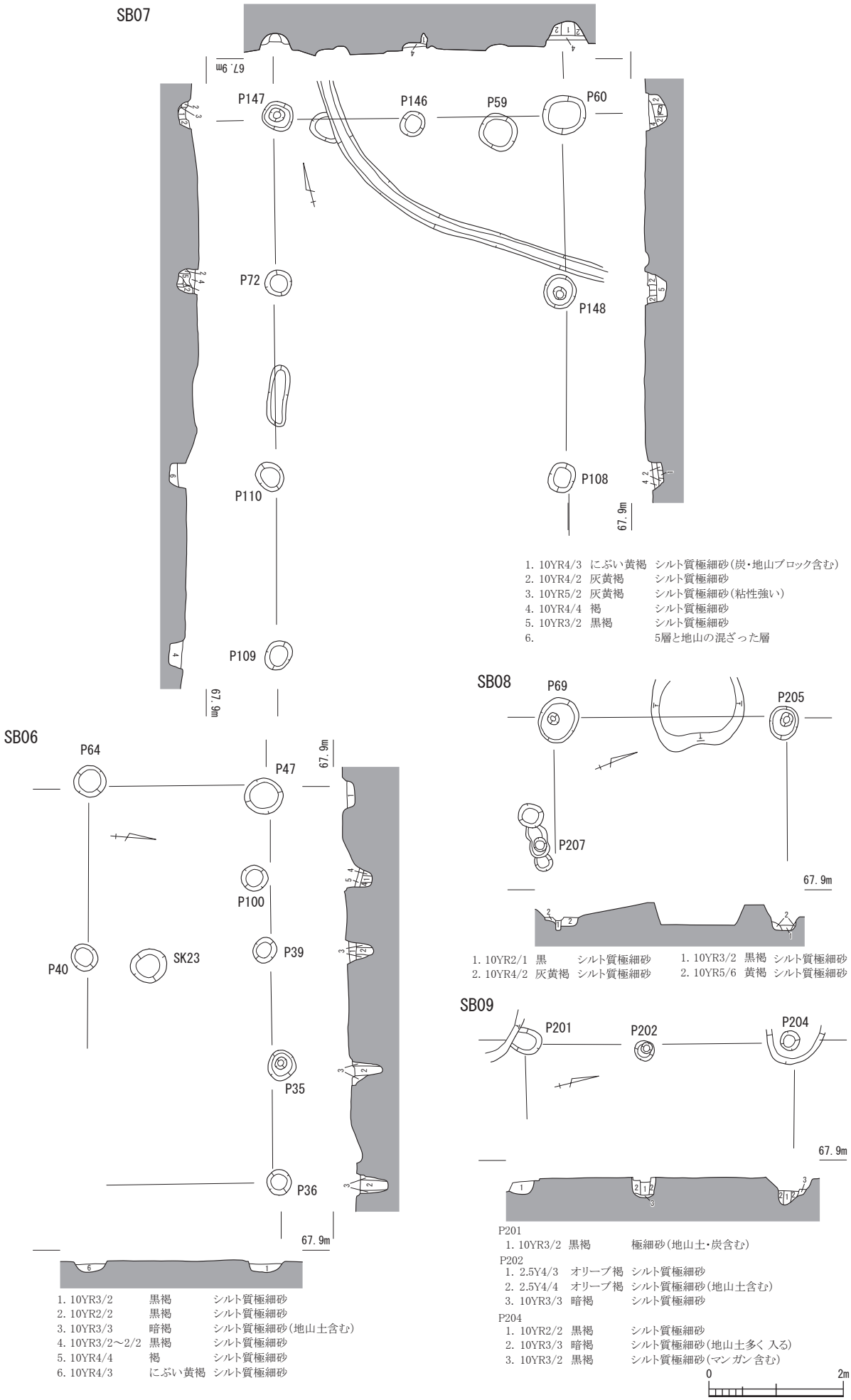
1. 10YR3/3　暗褐　シルト質極細砂
2. 10YR4/3　にぶい黄褐　シルト質極細砂
3. 10YR4/4　褐　シルト質極細砂(地山土多く含む)
4. 10YR3/2　黒褐　シルト質極細砂(地山土含む)
5. 10YR3/2　黒褐　シルト質極細砂(炭多く・地山土少量含む)



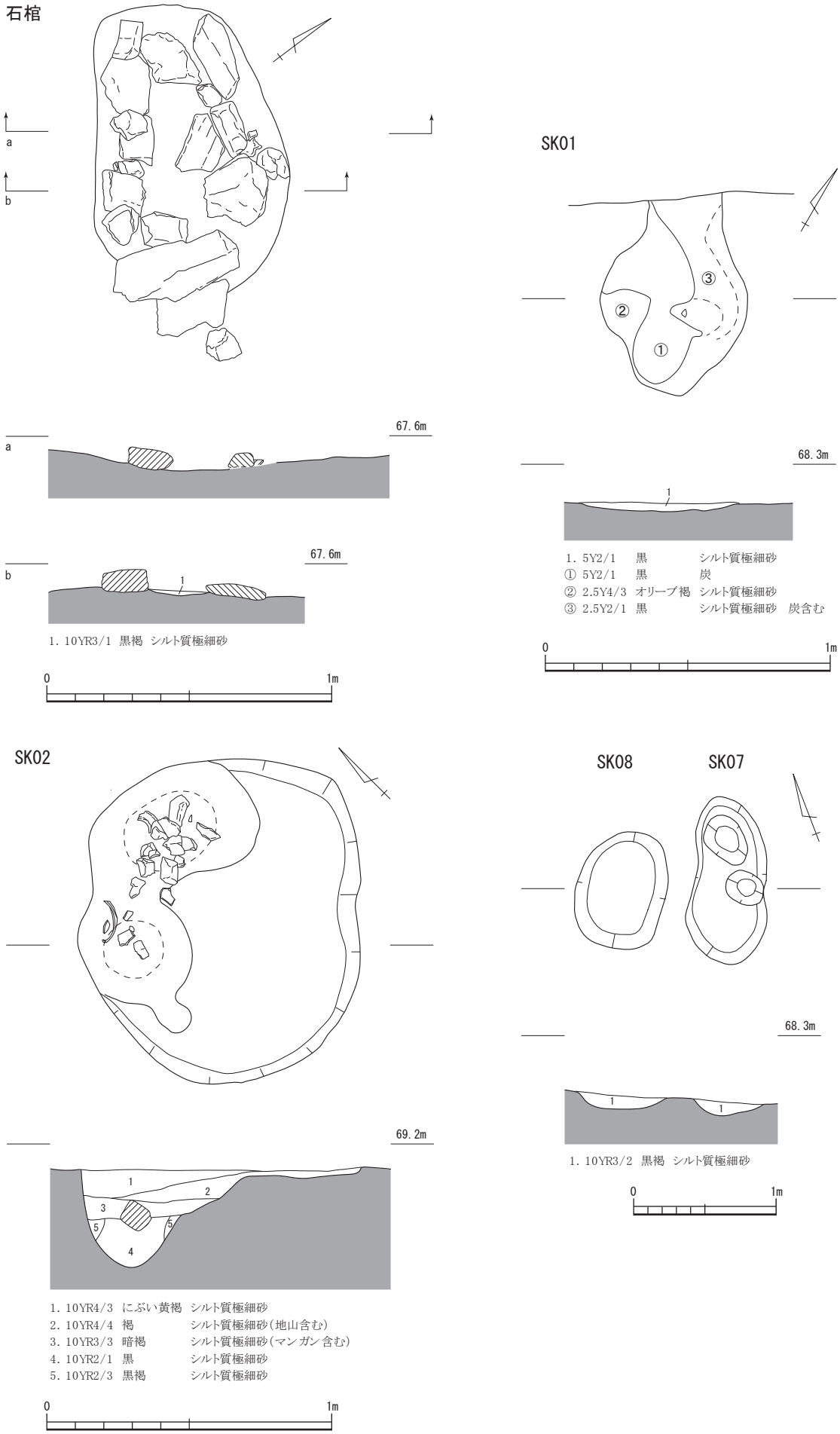
1. 10YR4/2　灰黄褐　シルト質極細砂(地山土含む)
2. 10YR3/2　黒褐　シルト質極細砂(地山土含む)
3. 10YR4/2～5/2　灰黄褐　シルト質極細砂(地山土含む)
4. 10YR5/2　灰黄褐　細砂
5. 10YR2/1　黒　シルト質極細砂
6. 10YR2/2　黒褐　シルト質極細砂
7. 10YR3/3　暗褐　シルト質極細砂(地山ブロック含む)
8. 10YR4/2　灰黄褐　シルト質極細砂

0　2m

大門畑瀬遺跡　B地区　SB03～05

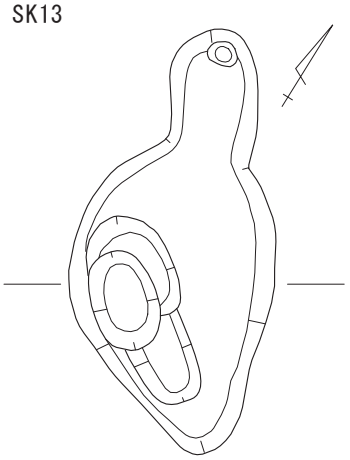


大門畑瀬遺跡　B地区　SB06～09

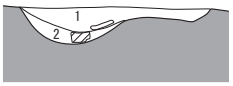


大門畑瀬遺跡　B地区　石棺・SK01・02・07・08

SK13



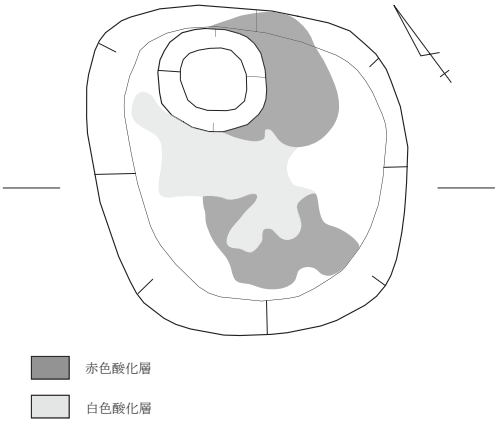
68.0m



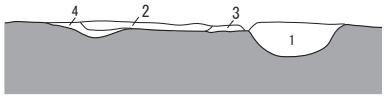
1. 10YR2/1　黒　シルト質極細砂(マンガン含む)
2. 7.5YR2/1 黒　シルト質極細砂(マンガン含む)

0　1m

SK20



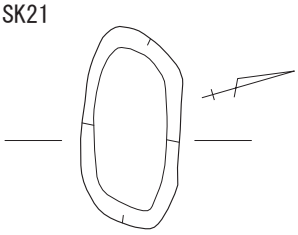
68.7m



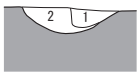
1. 10YR4/3　にぶい黄褐　シルト質極細砂
2. 10YR4/3　にぶい黄褐　シルト質極細砂(焼土・炭含む)
3. 10YR4/4　褐　シルト
4. 焼土

0　1m

SK21

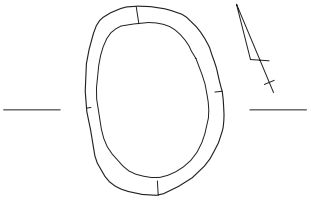


68.0m

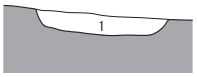


1. 7.5YR2/1 黒　シルト質極細砂
2. 10YR3/1　黒褐　シルト質極細砂

SK22

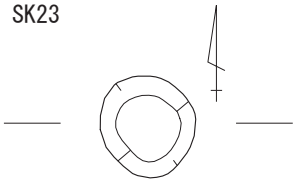


68.0m



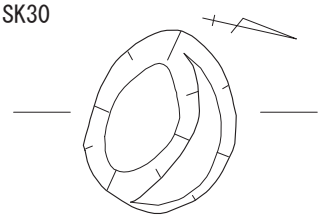
1. 5YR3/2　暗赤褐　極細砂　焼土多く含む 地山土ブロックが入る

SK23

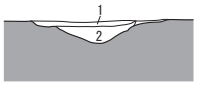


68.2m

SK30



68.0m

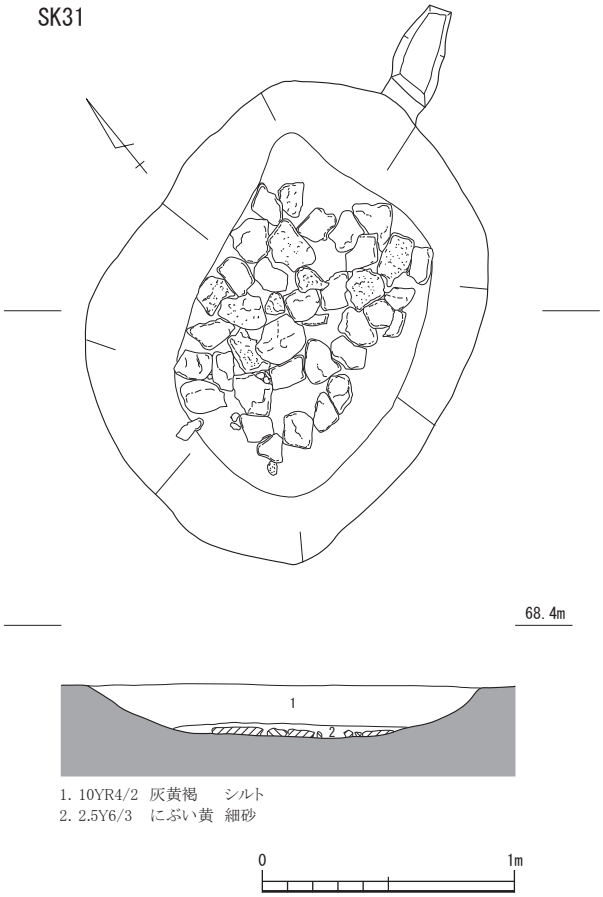


1. 10YR2/1　黒　シルト質極細砂(焼土・炭含む)
2. 7.5YR3/2　黒褐　シルト質極細砂(焼土・炭含む)

0　1m

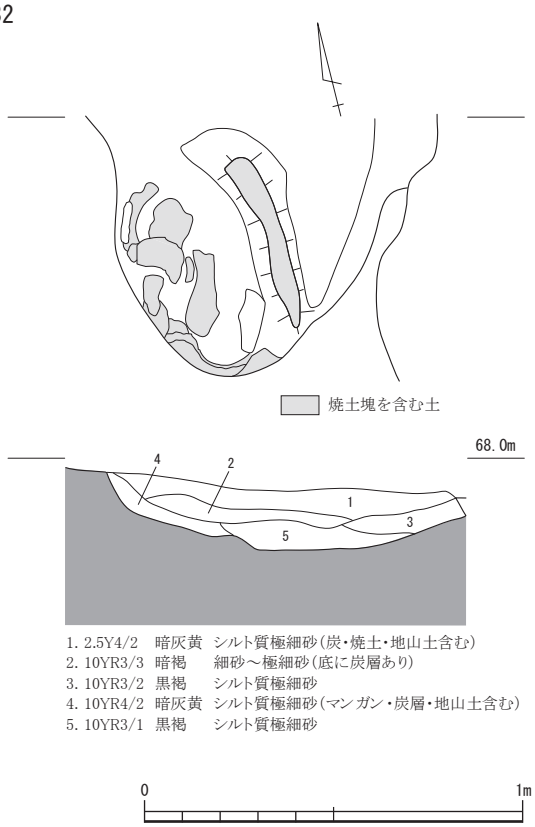
大門畑瀬遺跡　B地区　SK13・20～23・30

SK31



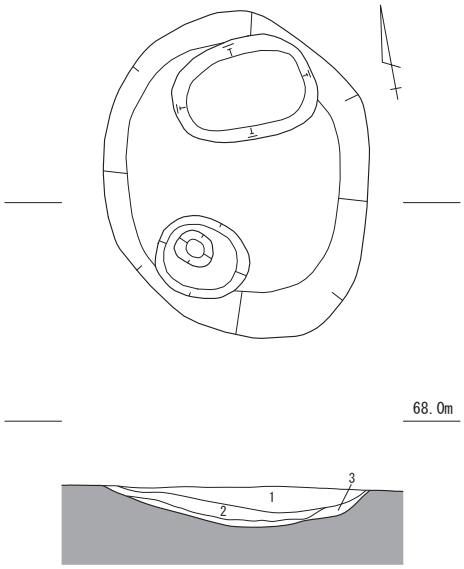
1. 10YR4/2　灰黄褐　　シルト
2. 2.5Y6/3　にぶい黄　細砂

SK32



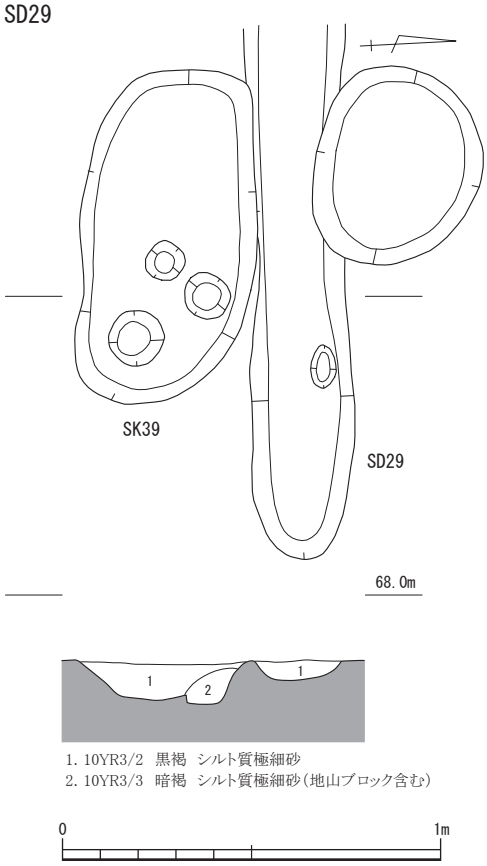
1. 2.5Y4/2　暗灰黄　シルト質極細砂(炭・焼土・地山土含む)
2. 10YR3/3　暗褐　　細砂～極細砂(底に炭層あり)
3. 10YR3/2　黒褐　　シルト質極細砂
4. 10YR4/2　暗灰黄　シルト質極細砂(マンガン・炭層・地山土含む)
5. 10YR3/1　黒褐　　シルト質極細砂

SK37



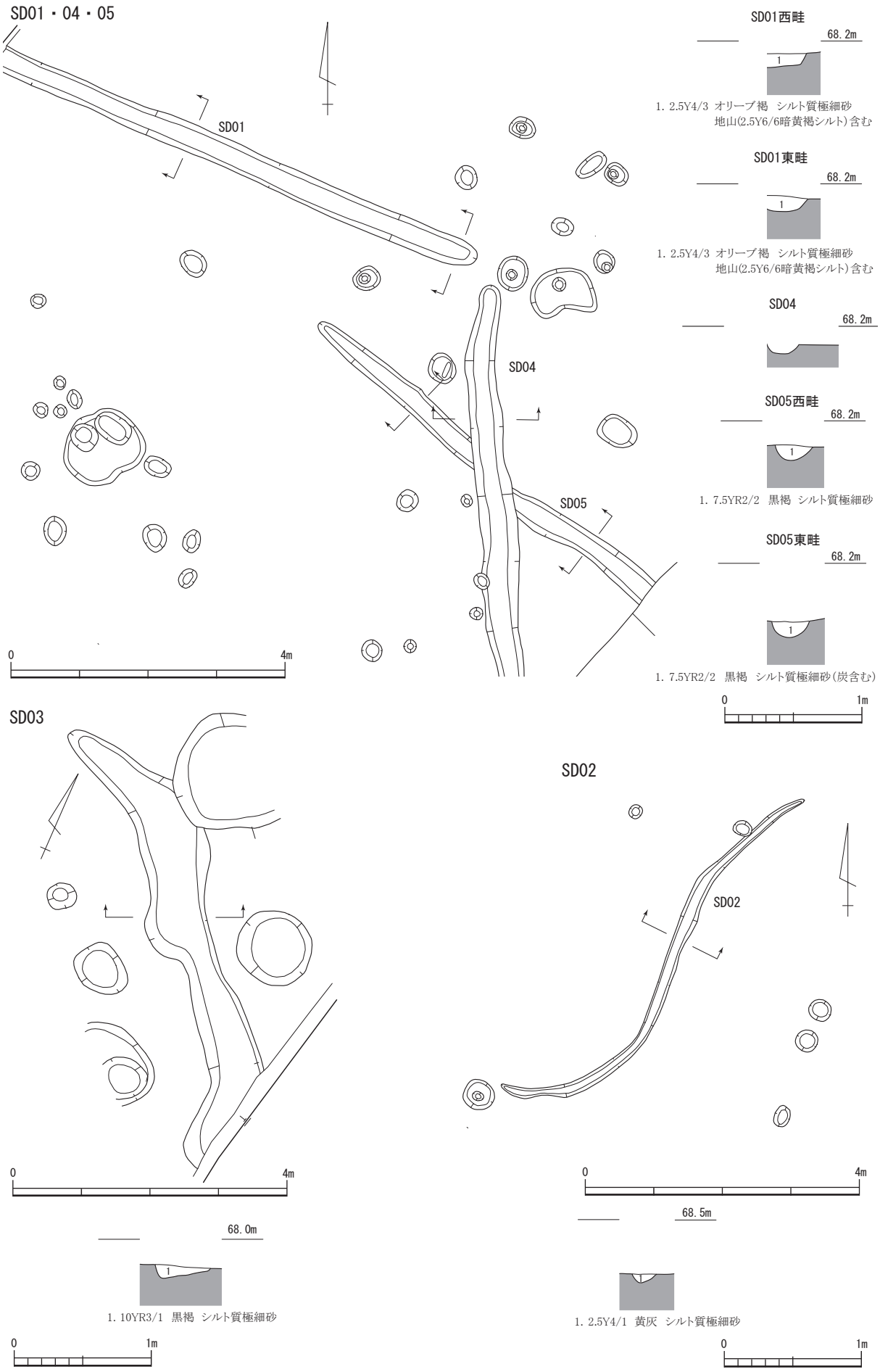
1. 10YR4/2　灰黄褐　　シルト質極細砂
2. 10YR4/1　褐灰　　シルト質極細砂
3. 10YR5/4　にぶい黄褐　シルト質極細砂(地山土多く 入る)

SK39・SD29

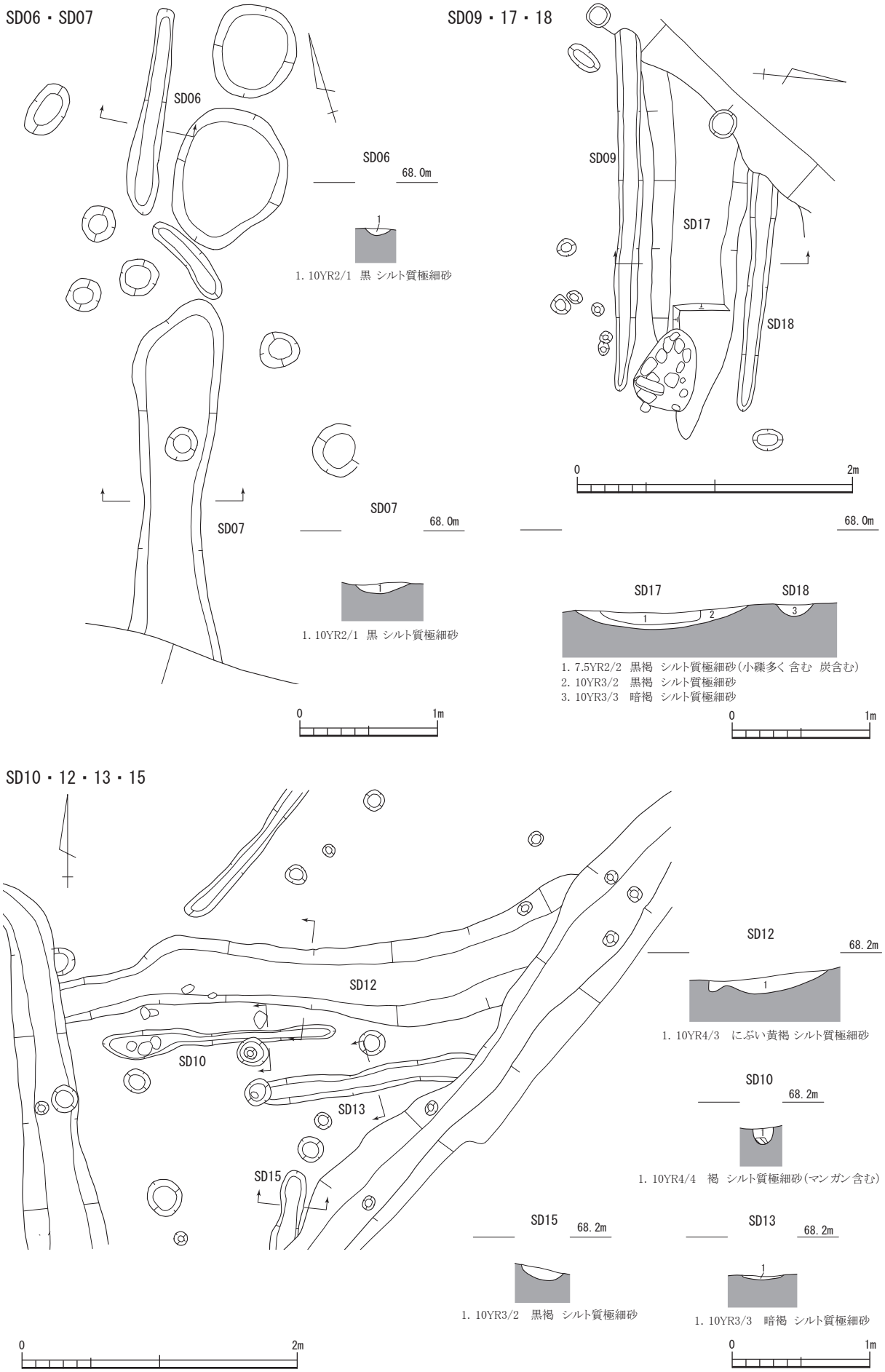


1. 10YR3/2　黒褐　シルト質極細砂
2. 10YR3/3　暗褐　シルト質極細砂(地山ブロック含む)

大門畑瀬遺跡　B地区　SK31・32・37・39・SD29

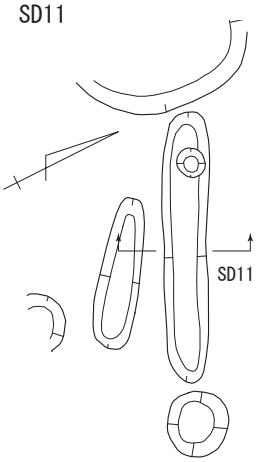


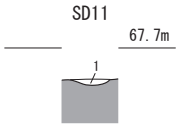
大門畑瀬遺跡　B地区　SD01～05



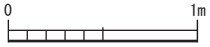
大門畑瀬遺跡　B地区　SD06・07・09・10・12・13・15・17・18

SD11

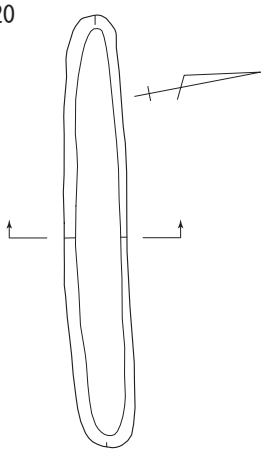


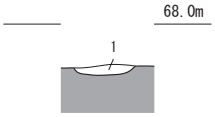


1. 10YR2/3　黒褐　シルト質極細砂



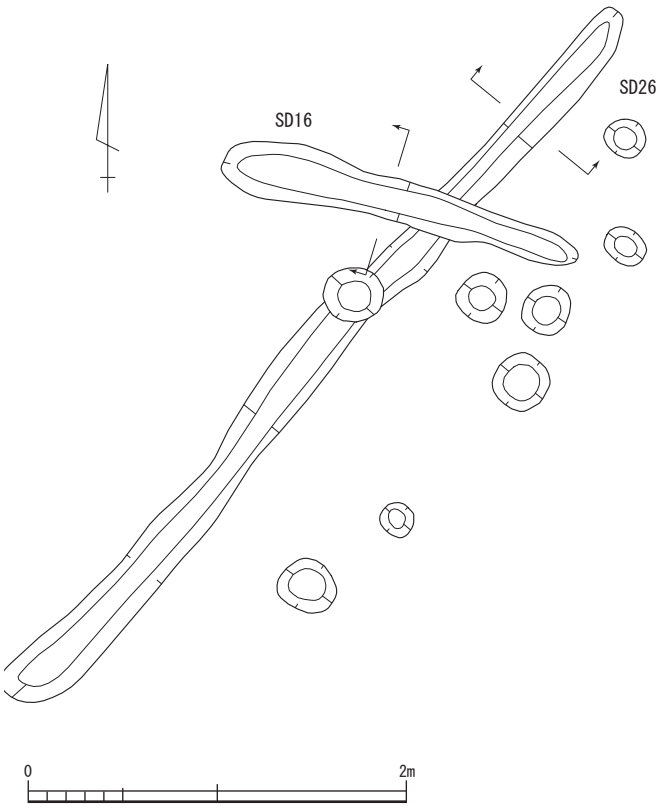
SD20

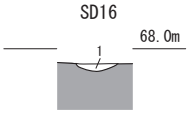




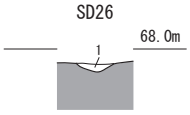
1. 10YR2/2　黒褐　シルト質極細砂

SD16・SD26

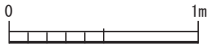


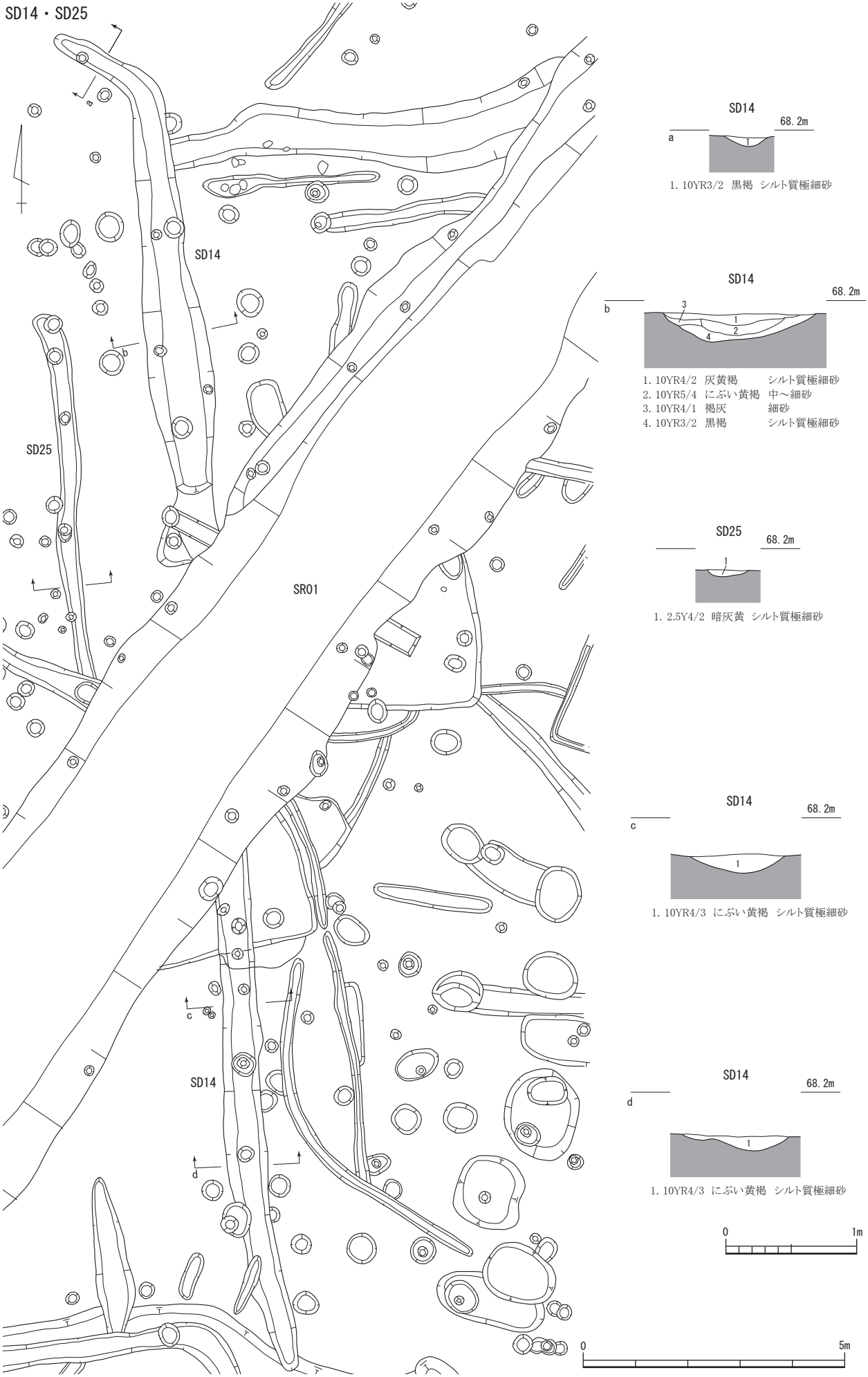


1. 10YR2/3　黒褐　シルト質極細砂

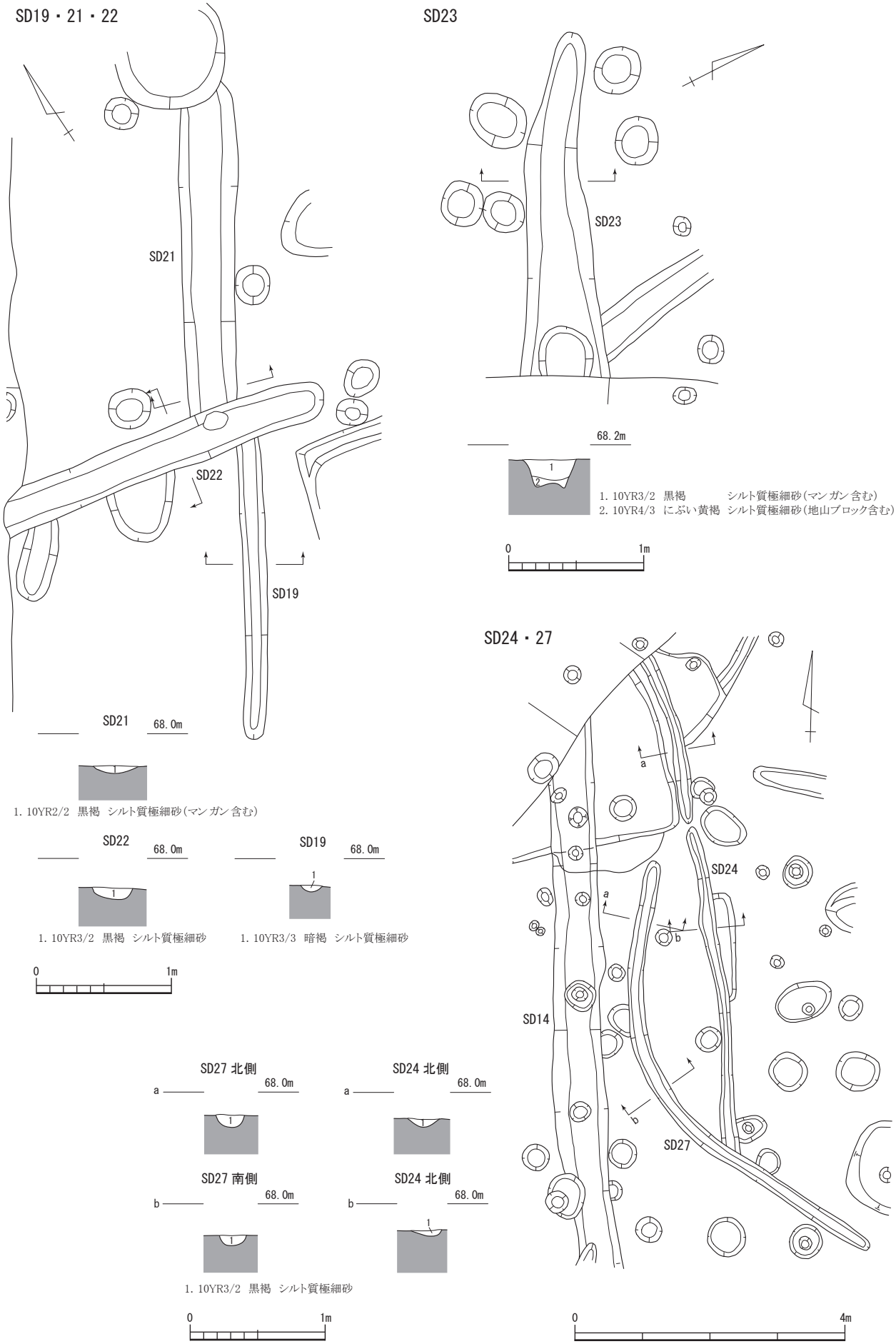


1. 10YR2/3　黒褐　シルト質極細砂

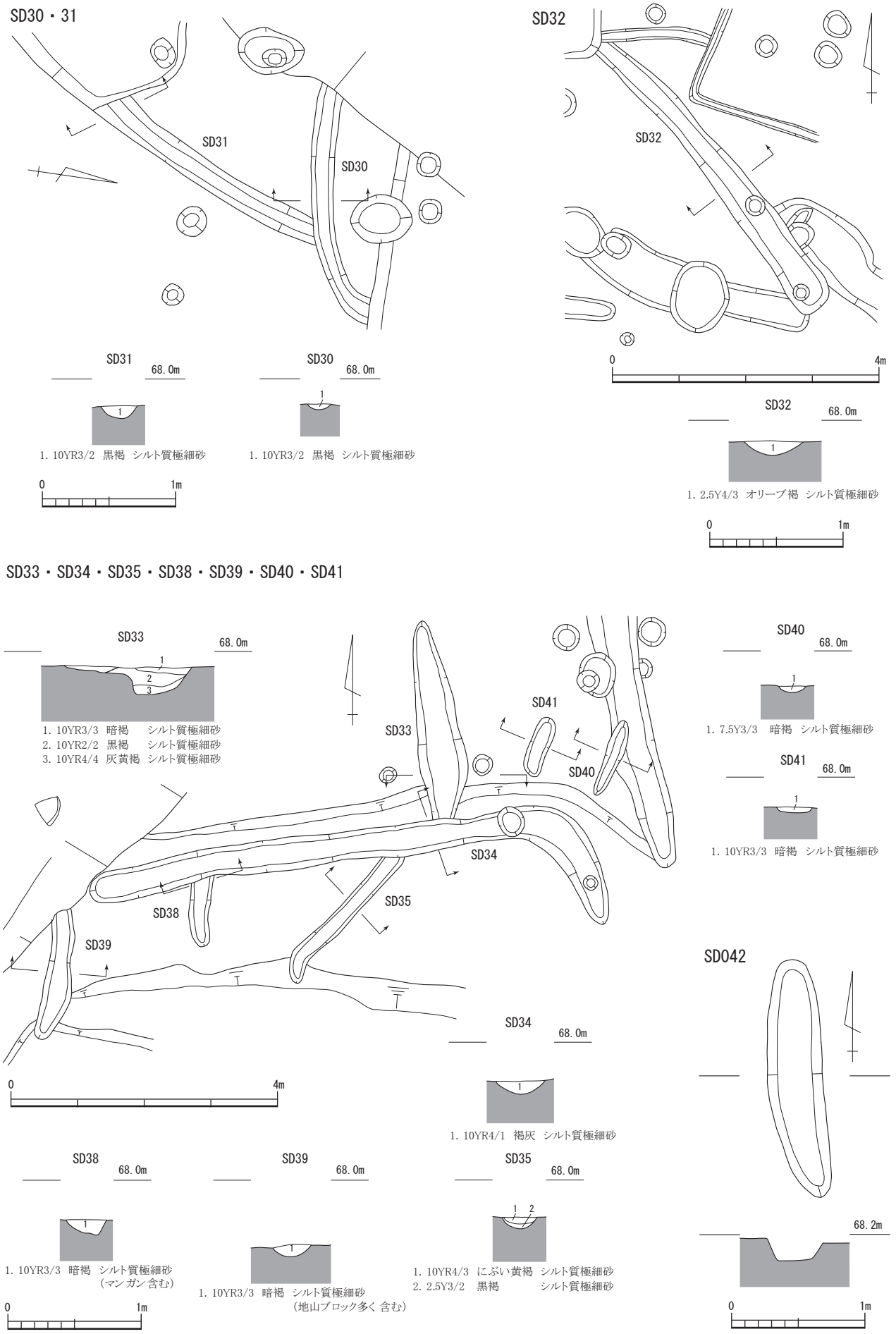




大門畑瀬遺跡 B地区 SD14・25

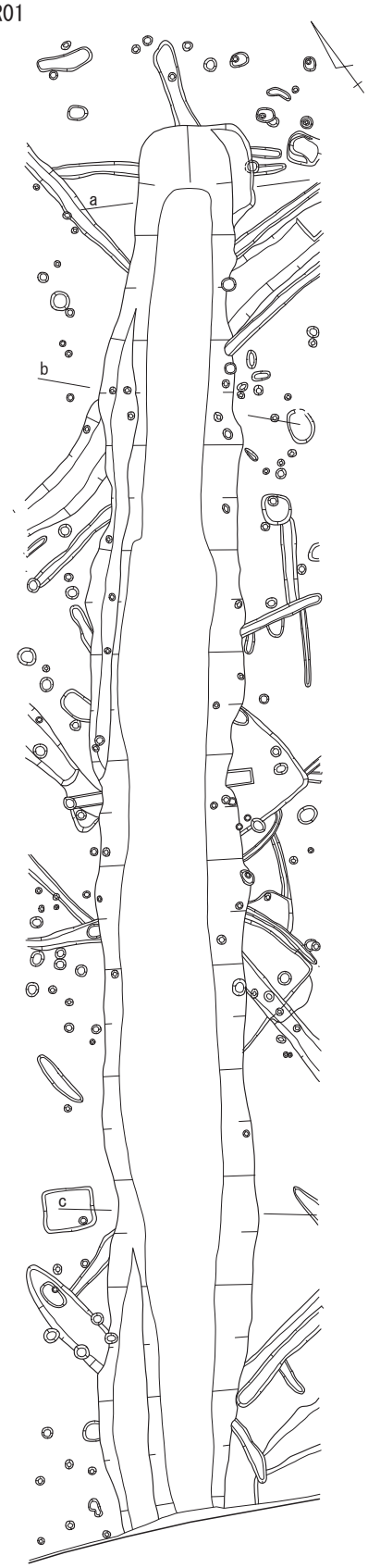


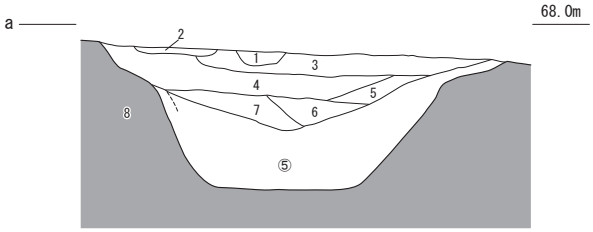
大門畑瀬遺跡　B地区　SD19・21～24・27



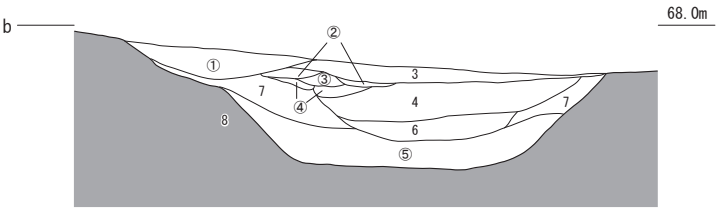
大門畑瀬遺跡　B地区　SD30～35・38～42

SR01

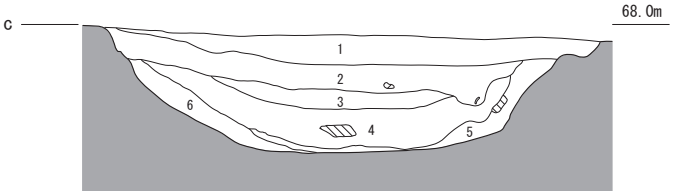




1. 10YR2/3　黒褐　シルト質極細砂(地山土混じる)　SD07
2. 10YR2/1　黒　シルト質極細砂
3. 10YR3/2　黒褐　シルト質極細砂
4. 10YR4/2　灰黄褐　シルト質極細砂
5. 10YR2/2　黒褐　シルト質極細砂
6. 7.5YR1.7/1　黒　シルト質極細砂(底に小礫含む)　土器多く粘性強い
7. 10YR4/3　にぶい黄褐　シルト質極細砂
8. 10YR5/6　黄褐　シルト　地山



① 10YR4/3　にぶい黄褐　シルト質極細砂
② 10YR4/4　褐　シルト質極細砂　奈良ベース面の土　SD12埋土
③ 10YR3/3　暗褐　シルト質極細砂～細砂
④ 10YR5/3　にぶい黄褐　細砂
⑤ 7.5YR4/4　褐　シルト質極細砂　固くしまる

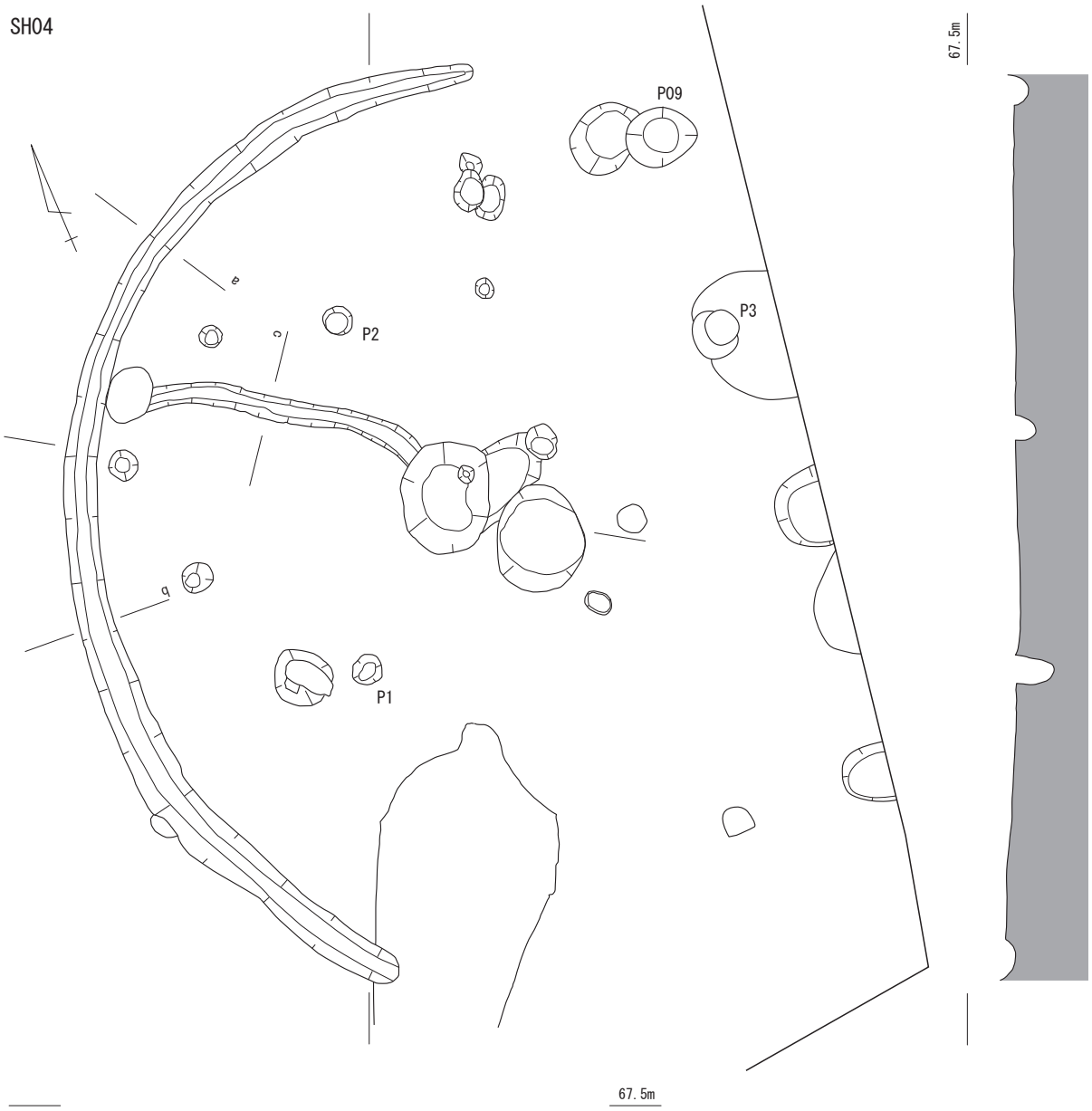


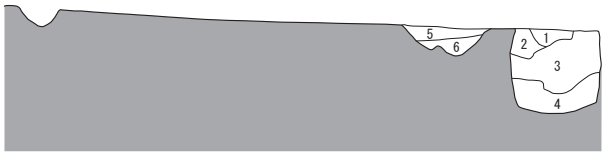
1. 10YR2/1　黒　シルト質極細砂(炭含む)
2. 10YR3/3　暗褐　シルト質極細砂
3. 7.5YR1.7/1　黒　シルト質極細砂
4. 10YR4/4　褐　シルト質極細砂
5. 10YR4/3　にぶい黄褐～10YR3/3暗褐　シルト質極細砂
6. 10YR4/6　褐　シルト質極細砂(地山土含む)

0　2m

0　10m

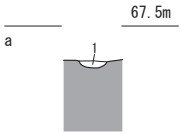
大門畑瀬遺跡　B地区　SR01





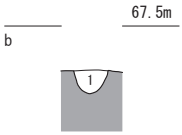
1. 5YR1.7/1　黒　　シルト質極細砂(炭含む)
2. 10YR3/2　黒褐　　シルト質極細砂(炭少量 地山土多く含む)
3. 10YR4/4　褐　　シルト質極細砂
4. 10YR2/2　黒褐　　シルト質極細砂(粘性強い)
5. 2.5Y3/3　暗オリーブ褐　シルト質極細砂(地山土 Mn含む)
6. 2.5Y2/1　黒　　シルト質極細砂(炭含む)

周壁溝



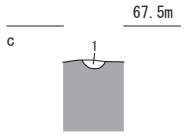
1. 10YR3/2　黒褐　シルト質極細砂

周壁溝

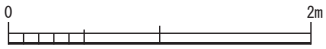


1. 10YR3/2　黒褐　シルト質極細砂

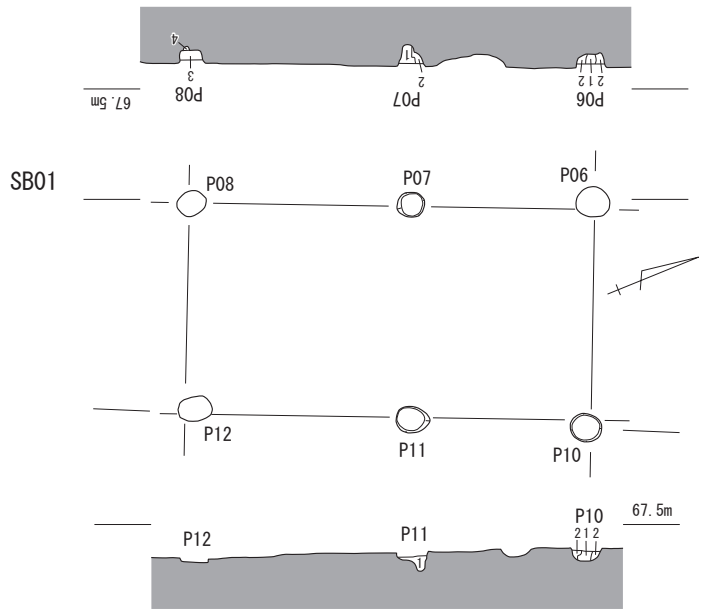
排水溝

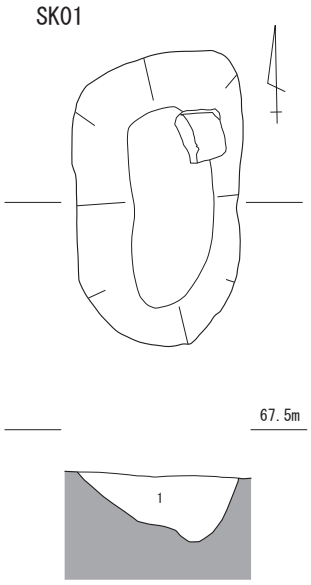


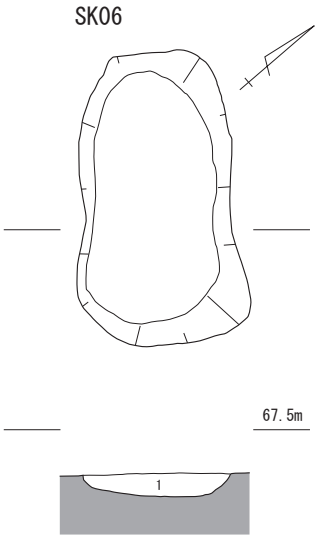
1. 7.5YR2/2　黒褐　シルト質極細砂(炭・Mn含む)

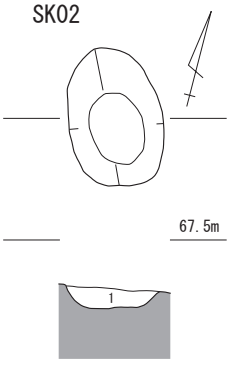


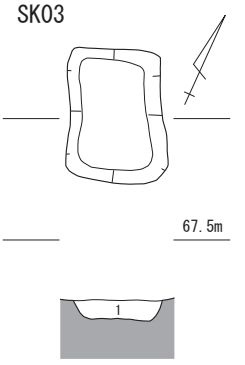
大門畑瀬遺跡　B地区第２面　SH04

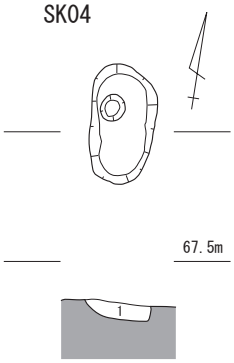


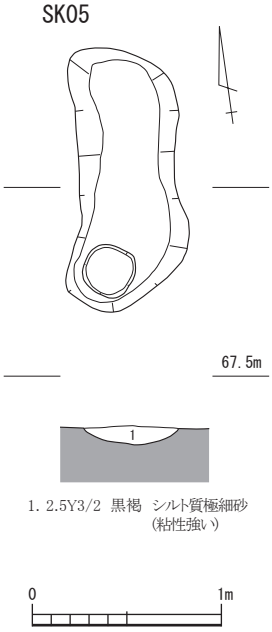




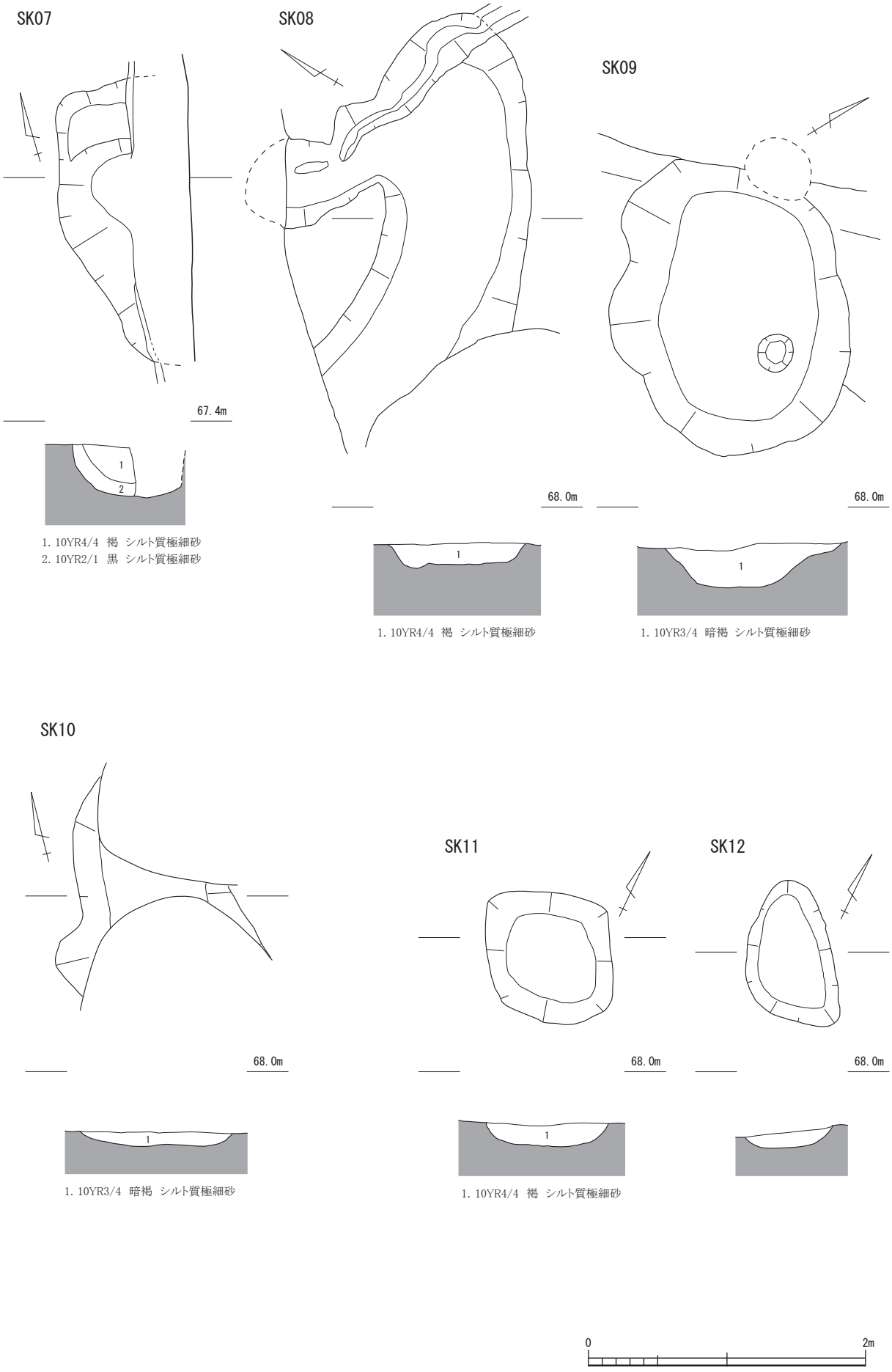






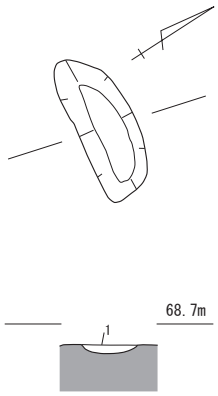


大門畑瀬遺跡　B地区第２面　SB01・SK01～06



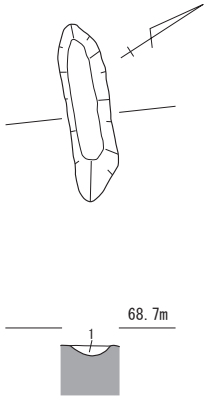
大門畑瀬遺跡　B地区第2面　SK07～12

SD01

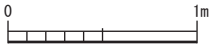


1. 10YR3/3 暗褐 シルト質極細砂

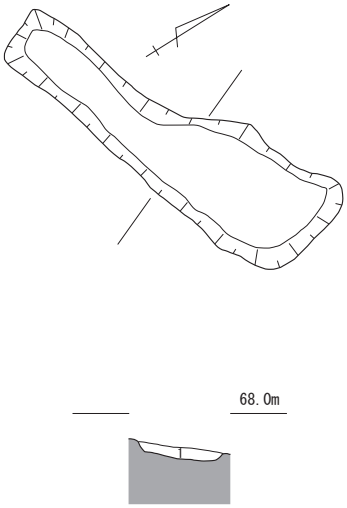
SD02



1. 10YR3/4 暗褐 シルト質極細砂



SD03

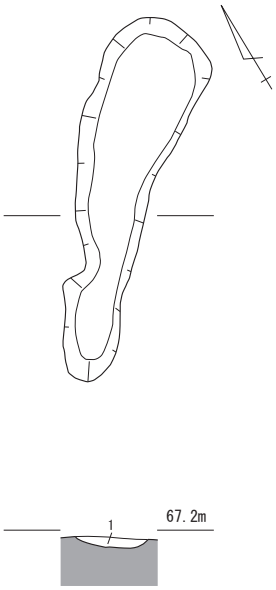


1. 10YR4/2 灰黄褐 シルト質極細砂　小礫 Mn含む

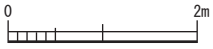
SD04

1. 7.5YR3/3 暗褐 シルト質極細砂(粘性強い)
底に同色の細砂あり

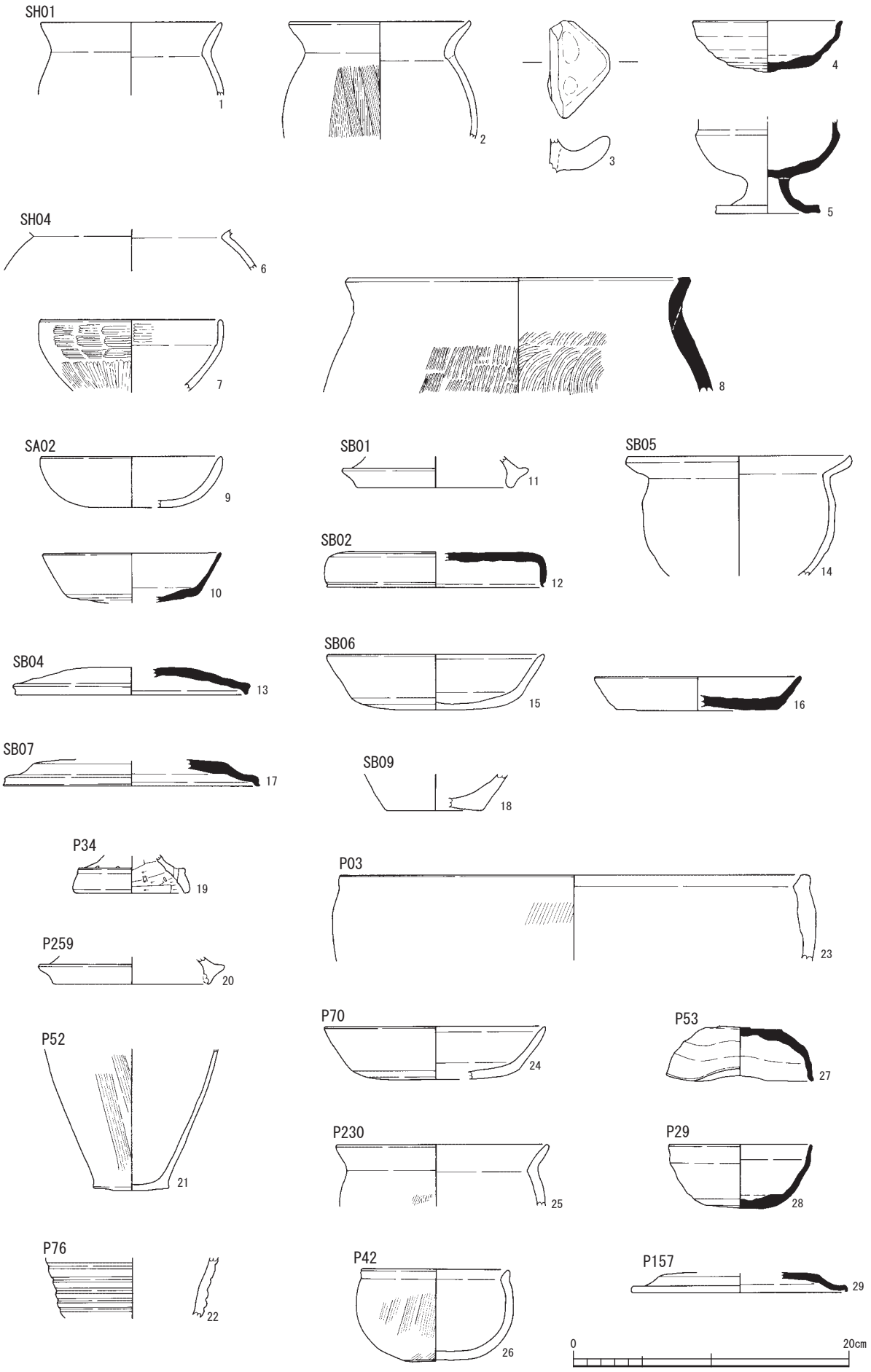
SD05



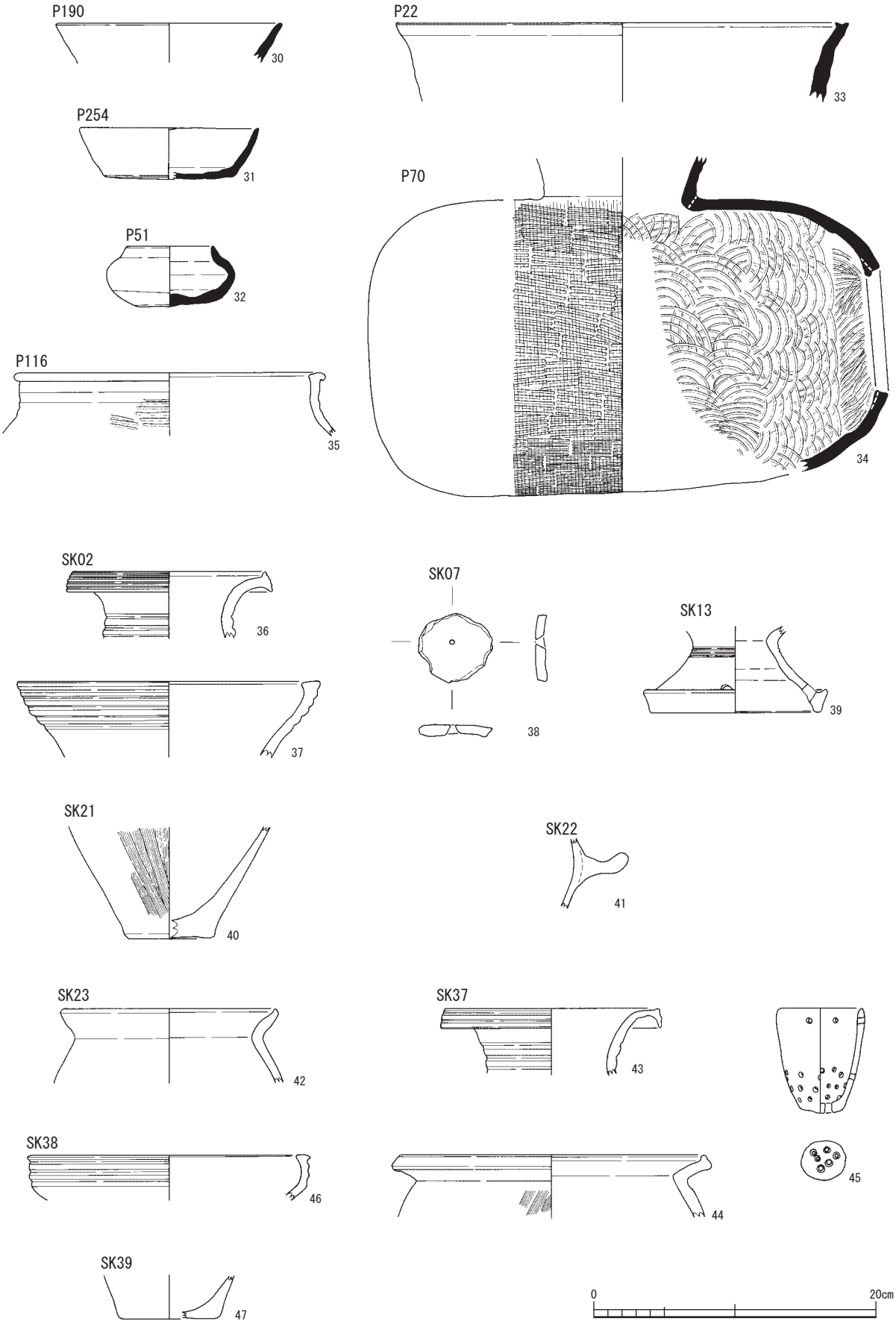
1. 10YR4/3 にぶい黄褐 シルト質極細砂
小礫含む



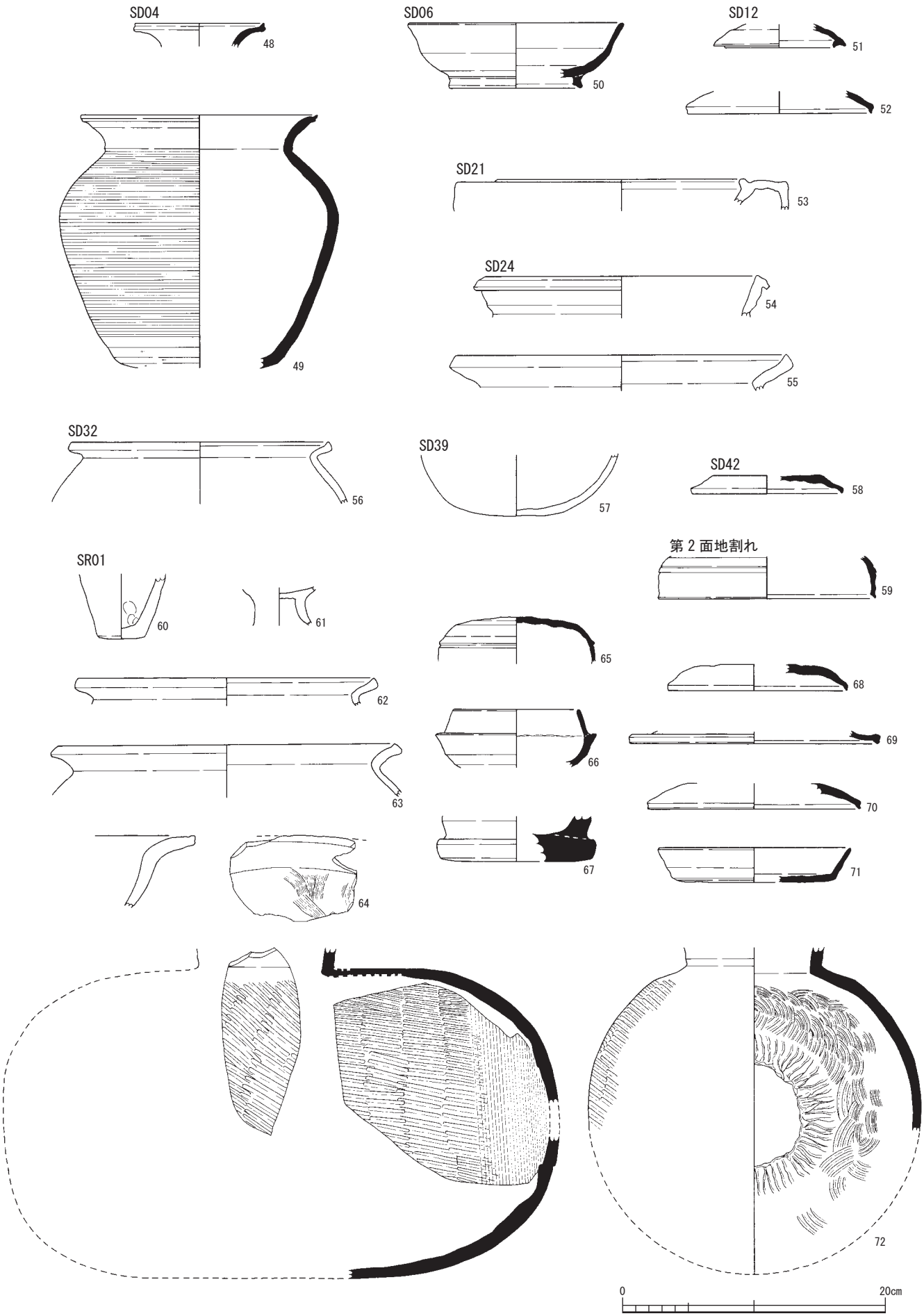
大門畑瀬遺跡　B地区第2面　SD01～05



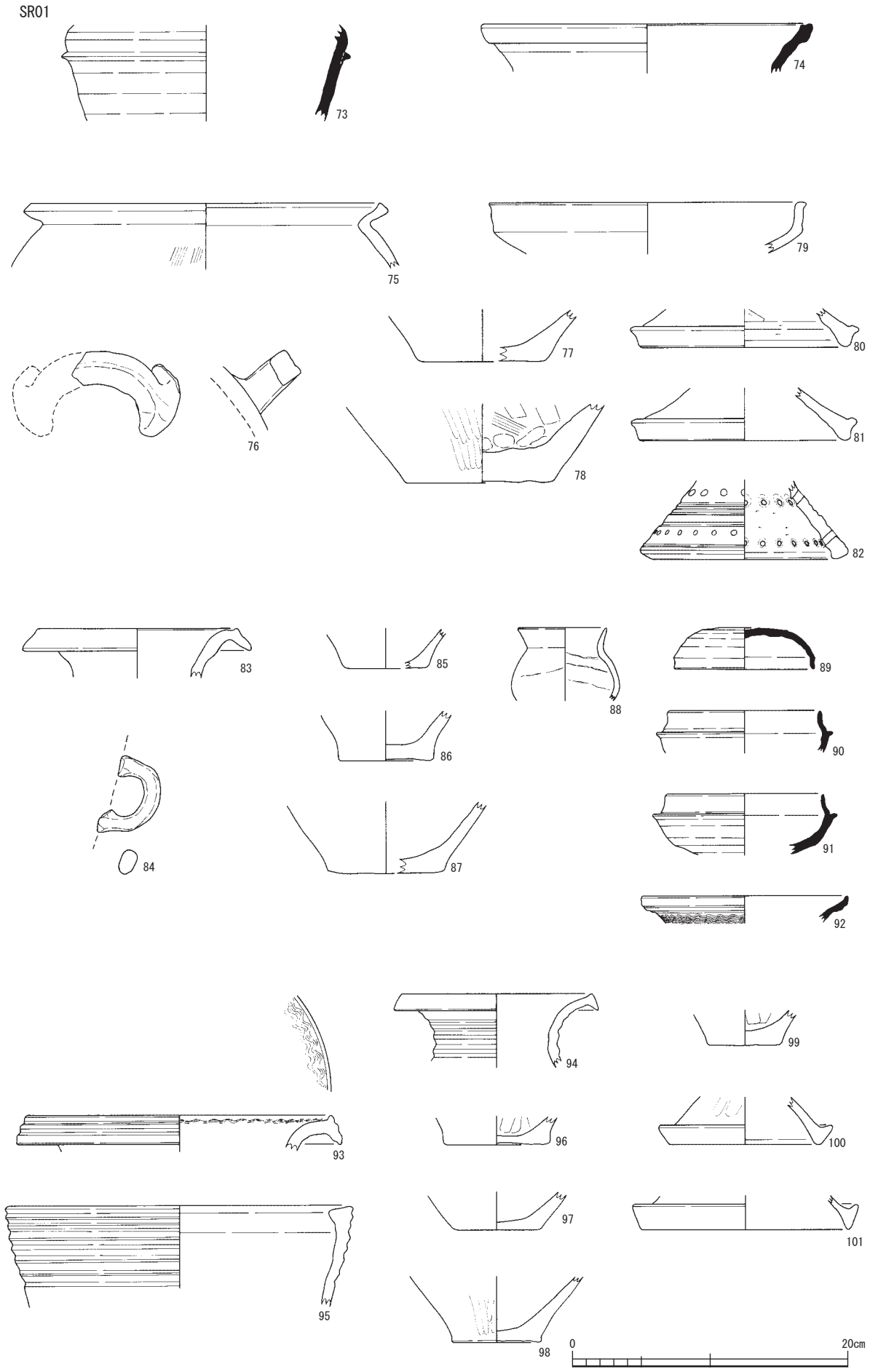
大門畑瀬遺跡　B 地区　土器 1



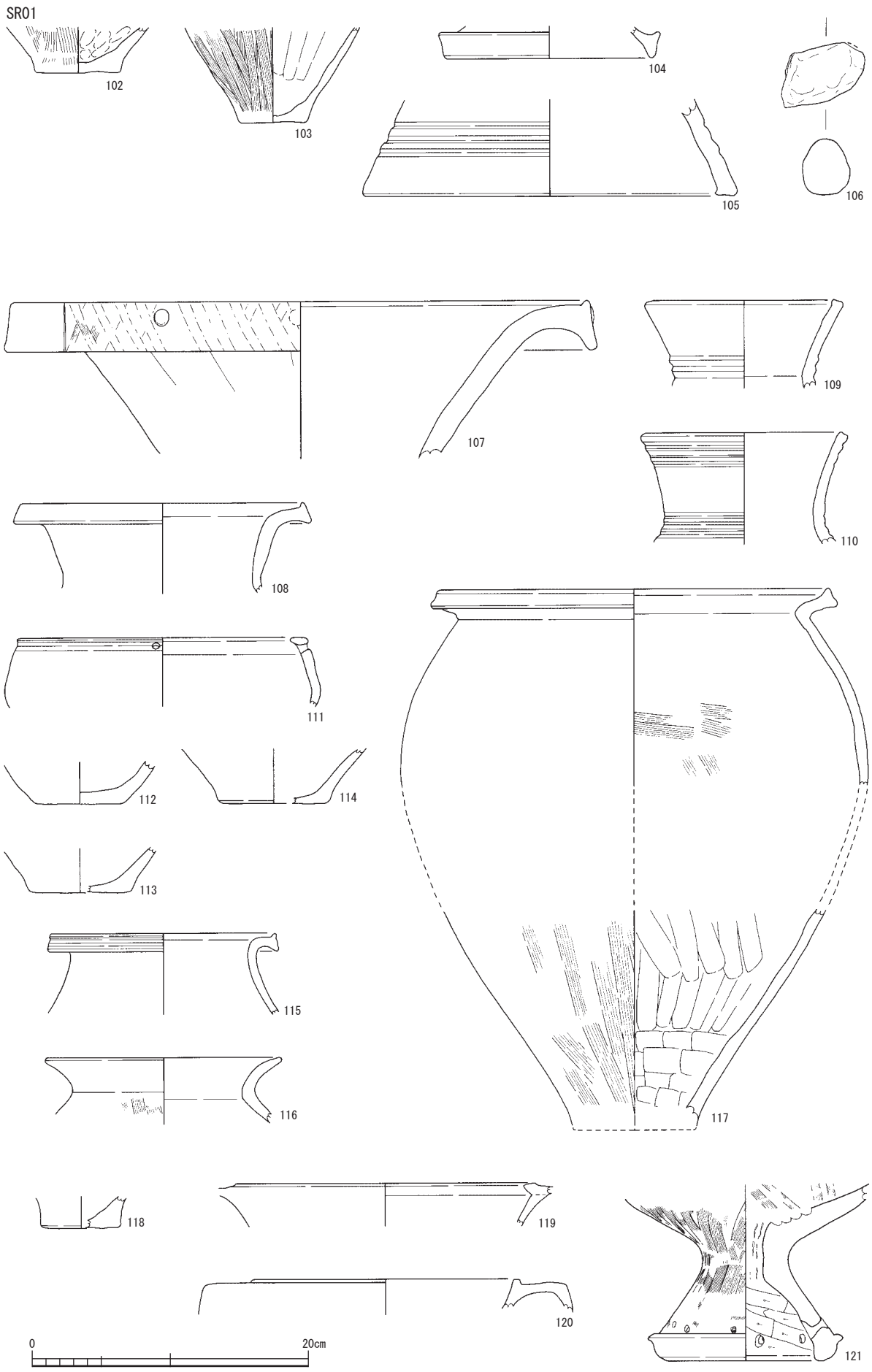
大門畑瀬遺跡　B地区　土器 2



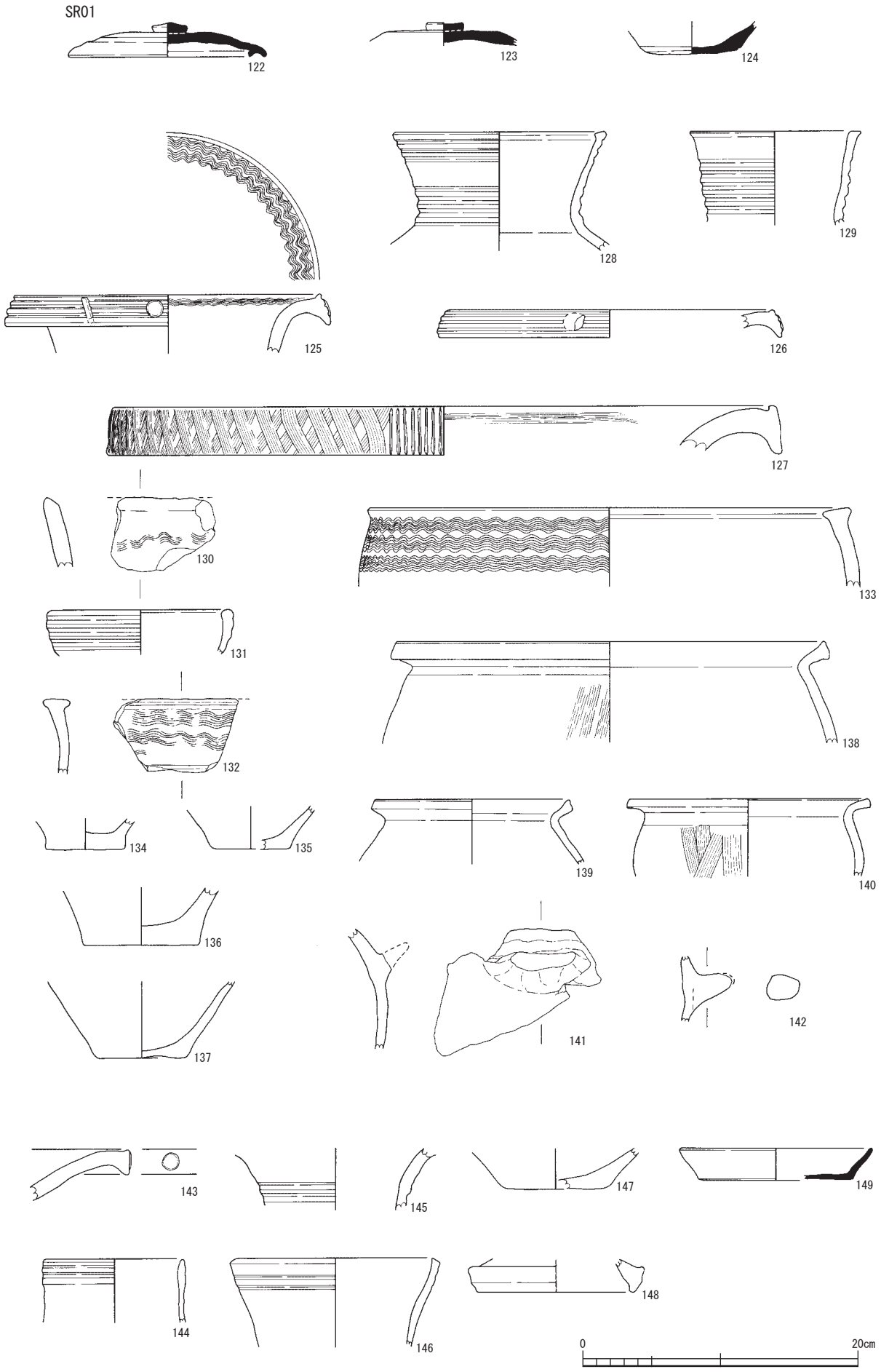
大門畑瀬遺跡　B 地区　土器 3



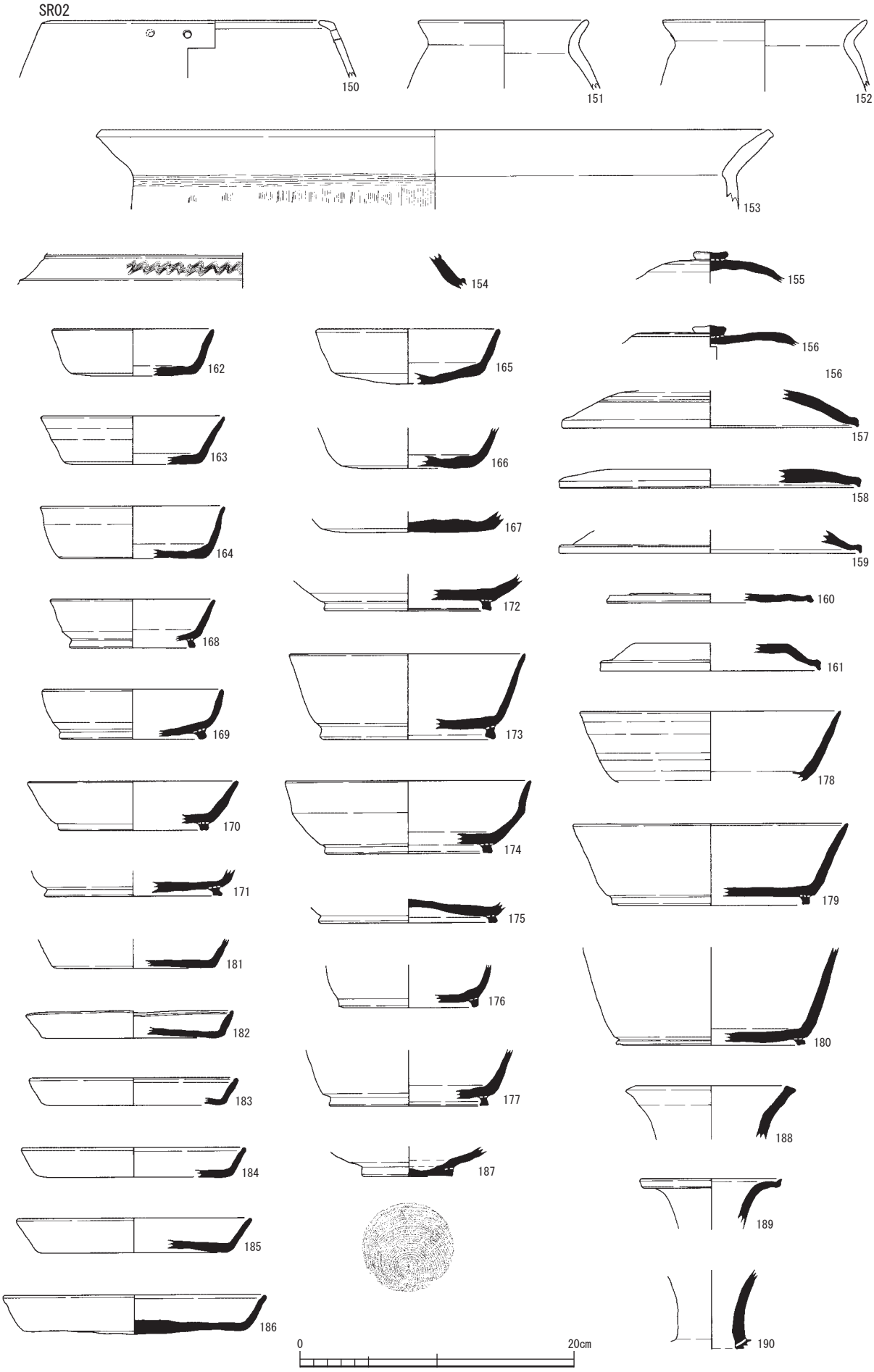
大門畑瀬遺跡　B 地区　土器 4



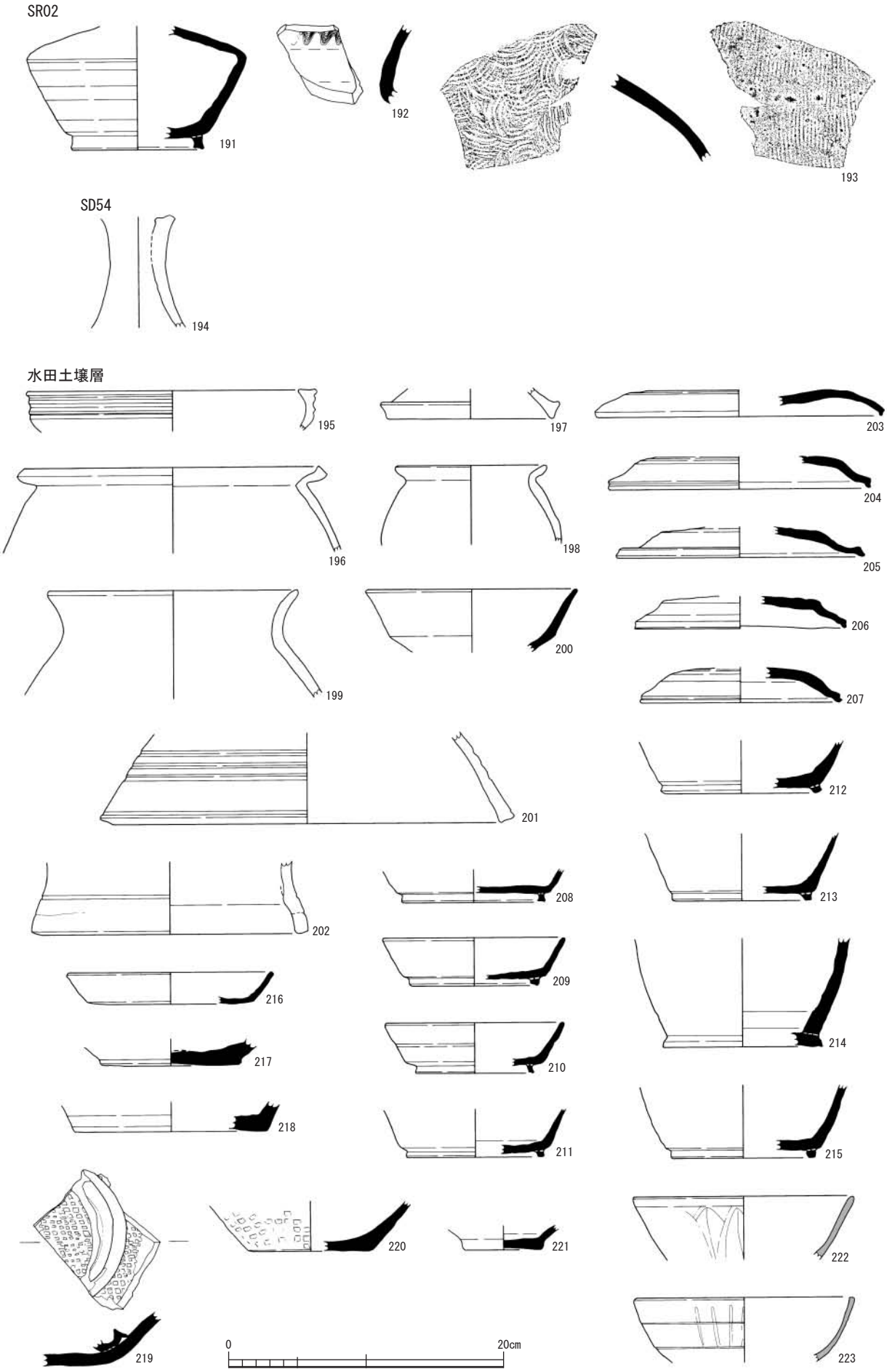
大門畑瀬遺跡　B 地区　土器 5



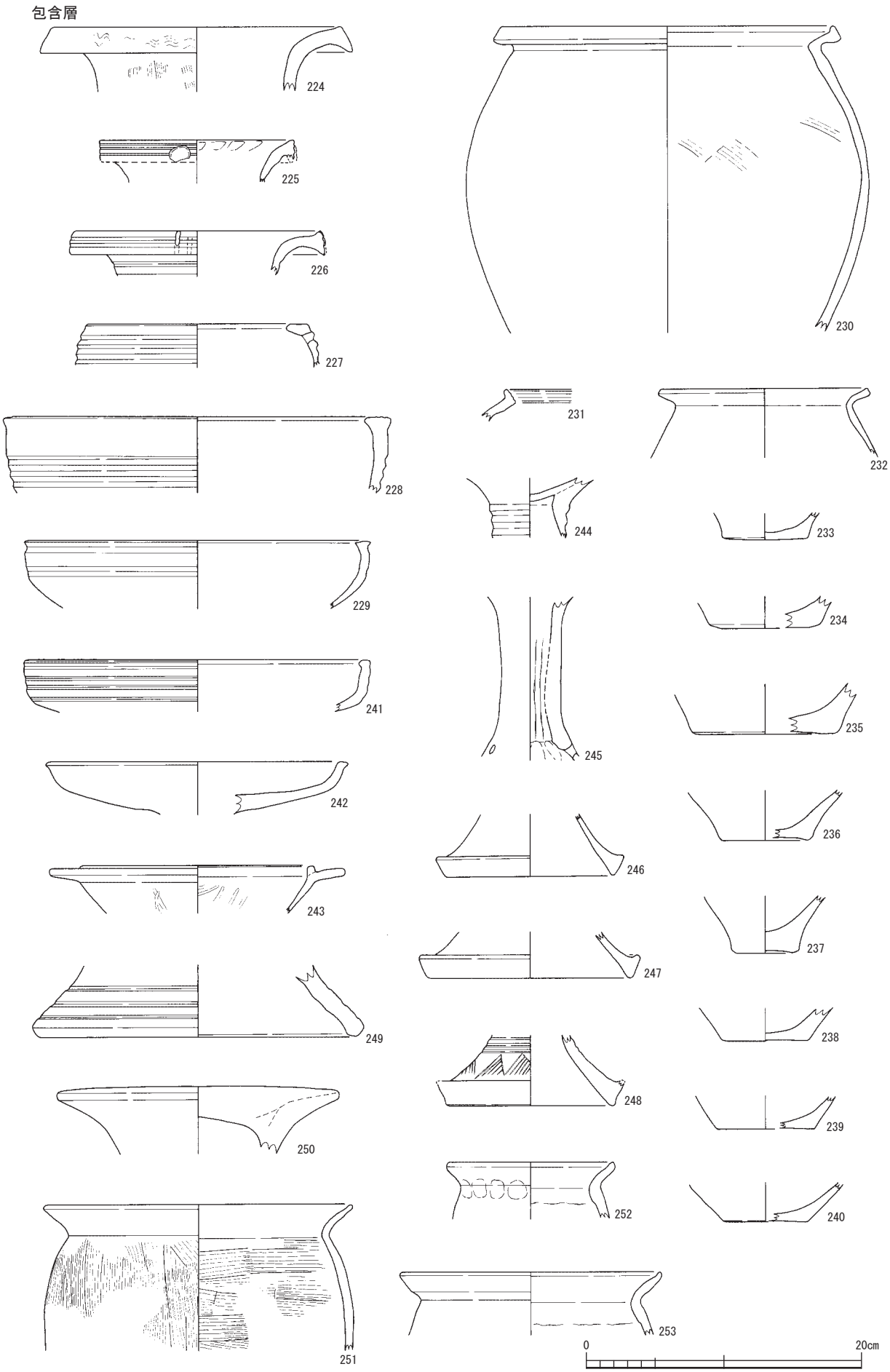
大門畑瀬遺跡　B 地区　土器 6



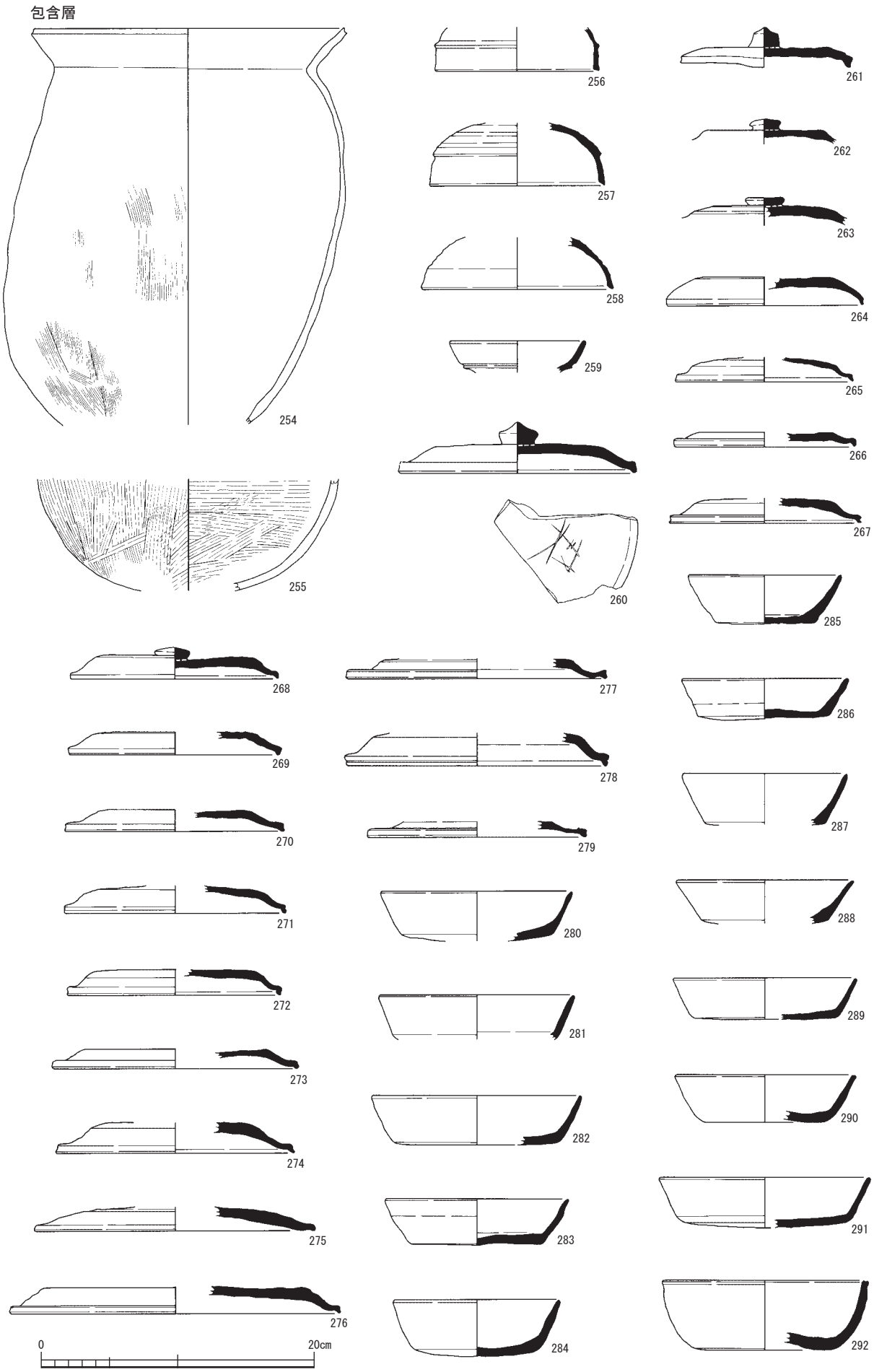
大門畑瀬遺跡　B 地区　土器 7



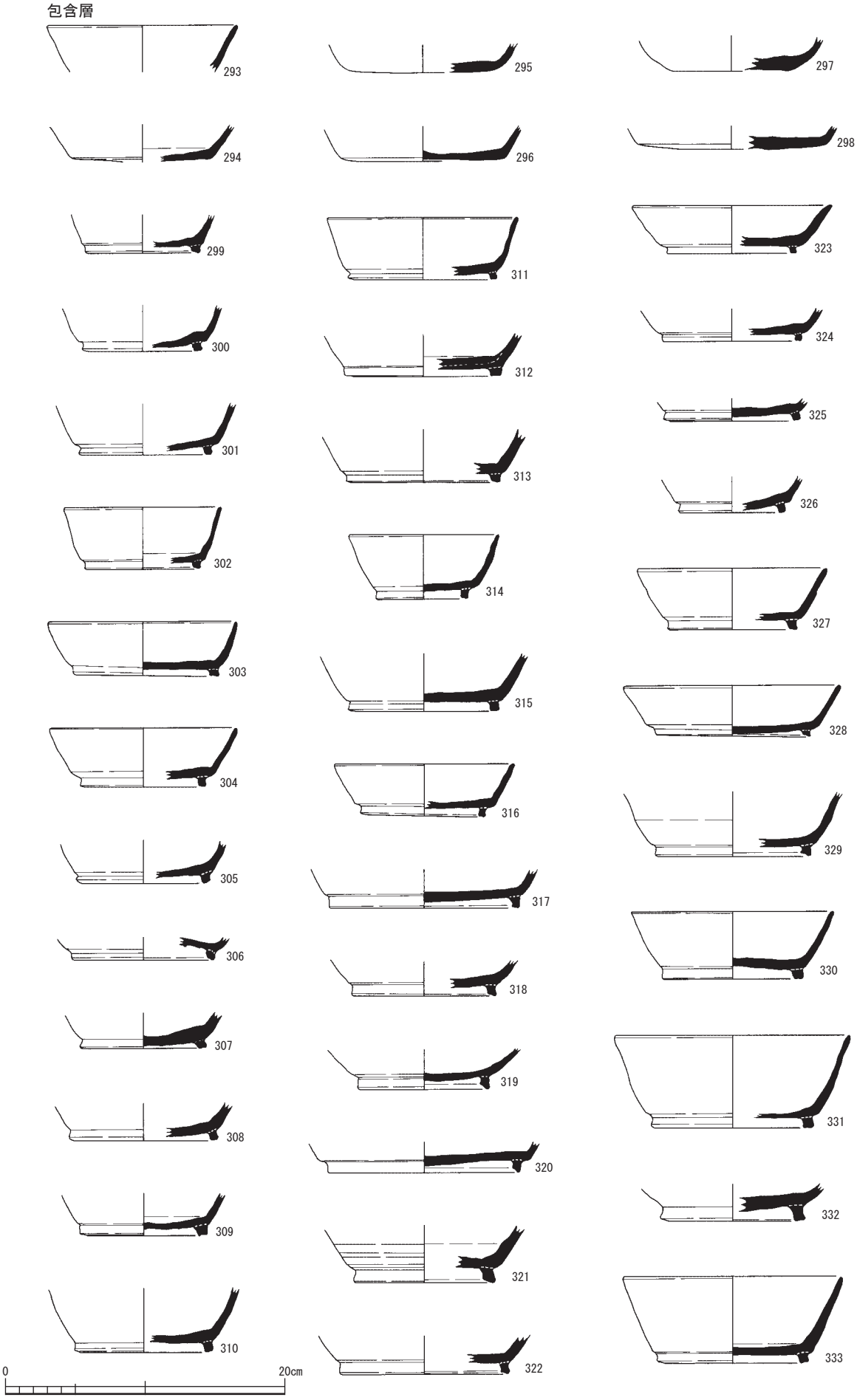
大門畑瀬遺跡　B地区　土器 8



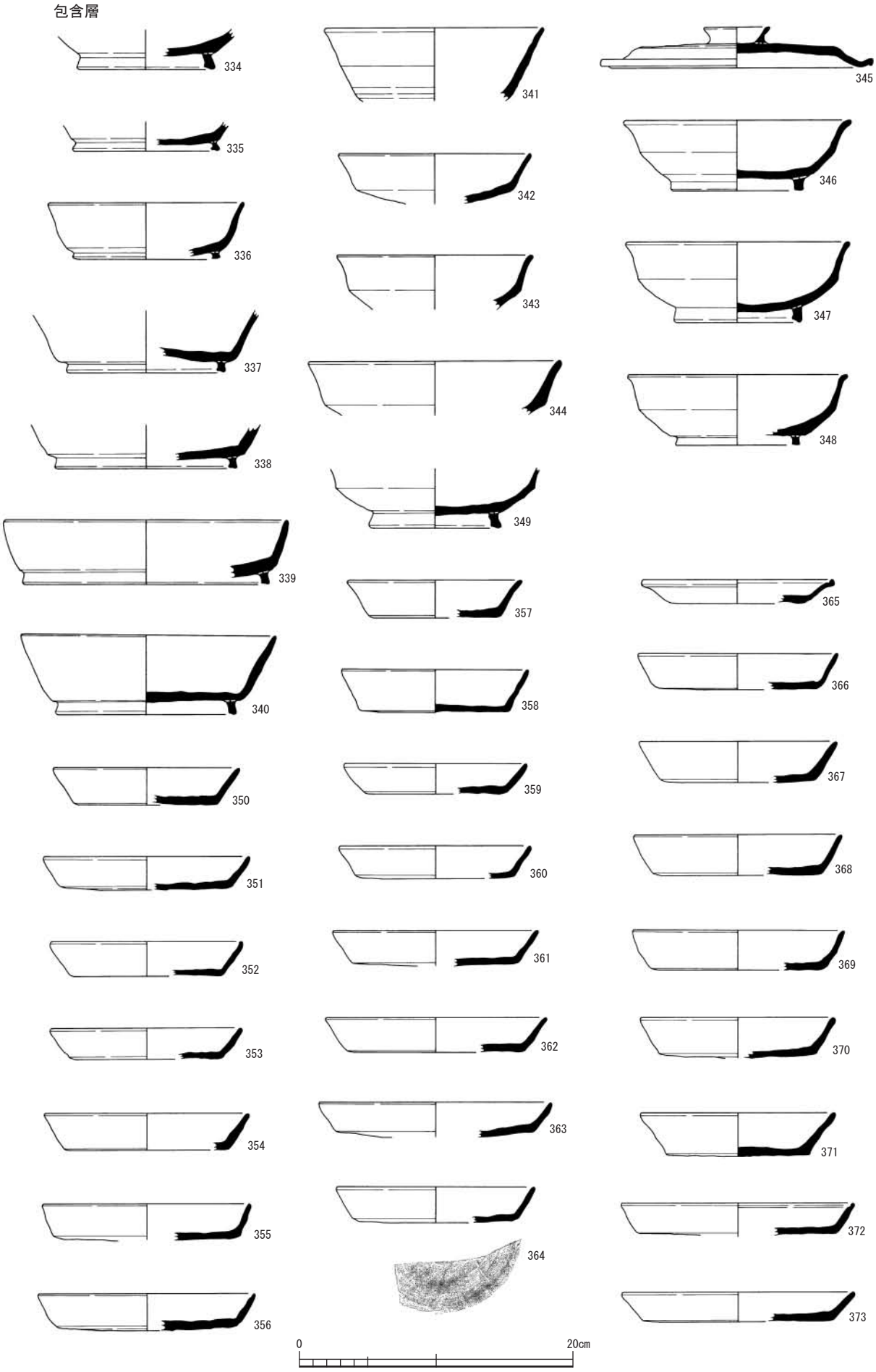
大門畑瀬遺跡　B 地区　土器 9



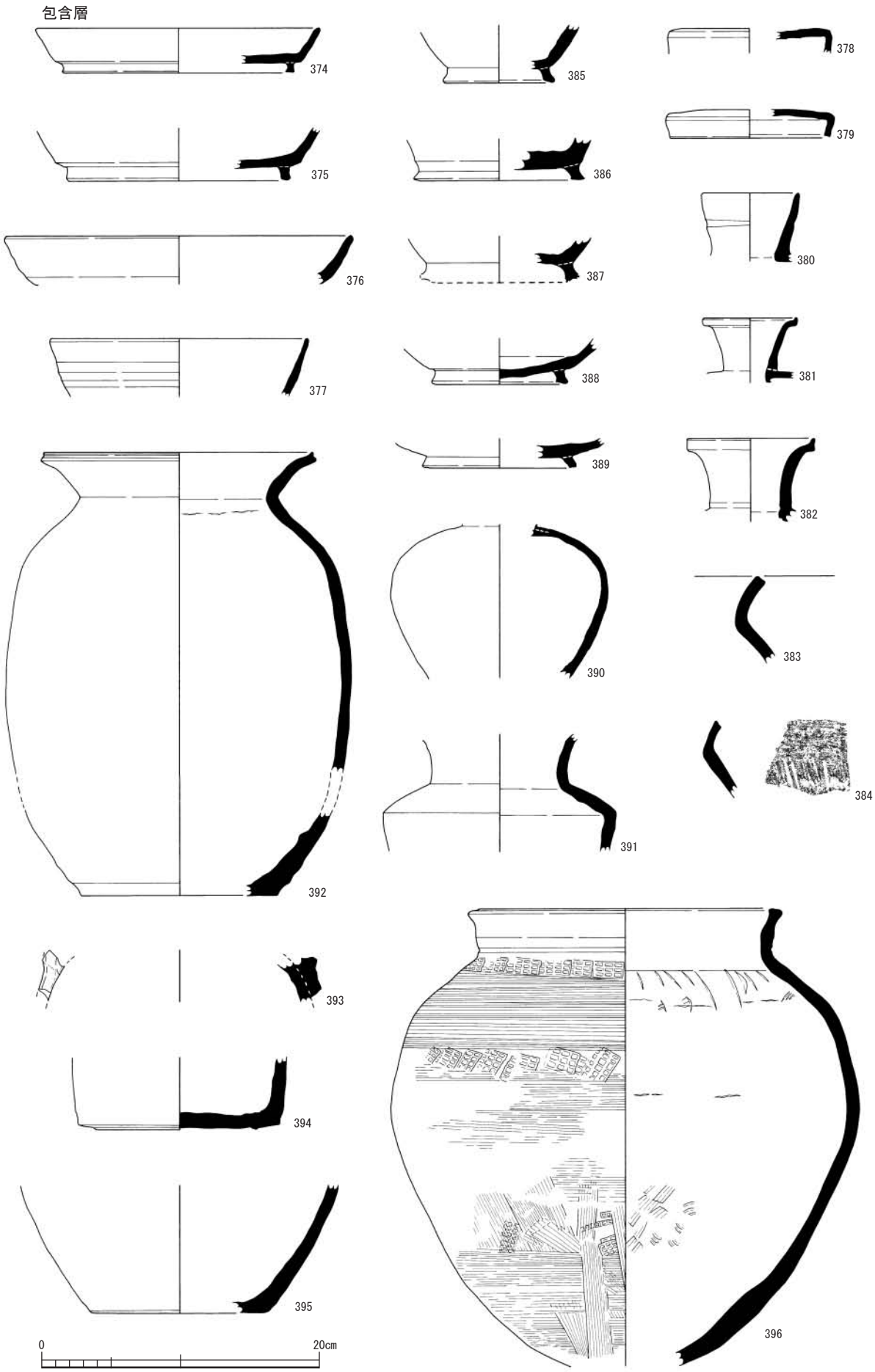
大門畑瀬遺跡　B地区　土器 10



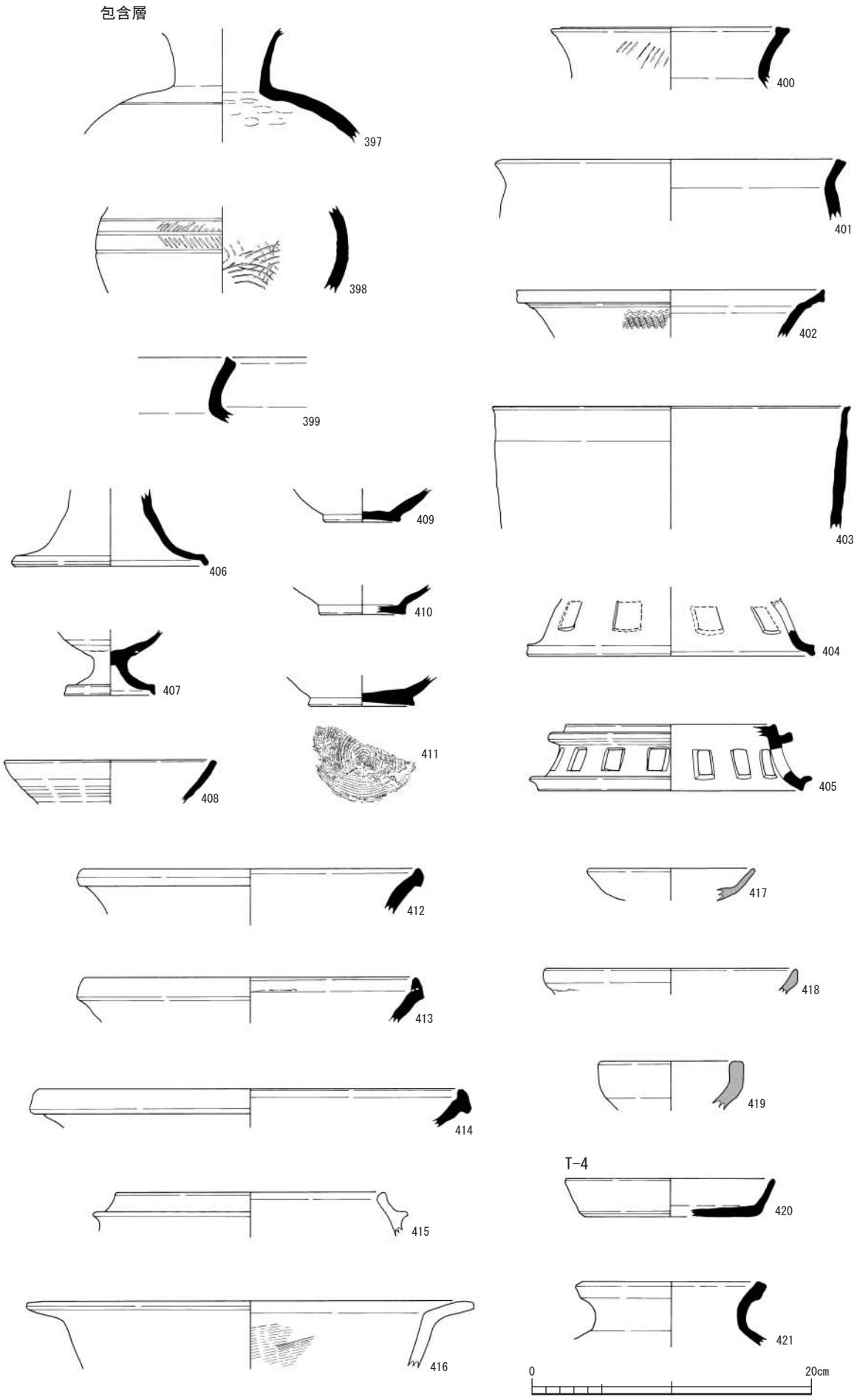
大門畑瀬遺跡　B 地区　土器 11



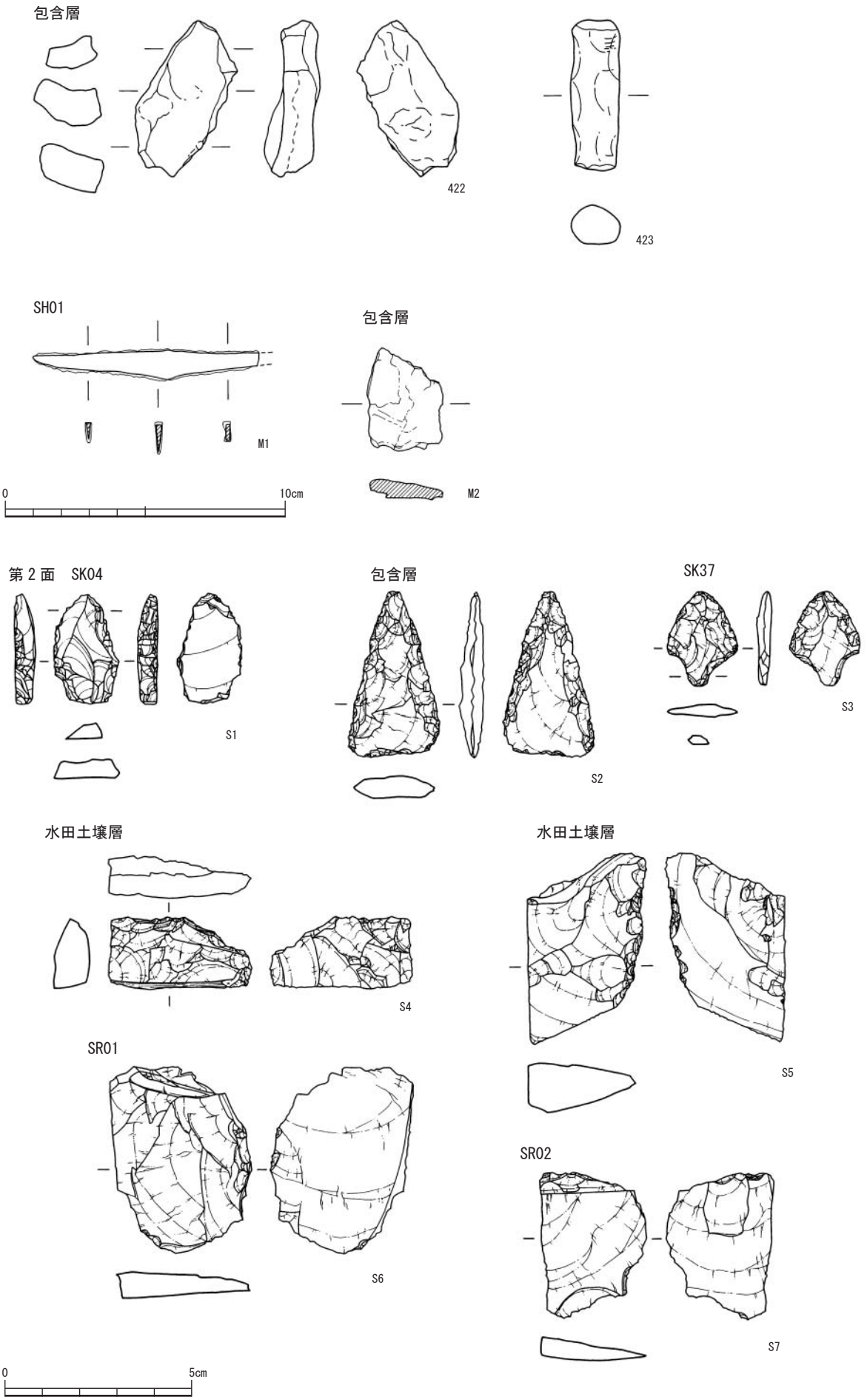
大門畑瀬遺跡　B地区　土器 12



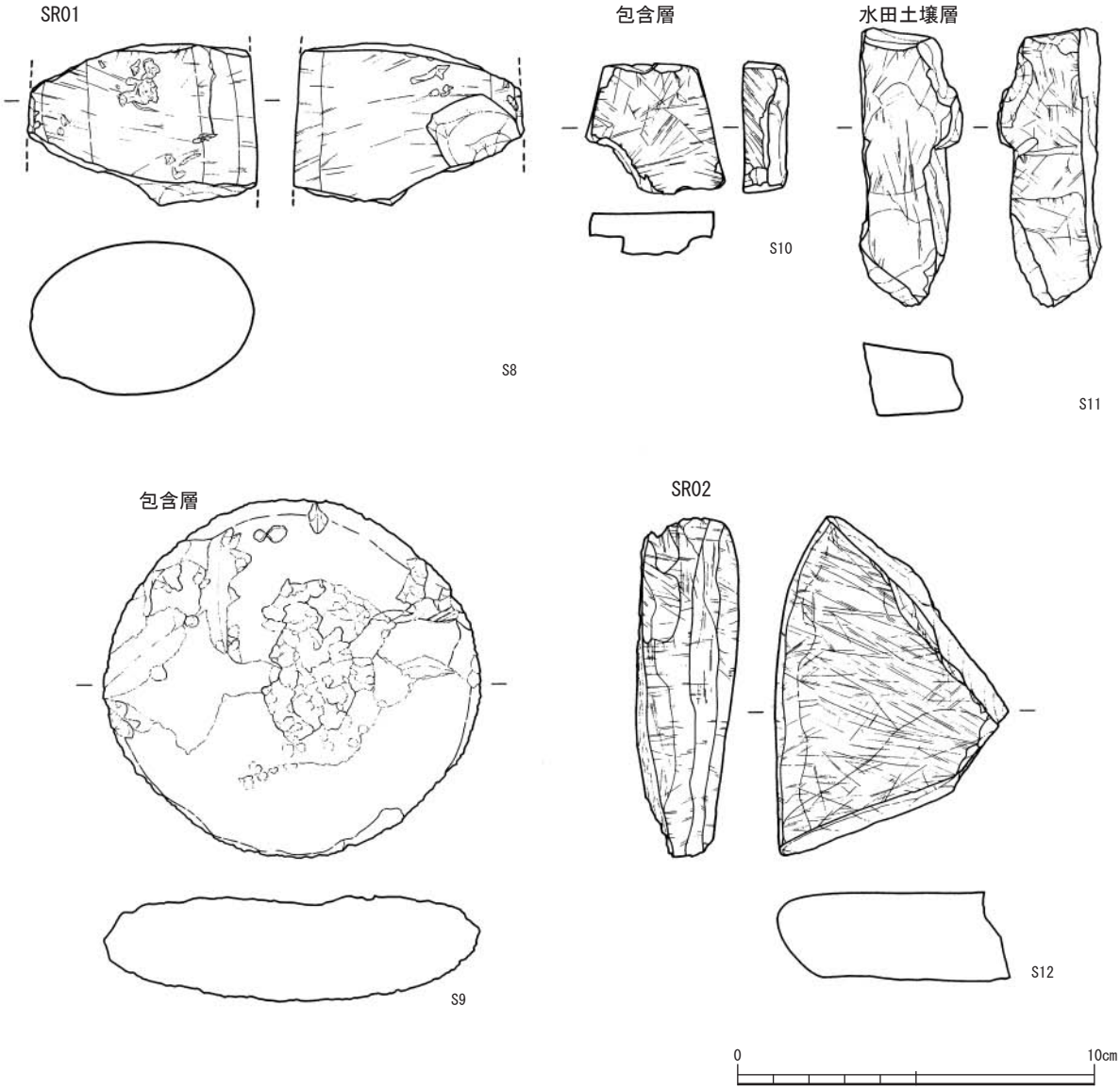
大門畑瀬遺跡　B地区　土器 13

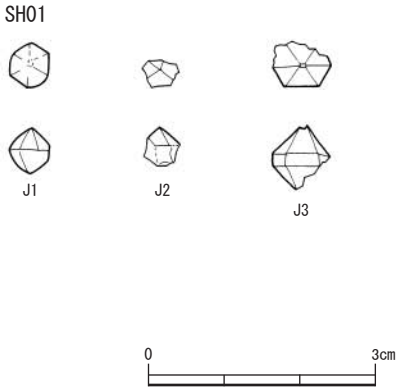


大門畑瀬遺跡　B地区　土器 14

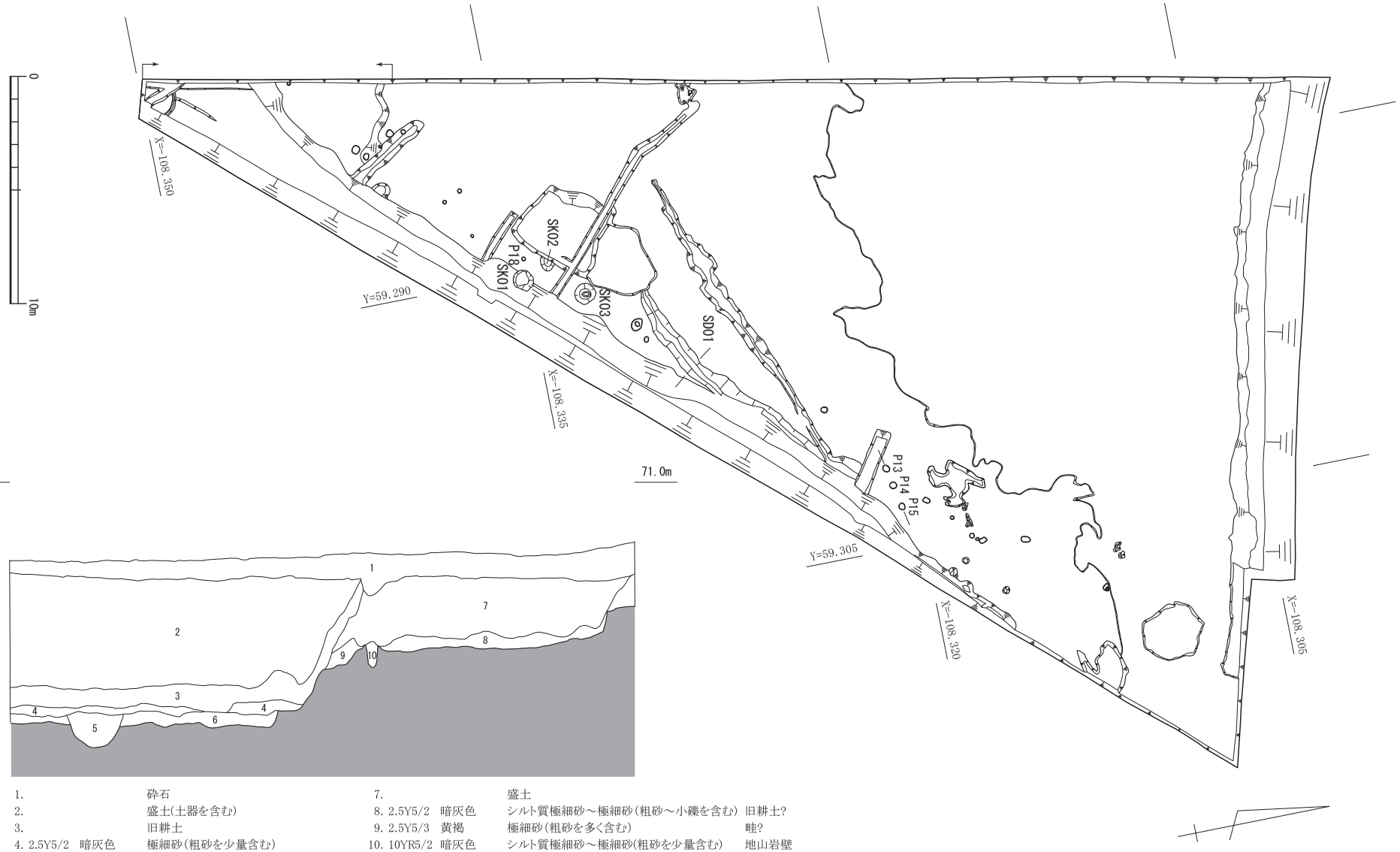


大門畑瀬遺跡　B 地区　土製品・金属器・石器





大門畑瀬遺跡　B地区　石器

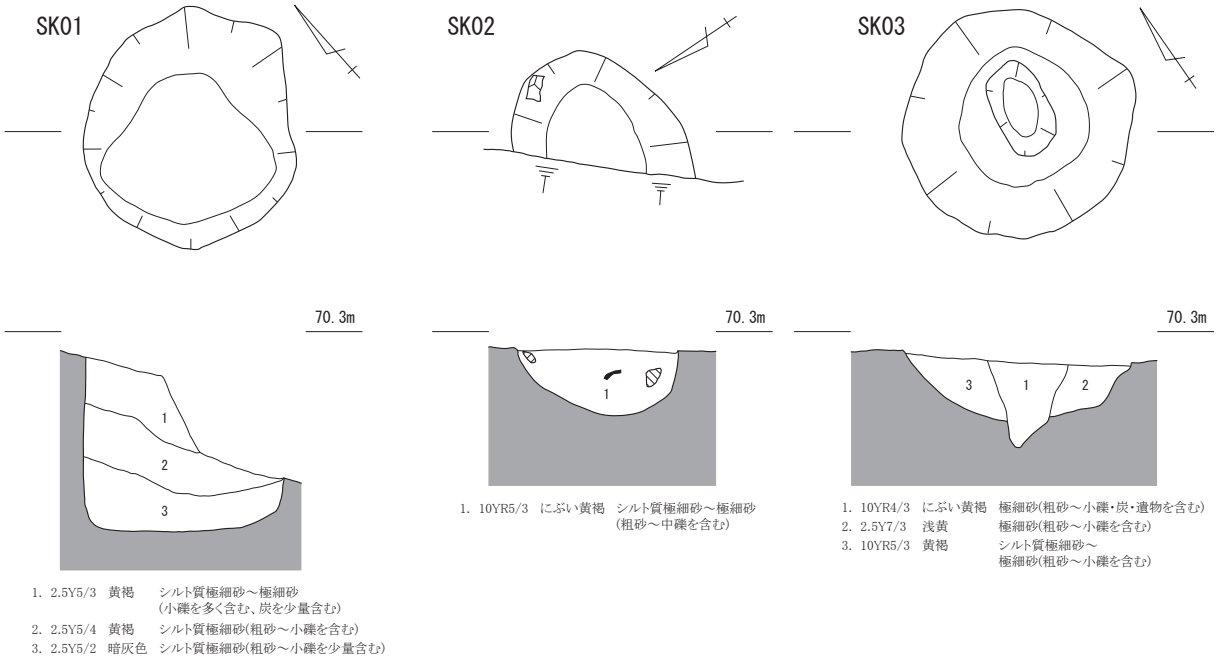


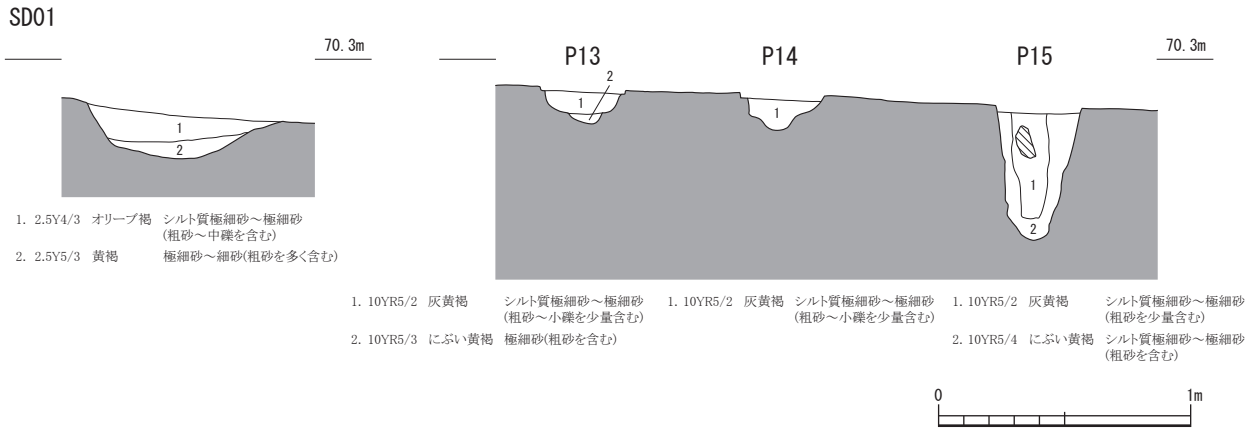
1m
0
5m

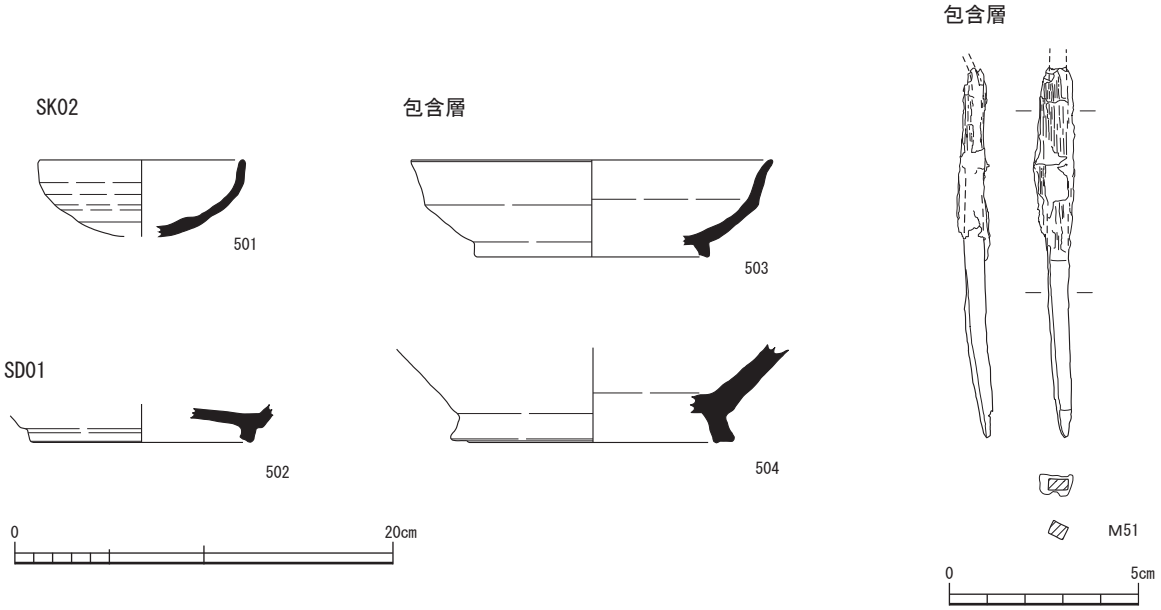
1.		砕石	7.		盛土
2.		盛土(土器を含む)	8. 2.5Y5/2	暗灰色	シルト質極細砂～極細砂(粗砂～小礫を含む) 旧耕土?
3.		旧耕土	9. 2.5Y5/3	黄褐	極細砂(粗砂を多く含む) 畦?
4. 2.5Y5/2	暗灰色	極細砂(粗砂を少量含む)	10. 10YR5/2	暗灰色	シルト質極細砂～極細砂(粗砂を少量含む) 地山岩壁
5.		石入り	11. 2.5Y6/4	にぶい黄褐	極細砂～細砂(粗砂～中礫を含む)
6. 10YR4/1	にぶい黄褐	極細砂～細砂(粗砂～小礫を多く含む)			

大門畑瀬遺跡　C地区　平面図・断面図

大門畑瀬遺跡　C地区

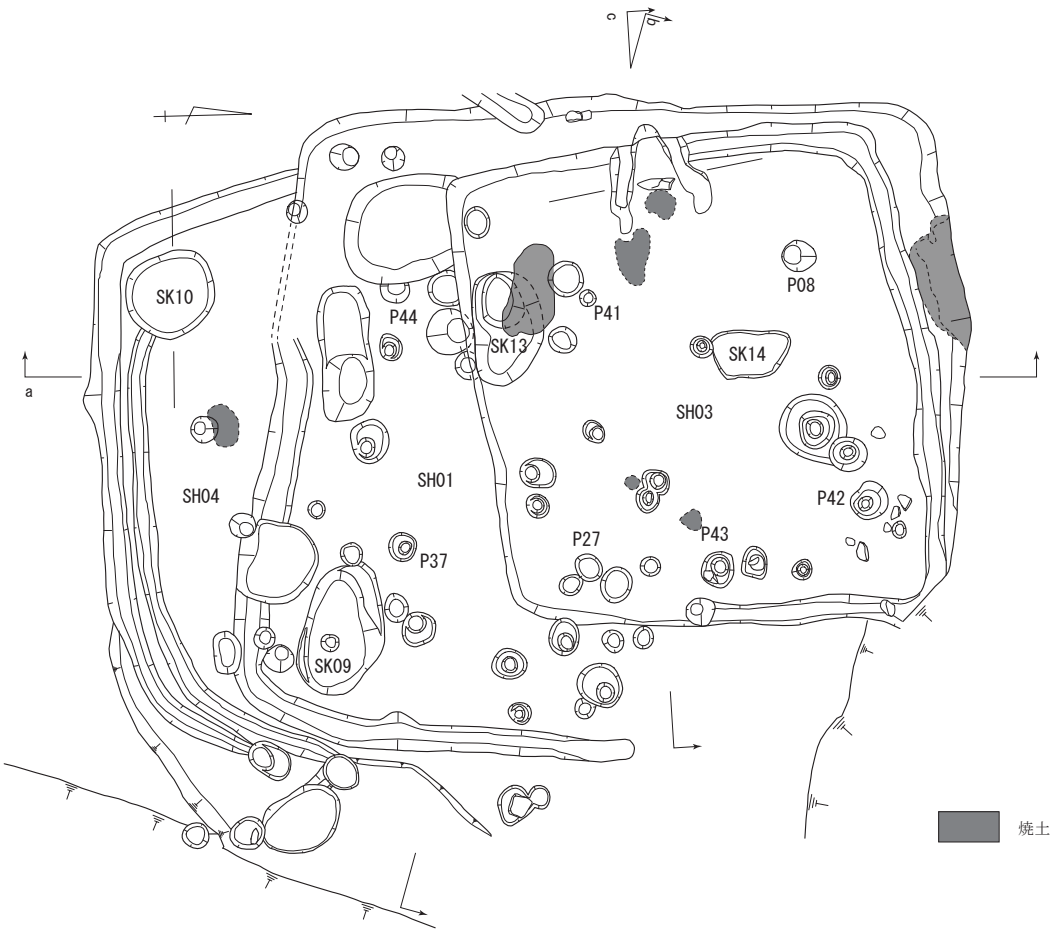


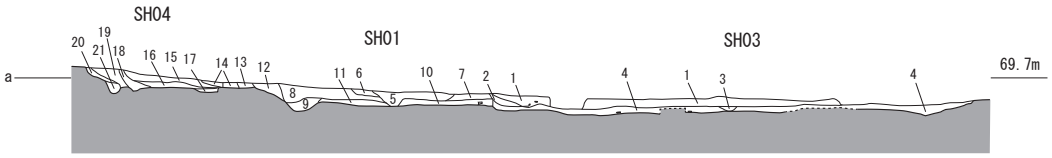




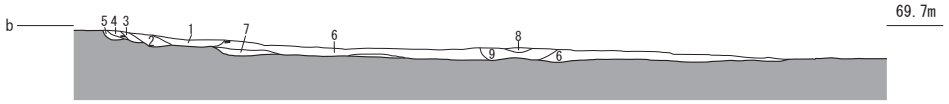
大門畑瀬遺跡　C地区　SK01～03　SD01 P13～15 出土遺物

大門畑瀬遺跡　D 地区　平面図・断面図

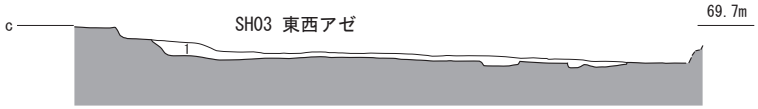




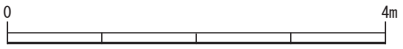
1. 10YR5/4 にぶい黄褐 極細砂～細砂(中砂含む) 小礫・土器片・炭粒含む
2. 10YR4/6 褐 極細砂～細砂(中砂含む) 細礫・炭粒含む
3. 10YR5/4 にぶい黄褐 細砂(中粗砂含む) 細礫含む
4. 10YR5/4 にぶい黄褐 極細砂～細砂(中砂含む) 細礫～小礫含む
5. 10YR4/4 褐 細砂(中砂含む) 小礫・土器片・焼土含む
6. 10YR5/4 にぶい黄褐 細砂(中砂含む) 細礫～小礫 焼土・炭粒わずかに含む
7. 10YR4/3 にぶい黄褐 細砂(中粗砂含む)
8. 10YR4/4 褐 極細砂 細礫～小礫わずかに含む
(ややシルト混じり 中砂含む) 土器片含む わずかに炭粒・焼土含む
9. 10YR5/6 黄褐 極細砂～細砂(中砂含む)
10. 5層に類似
11. 10YR4/3 にぶい黄褐 極細砂～細砂(中粗砂含む) 小礫含む
12. 10YR4/4 褐 極細砂 細礫～小礫わずかに含む
(ややシルト混じり 中砂含む)
13. 10YR4/6 褐 極細砂～細砂(中砂含む) 炭粒・焼土含む
14. 10YR4/6 褐 極細砂～細砂(中砂含む) 炭粒・焼土含む
15. 10YR4/4 褐 極細砂～細砂(中砂含む) 小礫・わずかに焼土・炭粒含む
16. 10YR5/4 にぶい黄褐 細砂(中砂含む)
17. 10YR4/3 にぶい黄褐 細砂(中砂含む) 小礫・炭粒・焼土含む:ピット埋土
18. 10YR5/4 にぶい黄褐 極細砂～細砂(中粗砂含む) 小礫・わずかに焼土含む
19. 10YR4/4 褐 シルト質極細砂(中砂含む) 細礫
20. 10YR4/4 褐 シルト質極細砂(中粗砂含む) わずかに小礫を含む
21. 10YR5/4 にぶい黄褐 極細砂～細砂(中粗砂含む)



1. 10YR4/6 褐 極細砂～細砂(中砂含む) 細礫～小礫・土器粒・炭粒含む
2. 10YR5/4 にぶい黄褐 細砂(中砂含む) 細礫・焼土(カマドの残骸か)ブロック混入
3. 10YR5/4 にぶい黄褐 極細砂～細砂(中砂含む) 焼土ブロック多量に混入 2層と同層か
4. 10YR4/3 にぶい黄褐 細砂(中粗砂含む) 土器含む
5. 10YR5/6 黄褐 極細砂～細砂(中砂含む)
6. 10YR5/4 にぶい黄褐 細砂(中粗砂含む) 細礫～小礫・土器含む
7. 10YR6/4 にぶい黄褐 極細砂～細砂(中細砂含む)
8. 10YR4/4 褐 極細砂～細砂(中砂含む) 小礫わずかに含む 炭粒・土器多量に含む
9. 10YR4/3 にぶい黄褐 極細砂～細砂(中砂含む) 細礫～小礫含む 土器粒・炭粒含む

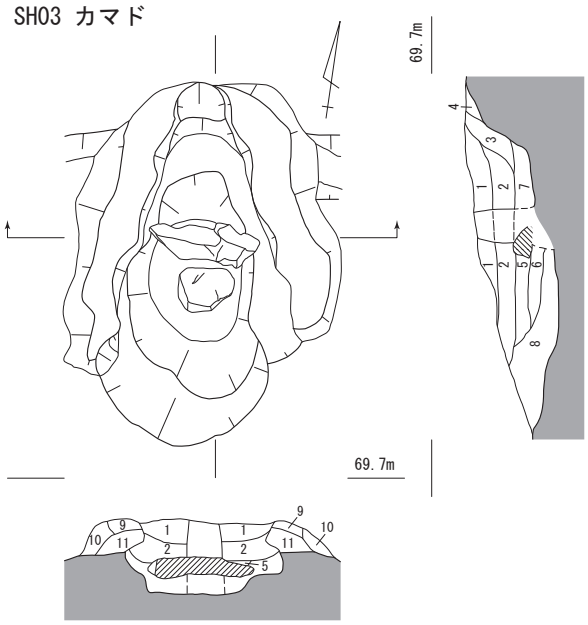


1. 10YR5/4 にぶい黄褐 極細砂～細砂(中砂含む) 細礫～小礫含む



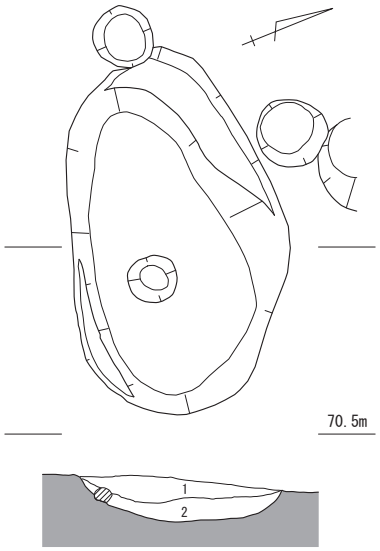
大門畑瀬遺跡 D地区 SH01・03・04

SH03 カマド



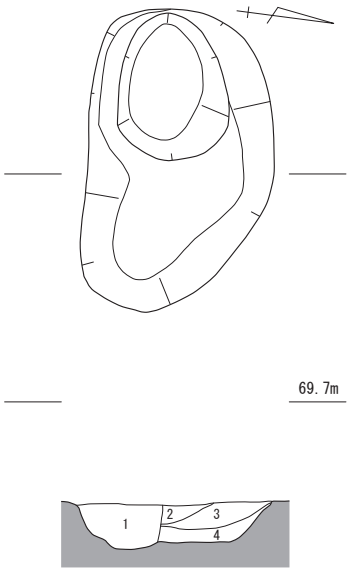
1. 10YR5/8　黄褐　細砂(中粗砂含む) 土器片・炭粒・焼土粒・灰白シルトブロック等含む:カマドの天井壁
2. 10YR4/6　褐　極細砂～細砂(中粗砂含む) 炭・焼土等多量に含む
3. 7.5YR4/4　褐　極細砂～細砂(中砂含む) 焼土・炭粒含む
4. 10YR5/4　にぶい黄褐　極細砂～細砂(中粗砂含む) 小礫含む:SH01の埋土に類似 煙道部付近
5. 5YR5/8　明赤褐　中砂(粗砂含む)細礫～小礫含む:焼土:火床面
6. 10YR5/6　黄褐　細砂(中砂含む)細礫含む
7. 10YR4/6　褐　細砂(中粗砂含む)細礫～小礫含む:焼土混じり
8. 10YR5/4　にぶい黄褐　シルト混細砂(中粗砂含む)
9. 10YR4/6　褐　極細砂～細砂(中粗砂含む)細礫・白色粘土小ブロック・土器片含む　被熱により赤く変色
10. 10YR6/4　にぶい黄橙　極細砂～細砂(中粗砂含む)細礫・白色粘土小ブロック・土器片含む:1層と同一か
11. 7.5YR4/3　褐　極細砂～細砂(中粗砂含む)細礫・白色粘土小ブロックわずか・炭粒含む　被熱により一部赤く変色

SK09



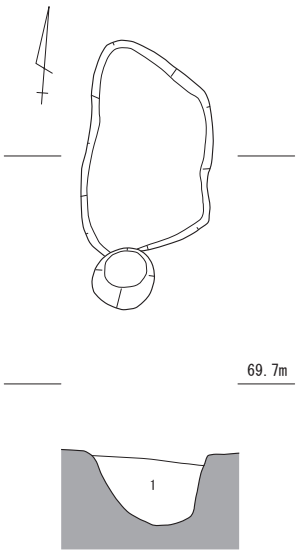
1. 10YR5/4　にぶい黄褐　細砂(中砂含む)
小礫・炭粒・土器片含む
2. 10YR6/3　にぶい黄橙　細砂(ややシルト混じり,中粗砂含む)
小礫含む

SK13(SH03内)



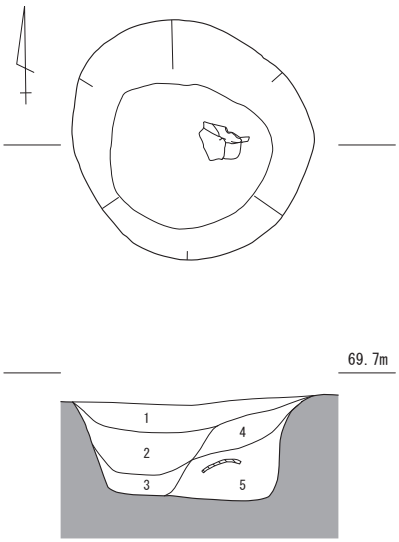
1. 10YR4/3　にぶい黄褐　細砂～中砂(粗砂含む)
小礫・炭粒わずかに含む
2. 2.5Y5/3　黄褐　中砂(粗砂含む)細礫含む
3. 10YR4/4　褐　細砂～中砂(粗砂含む)細礫含む
4. 2.5Y4/2　暗灰黄　細砂(中砂～粗砂含む)細礫含む

SK14(SH03内)



1. 10YR4/4　褐　細砂(中粗砂含む)
小礫・上面に炭粒
わずかに含む

SK10(SH04内)

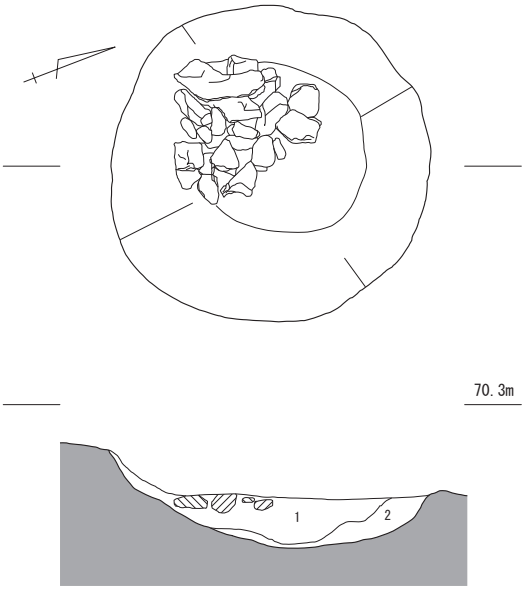


1. 10YR4/4　褐　細砂(中粗砂含む)
細礫～小礫・炭粒・焼土粒含む
2. 10YR5/4　にぶい黄褐　極細砂(中粗砂含む)
細礫・炭粒・焼土粒・土器片含む
3. 10YR4/3　にぶい黄褐　極細砂(ややシルト混じり、中粗砂含む)
炭粒含む
4. 10YR4/6　褐　シルト質極細砂(中砂含む)
細礫・炭粒含む
5. 10YR4/4　褐　シルト質極細砂(中砂含む)土器含む

0　1m

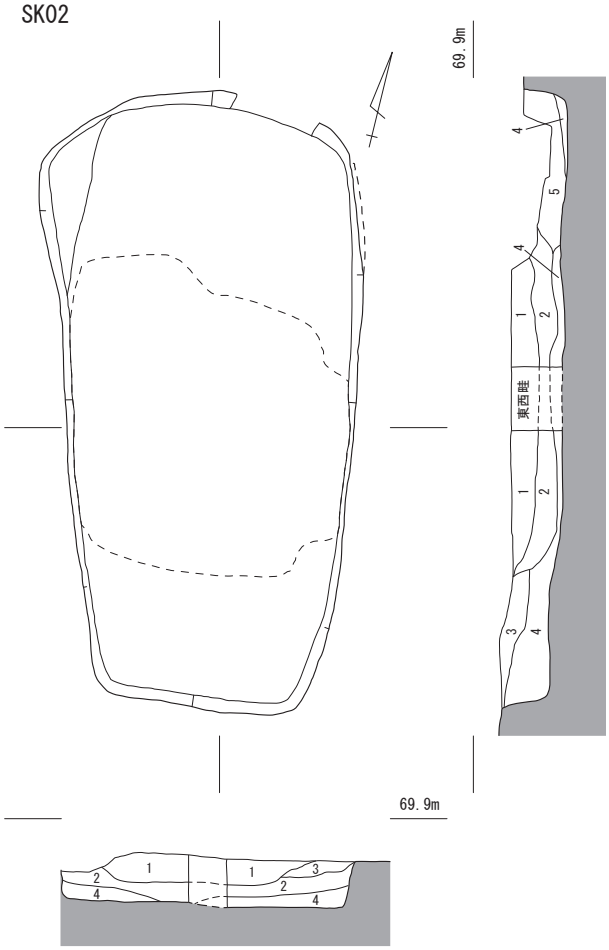
大門畑瀬遺跡　D地区　SH03 カマド・SK09・13・14・10

SK01



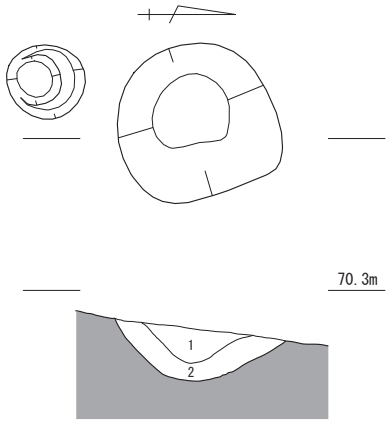
1. 10YR5/4 にぶい黄褐 極細砂(中砂含む) 細礫・中礫など多量に集石
2. 10YR4/6 褐 極細砂(中砂含む) 小礫

SK02



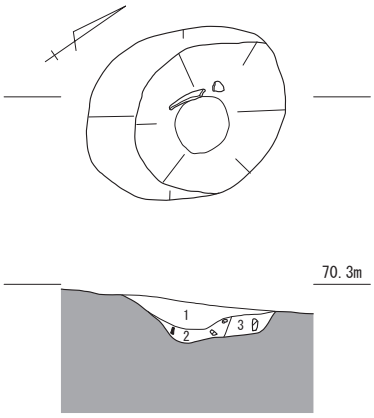
1. 10YR4/4 褐 細砂(中粗砂含む) わずかに焼土・炭粒混入
2. 10YR3/3 暗褐 シルト質極細砂(中砂含む) 炭粒多量・焼土含む
3. 10YR3/4 暗褐 極細砂～細砂(中砂含む) 細礫・わずかに炭粒混入
4. 10YR4/4 褐 極細砂～細砂(中砂含む) 細礫含む
5. 10YR3/2 黒褐 シルト質極細砂(中砂含む) 炭粒・焼土含む

SK03



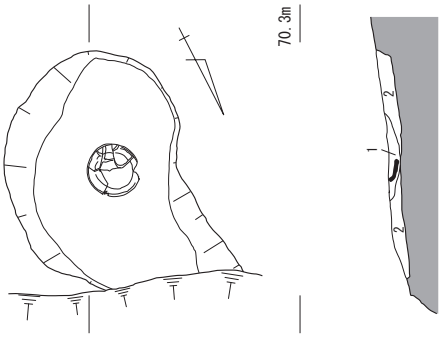
1. 10YR6/6 明黄褐 極細砂(中粗砂含む) 細礫・中礫わずかに含む
2. 10YR5/4 にぶい黄褐 極細砂(ややシルト混、中砂含む) 細礫含む

SK04



1. 10YR5/4 にぶい黄褐 シルト混極細砂(中粗砂含む) 細礫含む
2. 10YR4/6 褐 シルト混極細砂(中粗砂含む) 小礫・土器片含む
3. 10YR5/6 黄褐 シルト混極細砂(中砂含む) 小礫含む

SK06

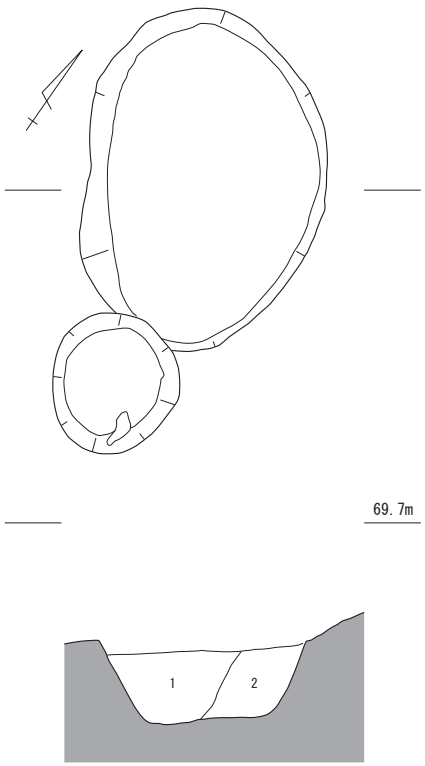


1. 7.5YR4/6 褐 極細砂～細砂(中砂含む) 小礫・焼土・炭粒多量に含む 須恵器蓋含む
2. 10YR4/4 褐 極細砂～細砂(中砂含む)

0 1m

大門畑瀬遺跡 D地区 SK01～04・06

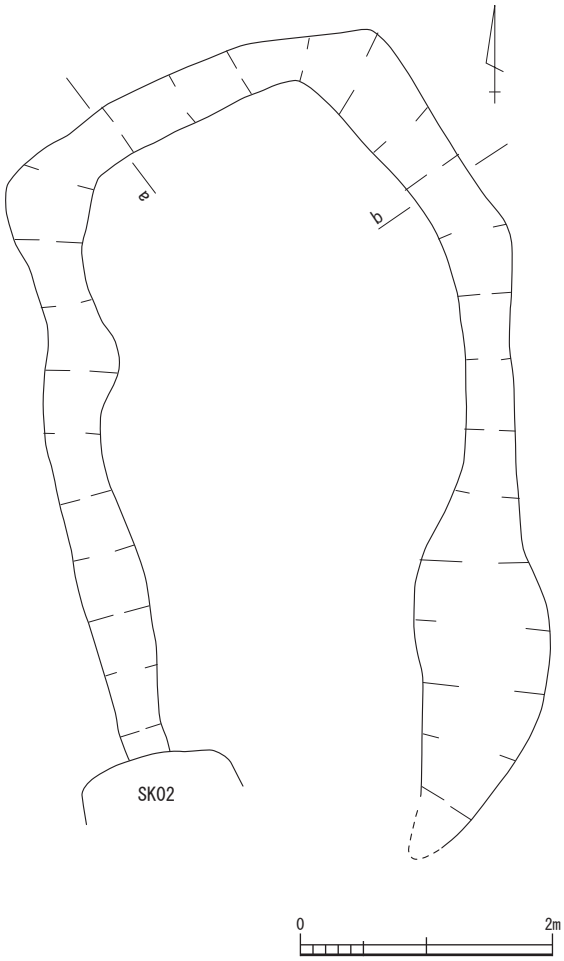
SK08



1. 10YR5/4 にぶい黄褐 極細砂(ややシルト混じり中粗砂含む) 炭粒・小礫含む
2. 10YR4/4 褐 極細砂～細砂(中砂含む) 細礫・焼土粒含む

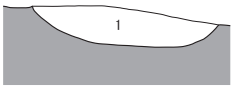
0 1m

SD01

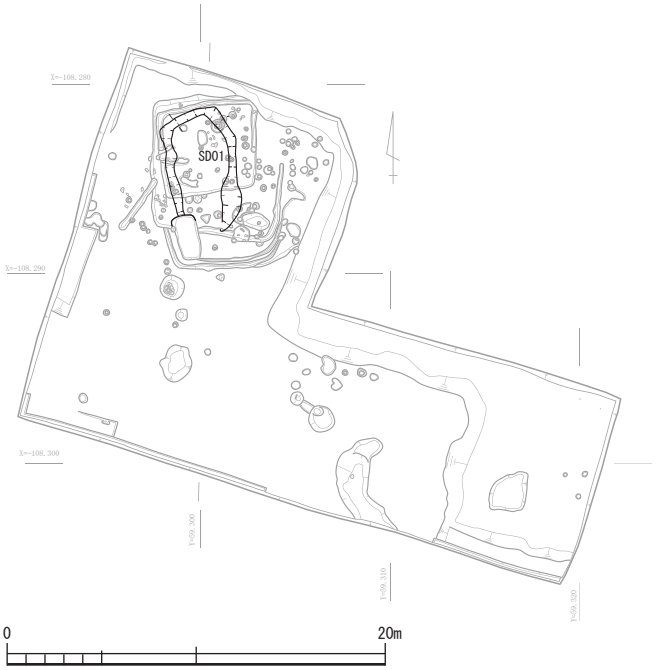


SD01

a

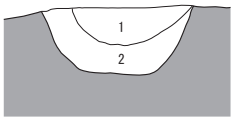


1. 10YR5/4 にぶい黄褐 極細砂～細砂(ややシルト混中砂含む)
炭粒・土器片含む



SD01

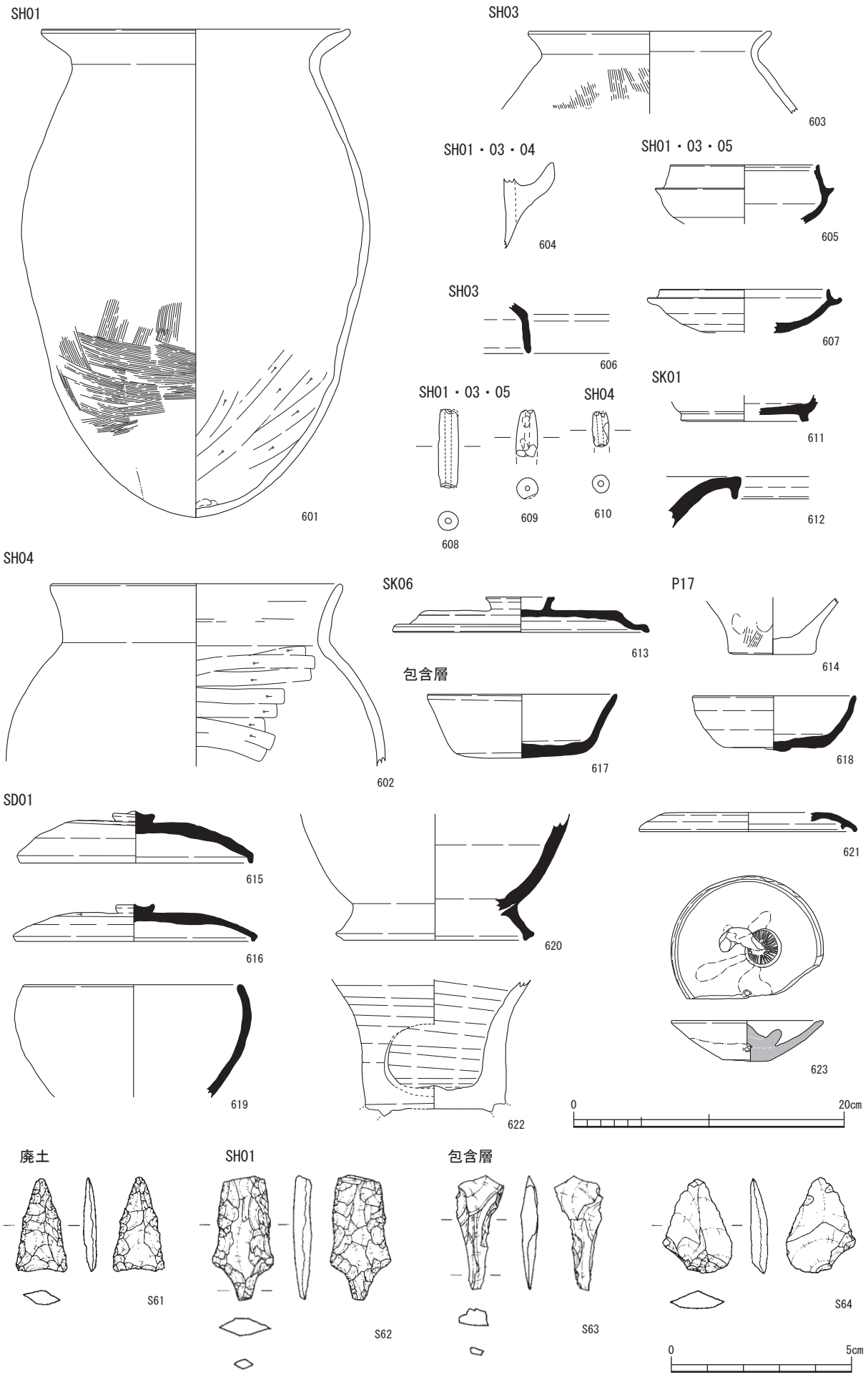
b



1. 10YR4/3 にぶい黄褐 細砂(中砂含む) 細礫～小礫・炭粒含む
2. 10YR3/4 暗褐 細砂(中砂含む) 細礫～小礫含む

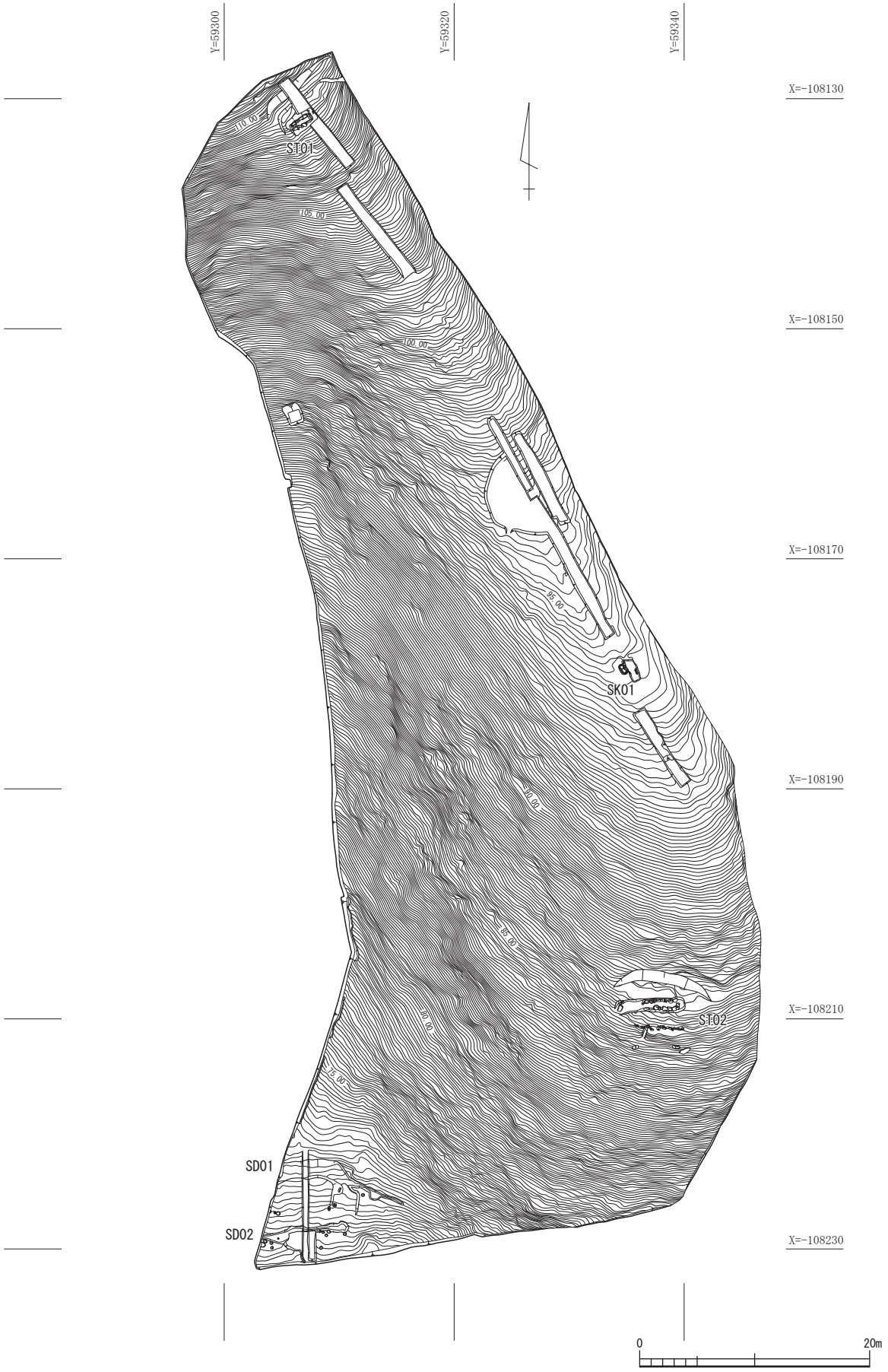
0 1m

大門畑瀬遺跡 D地区 SK08・SD01

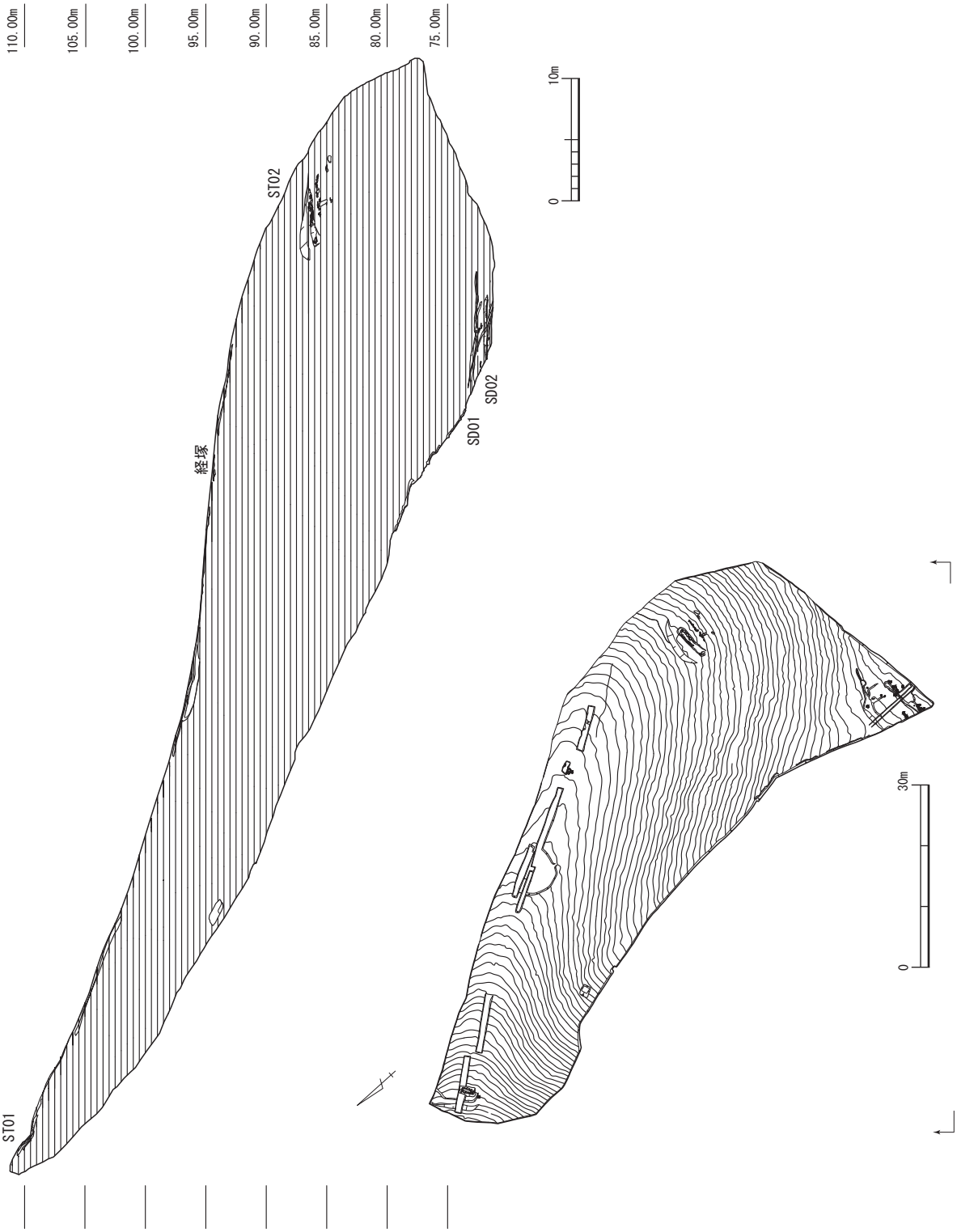


大門畑瀬遺跡　D 地区　土器・石器

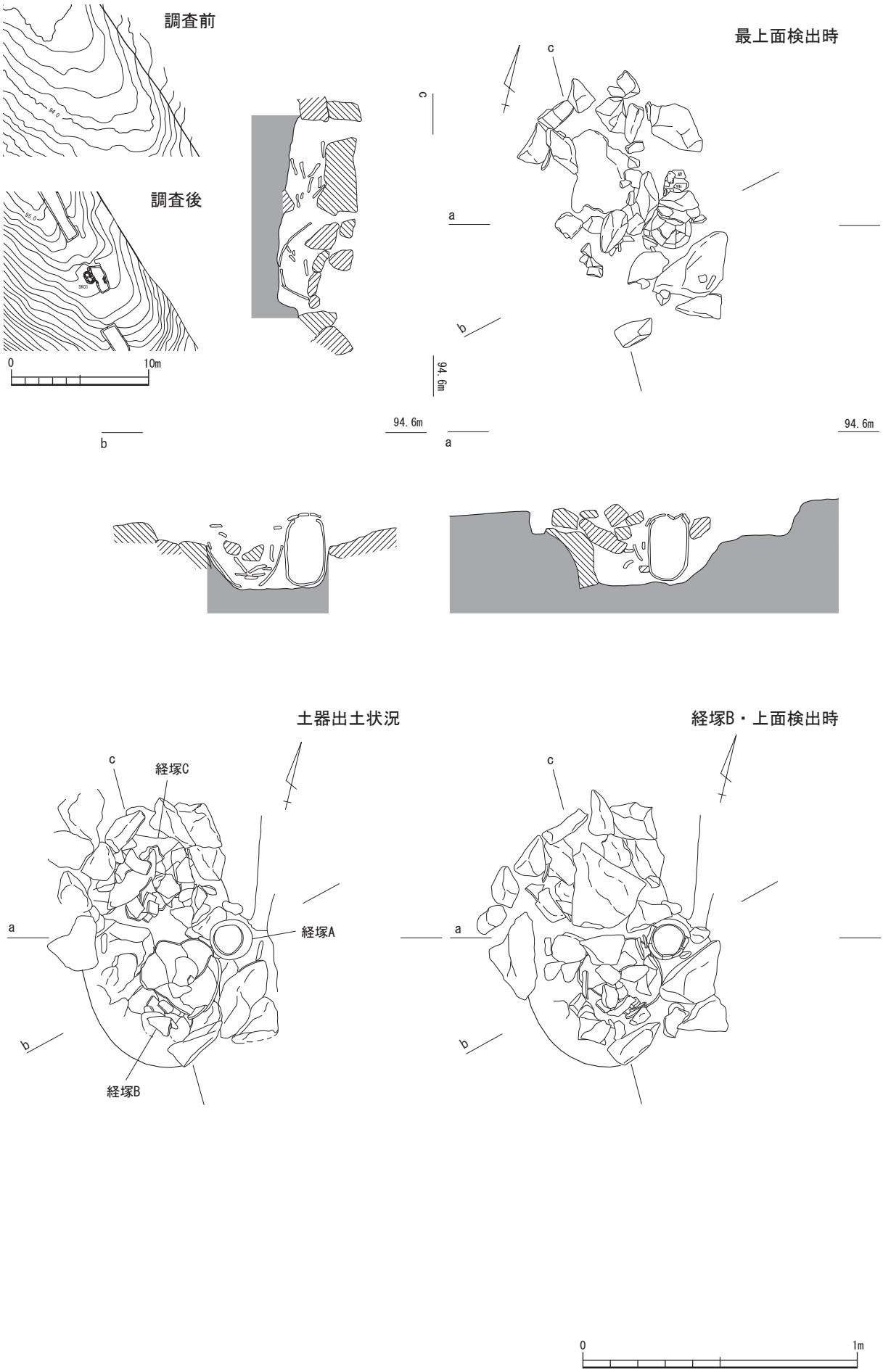
大伏北山遺跡　調査前地形図


Y=59300
Y=59320
Y=59340
X=-108130
X=-108150
X=-108170
X=-108190
X=-108210
X=-108230
ST01
SK01
ST02
SD01
SD02
110.00
105.00
100.00
95.00
90.00
85.00
80.00
75.00
0
20m

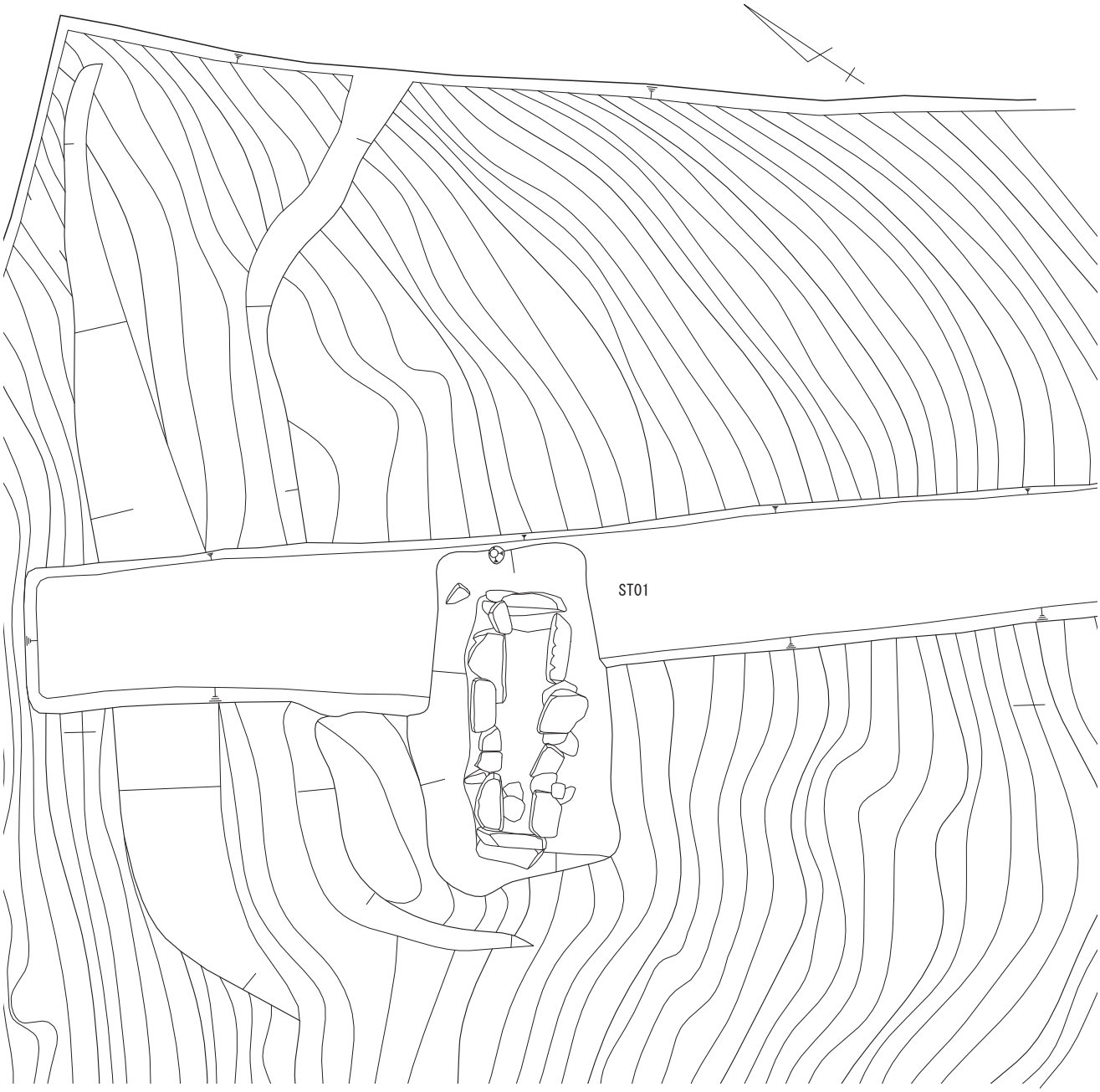
大伏北山遺跡　全体図

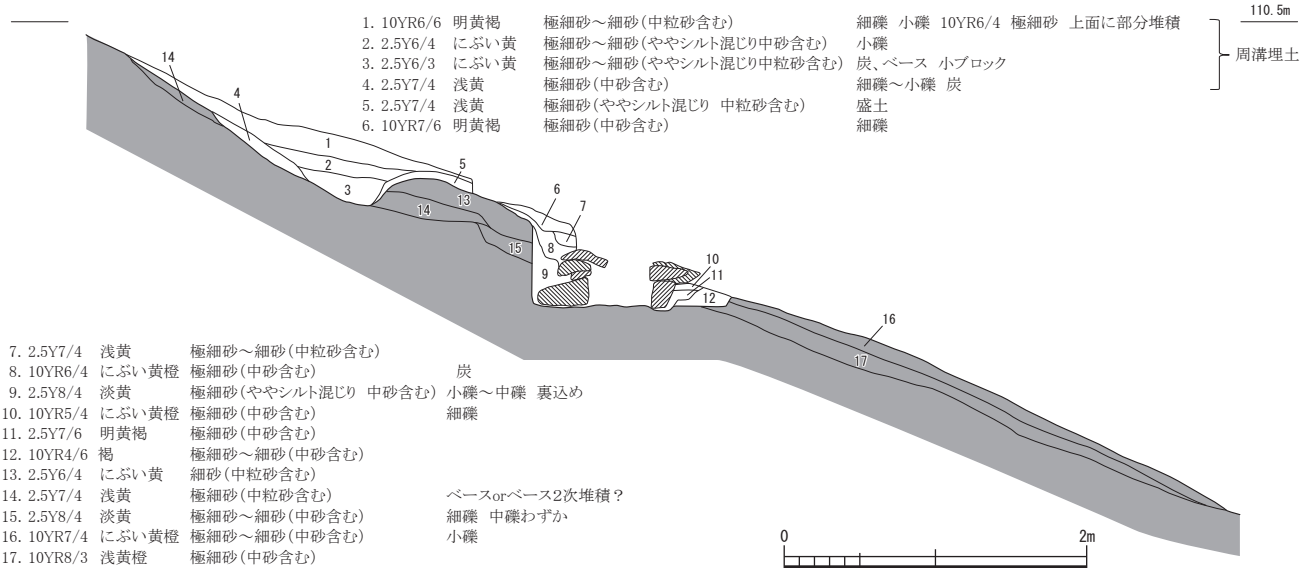

110.00m
105.00m
100.00m
95.00m
90.00m
85.00m
80.00m
75.00m
ST01
経塚
ST02
SD01
SD02
10m
0
30m
0

大伏北山遺跡　側面図

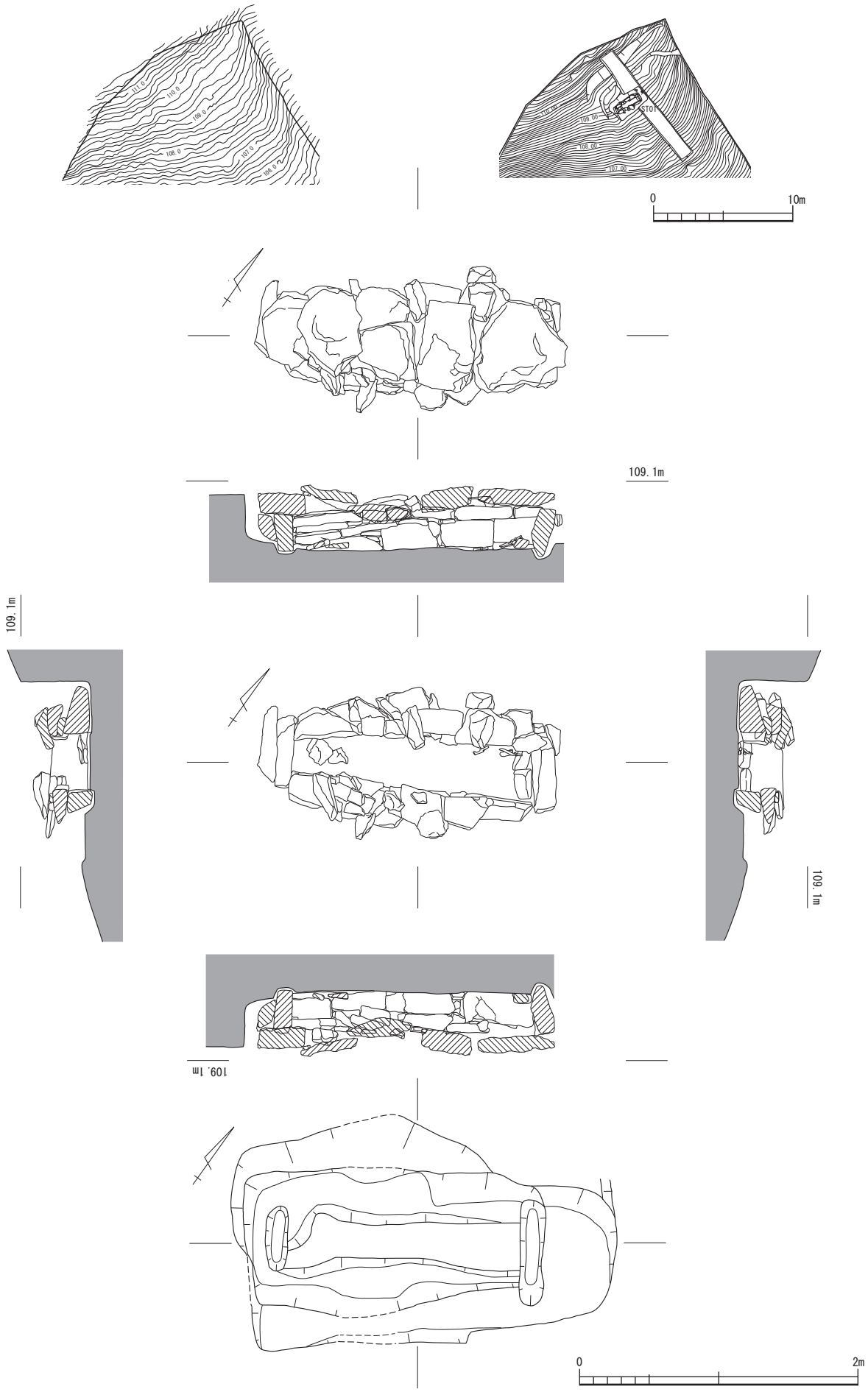


大伏北山遺跡　経塚

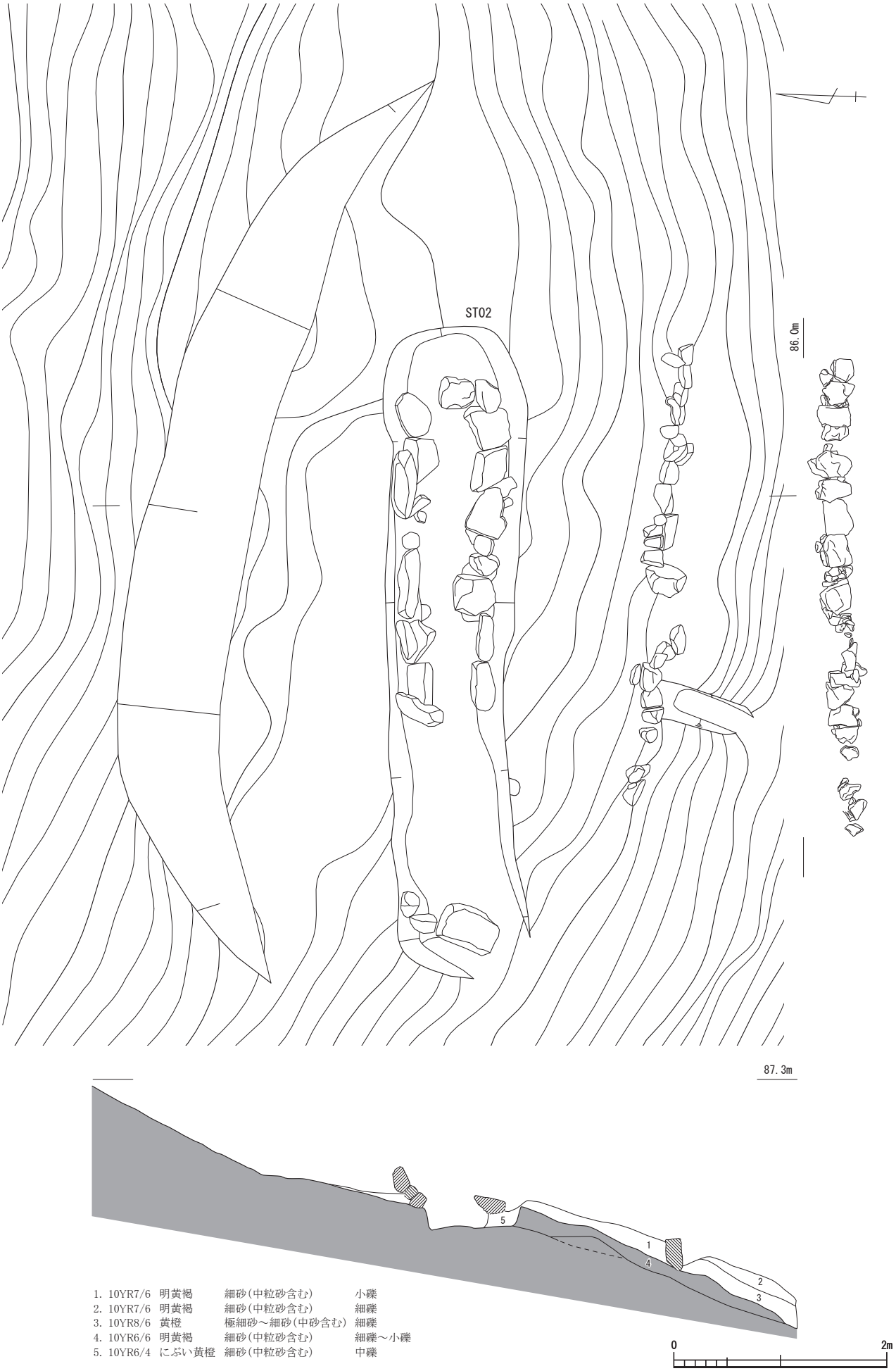

ST01


110.5m
1. 10YR6/6 明黄褐 極細砂～細砂(中粒砂含む) 細礫 小礫 10YR6/4 極細砂 上面に部分堆積
2. 2.5Y6/4 にぶい黄 極細砂～細砂(ややシルト混じり中砂含む) 小礫
3. 2.5Y6/3 にぶい黄 極細砂～細砂(ややシルト混じり中粒砂含む) 炭、ベース 小ブロック
4. 2.5Y7/4 浅黄 極細砂(中砂含む) 細礫～小礫 炭
5. 2.5Y7/4 浅黄 極細砂(ややシルト混じり 中粒砂含む) 盛土
6. 10YR7/6 明黄褐 極細砂(中砂含む) 細礫
周溝埋土
7. 2.5Y7/4 浅黄 極細砂～細砂(中粒砂含む)
8. 10YR6/4 にぶい黄橙 極細砂(中砂含む) 炭
9. 2.5Y8/4 淡黄 極細砂(ややシルト混じり 中砂含む) 小礫～中礫 裏込め
10. 10YR5/4 にぶい黄橙 極細砂(中砂含む) 細礫
11. 2.5Y7/6 明黄褐 極細砂(中砂含む)
12. 10YR4/6 褐 極細砂～細砂(中砂含む)
13. 2.5Y6/4 にぶい黄 細砂(中粒砂含む)
14. 2.5Y7/4 浅黄 極細砂(中粒砂含む) ベースorベース2次堆積？
15. 2.5Y8/4 淡黄 極細砂～細砂(中砂含む) 細礫 中礫わずか
16. 10YR7/4 にぶい黄橙 極細砂～細砂(中砂含む) 小礫
17. 10YR8/3 浅黄橙 極細砂(中砂含む)
0
2m

大伏北山遺跡　ST01

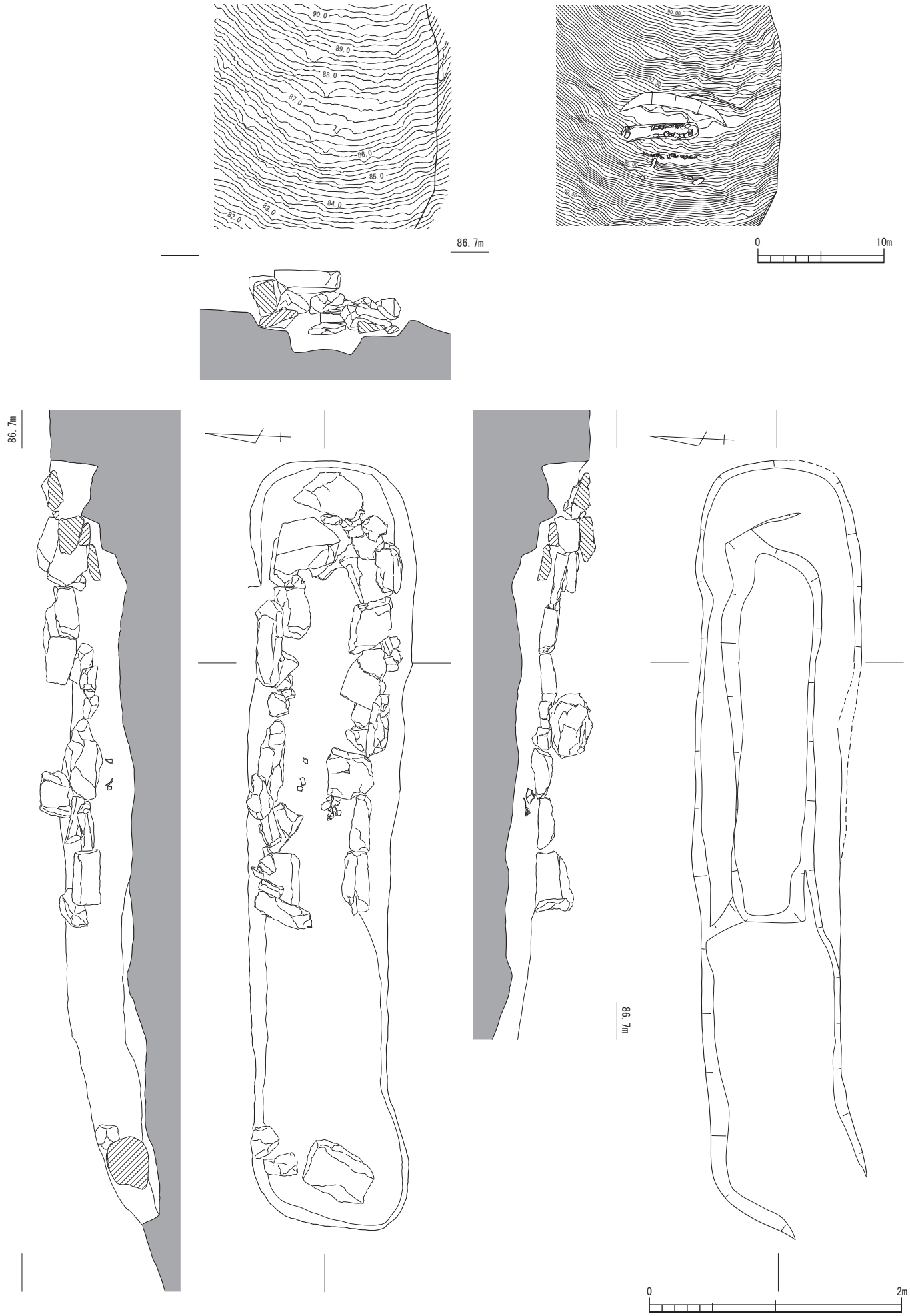


大伏北山遺跡　ST01 埋葬施設

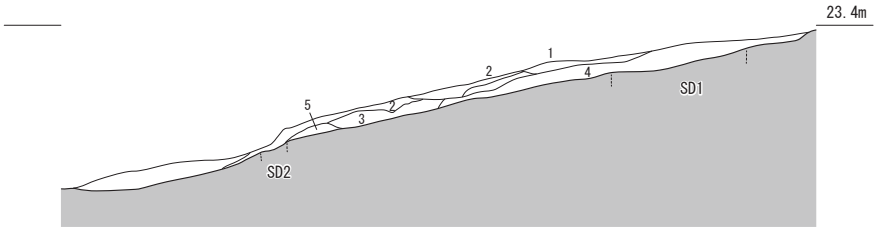


1. 10YR7/6 明黄褐 細砂(中粒砂含む) 小礫
2. 10YR7/6 明黄褐 細砂(中粒砂含む) 細礫
3. 10YR8/6 黄橙 極細砂～細砂(中砂含む) 細礫
4. 10YR6/6 明黄褐 細砂(中粒砂含む) 細礫～小礫
5. 10YR6/4 にぶい黄橙 細砂(中粒砂含む) 中礫

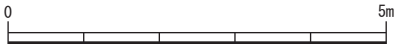
大伏北山遺跡　ST02



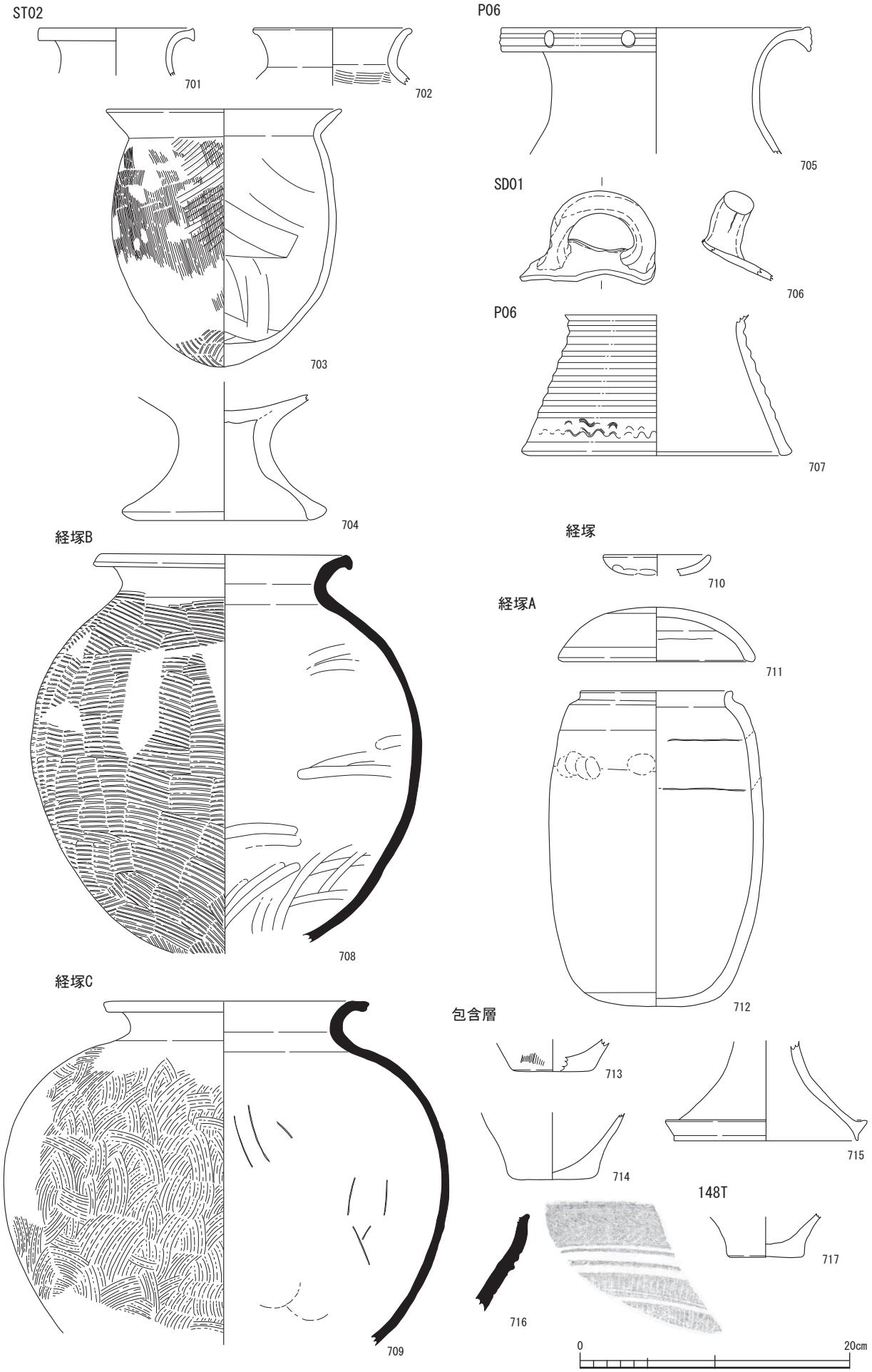
大伏北山遺跡　ST02 埋葬施設



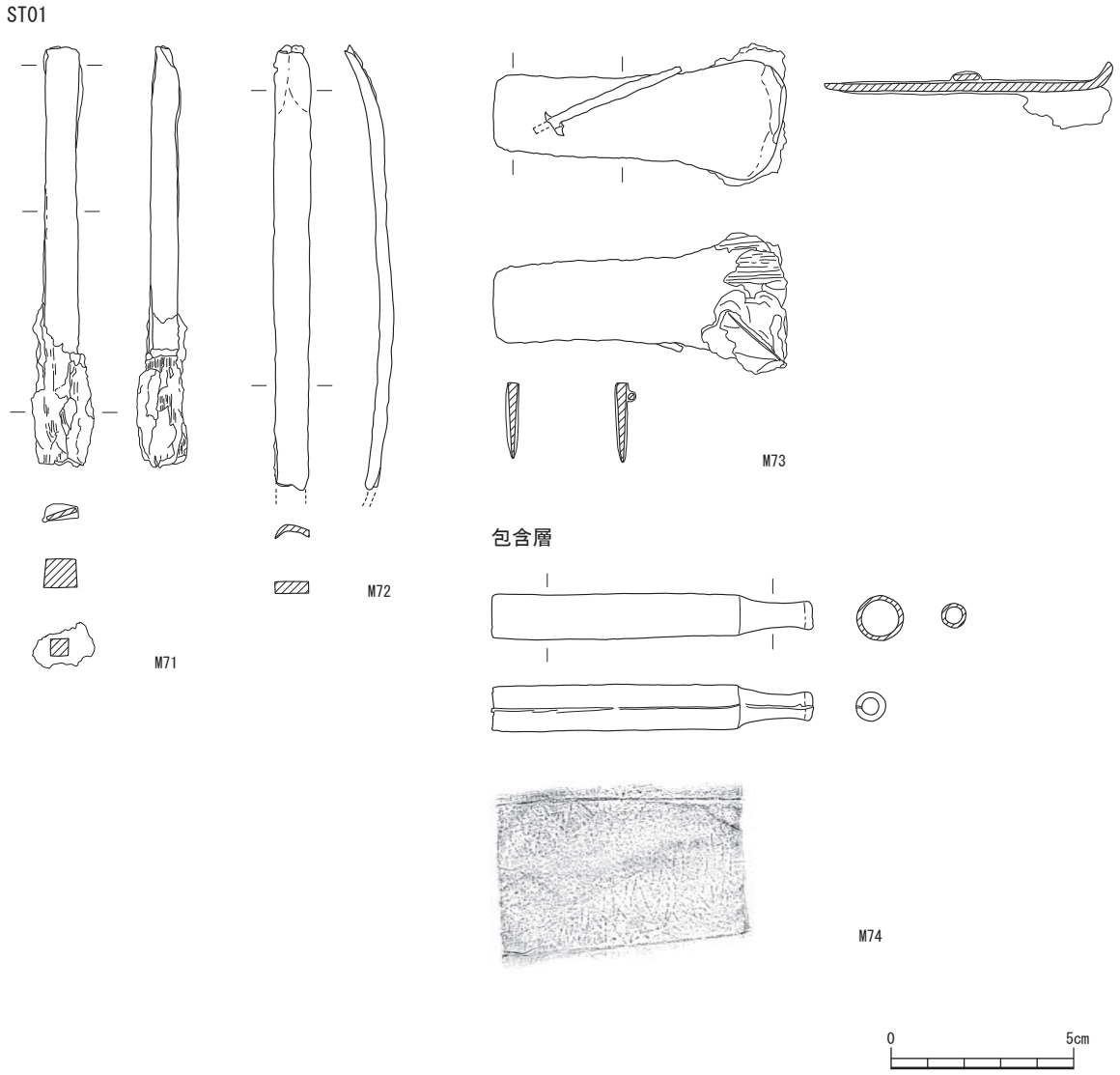
1. 10YR5/3	にぶい黄褐	シルト混じり細砂(中粗砂含む)	細礫・炭粒・土器片含む
2. 2.5Y5/3	黄褐	シルト混じり細砂(粗砂～極粗砂含む)	
3. 2.5Y6/3	にぶい黄	極細砂～細砂(粗砂～極粗砂含む)	小礫含む
4. 2.5Y6/2	灰黄	極細砂～細砂(中粗砂含む)	細礫・マンガン粒・土器 固くしまった堆積
5. 2.5Y7/3	浅黄	シルト混じり細砂(中粗砂含む)	細礫:ベースorベース以下堆積

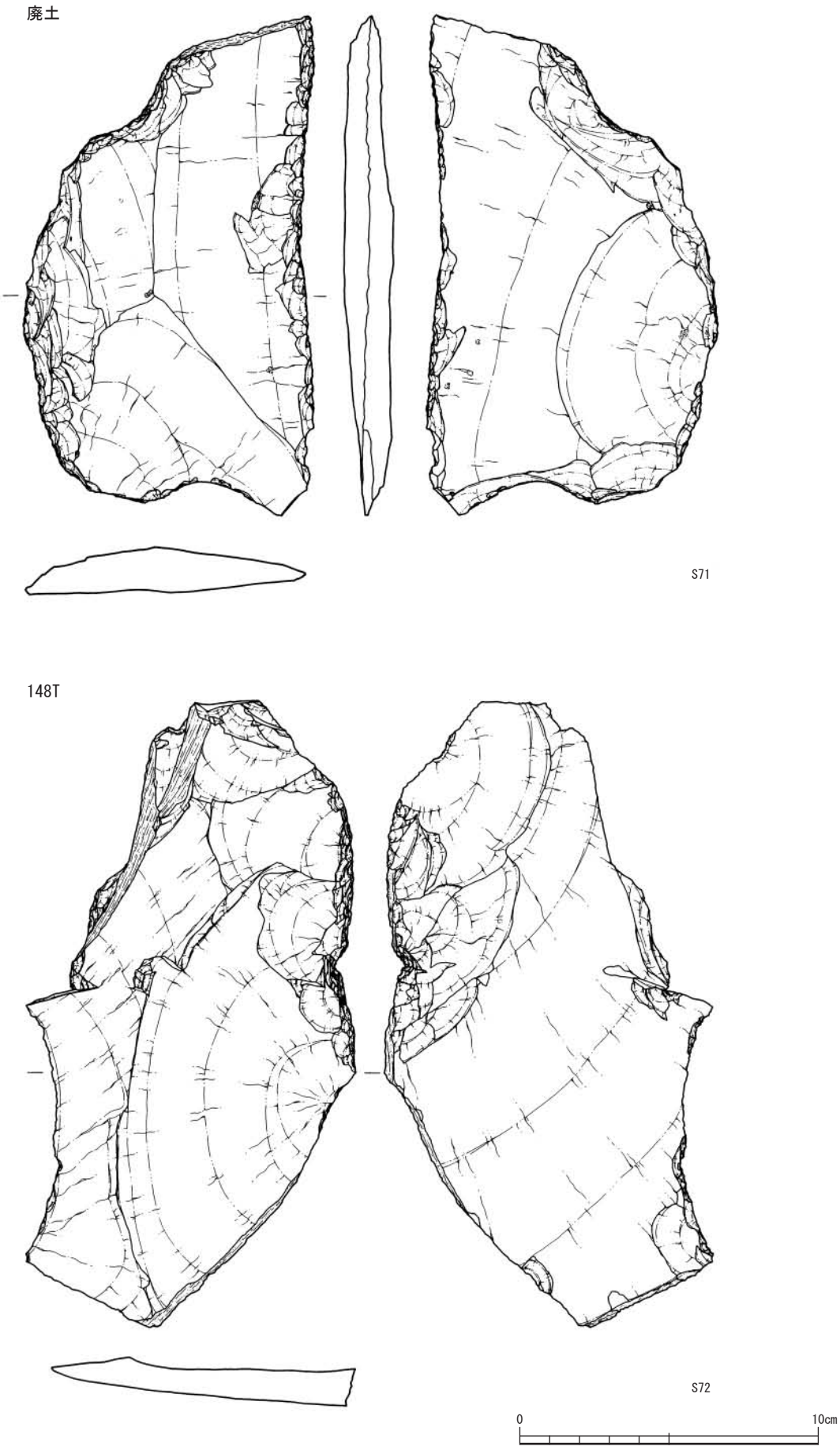


大伏北山遺跡　SD01・02


ST02
701
702
703
704
P06
705
SD01
706
P06
707
経塚B
708
経塚
710
経塚A
711
712
経塚C
709
包含層
713
714
715
148T
716
717
0
20cm

大伏北山遺跡　土器


ST01
M71
M72
M73
包含層
M74
0
5cm



大伏北山遺跡　石器

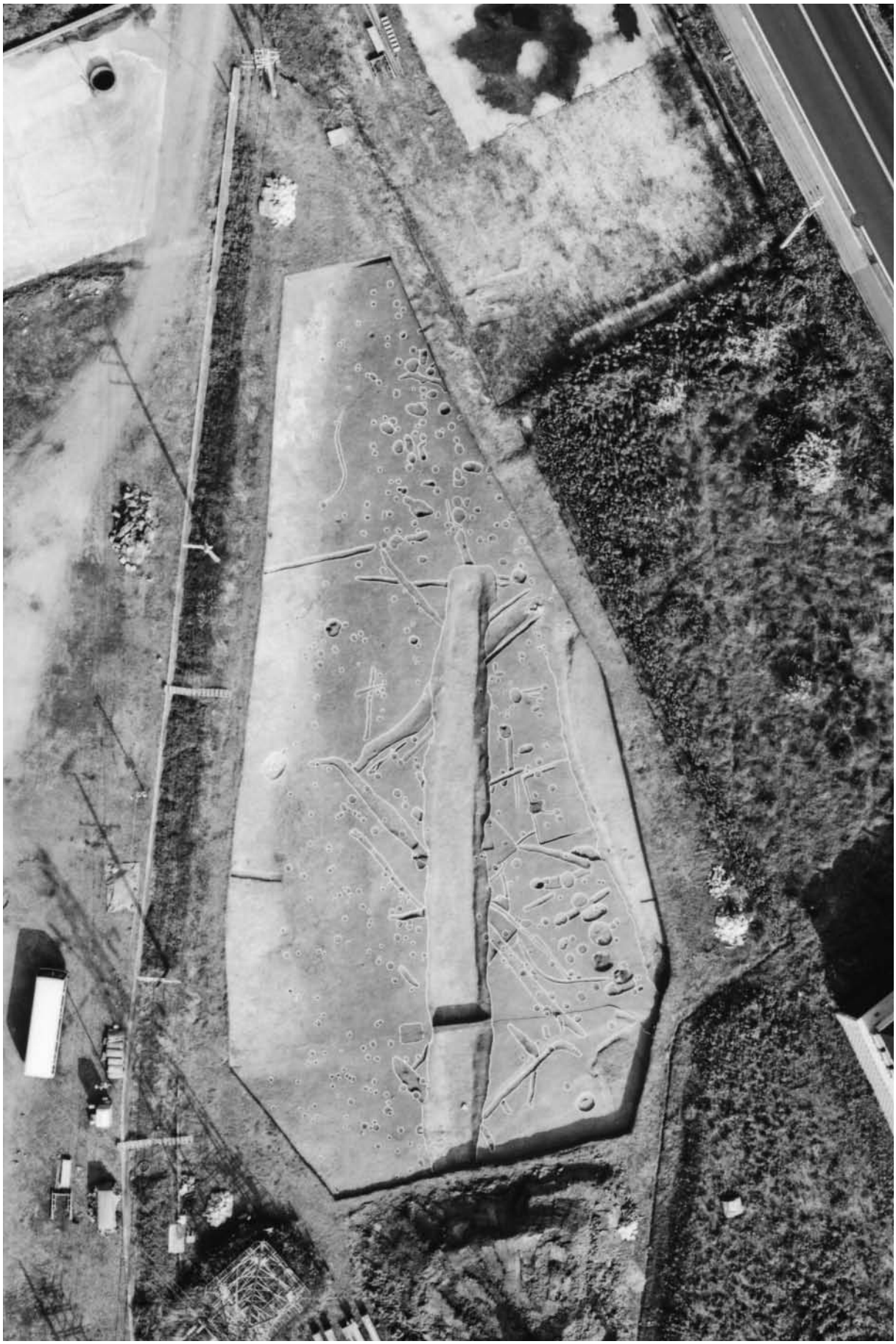
写 真 図 版

調査地遠景（南から）

調査地遠景（東から）

A 地区全景（真上から）

B 地区全景（西から）



B地区全景（真上から）

第 1 面全景（南から）

第 1 面全景（北から）

第 2 面全景（北から）

第 1 面全景（南から）

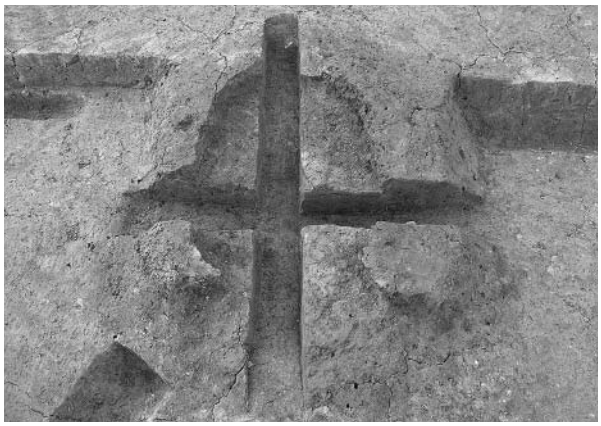
第 1 面全景（北から）

第２面全景（南から）

第２面全景（北から）

SH01（東から）

SH01 カマド（東から）



SH01 カマド断面（東から）

SH01 カマド南側土器出土状況（南から）

SH01 カマド北側土器出土状況（南から）

SH02（南から）

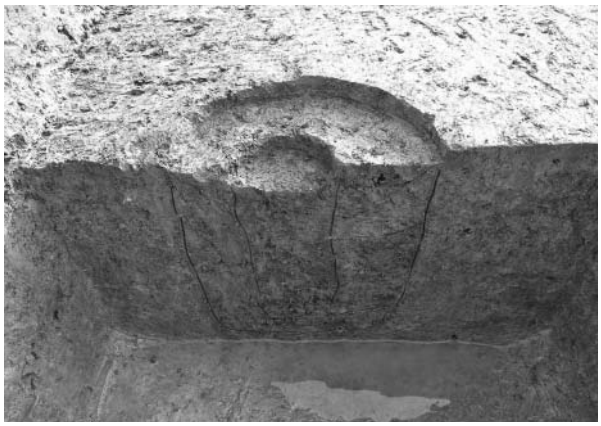
SH03（北東から）

SB01（西から）

SB01　P126（西から）

SB01　P147（西から）

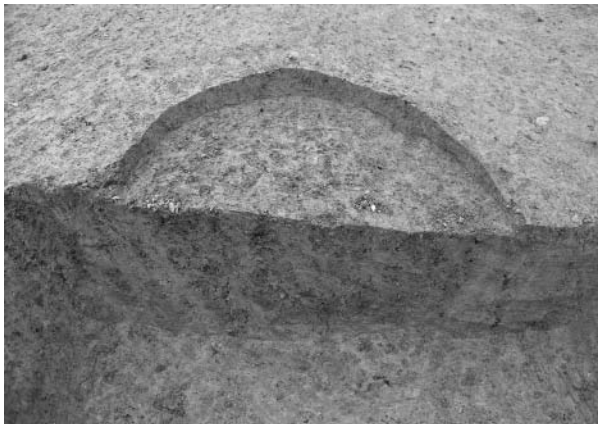
SB01　P148（西から）



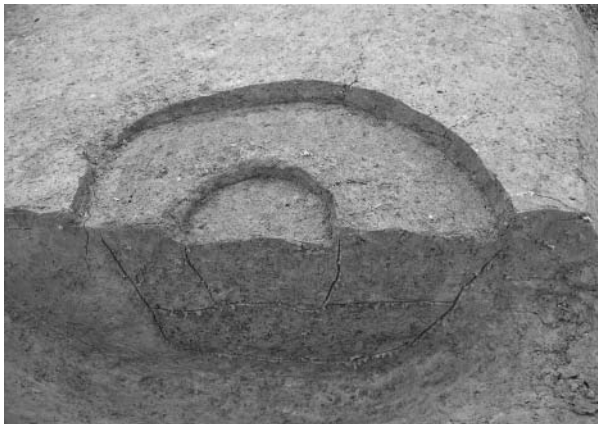
SB01　P149（西から）

SB03（南西から）

SB07（南から）



SB07　P109（西から）

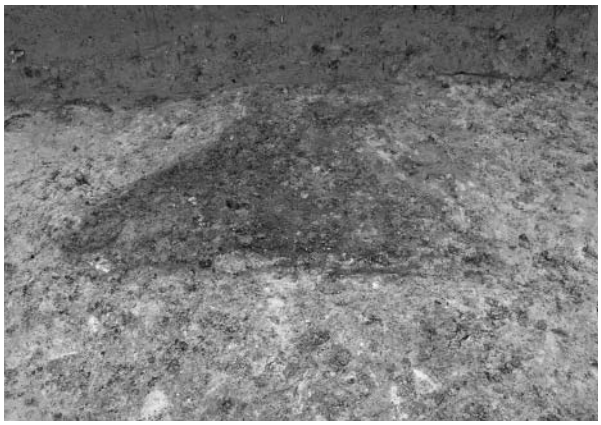


SB07　P148（東から）

石棺検出状況（西から）

石棺（西から）

SK01（東から）

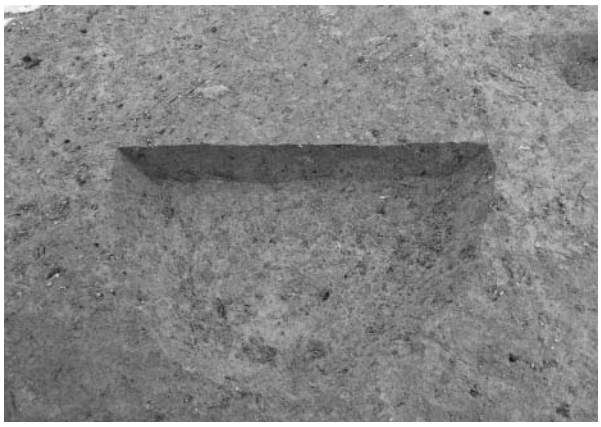

SK01　断面（東から）

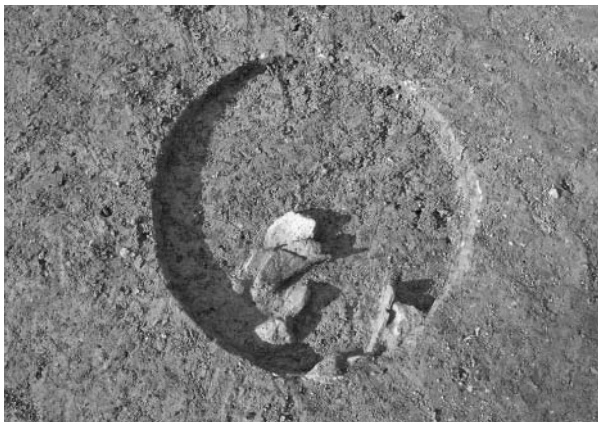
SK02（南から）

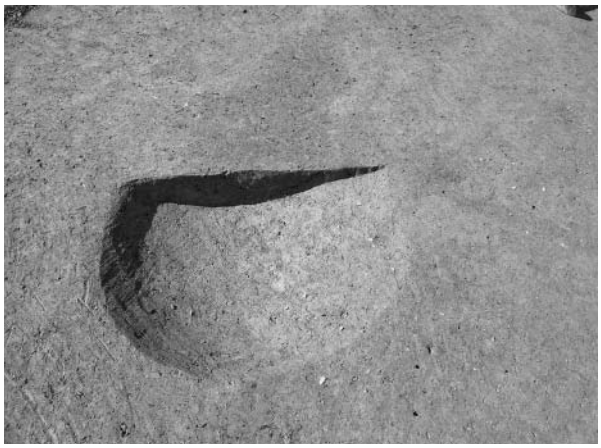
SK02　断面（北から）

SK20（北から）

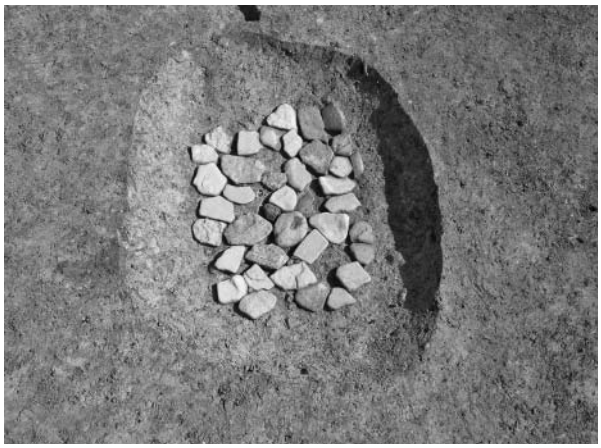
SK21（東から）


SK22（南から）


SK23（南から）



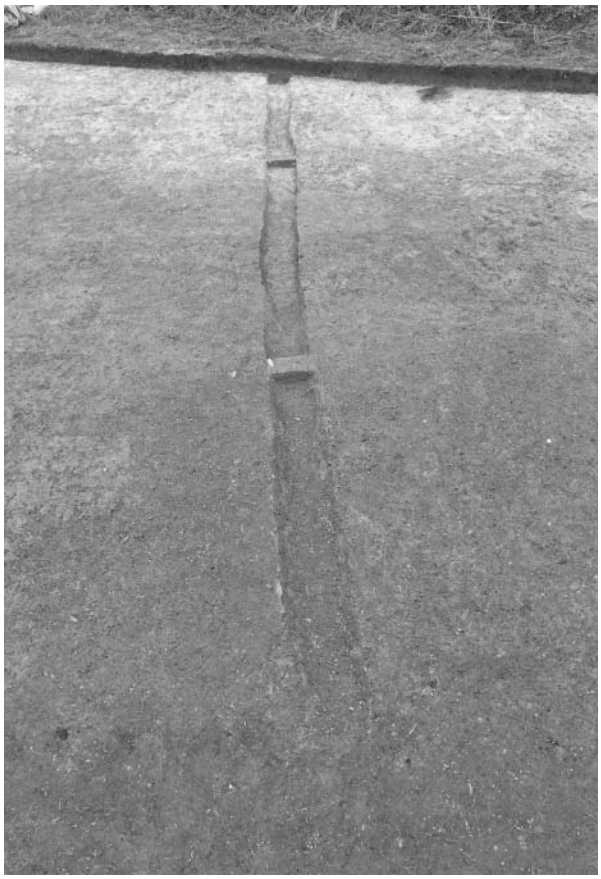
SK30（東から）



SK31（西から）

SK32（北から）

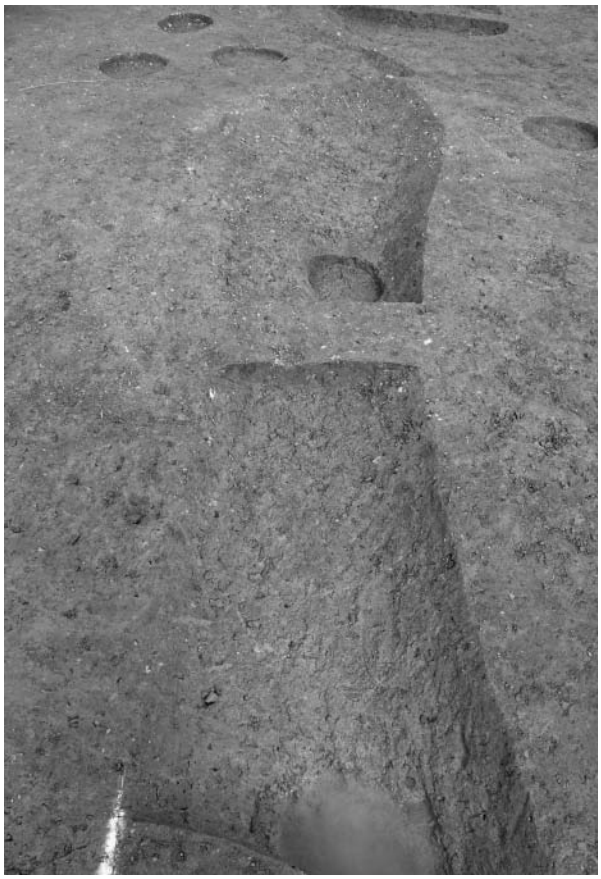
SK37（南から）



SD01（東から）

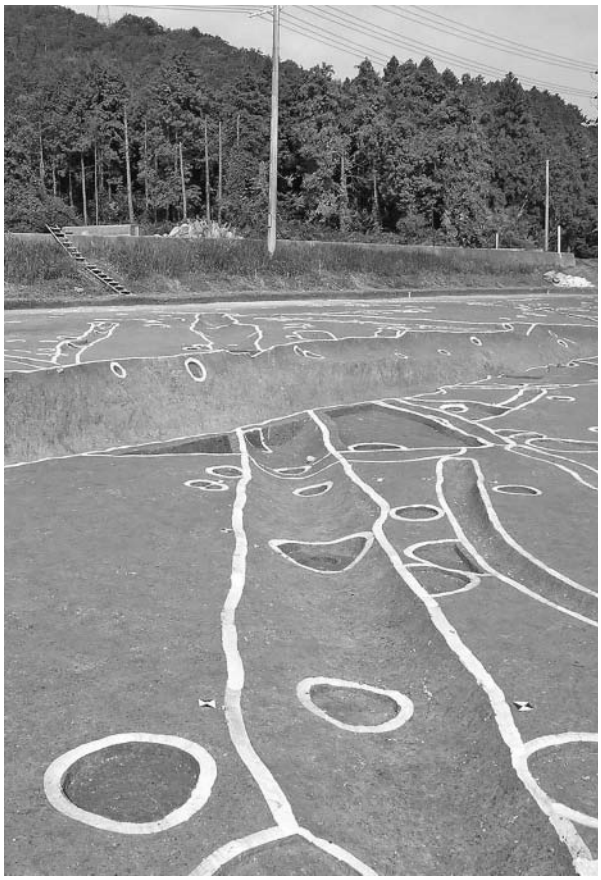
SD02（南から）

SD06（南から）



SD07（南から）

SD11（東から）



SD14（東から）

SD17（北東から）

SD20（東から）

SD23（東から）

SR01（南から）

SR01（北から）

SR01　断面南（南から）

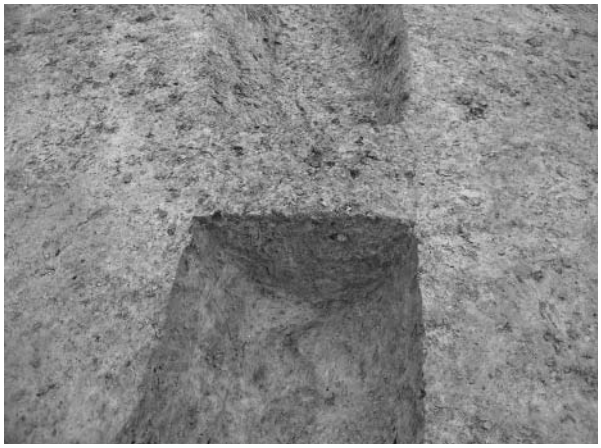
SR01 断面中央（南から）

SR01　断面北（南から）

第２面 SH04（西から）

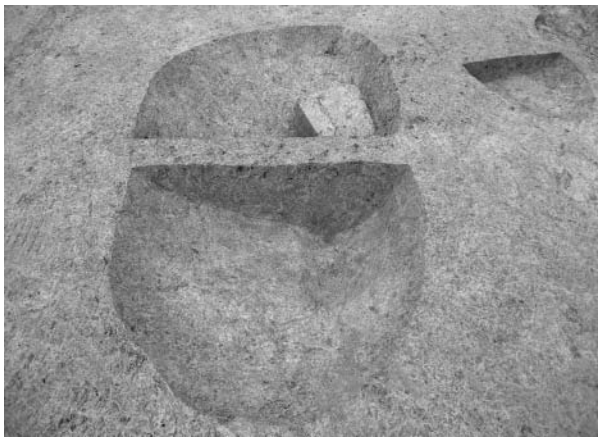
第２面 SH04（南から）

第２面 SH04　中央土坑断面（南から）

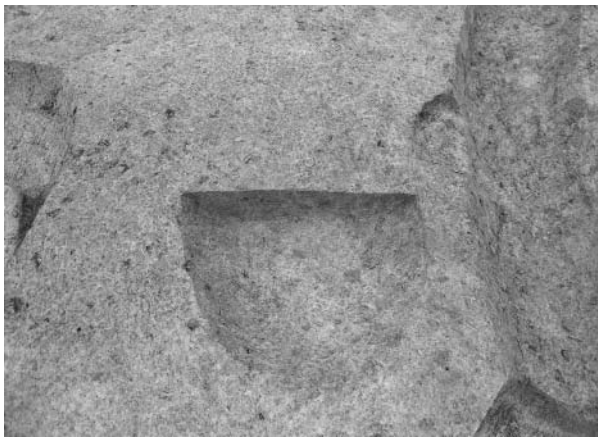


第２面 SH04　周壁溝南側（南から）

第２面 SB01（北から）

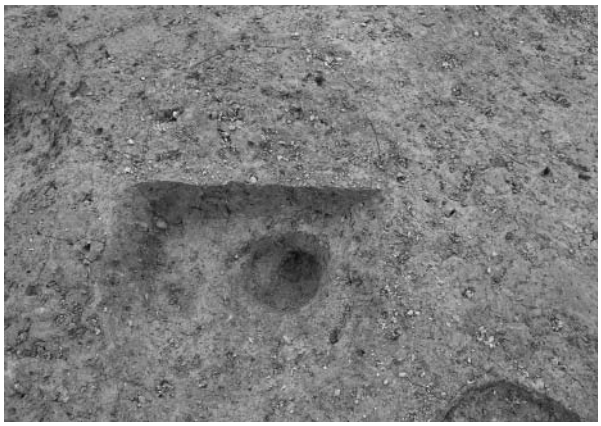


第２面 SK01　断面（南から）



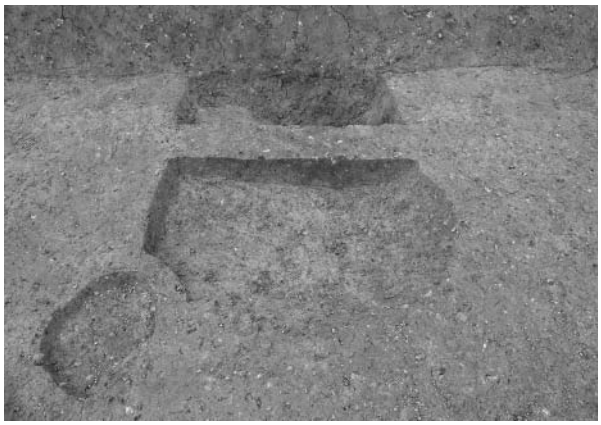
第２面 SK02　断面（南から）

第２面 SK03　断面（北西から）



第２面 SK04　断面（北から）

第２面 SK05（南から）



第２面 SK06（東から）

第２面 SK07（南から）

第２面 SK09（東から）

第２面 SK10（南から）

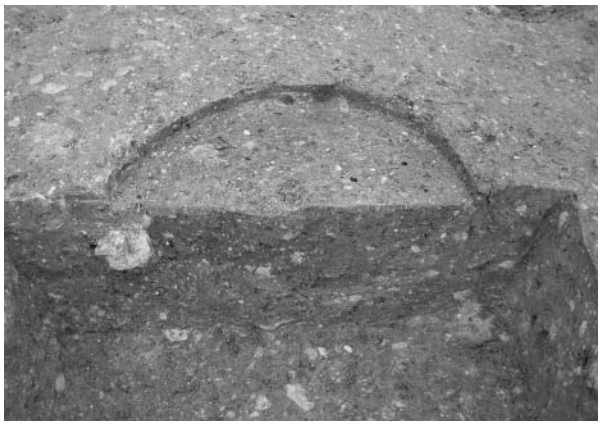
第２面 SK11（南東から）

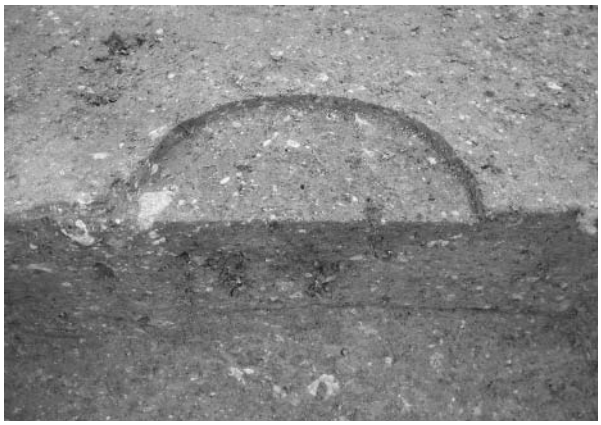
第２面 SD04（東から）

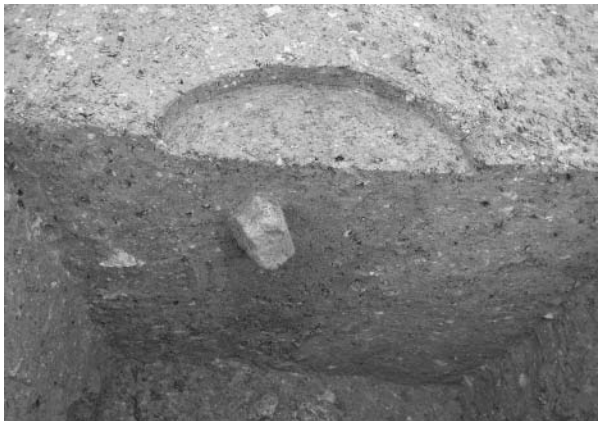
全景（真上から）

全景（南から）

全景（北から）

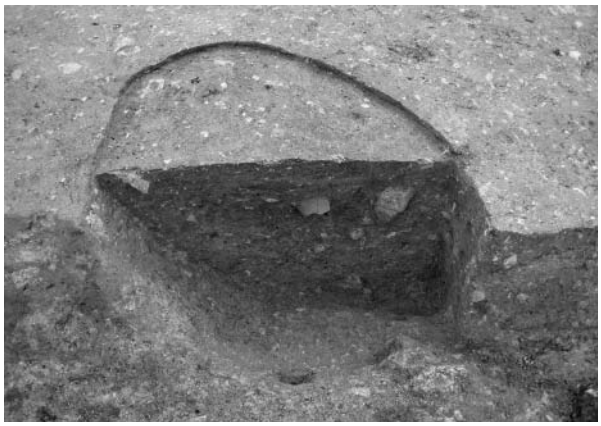

P13（南東から）


P14（南東から）


P15（南東から）

SK01（東から）

SK02（西から）


SK02　断面（西から）

SK03（南から）

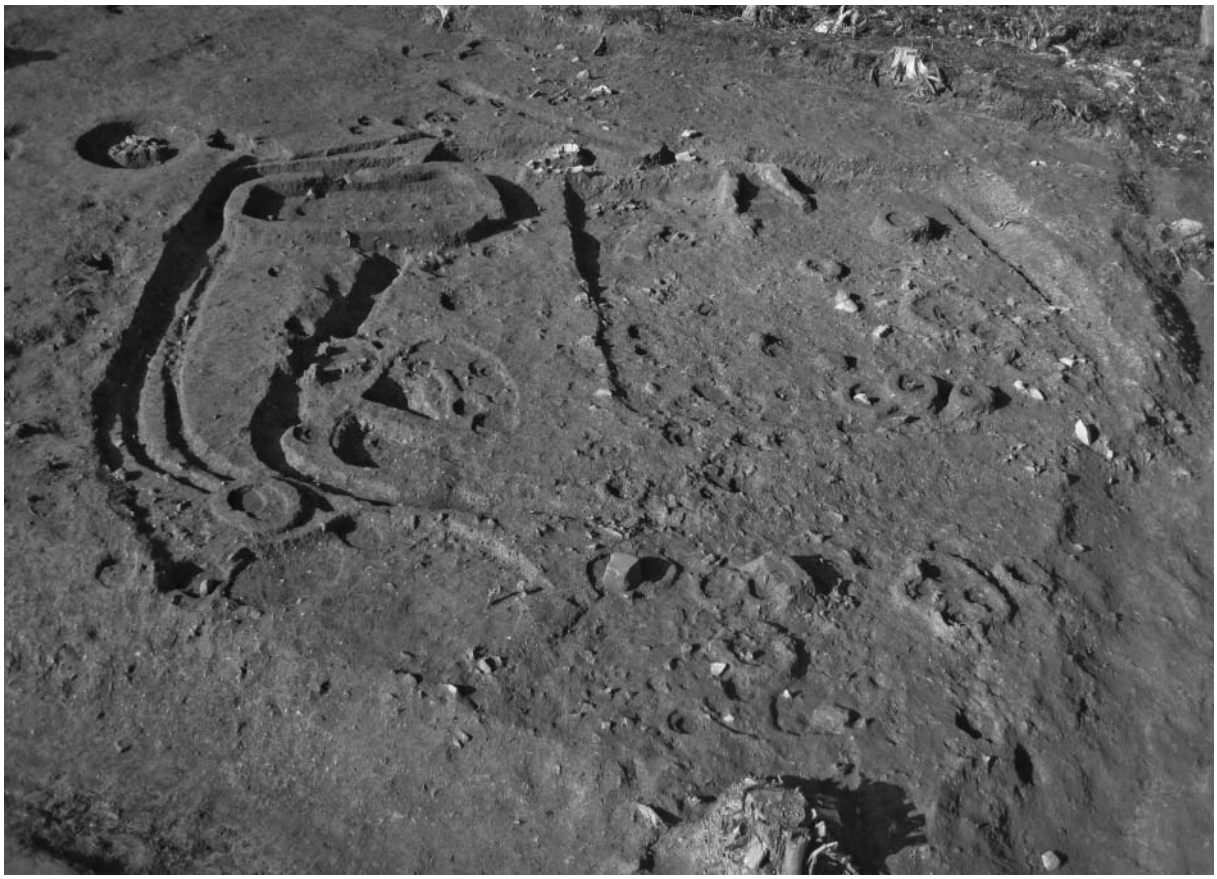
SD01（北東から）

遠景（東から）

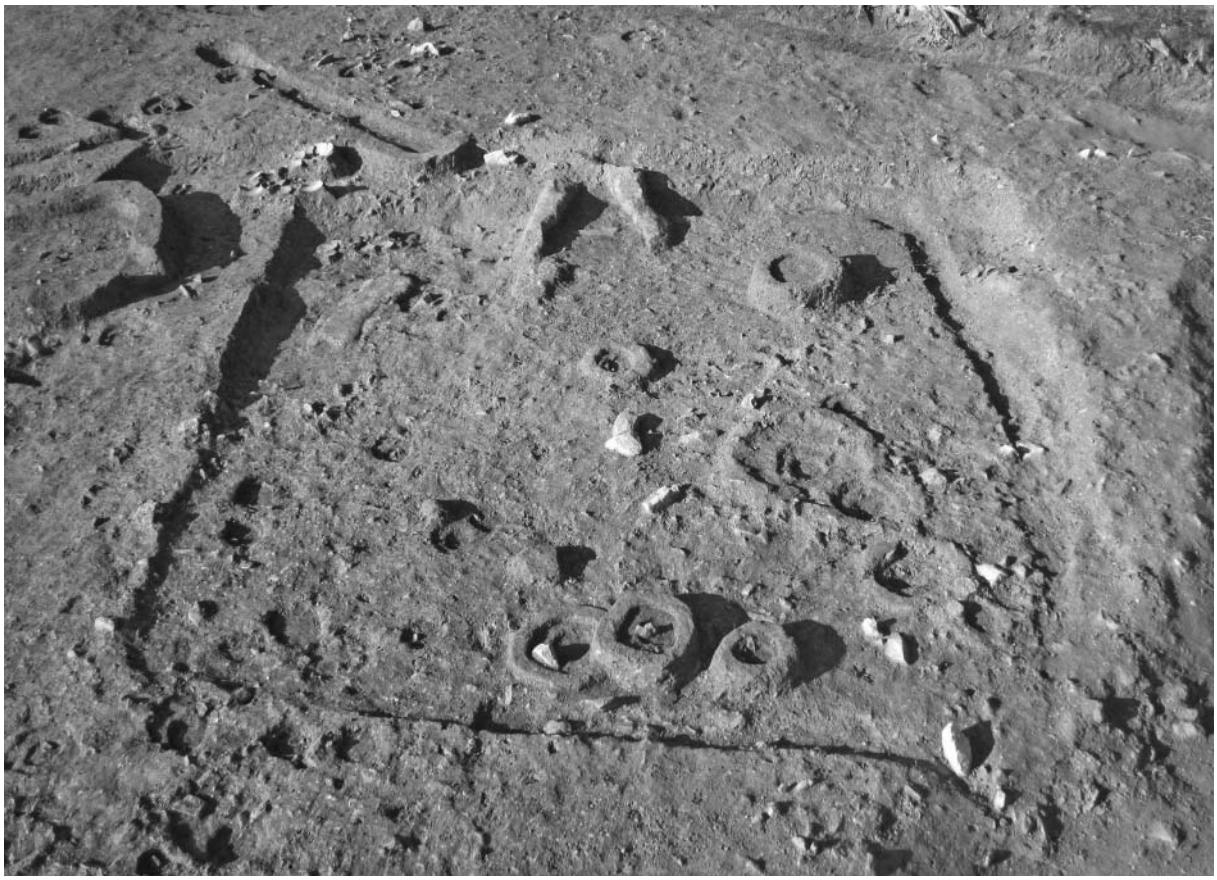
全景（真上から）

全景（東から）

全景（北から）



SH01・03・04（東から）



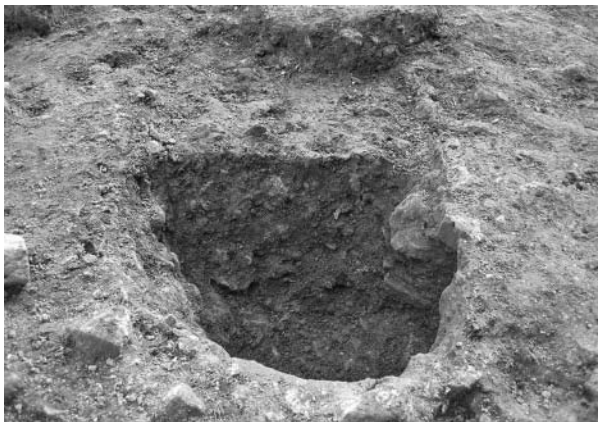
SH03（東から）

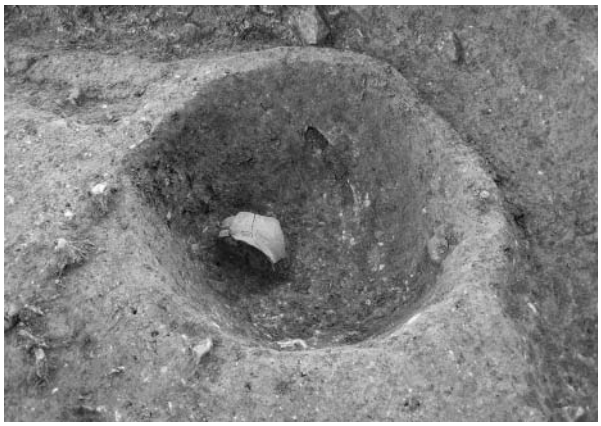
SH03　カマド（東から）

SH03　カマド断面（東から）

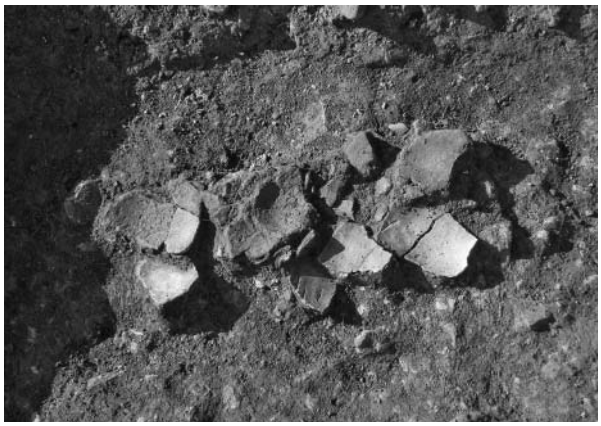
SH01　SK09（東から）

SH03　SK13（東から）


SH03　SK14（北から）


SH04　SK10（北から）

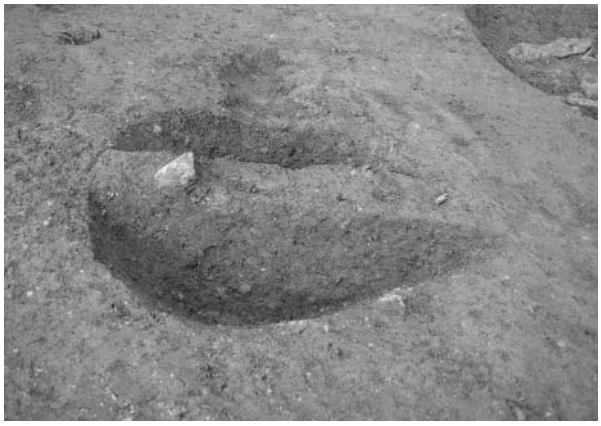
SH01　土器出土状況（東から）


SH03　土器出土状況（東から）

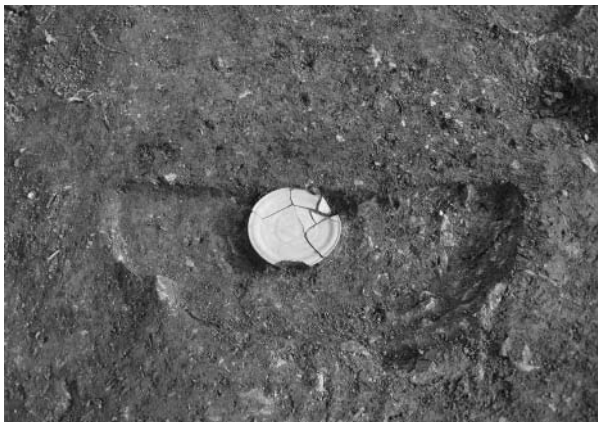
SK01（東から）

SK02（南から）

SK02　断面（西から）

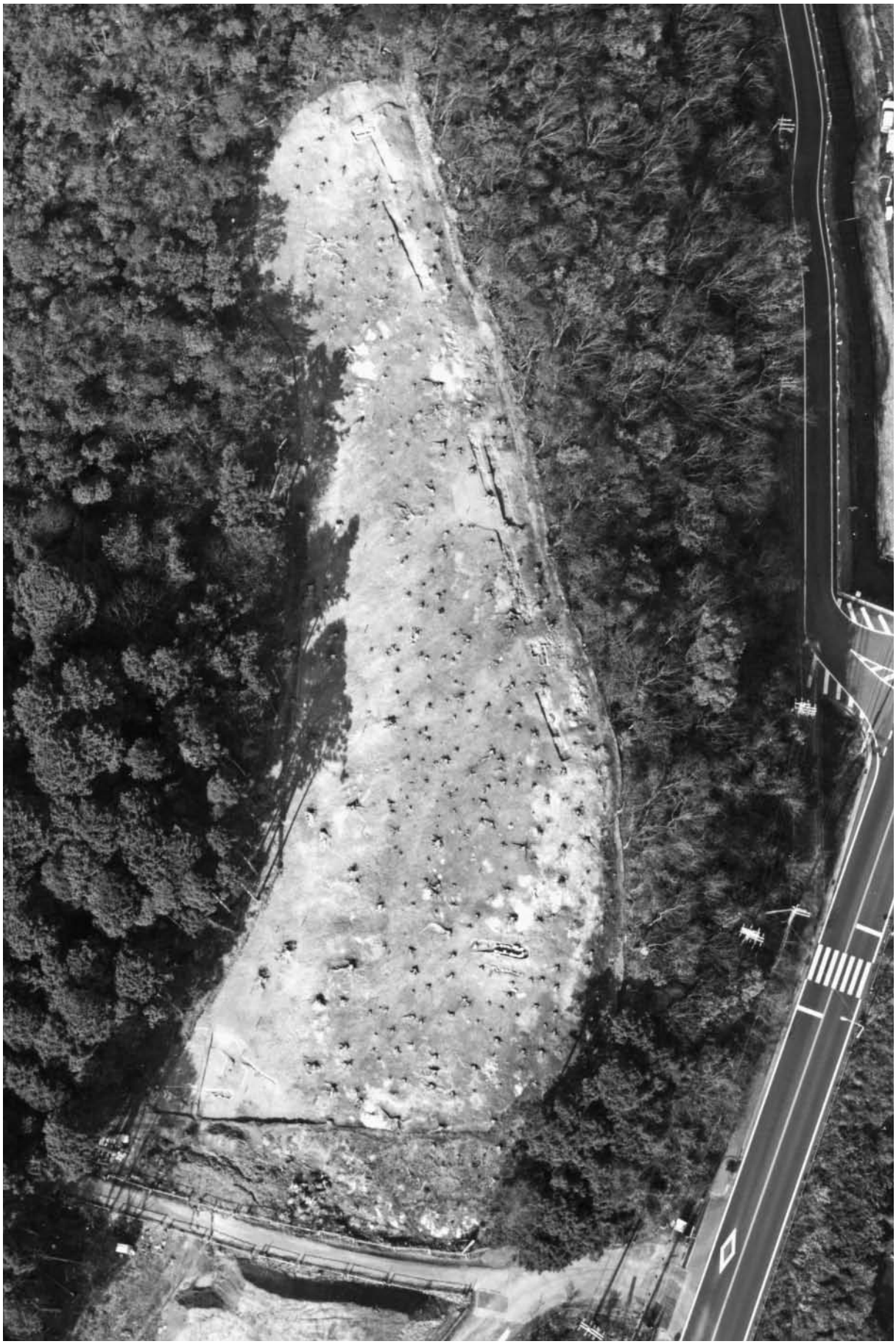

SK03（東から）

SK04（東から）


SK06（西から）

SD01（南から）

SD01　断面（東から）



調査区全景（真上から）

調査前全景（南から）

尾根部（北から）

経塚（1）（南から）

経塚（2）（南から）

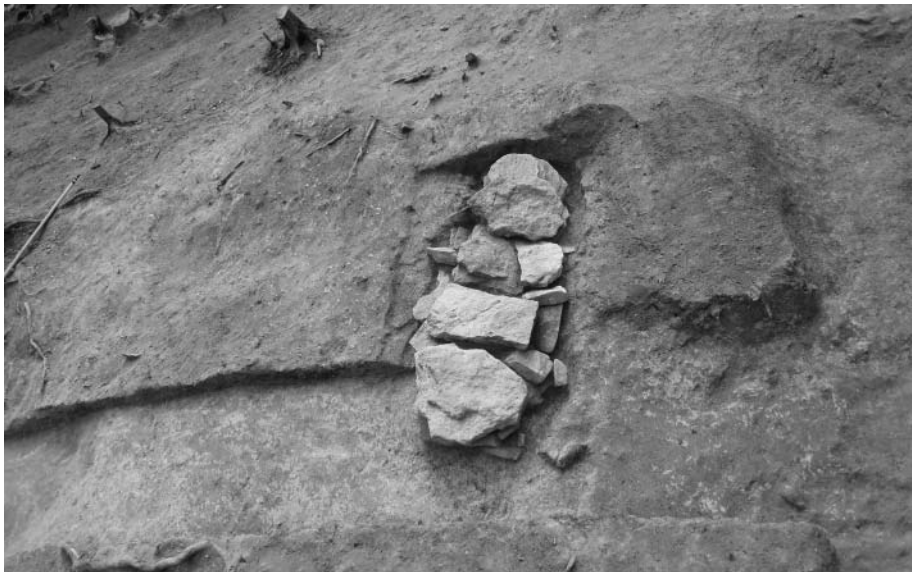
経塚（3）（南から）

経塚（4）（南から）

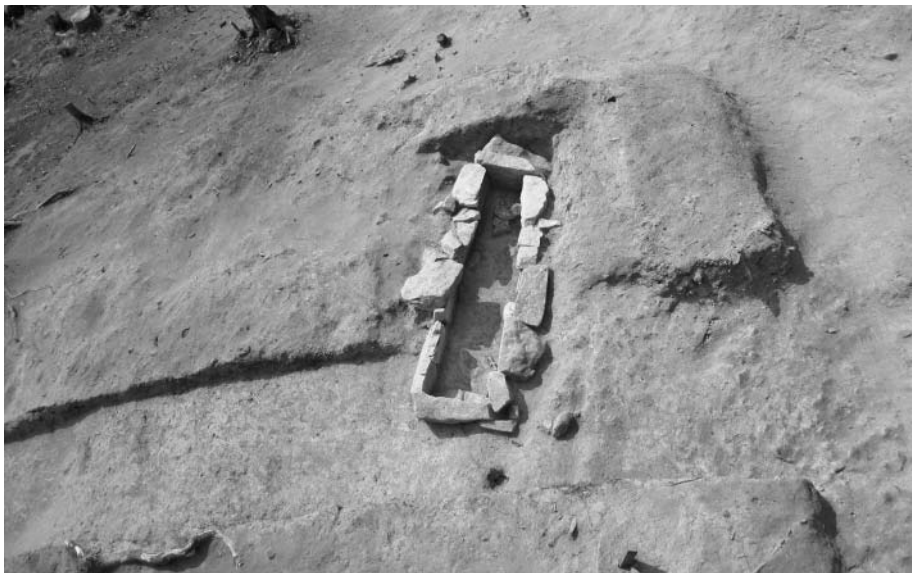
経塚（5）（南から）

経塚（6）（南から）

ST01　遠景（北東から）

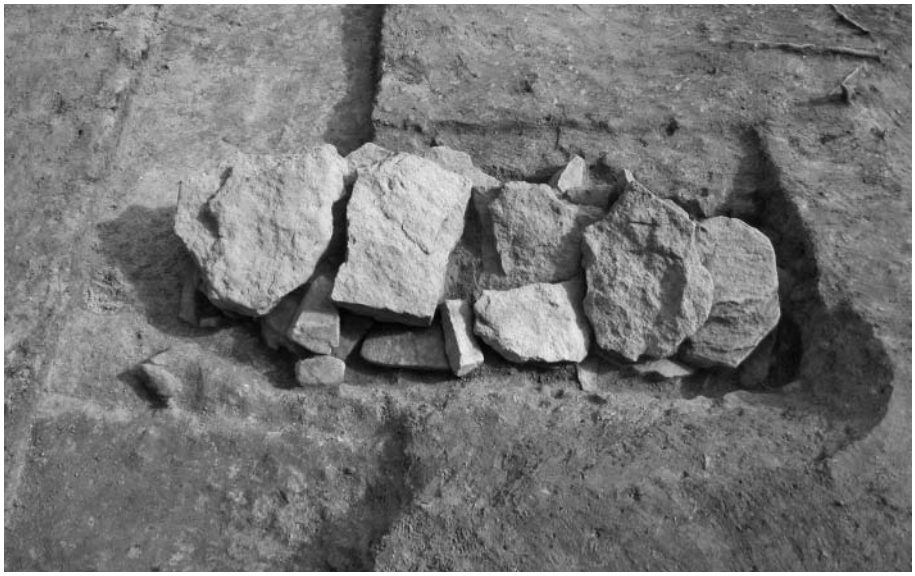


ST01　全景（北東から）



ST01　全景（北東から）

ST01　全景（西から）



ST01　石棺蓋（北西から）

ST01　石棺（北西から）

ST01　石棺北壁（南から）

ST01　石棺東壁（南西から）

ST01　石棺掘方（南西から）

ST01　周溝断面（南西から）

ST01　北側墳丘断面（南西から）

ST01　南側墳丘断面（西から）

ST02　遠景（南から）

ST02　全景（西から）

ST02 全景（西から）

ST02　埋葬施設（東から）

ST02　埋葬施設（北から）

ST02　埋葬施設埋土（南から）

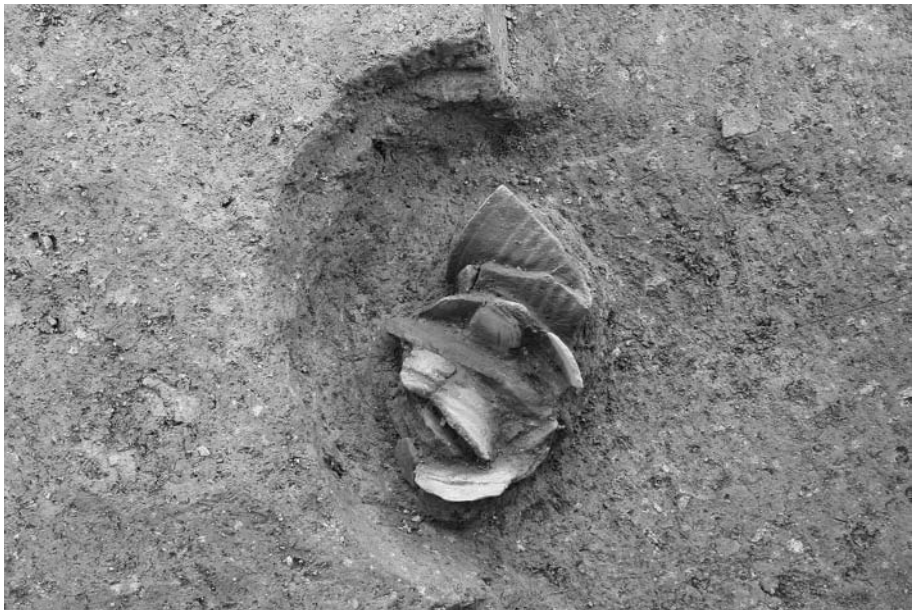
ST02　埋葬施設掘方（西から）

ST02　列石（南西から）

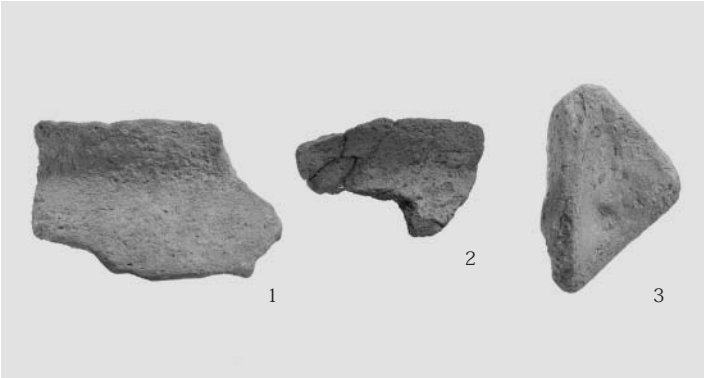
ST02　南側墳丘断面（西から）

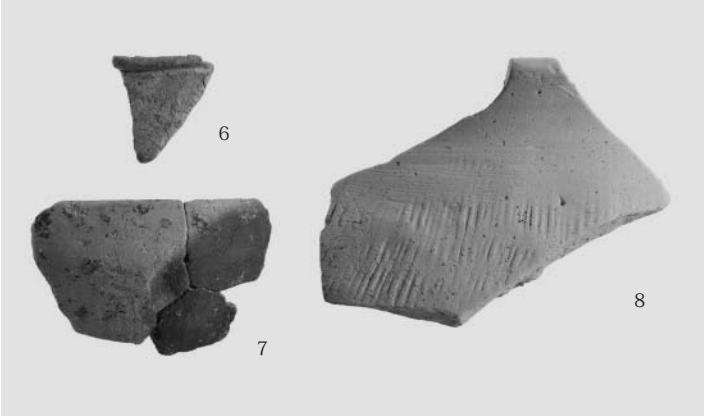
SD01（北東から）

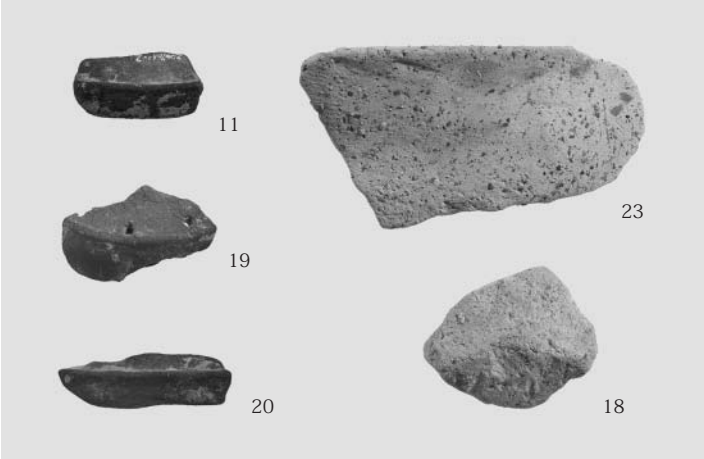
SD02（東から）

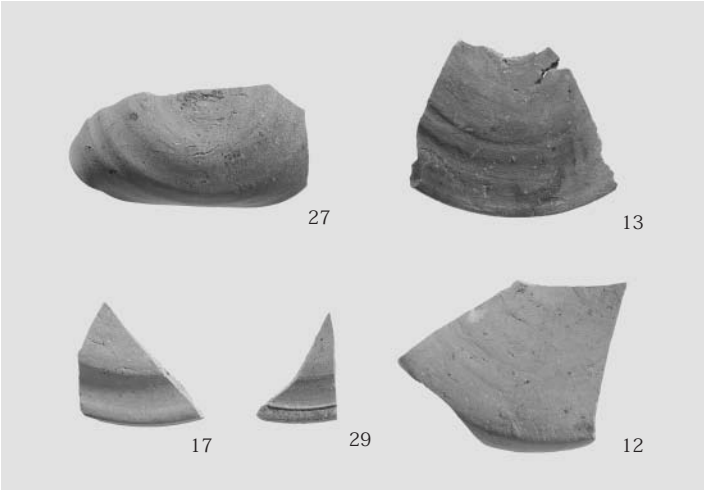


P06（西から）

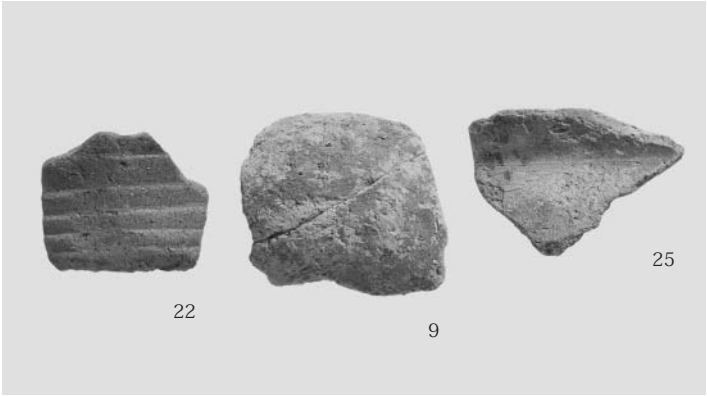


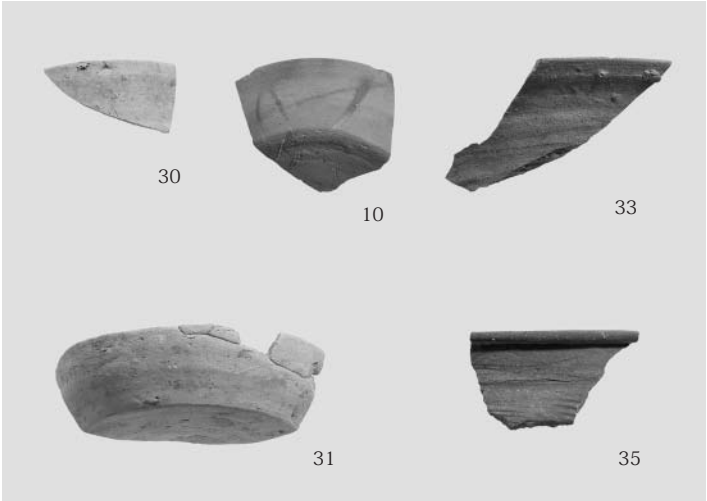


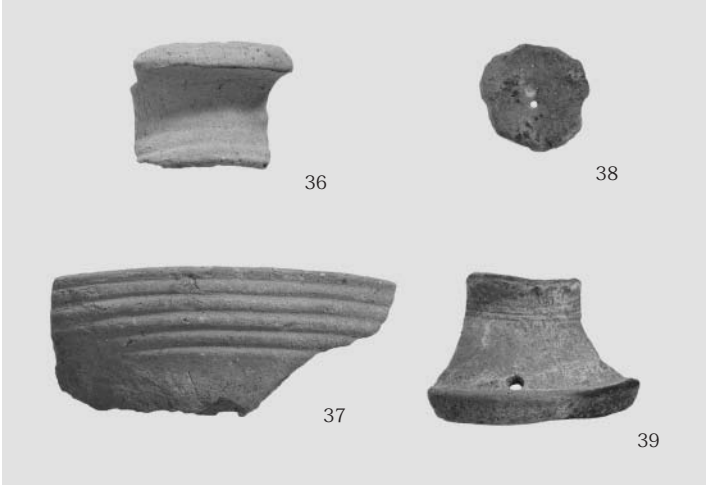


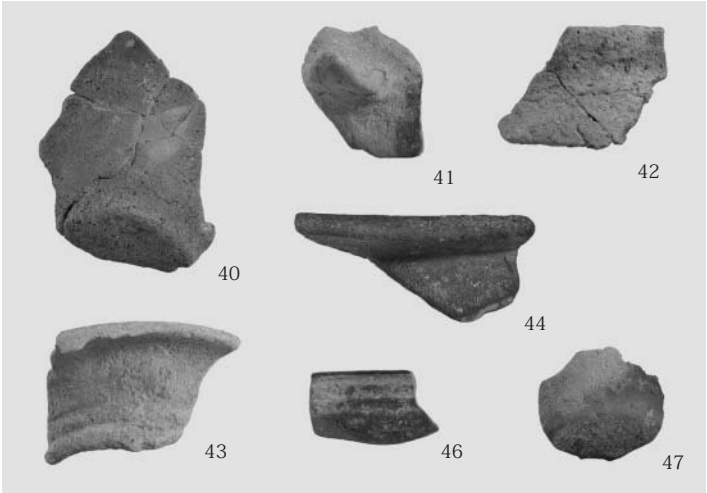


大門畑瀬遺跡Ａ・Ｂ地区　土器１

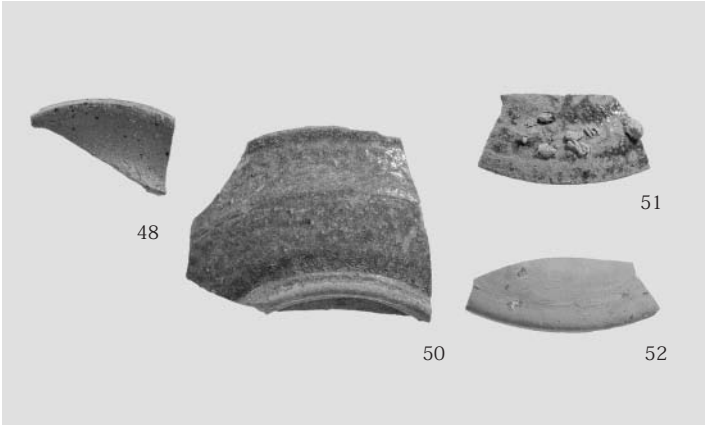








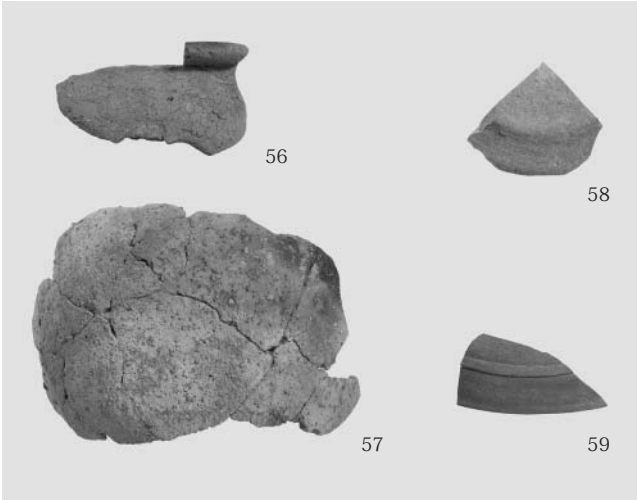
大門畑瀬遺跡Ａ・Ｂ地区　土器２


48
50
51
52

53

54

55


56
57
58
59

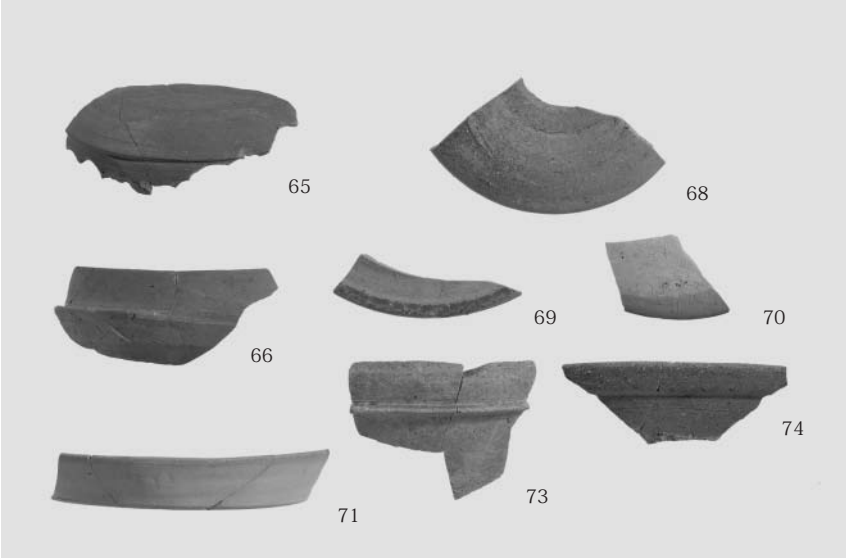
49

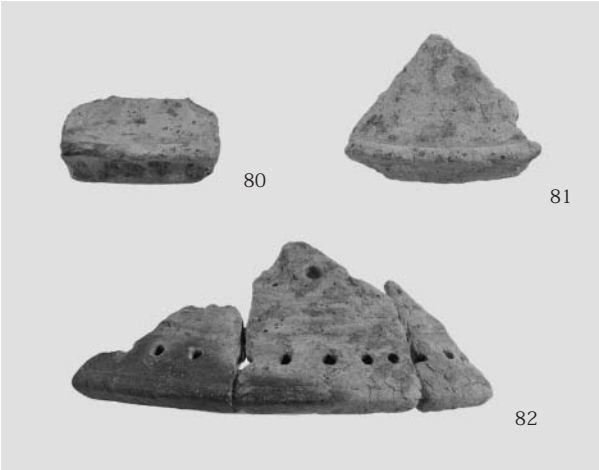
60
61
62

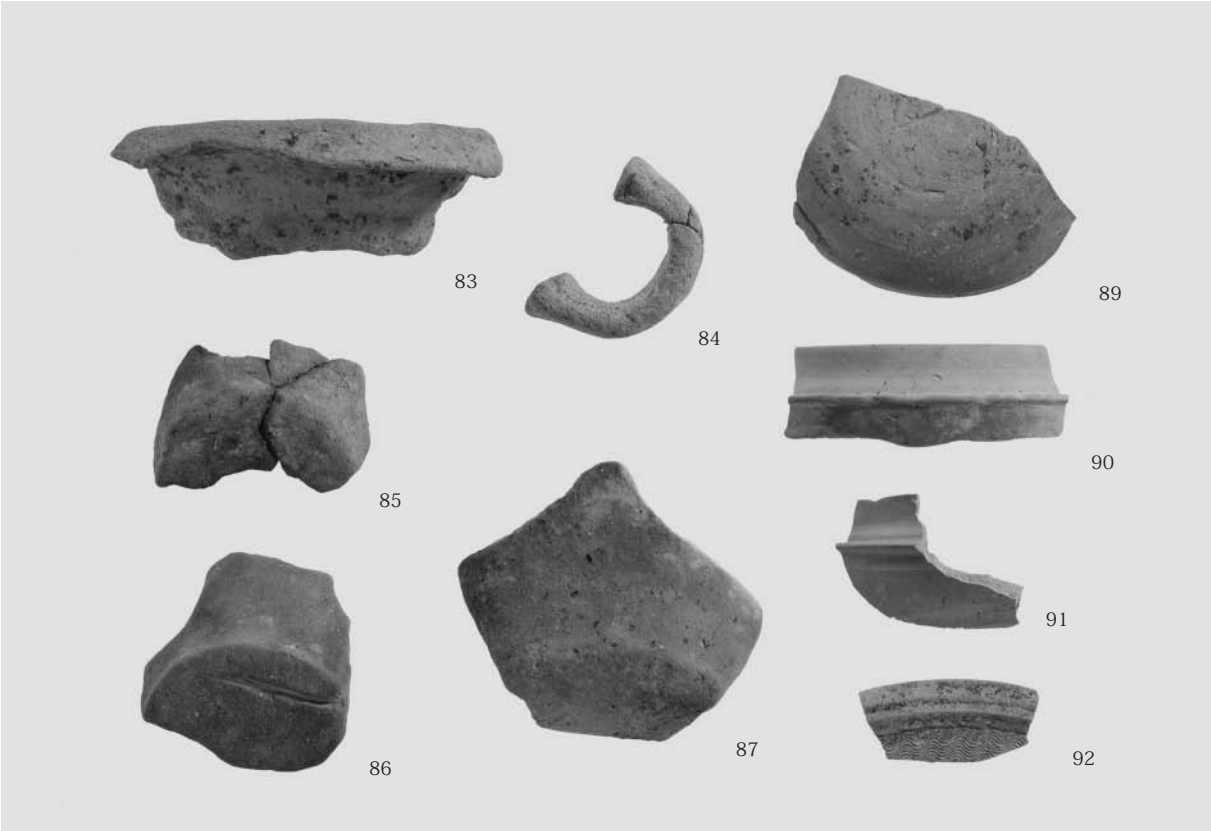
63

64

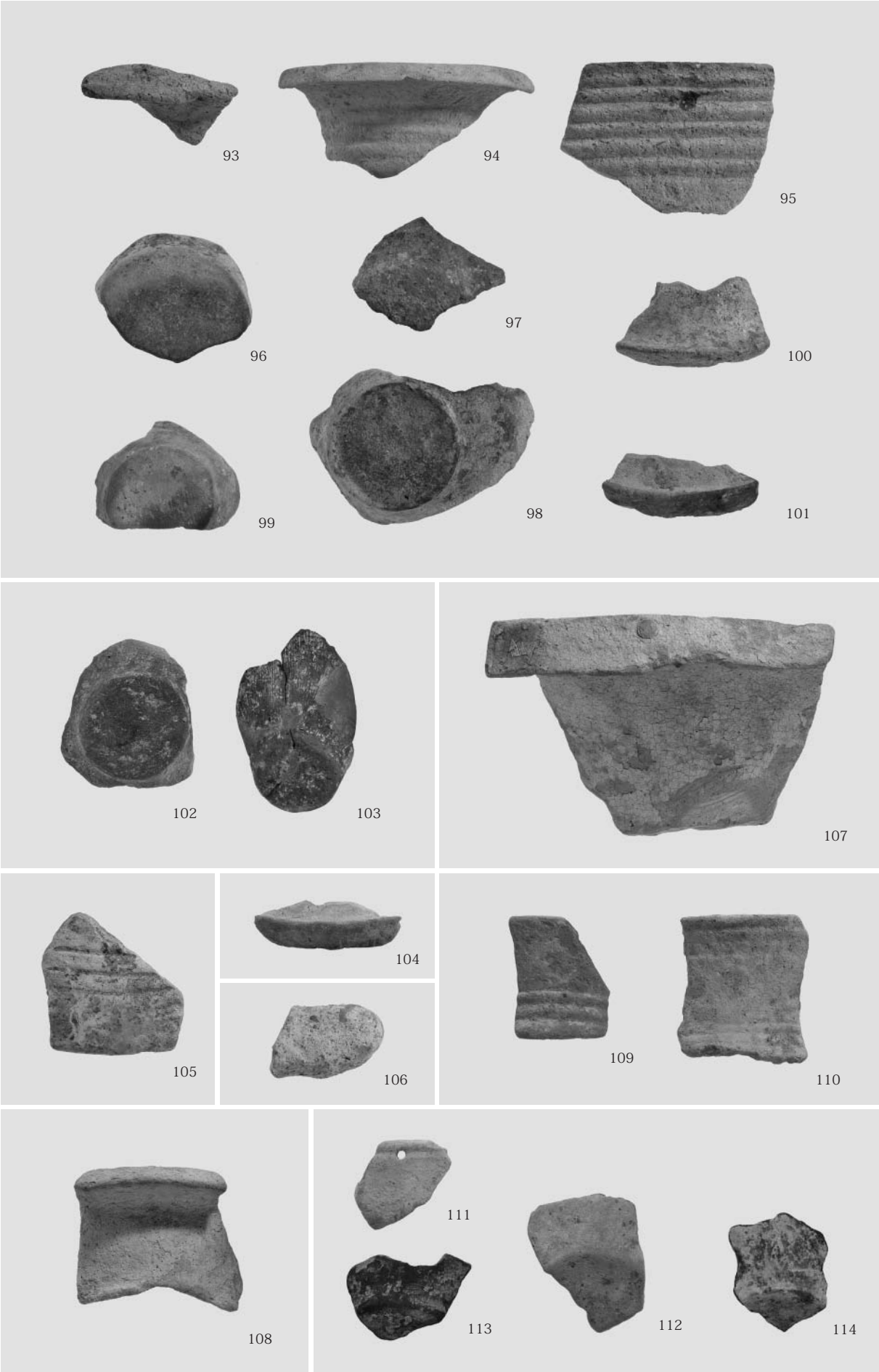
67


65
68
66
69
70
74
71
73





大門畑瀬遺跡Ａ・Ｂ地区　土器４



大門畑瀬遺跡Ａ・Ｂ地区　土器５

115

120

116

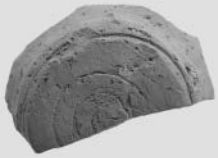
118

119

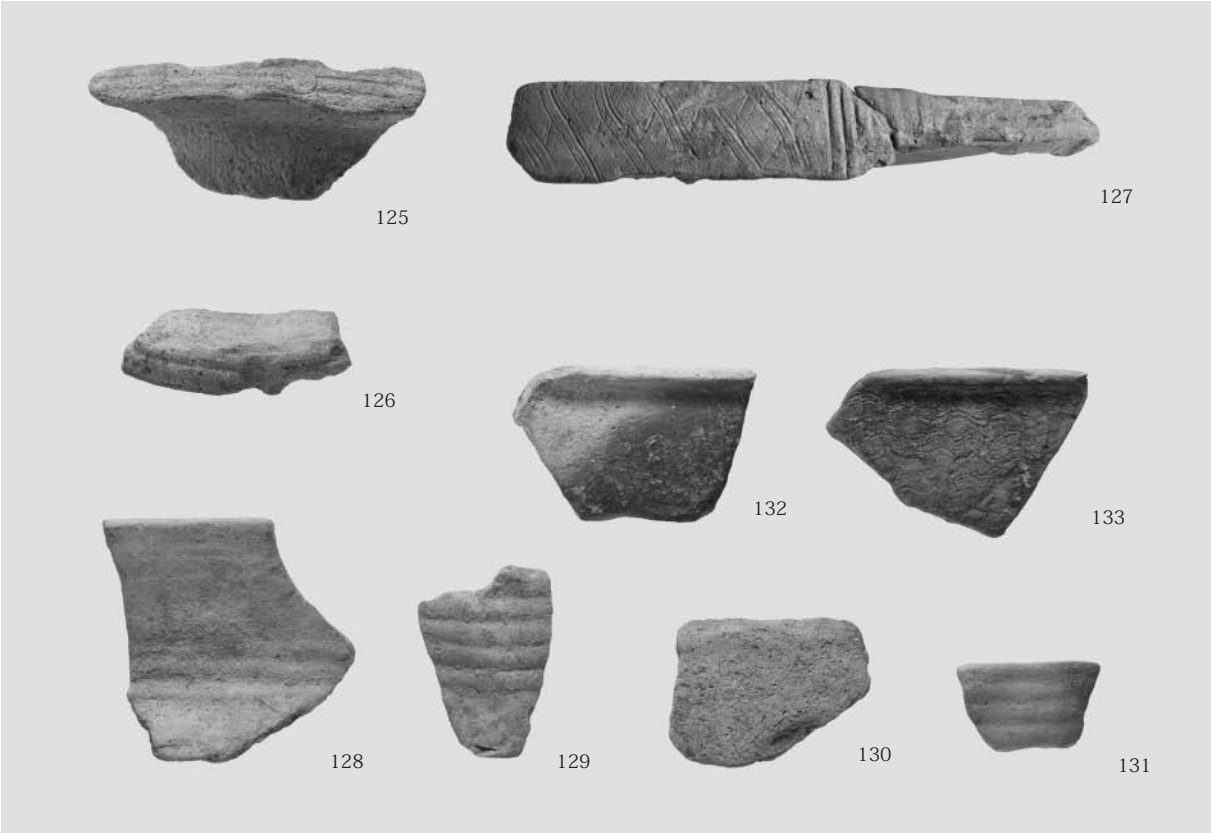
117

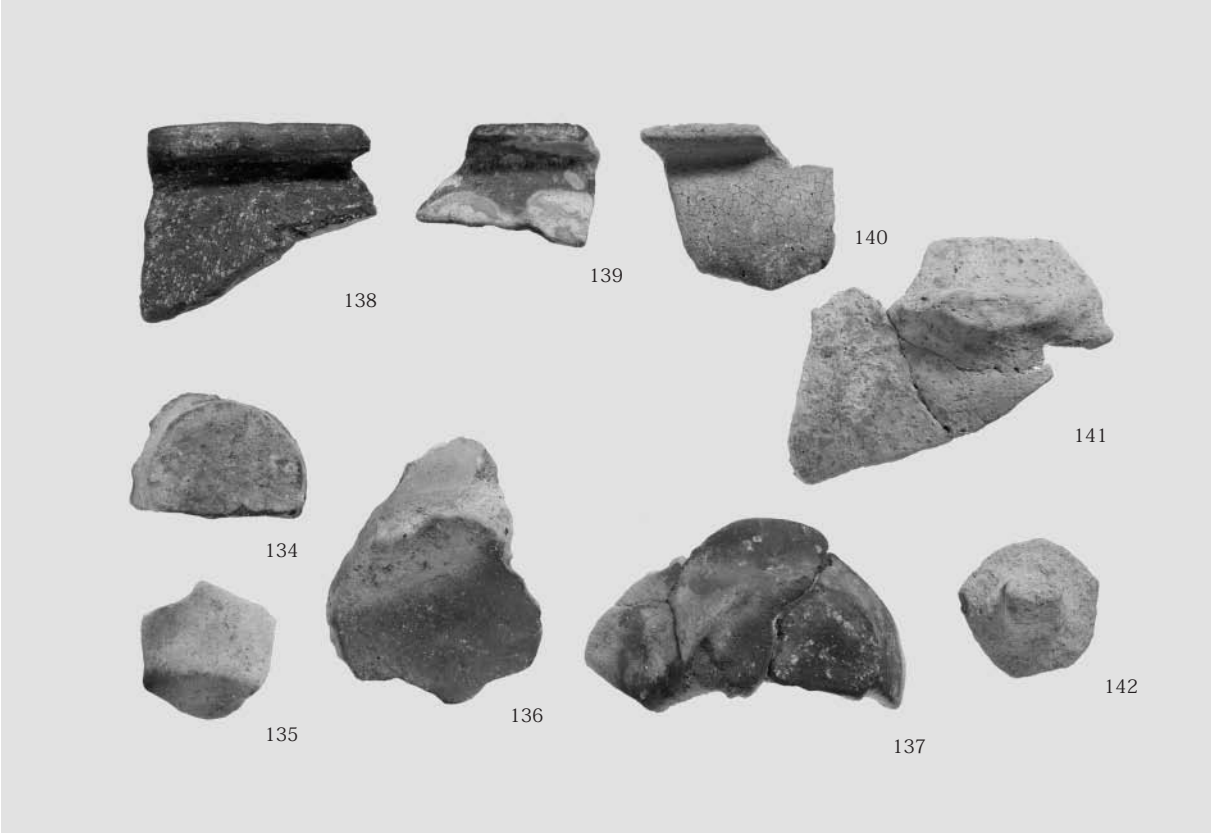
121

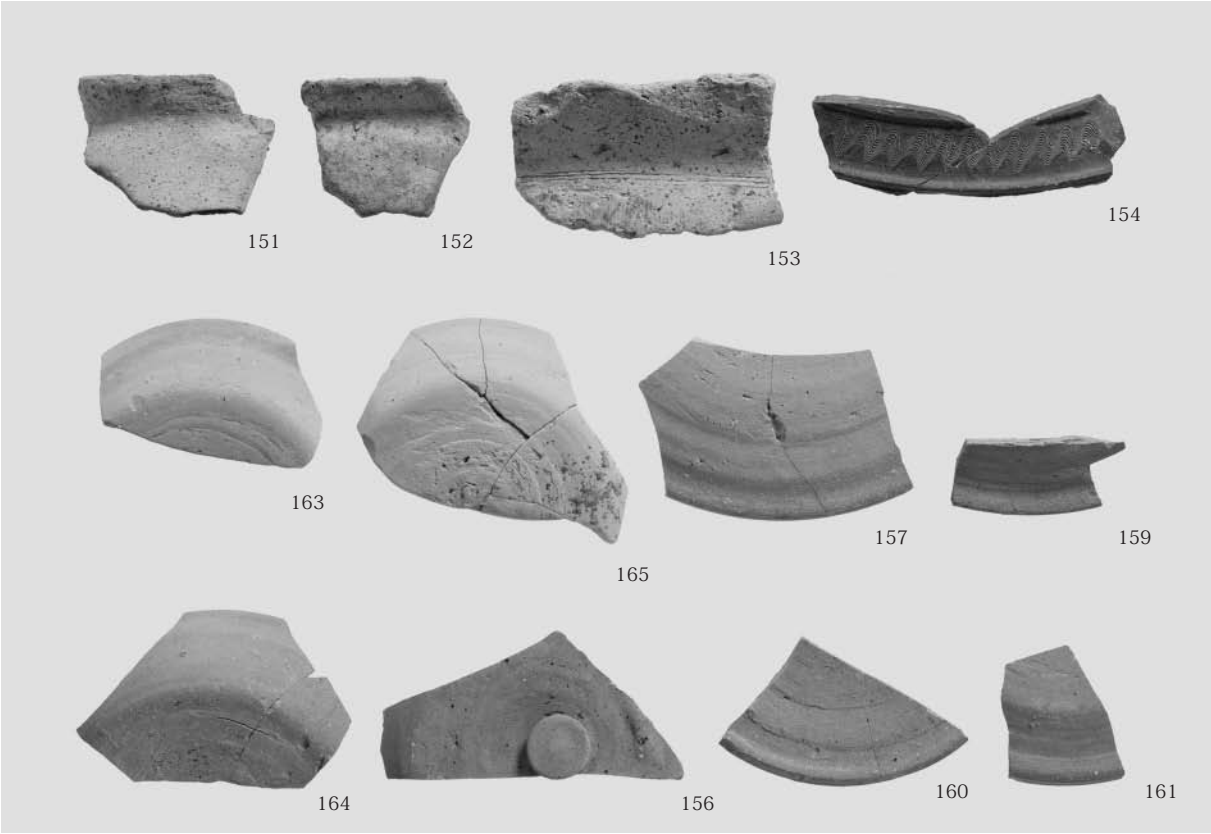
122

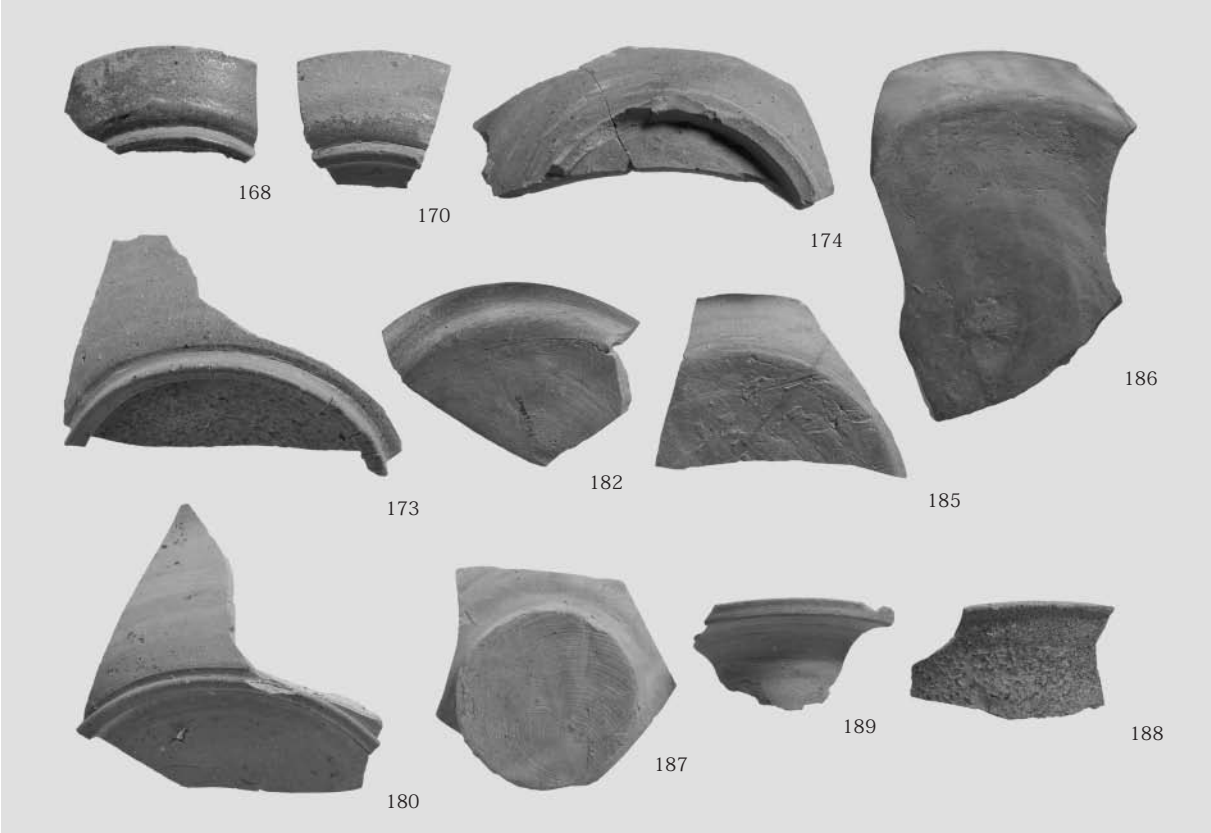

124

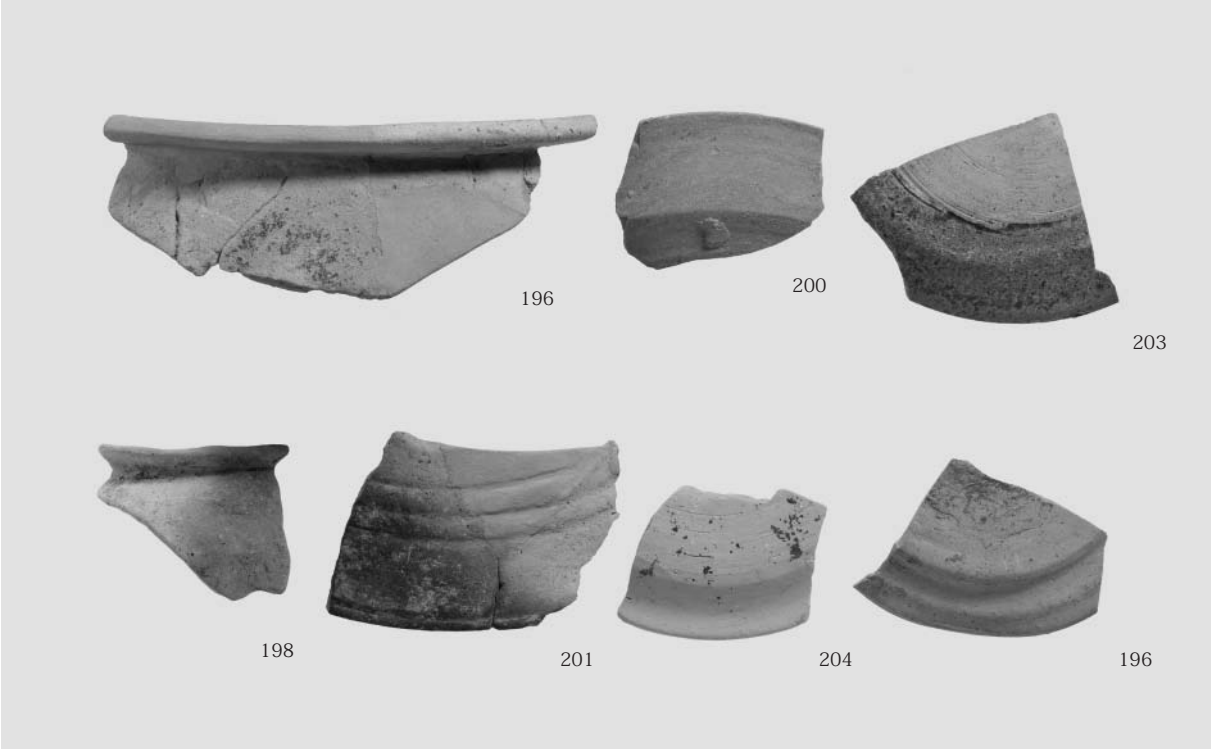
123

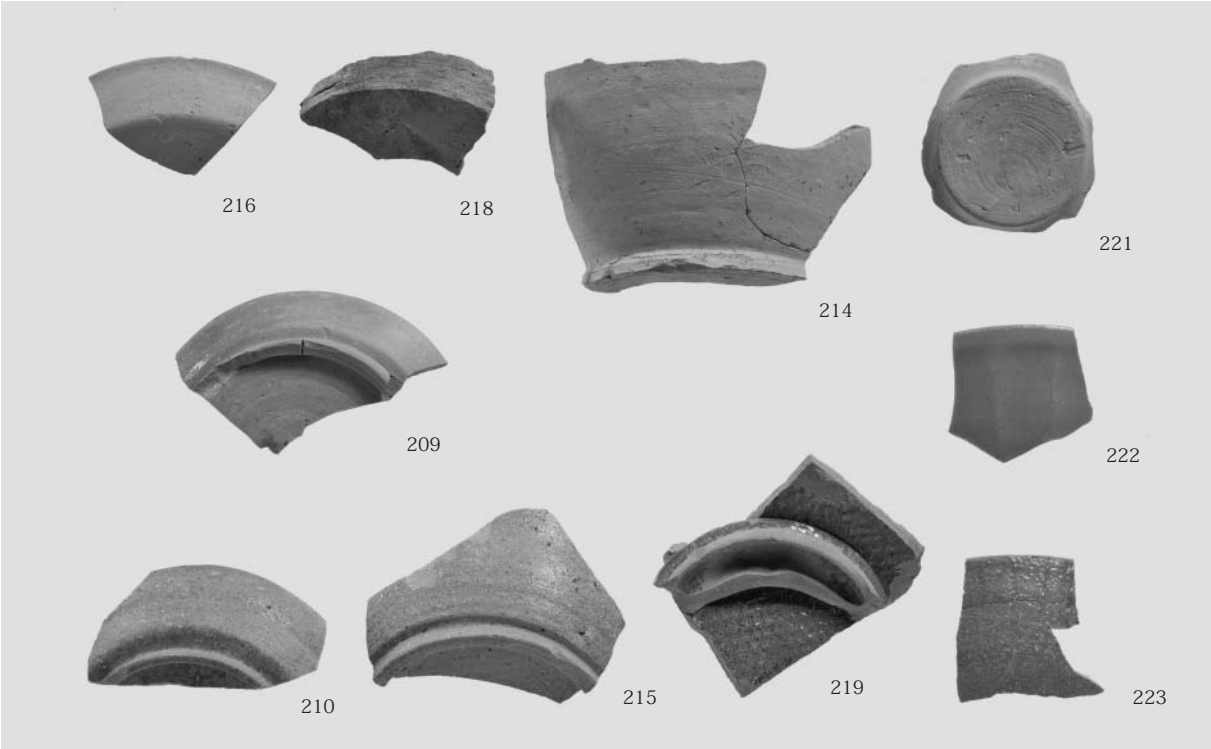

125
127
126
132
133
128
129
130
131


138
139
140
141
134
135
136
137
142

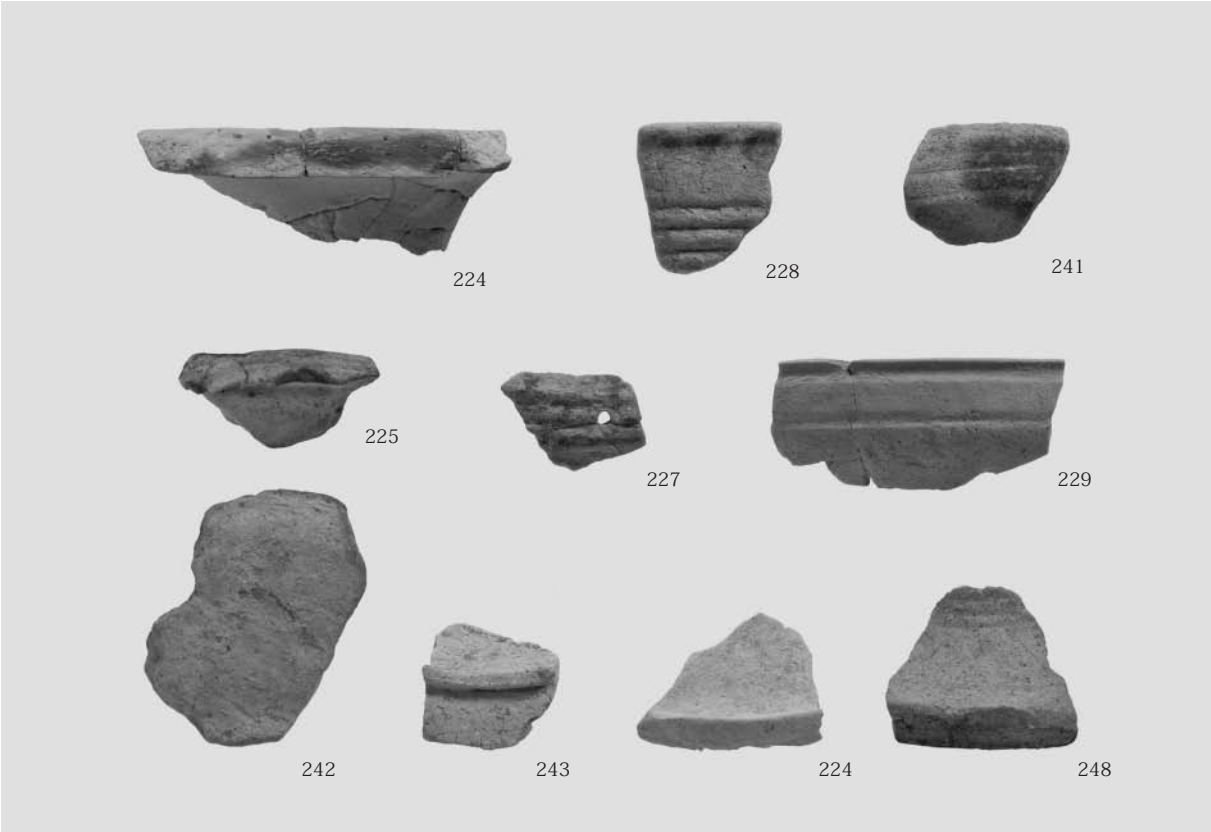

151
152
153
154
163
165
157
159
164
156
160
161


168
170
174
186
173
182
185
180
187
189
188

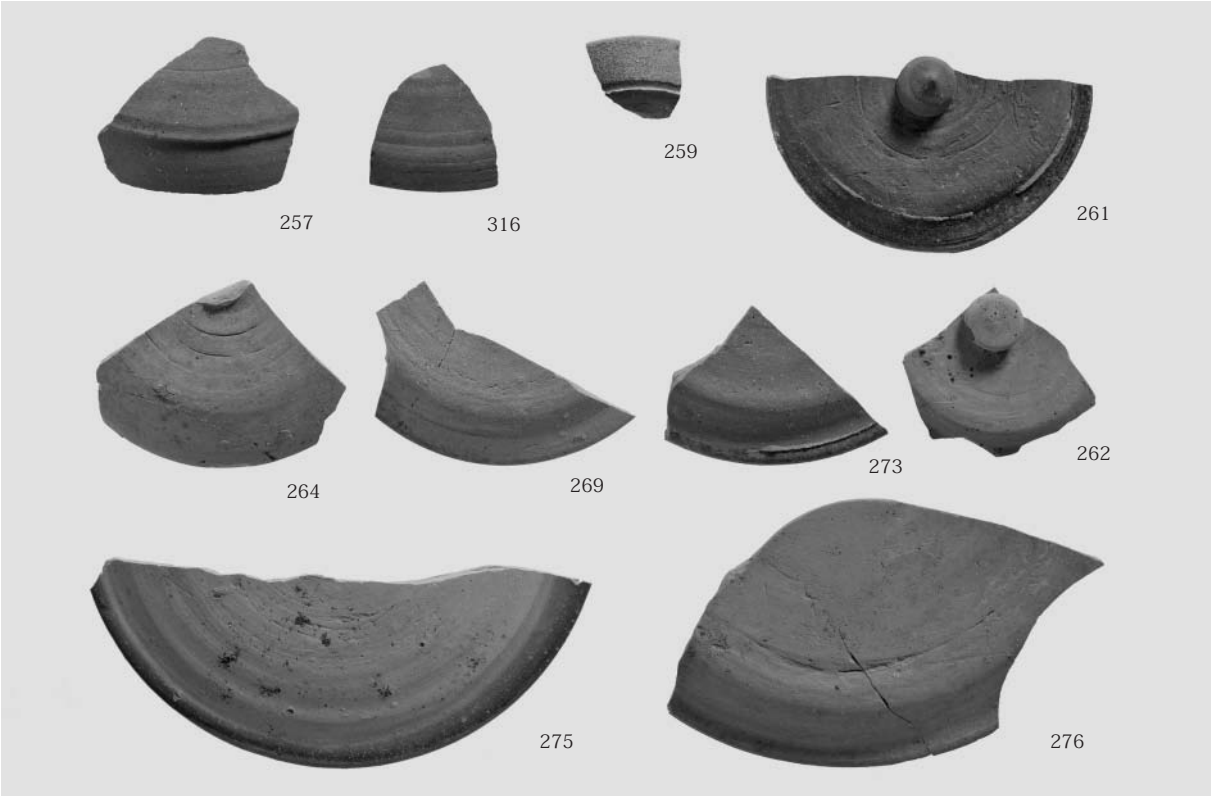


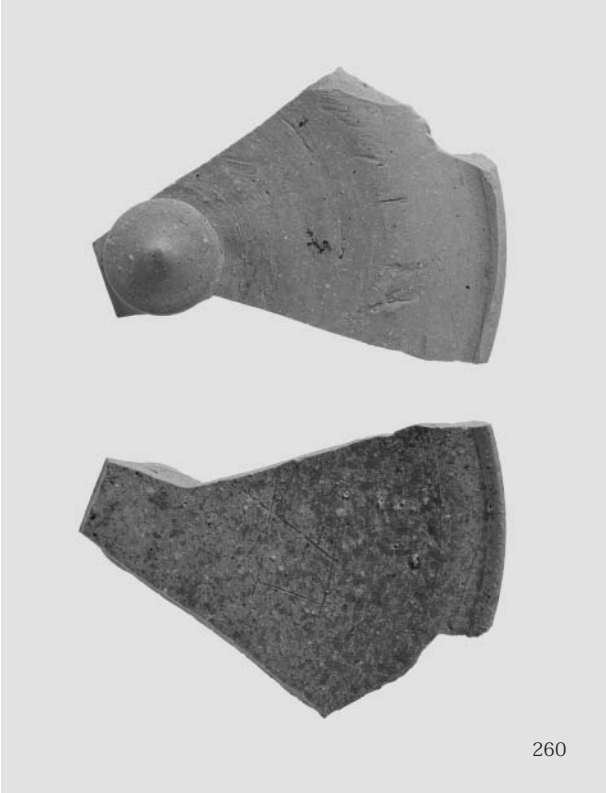


大門畑瀬遺跡Ａ・Ｂ地区　土器９

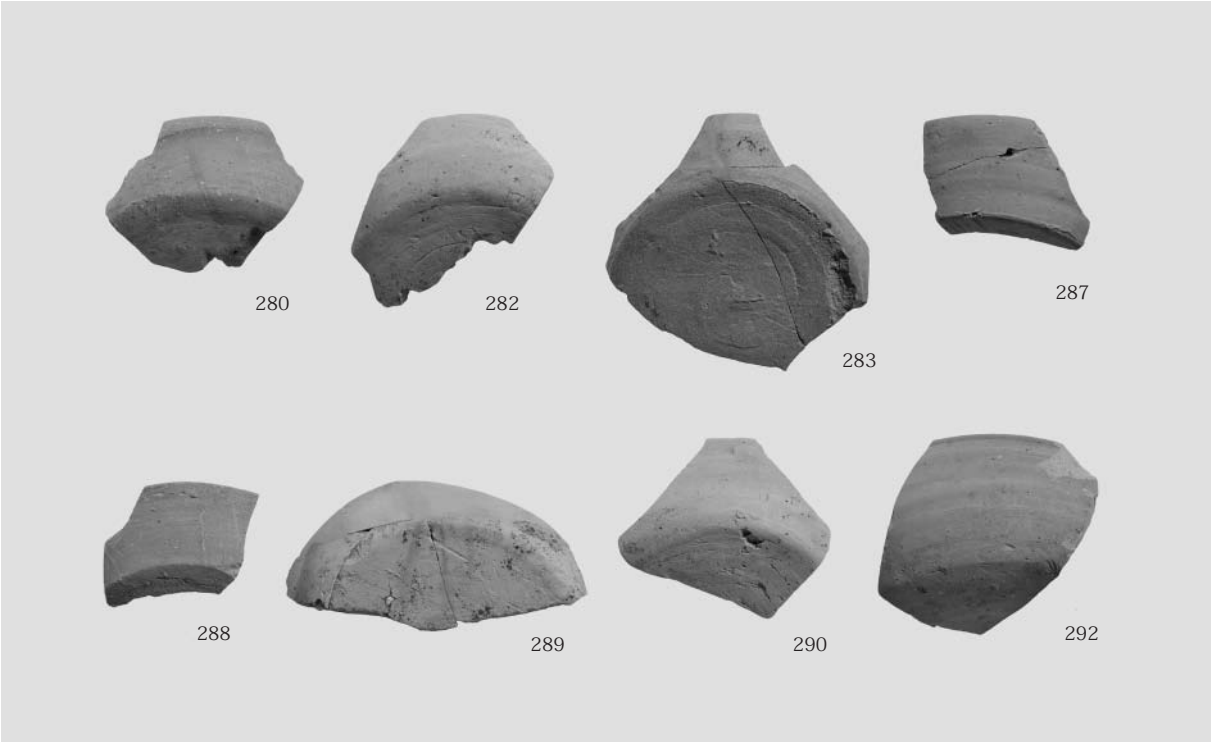


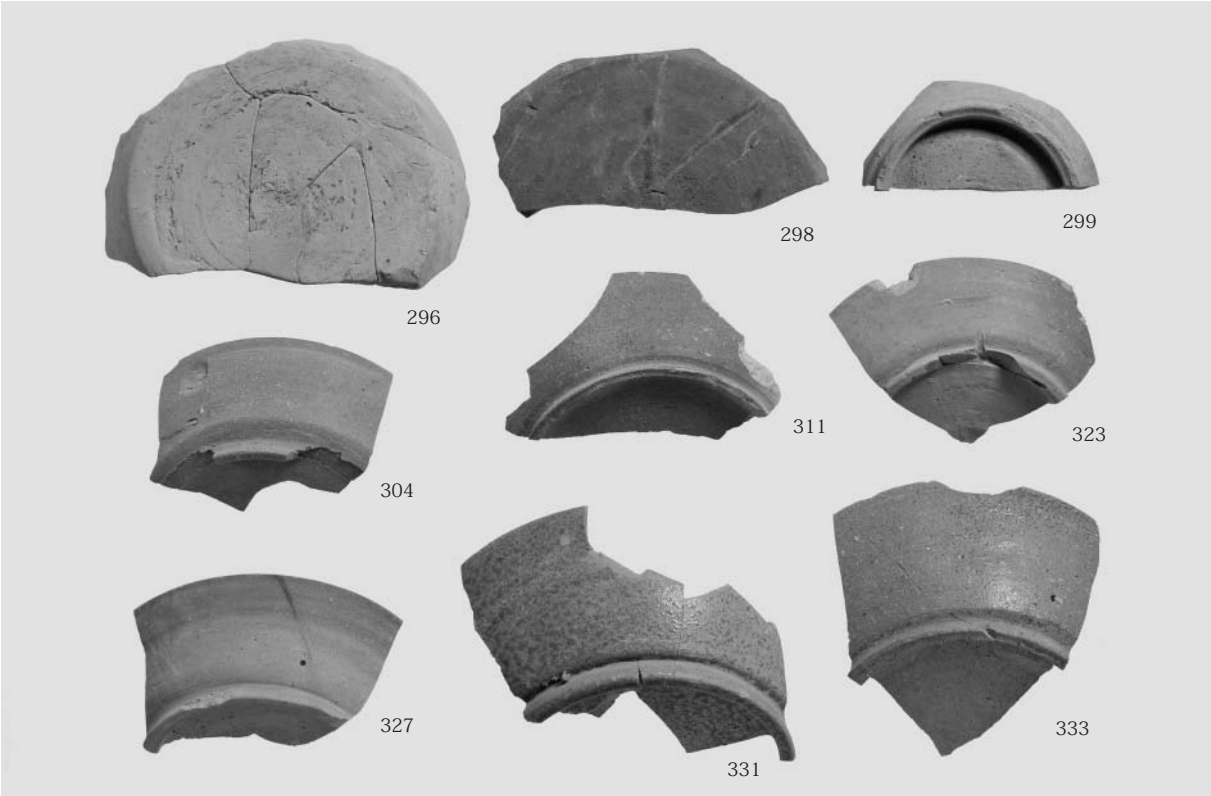
大門畑瀬遺跡Ａ・Ｂ地区　土器 10



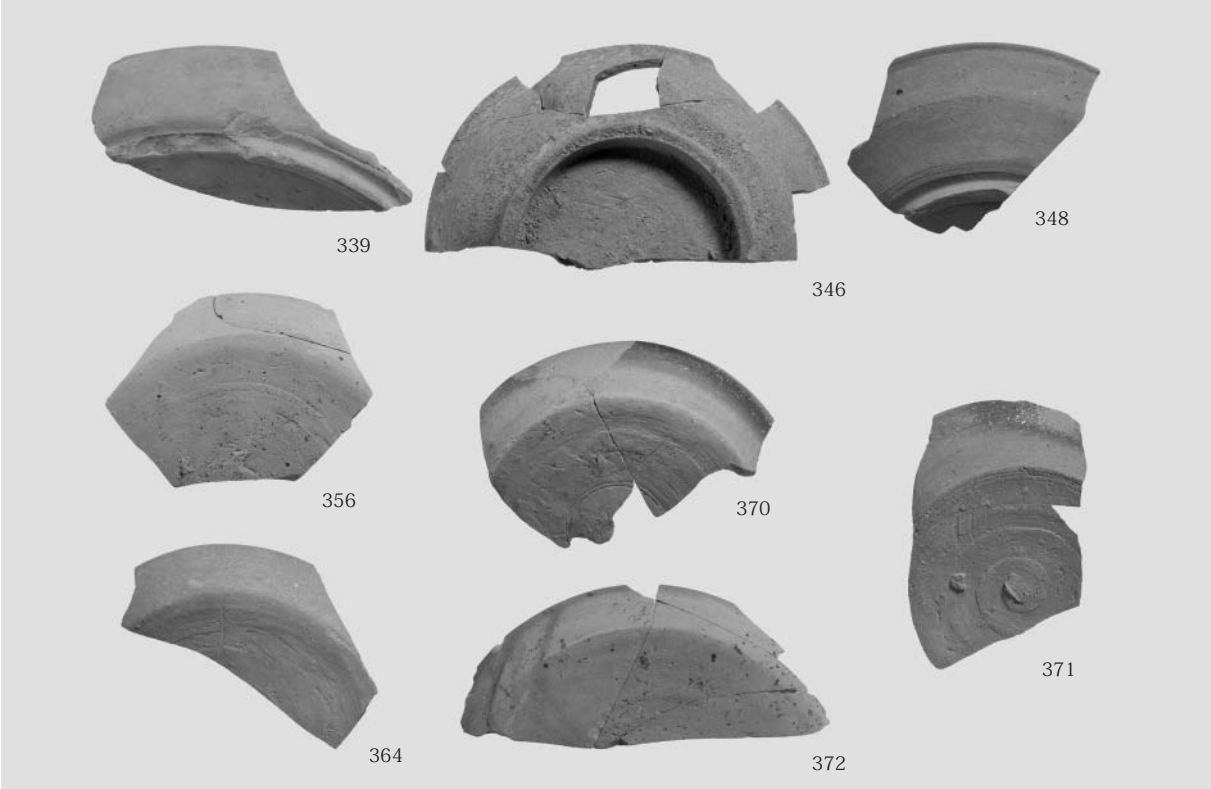


大門畑瀬遺跡Ａ・Ｂ地区　土器 11

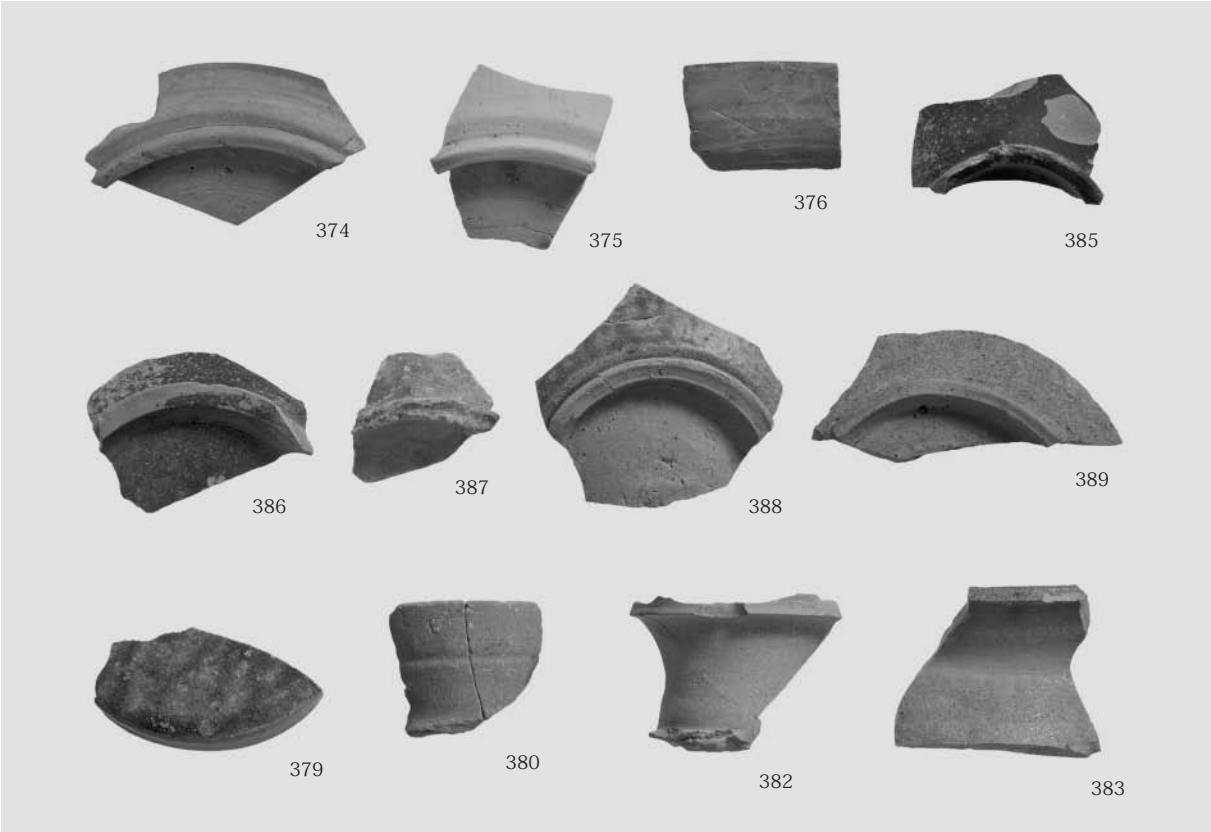




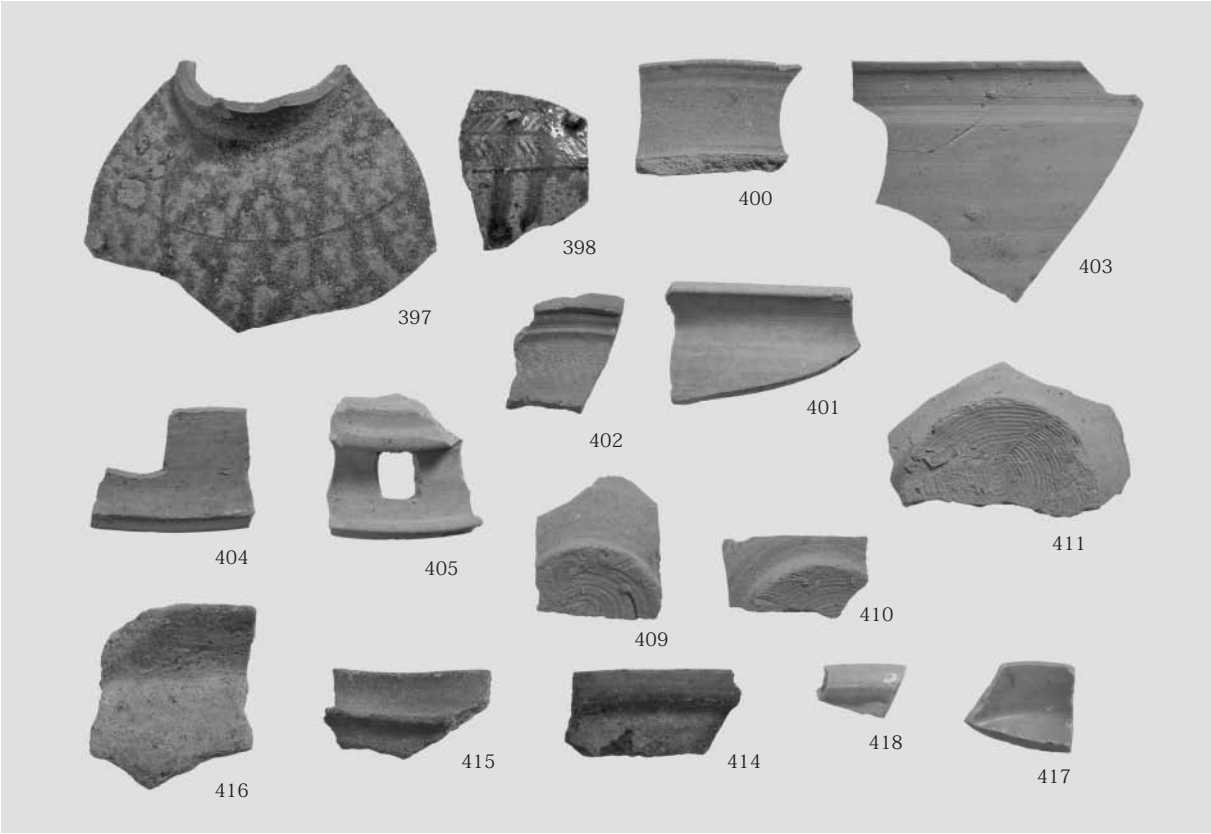
大門畑瀬遺跡Ａ・Ｂ地区　土器 12

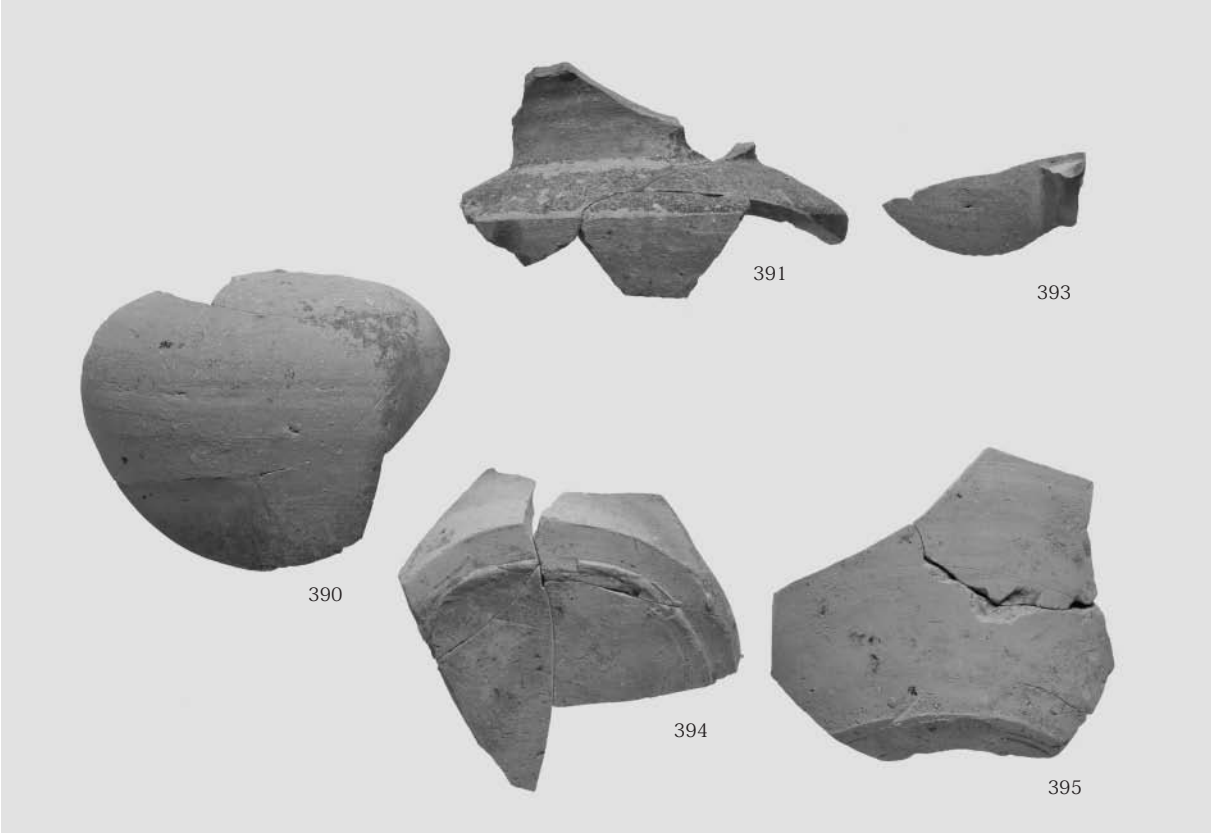


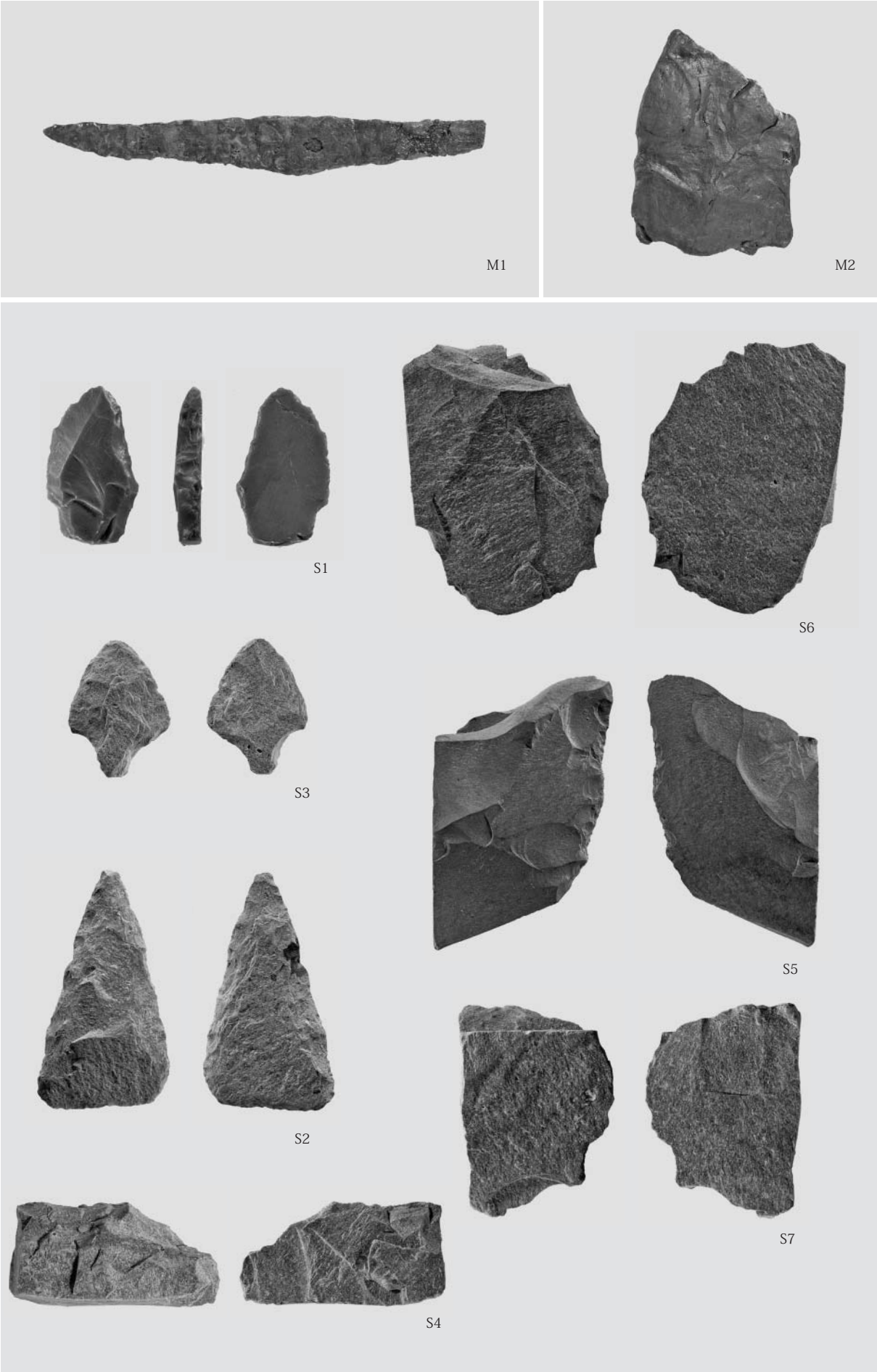
大門畑瀬遺跡Ａ・Ｂ地区　土器 13



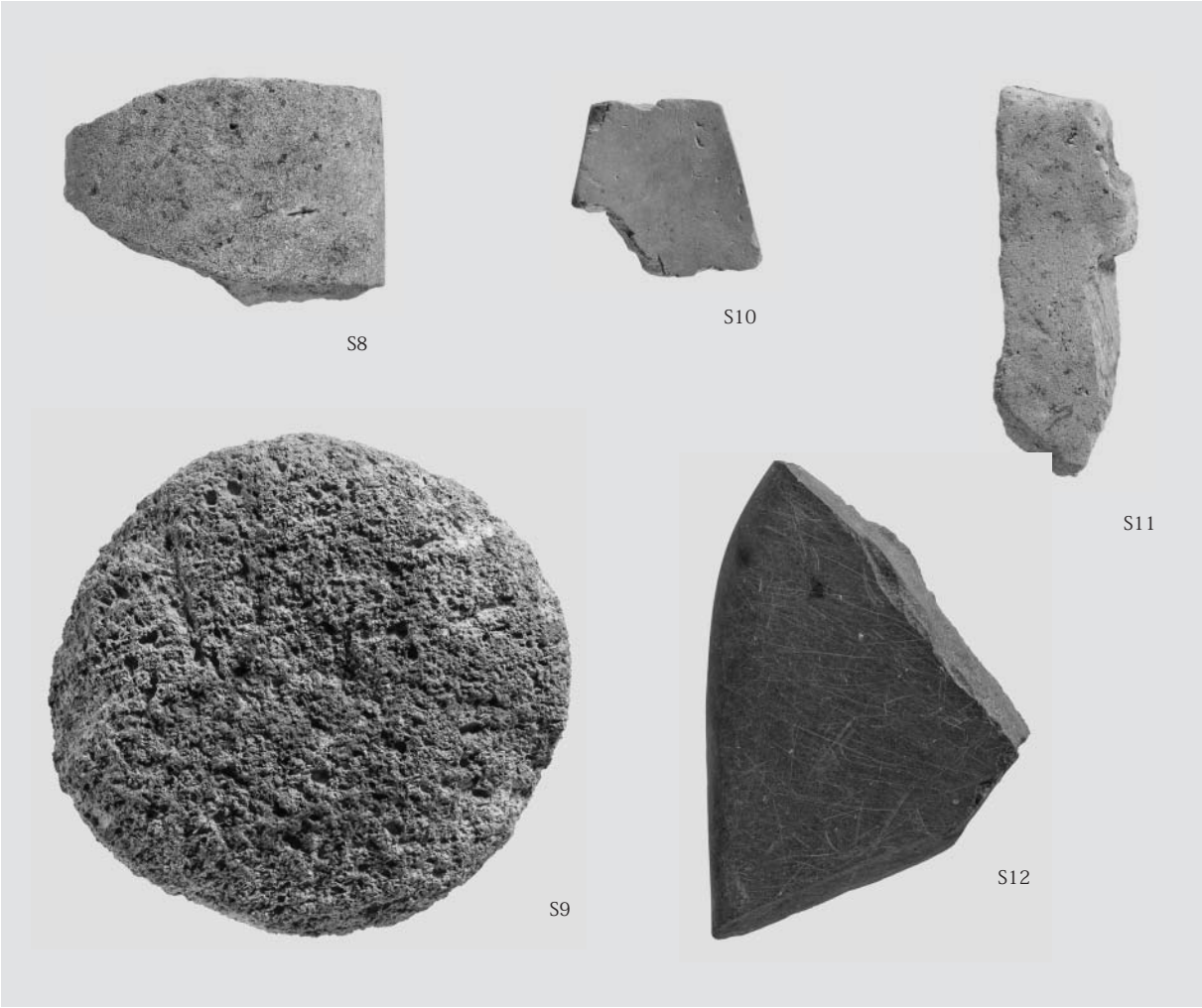
大門畑瀬遺跡Ａ・Ｂ地区　土器 14

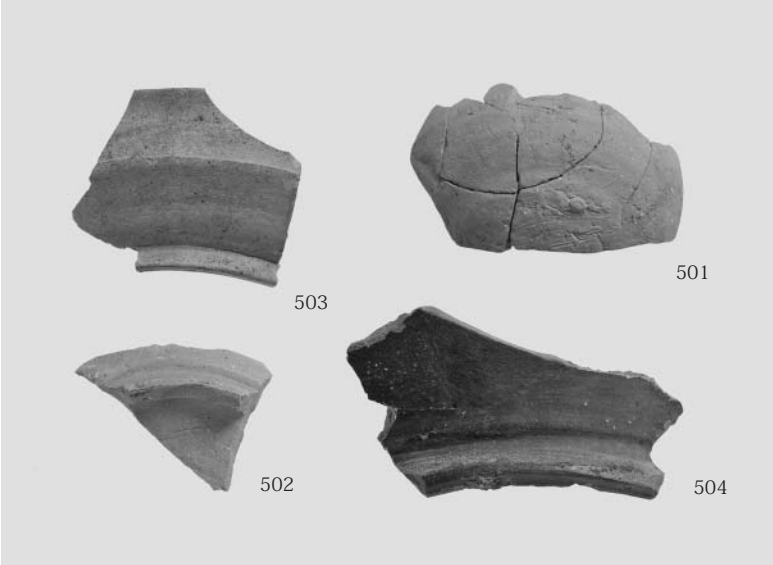

397
398
400
403
402
401
404
405
411
409
410
416
415
414
418
417


391
393
390
394
395



大門畑瀬遺跡Ａ・Ｂ地区　金属器・石器 1

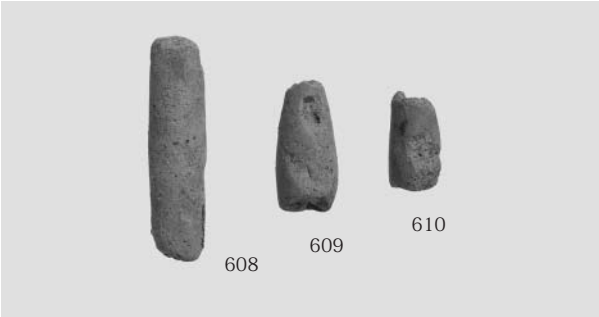


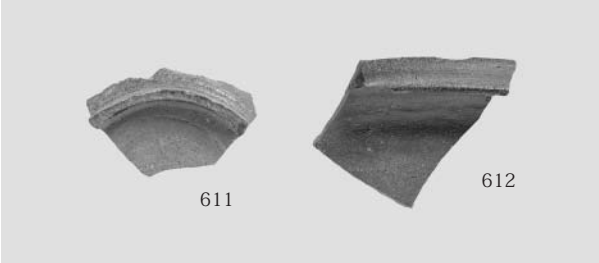


大門畑瀬遺跡Ａ・Ｂ地区　石器２　大門畑瀬遺跡Ｃ地区　土器・金属器

601

602

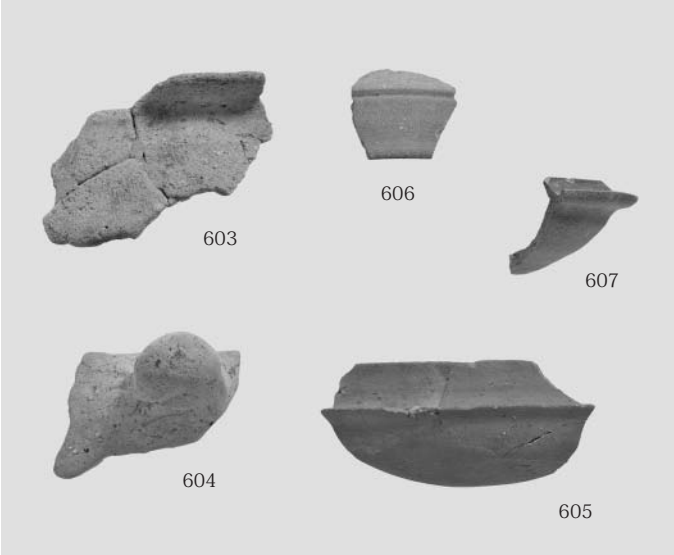

608 609 610


611 612

613

614

615

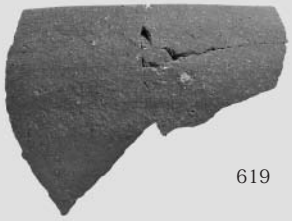

603 606 607 604 605

616

617

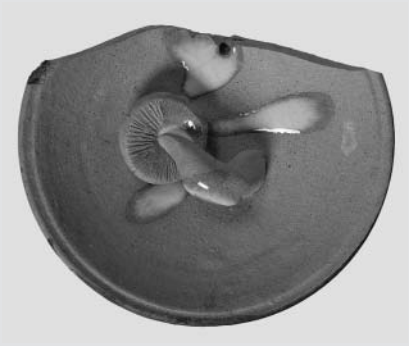
大門畑瀬遺跡Ｄ地区　土器 1

618


619

621

620



623

622

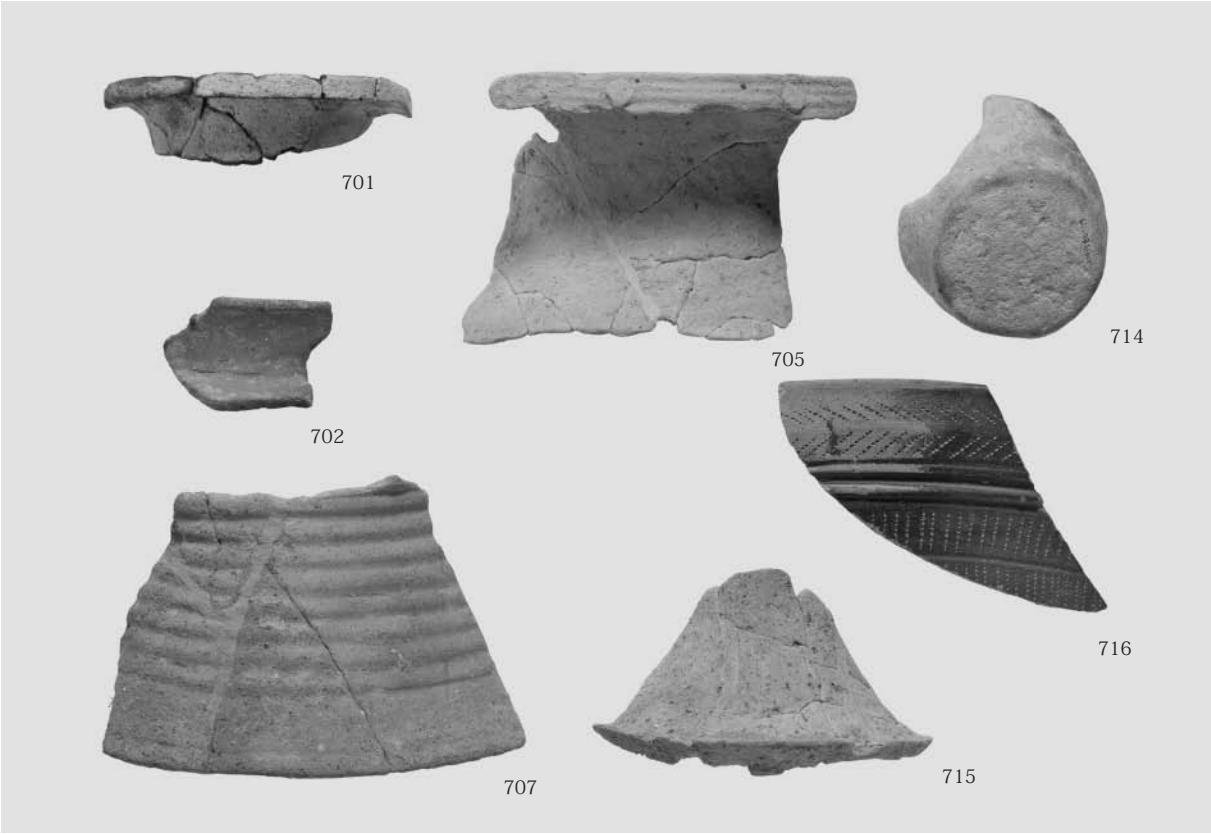
S61

S62

S63

S64

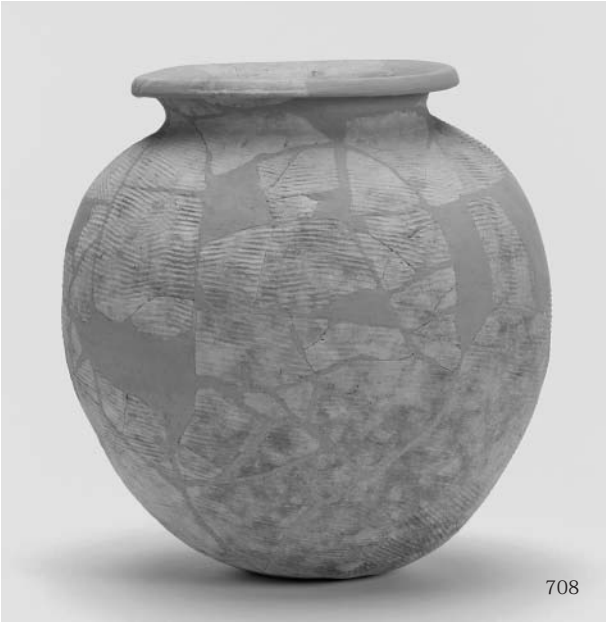
大門畑瀬遺跡Ｄ地区　土器２・石器


701
705
714
702
716
707
715

703

704

706


708

709

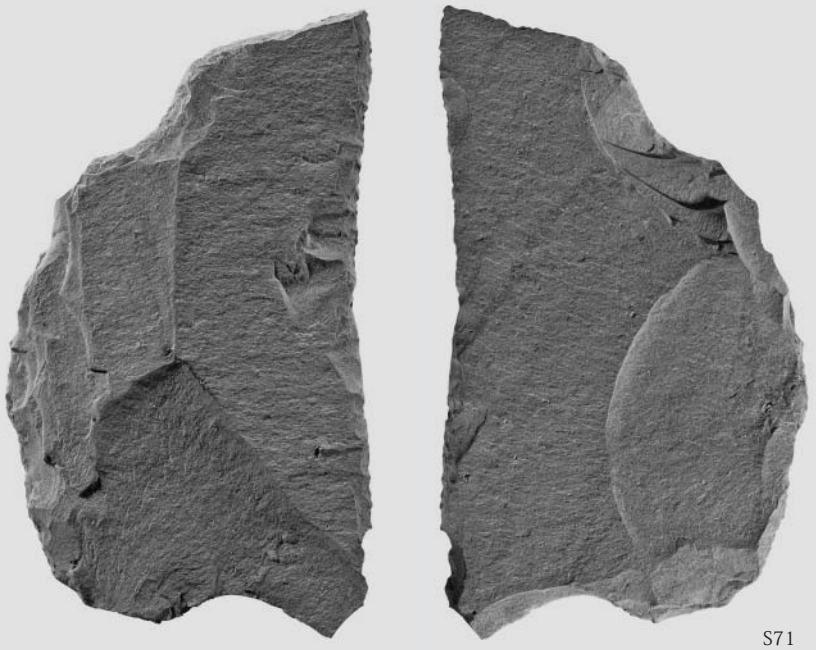
711

710

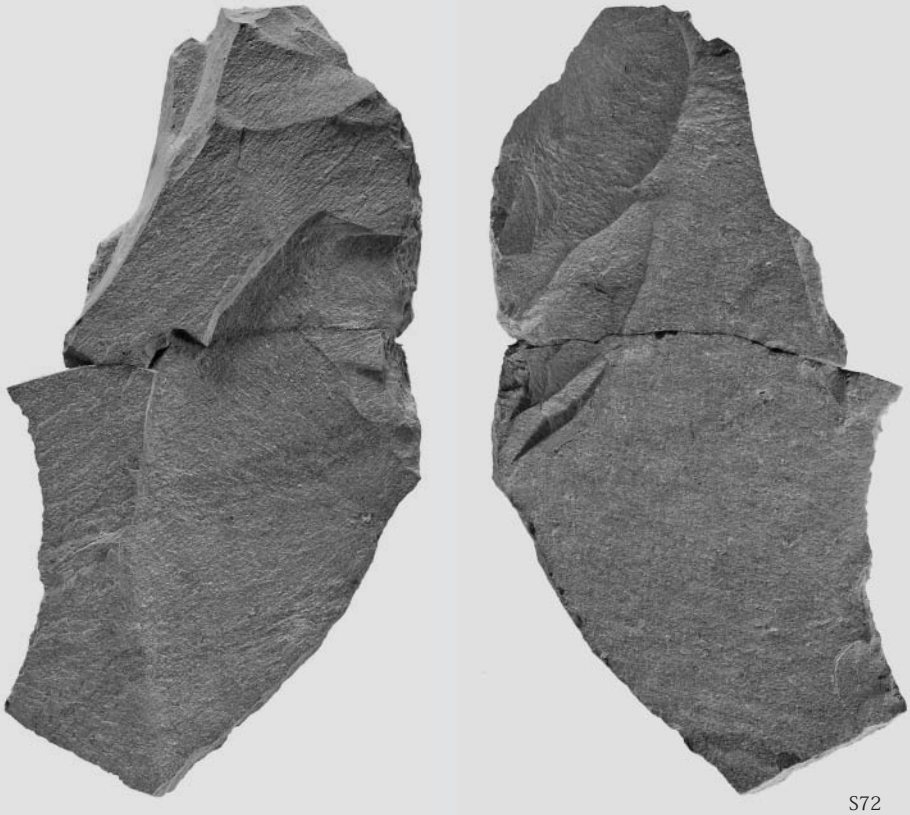
711・712

712

大伏北山遺跡　土器２



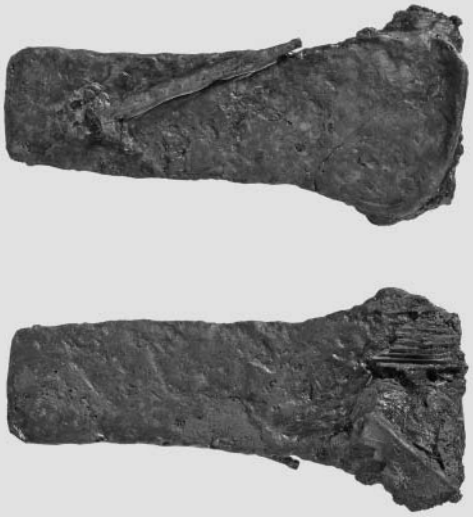
S71



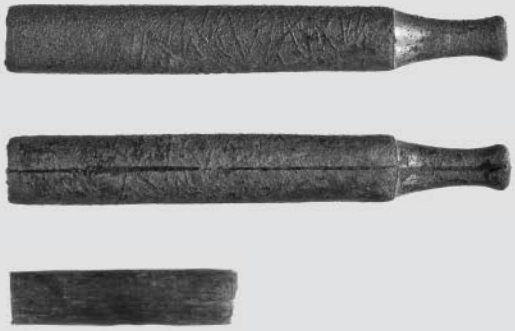
S72

大伏北山遺跡　石器

M71



M73



M74

M72

大伏北山遺跡　金属器

報　告　書　抄　録

ふりがな	だいもんはたせいせき・おおふしきたやまいせき
書　　名	大門畑瀬遺跡・大伏北山遺跡
副　書　名	175 号西脇北バイパス事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	兵庫県文化財調査報告
シリーズ番号	第 486 冊
編著者名	池田征弘
編集機関	公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
所　在　地	〒 675-0142　兵庫県加古郡播磨町大中 1 丁目 1 番 1 号（兵庫県立考古博物館内）　TEL 079-437-5561
発行機関	兵庫県教育委員会
所　在　地	〒 650-8567　兵庫県神戸市中央区下山手通 5 丁目 10 番 1 号　TEL 078-362-3784
発行年月日	平成 29（2017）年 3 月 17 日
資料保管機関	兵庫県立考古博物館
所　在　地	〒 675-0142　兵庫県加古郡播磨町大中 1 丁目 1 番 1 号　TEL 079-437-5589

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間（遺跡調査番号）	調査面積（㎡）	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
大門畑瀬遺跡	西脇市 黒田庄町大門	28213	290158	35°1′18″	134°58′59″	2004008 2006206 2007053 2008075 2009187 2010278	30 46 1260 460 427 795	記録保存調査
大伏北山遺跡	西脇市 黒田庄町大伏	28213	290452	35°1′23″	134°59′00″	2004250 2009186	120 2097	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
大門畑瀬遺跡	集落	弥生時代	竪穴住居跡、濠状遺構	弥生土器	
		古墳時代	竪穴住居跡	須恵器、土師器	
		奈良時代	掘立柱建物跡、溝	須恵器、土師器	
大伏北山遺跡	集落・墳墓・その他	弥生時代	段状遺構、墳墓	弥生土器、大型石包丁	
		古墳時代	箱式石棺	鉄製農工具	
		中世	経塚	土師器製経筒、須恵器甕	

要約

大門畑瀬遺跡では弥生時代から奈良時代までの集落が検出された。弥生時代は中期後葉の濠状遺構と後期の竪穴住居跡が検出された。古墳時代はカマド付きの竪穴住居が検出された。奈良時代は正方位を向く溝や掘立柱建物跡が検出された。近隣に位置する須恵器生産と関連する可能性がある。

大伏北山遺跡は弥生時代中期後葉の段状遺構、弥生時代後期末の墳墓 1 基、古墳時代中期の箱式石棺を埋葬施設とする古墳 1 基、中世の経塚 3 基が検出された。

兵庫県文化財調査報告　第486冊

西脇市

大門畑瀬遺跡・大伏北山遺跡

－ 175 号西脇北バイパス事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－

平成 29（2017）年 3 月 17 日　発行

編集：公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部
〒 675-0142　兵庫県加古郡播磨町大中 1 丁目 1 番 1 号
（兵庫県立考古博物館内）

発行：兵庫県教育委員会
〒 650-8567　兵庫県神戸市中央区下山手通 5 丁目 10 番 1 号

印刷：福田印刷工業株式会社
〒 658–0026　神戸市東灘区魚崎西町 4 丁目 6 番 3 号